

Syllabus2019

シラバス(教授要目)

北陸学院大学短期大学部

Realize Your Mission

あなたの使命を実現しよう

学 事 曆

4月 (APR)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

10月 (OCT)						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

5月 (MAY)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11月 (NOV)						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

6月 (JUN)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

12月 (DEC)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

7月 (JUL)						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1月 (JAN)						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月 (AUG)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月 (FEB)						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

9月 (SEP)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

3月 (MAR)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 3月25日(月)～29日(金) 前期履修登録期間
- 3月28日(木)～4月4日(木) オリエンテーション期間
- 4月2日(火) 入学式(午前)
- 4月5日(金) 前期授業開始
- 4月17日(水)～19日(金) 前期履修登録変更期間

- 4月27日(土) Enjoy!ミッション
- 5月17日(金)～18日(土) 北陸学院セミナーⅠ(1年)
- 5月17日(金) 2年休講
- 6月11日(火) 特別伝道礼拝(1年)
- 6月19日(水) 木曜代替講義日
- 6月20日(木) 水曜代替講義日

- 7月26日(金) 前期授業終了
- 7月27日(土)～8月2日(金) 前期試験期間
- 8月5日(月)～9月14日(土) 夏期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

- 9月7日(土) 北陸学院創立記念日
- 9月9日(月)～13日(金) 後期履修登録期間
- 9月17日(火) 後期授業開始
- 9月25日(水)～27日(金) 後期履修登録変更期間
- 10月3日(木) 特別伝道礼拝(2年)
- 10月16日(水) 金曜代替講義日
- 10月17日(木) 大学祭準備(休講)
- 10月18日(金)～19日(土) 大学祭(栄光祭)

- 11月5日(火) 金曜代替講義日
- 11月8日(金)～9日(土) 北陸学院セミナーⅡ(2年)
- 11月8日(金) 1年休講
- 11月27日(木) クリスマス・ツリー点灯式(5限振替)
- 12月20日(金) クリスマス礼拝(休講)
- 12月23日(月)～12月24日(火) 全学休校予備日
- 12月25日(水)～1月3日(金) 冬期休業期間(補講・集中講義)

- 1月21日(火) 後期授業終了
- 1月22日(水) 全学休校予備日
- 1月23日(木)～24日(金) 補講日
- 1月27日(月)～2月1日(土) 後期試験期間
- 2月3日(月)～3月31日(火) 春期休業期間(補講・集中講義・学外実習)

- 2月28日(金) 卒業生発表
- 3月9日(月) 卒業感謝礼拝
- 3月10日(火) 卒業証書・学位記授与式

まえがき

この「教授要目」は、2019年度に開講する学科目の授業計画を記載したものです。

「教授要目」は、Syllabus（シラバス）と呼ばれ、各学科目の授業内容を授業時間毎に紹介しているものです。

したがって、それぞれの学科目の具体的内容を表しているものとして、大変重要な資料です。

授業はここに示された計画に従って進められますが、進行状況によっては一部内容が変更される場合もあります。

みなさんは、各授業の履修に先立って、「教授要目」をよく読んで、授業のねらいや内容をよく把握しておいてください。予習や復習はもちろん、学科目の選択に際しても、参考になります。

「教授要目」は、在学中および卒業後も大切に保管してください。他大学や公的教育機関へ編入学をする際にも必要な資料として用いられます。

この「教授要目」を大いに活用して、学修の一層の活性化を図ってください。

食物栄養学科

1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

教育理念

北陸学院大学短期大学部は、キリスト教に基づくホスピタリティ（他者への思いやり）を通じて、学生一人ひとりを大切に、良き社会人として豊かな教養と汎用的な専門知識・技能を身につけ、生涯にわたり、積極的に地域社会に貢献できる人材を養成することを教育の理念として掲げています。

アドミッションポリシー

北陸学院大学短期大学部では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者

上記に加え食物栄養学科では、

- ⑤ 「食」を通して人びとの健康に貢献したいと考え、行動しようとする学習意欲の高い者

*入学に際し基礎学力テスト及び学科による計算力テストを実施して、英語・日本語・計算力の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」、「栄養士のための計算入門」科目の学びを義務づけます。

カリキュラムポリシー

北陸学院大学短期大学部では、教育理念に掲げた人材を育成するために、食物栄養学科とコミュニティ文化学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① ホスピタリティの精神を学び、豊かな人間性を身につける科目として、「北陸学院科目」を配置する。
- ② 良き社会人となるために必要な豊かな教養を身に付け、自己実現を図るために、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」を配置する。
- ③ 問題発見能力と解決能力を養い、自分の考えを適切に口頭や文章で表現することができるよう、基礎的科目と専門的科目を配置し、主体的な学びの方法を獲得する。

上記に加え食物栄養学科では、

- ④ 人間形成や専門的な学びの基礎として、学科基礎科目を配置する。
- ⑤ 栄養学の知識・理論を学び、「食」を通して人びとの健康に貢献できる優れた栄養

士の養成ならびに実践力を修得できるように、専門教育科目として「栄養士免許科目」を配置する。

- ⑥ 学生の目指す進路が広がるように、資格関連科目として「栄養教諭二種免許関連科目」、「フードスペシャリスト資格関連科目」を配置する。

ディプロマポリシー

北陸学院大学短期大学部では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(関心・意欲、態度)

- ① ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。

(知識・理解、思考・判断)

- ② 学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。

(技能・表現)

- ③ 口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。

上記に加え食物栄養学科では、

(関心・意欲、態度)

- ④ 地域住民の健康増進や食文化の継承・発展に関わろうとする意欲がある。

(技能・表現)

- ⑤ 培った専門性を食育推進活動や産業の振興等に活かし、地域社会の発展に貢献できる。

2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

1 全学共通科目

- H G : 北陸学院科目
- G E : 総合教養
- L J : 言語教育 (日本語)
- L E : 言語教育 (英語)
- L C : 言語教育 (中国語)
- L F : 言語教育 (フランス語)
- P E : スポーツ・健康
- H C : キャリア教育

2 学科科目 (学科基礎科目・専門教育科目・資格関連科目)

- F 食物栄養
- F B 学科基礎科目 *Basics
- F H 公衆衛生・福祉関係科目 *Public Health
- F P 生理学関係科目 *Physiology
- F F 食品学関係科目 *Foods Hygiene
- F D 栄養学関係科目 *Dietetics
- F G 栄養指導関係科目 *Guidance
- F C 調理学関係科目 *Cooking
- F S フードスペシャリスト資格関連科目 *Specialist
- F T 栄養教諭二種免許関連科目 *Teacher Certificate

注1) 基礎科目を100番台 (主として1年次)、学科専門200番台 (主として2年次)

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

食物栄養学科（カリキュラム体系図）

F B：学科基礎科目

F H：公衆衛生・福祉関係科目

<200番台>

FB230C 栄養士への道D
FB220C 栄養士への道C
FB210C 人間の探究Ⅱ
FB200C 人間の探究Ⅰ

FH200C 社会福祉概論

<100番台>

FB140C 栄養士への道B
FB130C 栄養士への道A
FB120C キャリア実践演習
FB110C 学びの基礎

FH100C 公衆衛生学

<090番台>

FB095C ◆栄養士のための計算入門
FB090C ◆科学の基礎

F G：栄養指導関係科目

F C：調理学関係科目

<200番台>

FG220C 栄養指導論実習
FG210C 公衆栄養学
FG200C 栄養指導論Ⅱ

FC220C 校外実習
FC210C 給食管理実習Ⅱ
FC200C 給食実務論（含計画）

<100番台>

FG100C 栄養指導論Ⅰ

FC150C 食事計画実習
FC160C 給食管理実習Ⅰ
FC140C 調理学実習D
FC130C 調理学実習C
FC120C 調理学実習B
FC110C 調理学実習A
FC100C 調理学

F P : 生理学関係科目

F D : 栄養学関係科目

FP270C 食品衛生学実験
FP260C 食品学実験
FP250C 食品衛生学
FP240C 食品学Ⅱ
FP230C 栄養生化学実験
FP220C 生理学実習
FP210C 病気のしくみ
FP200C 生理学 (含運動生理学)

FD240C 臨床栄養学実習
FD230C 応用栄養学実習
FD220C 臨床栄養学Ⅱ
FD210C 臨床栄養学Ⅰ
FD200C 応用栄養学

FP120C 食品学Ⅰ
FP110C 栄養生化学
FP100C 人体構造学

FD100C 基礎栄養学

F S : フードスペシャリスト資格関連科目

F T : 栄養教諭二種免許関連科目

FS220C 官能評価・鑑別論
FS210C フードコーディネータ論
FS200C 食品の消費と流通

FT250C 教職実践演習(栄養教諭)
FT240C 栄養教育実習
FT230C 栄養教育実習指導
FT211C 教育相談 (生徒指導法を含む)
FT200C 学校栄養教育論

FS100C フードスペシャリスト論

FT160C 特別支援教育
FT150C 日本国憲法
FT141C 道徳・特別活動論(教育課程を含む)
FT131C 教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)
FT121C 発達心理学
FT111C 教育原理
FT100C 教育者論

実務経験のある教員による授業科目一覧

【食物栄養学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
上田 広美	病院において管理栄養士として16年以上勤務 現在は専門学校において進路指導主任・管理栄養士として勤務	臨床栄養学実習	1	・病院での管理栄養士経験を生かし、調理現場での衛生管理手洗いの実践を実習に導入している。 ・糖尿病食の展開について実際の病院での献立作成に使えるよう現場での注意点を伝えるようにしている。 ・実習では実際の病院での一般食から形態調整・特別食への展開を導入している。	P.104
梶 真知子	管理栄養士(石川県職員)として、保健所、病院、栄養士養成施設等で40年勤務	公衆栄養学	2	保健所の実務経験をもとに、公衆栄養法規について、また、国民健康・栄養調査の実施体制や健康づくり対策について話をしている。	P.105
楠本 史郎	日本基督教団牧師経験40年勤務(教会担任教師として28年勤務・教務教師として12年勤務) 幼稚園園長として30年勤務 金沢刑務所宗教教諭として18年勤務	キリスト教概論Ⅰ	1	牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭としての経験を事例として挙げつつ講義をし、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。	P.5
		キリスト教概論Ⅱ	1		P.6
茶谷 信一	小学校教員として37年間勤務	教育者論	2	・小学校担任・管理職の経験から事例を紹介し、教師としての在り方に関する課題や解決策についてディスカッションさせている。 ・グループでの課題解決には、ケーススタディやブレインストーミングの手法を導入している。	P.80
		道徳・特別活動論(教育課程を含む)	1	・小学校担任・管理職の経験から、道徳教育や特別活動に関する事例を紹介し、課題や解決策についてディスカッションさせている。 ・グループでの課題解決には、ケーススタディやブレインストーミングの手法を導入している。	P.82
		教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)	1	・「生きる力」の育成を目標とした各種教育方法について、小学校現場における実際の経験から事例を取り出し、「対話」させ、議論させ、授業に生かしている。 ・課題解決型学習を実体験させながら各自の解決策を小論文にまとめさせている。	P.83
		栄養教育実習指導	1	・学級担任時代や管理職時代に栄養教育実習生を受け入れてきた経験を生かし、学校での実習の在り方や授業の在り方、指導案の書き方等を指導している。 ・模擬授業としてロールプレイの手法を用いたり、グループでの課題解決には、SGEやケーススタディを導入したりしている。	P.117-118
		教職実践演習(栄養教諭)	2	・小学校時代の経験から、給食時間中の様々な事例を紹介し、栄養指導や給食指導の在り方を考えさせ、課題について自分なりの答えを導き出させている。 ・グループでの課題解決には、SGEやケーススタディ、ブレインストーミング等の手法を導入している。	P.116
西 正人	食品機械メーカーで16年間勤務 (機能性食品の開発、食品や機械の菌数検査を行う)	食品衛生学実験	1	様々な食品の一般生菌検査における実例や注意すべきポイント、クリンベンチがない場合の無菌的操作などにおける注意点を説明している。	P.99
堀 栄子	小学校・中学校の学校栄養職員、栄養教諭として5年7か月勤務 石川県社会教育施設において管理栄養士として勤務(現在に至る)	学校栄養教育論	2	学校現場での実践を提示し、参考となるようにしている。	P.113
		栄養教育実習指導	1	学校現場での実践を提示し、意見を発表させている。	P.117-118
		教職実践演習(栄養教諭)	2	学校現場における具体的な課題についてグループで解決方法を討議発表させる。ロールプレイを導入している。	P.116
前川 直樹	社会福祉施設において13年勤務 (社会福祉士)	社会福祉概論	2	社会福祉の実施機関、事業所での相談員としての実務経験をもち、近年の動向も取り入れながら、社会福祉の理論や歴史、制度、方法等について話をしている。	P.91
三井 悦子	管理栄養士として石川県内保健所、病院、福祉健康センター等で38年勤務(県・市職員歴40年)	臨床栄養学Ⅰ	2	病院・保健所・福祉健康センターでの栄養指導・相談業務での経験を活かし、各疾患の食事、嚥下等、食品・サンプル等を使用した体験学習を行っている。	P.101
		臨床栄養学Ⅱ	2	病院・保健所・福祉健康センターでの栄養指導・相談業務での経験を活かし、紙カップや飲料等、媒体を用いた栄養指導・相談のペアワークを行っている。	P.102
南 雅則	中学校教員として33年間勤務	教育相談(生徒指導法を含む)	2	教育上の課題について、中学校現場での経験や事例を教材として取り上げ、討議や演習を通して学生の学びを深めている。	P.115
村井 万寿夫	小学校教員として26年間勤務 (現在でも、教育の原理や方法、評価に関する研究会の委員(日本教育工学協会理事、石川県教育工学研究会会長、NHK学校放送番組活用アドバイザー)として小学校、中学校の教員との関わりを持つとともに、教育の原理や方法、評価について共同研究を行い、成果を全国大会や学会において発表している。)	教育原理	2	・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子取材し、写真やビデオを学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。 ・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解したりディスカッションしたりしている。	P.114
合計			25	単位	

コミュニティ文化学科

1. 教育について（教育理念、AP・CP・DP）

教育理念

北陸学院大学短期大学部は、キリスト教に基づくホスピタリティ（他者への思いやり）を通じて、学生一人ひとりを大切に、良き社会人として豊かな教養と汎用的な専門知識・技能を身につけ、生涯にわたり、積極的に地域社会に貢献できる人材を養成することを教育の理念として掲げています。

アドミッションポリシー

北陸学院大学短期大学部では、聖書に示された愛の精神に基づき、人と地域社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の入学生を受け入れます。

- ① 専門的な知識と技術を身につけるために必要な基礎学力を有している者（*）
- ② 物事を多面的かつ論理的に考察することができる者
- ③ 自己の考えを的確に表現し、伝えることができる者
- ④ 北陸学院のスクールモットーである「Realize Your Mission（あなたの使命を実現しよう）」という精神に賛同する者

上記に加えコミュニティ文化学科では、

- ⑤ 自らの将来を切り開こうという意欲を持つ者

*入学に際し基礎学力テストを実施して、英語・日本語・数学の基礎学力が不足している場合には、「英語基礎」、「日本語基礎」、「数学基礎」科目の学びを義務づけます。

カリキュラムポリシー

北陸学院大学短期大学部では、教育理念に掲げた人材を育成するために、食物栄養学科とコミュニティ文化学科を置き、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。

- ① ホスピタリティの精神を学び、豊かな人間性を身につける科目として、「北陸学院科目」を配置する。
- ② 良き社会人となるために必要な豊かな教養を身に付け、自己実現を図るために、「総合教養科目」、「言語教育科目」、「スポーツ・健康科目」、「キャリア教育科目」を配置する。
- ③ 問題発見能力と解決能力を養い、自分の考えを適切に口頭や文章で表現することができるよう、基礎的科目と専門的科目を配置し、主体的な学びの方法を獲得する。

上記に加えコミュニティ文化学科では、

- ④ 人間形成や、キャリアデザインを考える土台となる思考能力・態度を養うために、学科基礎科目は「教養」、「ゼミナール」、「キャリア支援」の各科目群で構成する。

- ⑤ 一人ひとりの目標と関心に応じた知識・技能を修得できるように専門教育科目を配置し、「専門基礎」、「ビジネス・経営実務」、「医療事務」、「観光・ホテル」、「英語・異文化理解」の各科目群で構成する。

ディプロマポリシー

北陸学院大学短期大学部では、以下の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

(関心・意欲、態度)

- ① ホスピタリティの学びを活かして、他者を思いやり、意見を尊重し、協働することができる。

(知識・理解、思考・判断)

- ② 学んだ知識を活かして自ら課題を見つけ、考え判断して、よりよく問題を解決できる。

(技能・表現)

- ③ 口頭表現や文章表現を用いて自分の考えを適切に伝えることができる。

上記に加えコミュニティ文化学科では、

(知識・理解、思考・判断)

- ④ 地域社会で求められる知識と教養を身につけている。

(関心・意欲、態度)

- ⑤ 専門的知識や取得した資格を活かし、地域社会に貢献できる。

2. カリキュラム体系

(科目のナンバリングについて)

1 全学共通科目

- H G : 北陸学院科目
- G E : 総合教養
- L J : 言語教育 (日本語)
- L E : 言語教育 (英語)
- L C : 言語教育 (中国語)
- L F : 言語教育 (フランス語)
- P E : スポーツ・健康
- H C : キャリア教育

2 学科科目 (学科基礎科目・専門教育科目)

- C コミュニティ文化
- C L 教養科目 *Liberal Arts
- C S ゼミナール科目 *Seminar
- C C キャリア支援関係科目 *Career Support
- C F 専門基礎科目 *Foundation
- C B ビジネス・経営実務関係科目 *Business
- C M 医療事務関係科目 *Medical
- C R 観光・ホテル関係科目 *Region
- C E 英語・異文化理解科目 *English

注1) 基礎科目を100番台 (主として1年次)、学科専門200番台 (主として2年次)

注2) 開講学年にはこだわらず、その科目の難易度、専門的位置づけによる。

コミュニティ文化学科（カリキュラム体系図）

CL：教養科目

CS：ゼミナール科目

<200番台>

CL230C	社会心理学の基礎
CL220C	結婚と家族形成
CL210C	キリスト教とホスピタリティ
CL200C	キリスト教と生活

CS210C	専門ゼミⅡ
CS200C	専門ゼミⅠ

<100番台>

CL130C	青年の心理
CL120C	現代社会の基礎知識
CL110C	健康論

CS120C	基礎ゼミⅡ
CS110C	基礎ゼミⅠ
CS100C	スタートアップセミナー

<090番台>

CB：ビジネス・経営実務関係科目

CM：医療事務関係科目

<200番台>

CB230C	経営戦略
CB225C	CSとマーケティング
CB220C	プレゼンテーション演習
CB215C	デザインソフト演習Ⅱ
CB210C	デザインソフト演習Ⅰ
CB205C	データベース利用法
CB200C	資格簿記C

CM230C	医療事務英語
CM220C	診療報酬実務
CM210C	医療管理学
CM200C	医学一般

<100番台>

CB150C	ファイナンスの基礎
CB145C	企業と社会
CB140C	情報科学
CB135C	資格コンピュータB
CB130C	資格コンピュータA
CB125C	資格秘書技能B
CB120C	資格秘書技能A
CB115C	資格接客サービスB
CB110C	資格接客サービスA
CB105C	資格簿記B
CB100C	資格簿記A

CC：キャリア支援関係科目

CF：専門基礎科目

CC220C	ビジネス人間関係論
CC210C	キャリア教養講座C
CC200C	キャリア開発セミナーC

CF210C	小論文作成法
CF200C	リサーチ入門

CC140C	キャリア教養講座B
CC130C	キャリア教養講座A
CC120C	キャリア開発セミナーB
CC110C	キャリア開発セミナーA

CF110C	アカデミックリーディング
CF100C	統計の基礎

CC090C	◆数学基礎
--------	-------

CR：観光・ホテル関係科目

CE：英語・異文化理解科目

CR230C	地域と観光(フィールドワーク)
CR220C	地域と観光(概論)
CR210C	Hospitality English
CR200C	Kanazawa Guide

CE240C	Business English Skills
CE230C	Advanced English III
CE220C	Advanced English II
CE210C	Advanced English I
CE200C	ワールドトピックス

CR110C	ホテル・ブライダルサービス論
CR100C	金沢学

CE150C	English Communication Skills
CE140C	海外地域研究
CE130C	異文化コミュニケーション論
CE120C	Reading
CE110C	Writing
CE100C	Grammar

実務経験のある教員による授業科目一覧

【コミュニティ文化学科】

教員名	実務経験の内容	科目名	単位数	実務経験を活かした授業の概要	掲載ページ
葦名 理恵	企業(プライダルプロデュース会社:9年、旅行会社:15年)において勤務	キャリア開発セミナーA	1	プライダル会社にてインターンシップ受け入れしていた経験から「受け入れ側」はどのように学生を見ているか、などの事例を紹介している。	P.135
		キャリア開発セミナーC	1	プライダル会社にて採用担当していた経験から「採用側」視点の学生評価などの事例を紹介している。	P.137
		医療事務英語	1	添乗員の経験から海外で病院にかかる際の注意点などの事例を紹介している。	P.167
		Kanazawa Guide	2	日英二か国語対応ガイド経験のハウツーを取り入れている。	P.168
		Hospitality English	1	日英二か国語ガイドの経験に加えて、外国人のお客様から高評価を得た接遇の事例を紹介している。	P.169
		ホテル・プライダルサービス論	2	ウエディングプランナーの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。	P.171
		ワールドトピックス	2	海外添乗員業務で得た日本との常識の違いなどを多様な価値観を学ぶ事例として取り入れている。	P.179
池村 努	企業のIT関連部門において13年勤務	データベース利用法	1	業務でデータ分析等を行っていた際の知識を活用し、事例紹介等を行っている。	P.155
		プレゼンテーション演習	1	取引先との折衝などを通じて自ら体験した事例を紹介し、プレゼンテーション資料作成に反映している。	P.158
		情報科学	2	ハードウェア構築、ネットワーク構築などの業務を通じて得た知識を事例紹介に取入れている。	P.159
石原 俊彦	介護老人保健施設に14年間勤務	医療管理学	2	医療業務での経験をもとに医療現場の現状と課題について事例紹介を行い、ディスカッションによって学びを深めている。	P.165
蘭守 貴弘	税理士事務所経営(22年間)	資格簿記A	1		P.146
		資格簿記B	1	税理士としての知識と経験をもとに、簿記検定合格に向け具体的な演習を行っている。	P.147
		資格簿記C	1		P.148
楠本 史郎	日本基督教団牧師経験40年勤務(教会担任教師として28年勤務・教務教師として12年勤務) 幼稚園園長として30年勤務 金沢刑務所宗教教諭として18年勤務	キリスト教概論Ⅰ	1	牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭としての経験を事例として挙げつつ講義をし、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。	P.5
		キリスト教概論Ⅱ	1		P.6
中村 洋子	医療機関において勤務	診療報酬実務	2	実務に沿い、具体的な診療報酬実務の注意点などについて講義し、演習形式でカルテの読解、算定、レセプト作成をさせている。	P.166
野林 晴彦	企業の人材開発やマーケティング部門において26年勤務	キャリアデザインⅠ	1	自分自身やあるいは友人・知人のキャリア経験等を紹介している。	P.47
		キャリアデザインⅡ	1		P.49
		ビジネス人間関係論	2	職場での人間関係(上司・部下・同僚)について、体験談などを紹介している。	P.140
		企業と社会	2	人材開発やマーケティングなどの会社員時代の経験を紹介している。	P.160
		CSとマーケティング	2	過去のマーケティング部署での経験を紹介している。	P.162
経営戦略	2	会社や業界での経験を事例紹介している。	P.163		
南 雅則	中学校教員として33年間勤務	青年の心理	2	中学校教員としての経験をもとに、青年期の心理について具体的事例を挙げながら教授している。	P.125
		社会心理学の基礎	2	子ども同士、子どもと親などコミュニケーションを通じた人間関係構築について、具体的事例を挙げながら教授している。	P.128
大和 太郎	医師として25年勤務 (現在、クリニック院長)	医学一般	2	医学や医療の知識を身につけてもらうため、体の構造や機能、人の成長・発達や老い、患者や家族の気持ち等について、これまでの実務経験(総合病院勤務医時代の経験や、クリニック開院後の外来診療および訪問診療での経験)を元に講義を行っている。	P.164
合計			29	単位	

全学共通科目	1～53
食物栄養学科	55～120
コミュニティ文化学科	121～184
司書特別開講科目(社会学科科目)	185～201
教職員録	203～204
案内図	205～208

カリキュラム 目次

※頁番号が一の科目は、2019年度開講せず

全学共通科目

〔北陸学院科目〕

HG100C	北陸学院セミナーⅠ	3
HG200C	北陸学院セミナーⅡ	4
HG110C	キリスト教概論Ⅰ	5
HG120C	キリスト教概論Ⅱ	6

〔総合教養科目〕

GE100C	総合教養AⅠ	7
GE110C	総合教養AⅡ	8
GE120C	総合教養BⅠ	9
GE130C	総合教養BⅡ	10
GE140C	総合教養CⅠ	11
GE150C	総合教養CⅡ	12
GE160C	総合教養DⅠ	13
GE170C	総合教養DⅡ	14

〔言語教育科目〕

LJ090C	日本語基礎	15
LJ110C	日本語表現法Ⅰ	16
LJ120C	日本語表現法Ⅱ	17
LE090C	英語基礎	18
LE155C	英語AⅠ	19
LE160C	英語AⅡ	20
LE145C	英語BⅠ	21
LE150C	英語BⅡ	22
LE135C	英語CⅠ	23
LE140C	英語CⅡ	24
LE125C	英語DⅠ	25
LE130C	英語DⅡ	26
LE115C	英語EⅠ	27
LE120C	英語EⅡ	28
LE105C	英語FⅠ	29
LE110C	英語FⅡ	30
LE165C	アクティブ・イングリッシュA	31
LE170C	アクティブ・イングリッシュB	32
LE175C	アクティブ・イングリッシュC	33
LC100C	中国語Ⅰ (コミュニティ文化学科)	34
LC110C	中国語Ⅱ (コミュニティ文化学科)	35
LF100C	フランス語Ⅰ (コミュニティ文化学科)	36
LF110C	フランス語Ⅱ (コミュニティ文化学科)	37

〔スポーツ・健康科目〕

PE100C	生涯スポーツA (ゴルフ) (食物栄養学科)	38
--------	------------------------	----

PE100C	生涯スポーツA (テニス) (食物栄養学科)	39
PE100C	生涯スポーツA (バドミントン) (食物栄養学科)	40
PE100C	生涯スポーツA (ゴルフ) (コミュニティ文化学科)	41
PE100C	生涯スポーツA (テニス) (コミュニティ文化学科)	42
PE110C	生涯スポーツB (食物栄養学科)	43
PE110C	生涯スポーツB (集中:ゴルフセミナー) (食物栄養学科)	44
PE110C	生涯スポーツB (集中:スキーセミナー) (食物栄養学科)	45

〔キャリア教育科目〕

HC100C	キャリアデザインⅠ (食物栄養学科)	46
HC100C	キャリアデザインⅠ (コミュニティ文化学科)	47
HC110C	キャリアデザインⅡ (食物栄養学科)	48
HC110C	キャリアデザインⅡ (コミュニティ文化学科)	49
HC160C	情報機器演習A (食物栄養学科)	50
HC160C	情報機器演習A (コミュニティ文化学科)	51
HC170C	情報機器演習B (食物栄養学科)	52
HC170C	情報機器演習B (コミュニティ文化学科)	53

食物栄養学科 (1年次)

〔学科基礎科目〕

FB110C	学びの基礎	57
FB120C	キャリア実践演習	58
FB130C	栄養士への道A	59
FB140C	栄養士への道B	60
FB090C	科学の基礎	61
FB095C	栄養士のための計算入門	62

〔専門教育科目〕

FH100C	公衆衛生学	63
FP100C	人体構造学	64
FP110C	栄養生化学	65
FP120C	食品学Ⅰ	66
FD100C	基礎栄養学	67
FG100C	栄養指導論Ⅰ	68
FG200C	栄養指導論Ⅱ	69
FG220C	栄養指導論実習	70
FC100C	調理学	71
FC110C	調理学実習A	72
FC120C	調理学実習B	73
FC130C	調理学実習C	74
FC140C	調理学実習D	75
FC160C	給食管理実習Ⅰ	76
FC150C	食事計画実習	77～78

FS100C	フードスペシャリスト論	79
FT100C	教育者論	80
FT121C	発達心理学	81
FT171C	道徳・特別活動論（教育課程を含む）	82
FT181C	教育方法論（総合的な学習の時間の指導法を含む）	83

食物栄養学科（2年次）

〔学科基礎科目〕

FB110C	学びの基礎	—
FB120C	キャリア実践演習	—
FB200C	人間の探究Ⅰ	87
FB210C	人間の探究Ⅱ	88
FB130C	栄養士への道A	—
FB140C	栄養士への道B	—
FB220C	栄養士への道C	89
FB230C	栄養士への道D	90
FB090C	科学の基礎	—
FB095C	栄養士のための計算入門	—

〔専門教育科目〕

FH100C	公衆衛生学	—
FH200C	社会福祉概論	91
FP100C	人体構造学	—
FP200C	生理学（含運動生理学）	92
FP110C	栄養生化学	—
FP210C	病気のしくみ	93
FP220C	生理学実習	94
FP230C	栄養生化学実験	95
FP120C	食品学Ⅰ	—
FP240C	食品学Ⅱ	96
FP250C	食品衛生学	97
FP260C	食品学実験	98
FP270C	食品衛生学実験	99
FD100C	基礎栄養学	—
FD200C	応用栄養学	100
FD210C	臨床栄養学Ⅰ	101
FD220C	臨床栄養学Ⅱ	102
FD230C	応用栄養学実習	103
FD240C	臨床栄養学実習	104
FG100C	栄養指導論Ⅰ	—
FG200C	栄養指導論Ⅱ	—
FG210C	公衆栄養学	105
FG220C	栄養指導論実習	—
FC200C	給食実務論（含計画）	106
FC100C	調理学	—

FC110C	調理学実習A	—
FC120C	調理学実習B	—
FC130C	調理学実習C	—
FC140C	調理学実習D	—
FC160C	給食管理実習Ⅰ	—
FC210C	給食管理実習Ⅱ	107
FC150C	食事計画実習	—
FC220C	校外実習	108
FS200C	食品の消費と流通	109
FS210C	フードコーディネーター論	110
FS100C	フードスペシャリスト論	—
FS220C	官能評価・鑑別論	111～112
FT200C	学校栄養教育論	113
FT100C	教育者論	—
FT110C	教育原理	114
FT120C	発達心理学	—
FT130C	教育方法論	—
FT140C	教育課程論（特別活動・道徳を含む）	—
FT210C	教育相談（生徒指導法を含む）	115
FT250C	教職実践演習（栄養教諭）	116
FT230C	栄養教育実習指導	117～118
FT240C	栄養教育実習	119
FT150C	日本国憲法	120

コミュニティ文化学科

〔学科基礎科目〕

CL200C	キリスト教と生活	123
CL210C	キリスト教とホスピタリティ	124
CL130C	青年の心理	125
CL220C	結婚と家族形成	126
CL110C	健康論	127
CL230C	社会心理学の基礎	128
CL120C	現代社会の基礎知識	129
CS100C	スタートアップセミナー	130
CS110C	基礎ゼミⅠ	131
CS120C	基礎ゼミⅡ	132
CS200C	専門ゼミⅠ	133
CS210C	専門ゼミⅡ	134
CC110C	キャリア開発セミナーA	135
CC120C	キャリア開発セミナーB	136
CC200C	キャリア開発セミナーC	137
CC130C	キャリア教養講座A	138
CC140C	キャリア教養講座B	139
CC210C	キャリア教養講座C	—
CC220C	ビジネス人間関係論	140

CC090C 数学基礎 141

〔専門教育科目〕

CF100C 統計の基礎 142

CF200C リサーチ入門 143

CF110C アカデミックリーディング 144

CF210C 小論文作成法 145

CB100C 資格簿記A 146

CB105C 資格簿記B 147

CB200C 資格簿記C 148

CB110C 資格接客サービスA 149

CB115C 資格接客サービスB 150

CB120C 資格秘書技能A 151

CB125C 資格秘書技能B 152

CB130C 資格コンピュータA 153

CB135C 資格コンピュータB 154

CB205C データベース利用法 155

CB210C デザインソフト演習I 156

CB215C デザインソフト演習II 157

CB220C プレゼンテーション演習 158

CB140C 情報科学 159

CB145C 企業と社会 160

CB150C ファイナンスの基礎 161

CB225C CSとマーケティング 162

CB230C 経営戦略 163

CM200C 医学一般 164

CM210C 医療管理学 165

CM220C 診療報酬実務 166

CM230C 医療事務英語 167

CR200C Kanazawa Guide 168

CR210C Hospitality English 169

CR100C 金沢学 170

CR110C ホテル・ブライダルサービス論 171

CR220C 地域と観光(概論) 172

CR230C 地域と観光(フィールドワーク) 173

CE100C Grammar 174

CE110C Writing 175

CE120C Reading 176

CE130C 異文化コミュニケーション論 177

CE140C 海外地域研究 178

CE200C ワールドトピックス 179

CE150C English Communication Skills 180

CE210C Advanced English I 181

CE220C Advanced English II 182

CE230C Advanced English III 183

CE240C Business English Skills 184

〔司書 特別開講科目(社会学科科目)〕

SL100U 図書館概論 187

SL220U 情報技術論 188

SP315U 認知心理学 189

SB100U 生涯学習概論 190

SB200U 図書館サービス概論 191

SB205U 情報サービス論 192

SB300U 児童サービス論 193

SB210U 情報資源組織論 194

SB305U 図書館制度・経営論 195

SB310U 情報サービス演習I 196

SB315U 情報サービス演習II 197

SB320U 情報資源組織演習I 198

SB325U 情報資源組織演習II 199

SB330U 図書館情報資源概論 200

SB335U 図書・図書館史 201

全学共通科目

授業科目名	HG110C 初教概論		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修	
担当教員名	橋本 史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ばない入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。</p> <p>本講義では、担当教員を紹介し、心の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、概要を話し、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、おもにマルコによる福音書に基づいて、イエス・キリストの生涯について学び、新約聖書を聴き取るためのガイダンスで本講義を終わる。</p>			<p>北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって</p> <p>聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。</p> <p>聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。</p> <p>世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に付ける。</p> <p>他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。</p>				
教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	自分を見つめる。担当者の紹介と礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方を知る。信じることで生きることについて考え、宗教とは何かを学ぶ。信じることの意味を知る。						
2	諸宗教のなかでのキリスト教の位置、および聖書の背景について学ぶ。日本と世界の宗教理解の相違を知る。新約の時代と歴史について学び、旧約と新約の連続性と相違を知る。新約の校正と背景にあるイエスの生涯の概略を理解する。						
3	時間論的視点から旧約と新約の違いを知る。宗派・教派による聖書の相違について基本知識を持つ。イエスの生涯 マルコ福音書1:9-14により、神が人となる受肉の意味を学ぶ。キリストの両性の意味を理解する。						
4	イエスの生涯 マルコ5:1-20から、真の自分を取り戻し、真の自己となることの意味を学ぶ。真の自己の存在を知る イエスの生涯 マルコ8:27-9:1から、疎外からの解放がどのように行われるのかを学ぶ。真の自己となることの意味を知る						
5	イエスの生涯 マルコ10:1-12から、聖書の夫婦観・家族観を学ぶ。聖書の結婚観、夫婦間、家族観を学ぶ。聖書に結婚観を知り、自己の結婚観を養う						
6	イエスの生涯 存在の意味 マルコ10:35-45から、人間の存在の意味について学ぶ。自己の生の意味を他者との関係で捉える。 イエスの生涯 マルコ12:28-34から、神への愛と他者への愛、真の自己愛とは何か、学ぶ。愛の構造を理解する。						
7	小テスト およびイエスの生涯 マルコ14:1-11から、受難の社会的構造を学ぶ。イエスの死の経緯と、救済的な意味を理解する。 イエスの生涯 マルコ14:22-26から、最後の晩餐が示すイエスの死の贖罪の意味を知る。イエスの死の意味を知る。						
8	小テスト および新約の中心的使信について説明し、それを聴き取るためのガイダンスを行う。新約の中心的メッセージを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加度・理解度	20	毎回の講義内容をミニレポートにまとめ提出する。 授業内容を理解している それを自分の言葉で掘り込んで表現している 疑問や質問など、問題意識を持っている		新約聖書の目次を覚える小テスト	20	新約27書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す	
新約等前期授業の内容について小テスト	30	新約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う。		レポート	30	教会の主日(日曜)礼拝への参加態度 そこでの説教内容のまとめ それに対する自己の意見	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕</p> <p>さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める〔60分〕</p> <p>北陸学院セミナーへの積極的参加を求める。〔28時間〕</p> <p>日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。</p>				毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小テストやレポートについても、必要なコメントをする。			
受講生に望むこと	受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取ること 聖書を必ず持参すること 遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること			教科書・テキスト	『新共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎かい授業に持参する。『讚美歌21』		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行うので、1回欠席すると2コマの欠席となる。 毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。 小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。 レポートは必ず指定された期限内に提出すること。		

授業科目名	GE100C 総合教養A		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	幸 聖二郎・大井 佳子・中島 賢介・高村 真希・谷 昌代 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義において、幼・小・中それぞれの現場の様子やそれぞれの研究領域の視点から、5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1～3回 「人間とは何か」「子どもとはどういった存在か」「なぜ教育が必要か」等について、「人格の完成」という視点から考えることができる。(幸) 4～6回 乳幼児の心と身体の育ちを理解し、日常生活においても社会的問題に興味・関心が持てるようになる。(高村) 7～9回 幼児期の学び方を知り、幼児の遊びに興味をもつ。(大井) 10～12回 人間の育ちの中で特に心の育ち、人間関係に注目する。現代に生きる子どもから大人までの様々な成長段階における心のあり方、課題を知り、それを感じ取ること、寄り添うこと、援助することの大切さを学ぶ。人と共に生きることを意味を考えられるようになる。(谷) 13～15回 現代社会が抱える子どもに関する諸問題について、児童文学の視点から理解することができる。(中島)</p>			
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義 評価の方法 「人間の魅力」について考える。					幸
2	人間のもつ「豊かな人間性と創造性」について考える。					幸
3	「人格の完成」について考える。					幸
4	赤ちゃんの不思議!少子化と言われる今だから考えたい：赤ちゃんの動画を通して、赤ちゃんの不思議を考える。					高村
5	乳幼児と絵本：人は触れ合いを通して大きくなる。絵本の読み聞かせが持つ効果について理解する。					高村
6	乳幼児の内なる言葉：人の感じ方や思いはそれぞれ異なる。乳幼児の内なる言葉に触れることを通して、自身の内なる言葉を感じてみよう!					高村
7	幼児は遊んで賢くなる：遊びで起こっているモノとの対話					大井
8	幼児期には言葉ではない方法で他者と対話している：他者を見ることのできる環境が必要					大井
9	幼児期の学び方：場との対話、そして自分との対話へ					大井
10	子どもを「善く」見ること：一人ひとりのちがいを受け止めることから考える。					谷
11	子どもも大人も輝くとき：森には宝物がいっぱい!!自然活動体験から子ども達は何を学んでいるのか考え、子ども同士の育ち合う姿を知る。					谷
12	現代の子育て事情のいろんなこと：保護者の抱える「不安」を知り、心の援助を考える。					谷
13	子どもの文学と哲学に向き合う 児童文学の中で哲学について取り上げた作品を紹介・解説し、生き方について各自理解を深める。					中島
14	子どもの文学と平和に向き合う児童文学の中で戦争について取り上げた作品を紹介・解説し、平和について各自理解を深める。					中島
15	子どもの文学と災害に向き合う児童文学の中で災害について取り上げた作品を紹介・解説し、災害に津浪いて各自理解を深める。					中島
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100(20×5)	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている。質的量的に適切である。指定期日までの提出				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				各教員ごとに対応する。		
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE110C 総合教養A		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	幸 聖二郎・伊藤 雄二・大井 佳子・高村 真希・谷 昌代 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進化する現代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める。オムニバス方式の本講義は幼、保、小、中それぞれの現場の様子やそれぞれの研究領域の視点から5人の教員がリレー形式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1～3回「人間とは何か」「子どもとはどういった存在か」「なぜ教育が必要か」等について、「人格の完成」という視点から考えることができる。(幸) 4～6回 子どもの言語習得の過程を学び、英語や日本語の具体例から、言葉の持つ普遍性を意識できるようになる。(伊藤) 7～9回 乳幼児の心と身体の育ちを理解し、日常生活においても社会的関心・関心が持てるようになる。(高村) 10～12回 乳幼児期の多彩な「対話的な学び」をイメージすることができる。(大井) 13～15回 人間の育ちの中で特に心の育ち、人間関係に注目する。現代に生きる子どもから大人までの様々な成長段階における心のあり方、課題を知り、それらを感じ取ること、寄り添うこと、援助することの大切さを学ぶ。人と共に生きることを意味を考えられるようになる。(谷)</p>			
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義 評価の方法 「人間の魅力」について考える。					幸
2	人間のもつ「豊かな人間性と創造性」について考える。					幸
3	「人格の完成」について考える。					幸
4	子どもは言葉をどのように獲得していくのだろうか。生後数年間の言語習得の過程を学ぶ。					伊藤
5	子どもは音声をどのように獲得していくのだろうか。初語(first word)・喃語(babbling)・母親ことば(motherese)などの前言語期について学ぶ					伊藤
6	言葉(英語の単語)を読む際のつづり字と発音の関係(phonics)を学ぶ					伊藤
7	赤ちゃんの不思議! 少子化と言われる今だから考えたい: 赤ちゃんの動画を通して、赤ちゃんの不思議を考える。					高村
8	乳幼児と絵本: 人は触れ合いを通して大きくなる。絵本の読み聞かせが持つ効果について理解する。					高村
9	乳幼児の内なる言葉: 人の感じ方や思いはそれぞれ異なる。乳幼児の内なる言葉に触れることを通して、心身の内なる言葉を感じてみよう!					高村
10	幼児期の学び方: 遊びで起こっているモノとの対話					大井
11	幼児期には、言葉ではない方法で他者と対話					大井
12	場との対話 自分自身との対話					大井
13	子どもを「善く」見ること: 一人ひとりのちがいを受け止めることから考える。					谷
14	子どもも大人も輝くとき: 森には宝物がいっぱい!! 自然活動体験から子ども達は何を学んでいるのか考え、子ども同士の育ち合う姿を知る。					谷
15	現代の子育て事情のいろんなこと: 保護者の抱える「不安」を知り、心の支援を考える。					谷
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
担当者ごとの授業後の課題レポート	100(20×5)	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている。質的量的に適切である。指定期日までの提出。				
授業外における学習(事前・事後学習等)						
今日、子どもに関する課題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で議論されている。普段からこれらの議論に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
				各担当者ごとに対応する。		
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外はその専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのよう に学び、育つかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。			教科書・テキスト	テキストを使用せず、配付資料や映像等を用いた講義となる。	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE120C 総合教養B		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	小林 正史・田中 純一・加藤 仁 (代表教員 小林 正史)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が及び出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧・復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					加藤
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					加藤
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					加藤
14	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					加藤
15	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況		レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと[30分] その日のうちに学んだことを復習すること[30分]				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE130C 総合教養B		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	小林 正史・田中 純一・加藤 仁 (代表教員 小林 正史)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、社会福祉といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようを抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が及び出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・こころの不調や発達障害などを含め、障害等について正しく理解する。また、現代社会における社会福祉の動向、支援制度等を正しく理解し、日常生活においても興味関心を持てるようにする。(田引) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧 復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	私たちの暮らしと社会福祉：障害の概念および障害の基礎的理解、社会との関係					加藤
12	私たちの暮らしと社会福祉：こころと社会の関係を考える					加藤
13	私たちの暮らしと社会福祉：だれもが住みやすい街づくり					加藤
14	私たちの暮らしと社会福祉：ニーズ把握と権利擁護、多様な人たちの存在を認め合う					加藤
15	私たちの暮らしと社会福祉：障害がある人たちの就労やスポーツ					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況		レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと[30分] その日のうちに学んだことを復習すること[30分]				個々の教員の指導に従うこと。		
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE140C 総合教養C		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・南 雅則・田中 弘美・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養（食生活）が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>食物と健康の関連を理解する。 栄養素と健康の関連を理解する。 正しい食生活のあり方を理解する。 食と心理の関係を理解する。 食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>			
教授方法	6名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤
2	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点を見つける。					田中
3	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ					坂井
4	食品の一次機能について学ぶ -タンパク質、脂質、糖質-					坂井
5	食品の一次機能について学ぶ -味成分、香り成分、色素成分-					坂井
6	食品の三次機能について学ぶ -機能成分-					坂井
7	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。					三田
8	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。					三田
9	献立作成の基本を学ぶ。（食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む）					田中
10	ライフステージを通して、健康な食事を考える。					田中
11	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。					三田
12	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。					三田
13	食と心理：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について考える。					南
14	食と心理：食行動の健康と病理について、現代の青年における問題を考える。					南
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきか考える。					田中
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
担当者毎のレポート	90	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている 質的量的に適切である 指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習（事前・事後学習等）						
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること 授業中の私語を慎み、遅刻をしない				授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
受講生に望むこと	なし/なし		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE150C 総合教養C		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤 祥恵・南 雅則・西 正人・俵 万里子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養(食生活)が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>食物と健康の関連を理解する。 栄養素と健康の関連を理解する。 正しい食生活のあり方を理解する。 食と心理の関係を理解する。 食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>			
教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤
2	ライフステージに応じた食育(胎児期・乳児期)：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。					俵
3	ライフステージに応じた食育(成長期)：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。					俵
4	ライフステージに応じた食育(成人期)：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。					俵
5	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。					俵
6	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。					西
7	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。					西
8	食品と薬剤3：食品中の特定成分(カフェイン、色素、食品群別)が薬効に及ぼす影響について学ぶ。					西
9	アレルギーと経口免疫寛容4：経口免疫寛容の成り立ち。アレルギーや経口免疫寛容に影響する機能性食品や腸内細菌の働きについて学ぶ。					西
10	食と心理：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について考える。					南
11	食と心理：食行動の健康と病理について、現代の青年における問題を考える。					南
12	食と流通：世界の食料資源はどうなっているか理解し、日本の食料需給の問題を考える。					新澤
13	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。					新澤
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える					新澤
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する					新澤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
担当者毎のレポート	90	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている 質的量的に適切である 指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習(事前・事後学習等)						
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること 授業中の私語を慎み、遅刻をしない				授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
受講生に望むこと	なし/なし		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		

授業科目名	GE160C 総合教養D		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>コミュニケーションとは、情報(メッセージ)の授受により相互に影響しあう過程(プロセス)である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には前半は大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちを取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>また、後半はホスピタリティ産業からサービスとホスピタリティの違いや、顧客満足・従業員満足につながり、日々の生活にも欠かせない現場で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>			<p>プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>協調性(チームワーク力)、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>サービスとホスピタリティの違いを説明できる</p> <p>ホスピタリティマインドを理解する</p>			
教授方法	グループワーク形式で行う(1回~8回)。講義形式で行う(9~15回)					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。					富岡・葦名
2	グループワークの知識と実践形式での学びを行う。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。					富岡
3	プレゼンテーションの基本：コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて実例を通して学習する。					富岡
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。					富岡
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備・話し合い・行動までを体験して、理解する。					富岡
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。					富岡
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備・話し合い・行動までを体験して、理解を深める。					富岡
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちにとっての「生活」の意味を理解する。					富岡
9	ホスピタリティの基礎知識 ・サービスとの違いを理解し説明できるようになる。					葦名
10	ホスピタリティ産業とは？ ブライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。					葦名
11	コミュニケーションスキル 挨拶・自己紹介テキスト作成する。					葦名
12	コミュニケーションスキル 外見からの第一印象を通し、身だしなみの必要性を理解する					葦名
13	コミュニケーションスキル 聞く力 普通の会話のやり取りを例にアクティブ・リスニングを理解する。					葦名
14	コミュニケーションスキル 話す力 スピーキングの技術を理解し表現できるようになる。					葦名
15	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。					葦名
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。		毎回の成果の家訓	30	リフレクションシートによる達成度の確認。
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。[総計60時間相当分]				授業内で随時行う		
受講生に望むこと	日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること。日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし/なし/適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	GE170C 総合教養D			開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>コミュニケーションとは、情報(メッセージ)の授受により相互に影響しあう過程(プロセス)である。特に多様な価値観が存在する中で、互いを認め合うことは大切な事である。本講義では円滑なコミュニケーションに求められるテクニックについて学び、実践することで理解を深める。</p> <p>具体的には前半は大学生活においてコミュニケーションが重要な役割を果たす場面の一つを想定して、私たちを取りまく家庭を中心とした「日常生活」を題材に用いて課題探求型のグループ学習を体験する。</p> <p>また、後半はホスピタリティ産業からサービスとホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足につながり、日々の生活にも欠かせない現場で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。</p> <p>この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。</p>				<p>プレゼンテーションの基本について学ぶ。</p> <p>コミュニケーション能力としての「相手に伝える力」や「相手から読み取る力」を身につける。</p> <p>協調性(チームワーク力)、主体性・積極性、リーダーシップあるいは論理的思考を身につける。</p> <p>「日常生活」情報の中から自身に役立つものを適切に抽出・整理し、応用する力を身につける。</p> <p>サービスとホスピタリティの違いを説明できる</p> <p>ホスピタリティマインドを理解する</p>			
教授方法	グループワーク形式で行う(1回～8回)。講義形式で行う(9～15回)						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。						富岡・葦名
2	グループワークの知識と実践形式での学びを行う。 目標：グループ学習に必要な技術や知識などを実際の体験から習得する。						富岡
3	プレゼンテーションの基本：コミュニケーションツールの一つとしてのプレゼンテーションを行う上で必要な基本的要素を学ぶ。「紹介・説明・説得」の違いについて実例を通して学習する。						富岡
4	聞いてもらえるプレゼンテーション：論理的な文章の組み立て方と心に届く内容に、我々が何気なく用いている「パラランゲージ」を加えることで聞き手に届くプレゼンテーションをする。そのための技術について学ぶ。						富岡
5	テーマ1に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備・話し合い・行動までを体験して、理解する。						富岡
6	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、テーマ2の設定 目標：プレゼンテーション法の実践と理解。一連のプロセスの最終段階の成果の評価を行い、課題を見つける。						富岡
7	テーマ2に基づく、データの収集、整理、共有、組み立て、振り返り。 目標：グループワークのプロセスの準備・話し合い・行動までを体験して、理解を深める。						富岡
8	グループの成果発表。質疑応答、振り返り、本シリーズ全体の振り返りと共有 目標：2回のグループワークを通して、コミュニケーションの意義を理解するとともに、私たちに与った「生活」の意味を理解する。						富岡
9	ホスピタリティの基礎知識 ・サービスとの違いを理解し説明できるようになる。						葦名
10	ホスピタリティ産業とは？ ブライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。						葦名
11	コミュニケーションスキル 挨拶・自己紹介テキスト作成する。						葦名
12	コミュニケーションスキル 外見からの第一印象を通し、身だしなみの必要性を理解する						葦名
13	コミュニケーションスキル 聞く力 普通の会話のやり取りを例にアクティブ・リスニングを理解する。						葦名
14	コミュニケーションスキル 話す力 スピーキングの技術を理解し表現できるようになる。						葦名
15	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。						葦名
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	50	・指定の書式に従ってレポートを作成している。 ・感想文ではなく、客観的に記述し自分の考察を加えている。			毎回の成果の家訓	30	リフレクションシートによる達成度の確認。
授業への参加態度	20	講義の到達目標をふまえて、授業に参加している。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配付された資料と共に整理しておくこと。事前・事後の学習はグループワークを効果的に進めるために、指示に従って各回毎に指定された時間数を自主的に行ってください。[総計60時間相当分]				授業内で随時行う			
受講生に望むこと	日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること。日常、何気なく使用するコミュニケーションを深く追及することによって、自分自身の行動がより円滑に有意義になるような目標を持って毎回の授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし/適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LJ090C 日本語基礎			開講学科	短期大学部	必修・選択	自由
担当教員名	竹下 正弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要なとされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活で必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。				辞書に親しみ、使いこなすことができる 決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる 表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす 口頭表現に慣れ親しむ			
教授方法	演習と講義。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどのようなものかを理解する。「自己紹介文」を書く。						
2	前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）						
3	表現力を豊かにする語彙（対義語） 辞書を使い慣れる（「対義語」）						
4	文章表現の基礎（「構成」を考える） 表現力を豊かにする語彙（同義語） 辞書を使い慣れる（「同義語」）						
5	文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える） 表現力を豊かにする語彙（四字熟語） 辞書を使い慣れる（「四字熟語」）						
6	文章表現の実践（「エッセイ」を書く） 表現力を豊かにする語彙（三字熟語） 辞書を使い慣れる（「三字熟語」）						
7	口頭表現の実践（「詩」の朗読） 表現力を豊かにする語彙（故事成語） 辞書を使い慣れる（「故事成語」）						
8	口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読） 表現力を豊かにするために（仮名遣い） 辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して） 到達確認テスト						
9	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）						
10	口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） 表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）						
11	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を確実にするために（教育漢字の確認）						
12	口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） 表現力を確実にするために（常用漢字の確認）						
13	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を確実にするために（表外漢字の確認）						
14	文章表現の実践（小論文）を書く） 表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）						
15	文章表現の実践（「小論文」を書く） 表現力を確実にするために（まとめ）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期テスト （16回目）	50	各回の講義内容・演習内容を理解しているか			到達確認テスト （8回目）	20	各回の講義内容・演習内容を理解しているか
各回の課題 提出	20	定められた書式・時間に従って提出しているか。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現しているか			授業参加 態度	10	課題に取り組み、弱点を克服しているか
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと [40分]				<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。 			
受講生に 望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。			教科書・ テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。		
指定図書/ 参考書等	なし/なし			その他・ 特記事項	辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること		

授業科目名	LJ110C 日本語表現法		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實・竹下 正弘 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、短期大学部における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。			言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。(聞き方、話し方、読み方、書き方) 敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 問題演習などを通して大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 総合的な日本語表現力(日本語検定2級を目指す実力)を身につけている。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。					
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法」を履修することができる。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業概要説明 テキスト：自己紹介について考える。					全員
2	テキスト：自己紹介、敬語(1) テキスト：スキルアップ敬語の種類と使い分けについて理解する。					全員
3	テキスト：文章の種類 テキスト：敬語(2) テキスト：注意すべき敬語について理解する。					全員
4	テキスト：事実と意見の区別 テキスト：発声・発音 テキスト：配慮を示す言葉について理解する。					全員
5	テキスト：適切な語の選び方 テキスト：敬語 テキスト：品詞・活用の種類について理解する。					全員
6	テキスト：読み手が理解しやすい文 テキスト：ら抜き言葉・ラタス言葉・さ入れ言葉について理解する。					全員
7	テキスト：読点の打ち方 テキスト：文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文について理解する。					全員
8	テキスト：読み手の期待にそって展開する文章 テキスト：接続語・指示語と文章について理解する。					全員
9	テキスト：文体の統一 テキスト：類義語・対義語について理解する。					全員
10	テキスト：文献の引用 テキスト：動詞の自他・視点について理解する。					全員
11	テキスト：レポート・論文の書き方 テキスト：文体、話し言葉、書き言葉について理解する。					全員
12	テキスト：レポート・論文の書き方 テキスト：コロケーションについて理解する。					全員
13	小論文の実践 テキスト：部首・音訓・熟語について理解する。					全員
14	小論文の実践 テキスト：仮名遣い・送り仮名について理解する。					全員
15	テキスト：総合問題に挑戦する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加状況	20	必要な準備をして参加している。 毎回の学習事項について予習復習をしている。 積極的にディスカッションに参加している。		提出課題	30	授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。 日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。
単位認定試験	50	授業で取り組んだ各分野の内容を概ね習得している。 得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服している。 日本語検定3級以上の実力が付いている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] 苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集(指定図書)に取り組む。[40分] 前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日~14日間程度]				・ 質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・ 毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・ 提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	毎回、必ず国語辞典を持参すること。(電子辞書可) 主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 学期中に指定図書の問題集から苦手とする領域の問題集1冊以上を解くこと。			教科書・テキスト	『Practical 日本語 文章表現編 成功する型 改訂版』清水明美編 おうふう 2011 5刷 ISBN: 978-4-2730-3632-4 『Practical 日本語 口頭表現編 自己表現の型』福沢健編 おうふう 5刷 2011 ISBN: 978-4-273-03339-2 『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2014 ISBN: 978-4-487-80364-4	
指定図書/参考書等	日本語検定委員会 (東京書籍 2008) 発行の以下のテキストより1冊を選んで問題を解く。 日本語検定公式テキスト『日本語中級3・4級』ISBN 978-4487802906 日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN 978-4487802760 日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN 978-4487802784 日本語検定領域別問題集『文法』ISBN 978-4487802777 日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN 978-4487802971			その他・特記事項	基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 日本語表現法 においてもテキストを継続して使用する。	

授業科目名	LJ120C 日本語表現法		開講学科	短期大学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法 で学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに実践的な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、ディスカッション、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。			言葉を伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。定型文章作成に必要な知識を理解して、適切に表現することができる。人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。グループで協力してディベートを行うことができる。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。					
履修条件	「日本語表現法」の単位修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「日本語表現法」で学ぶ文章表現、口頭表現について概要説明する。					全員
2	テキスト：スピーチ（スピーチ原稿の作成） テキスト：重要語句の確認					全員
3	テキスト：スピーチ（スピーチの実践） テキスト：重要語句の確認					全員
4	電話・アポイントについて学ぶ。 テキスト：重要語句の確認					全員
5	テキスト：手紙の書き方 テキスト：重要語句の確認					全員
6	テキスト：ビジネス文書の書き方 テキスト：重要語句の確認					全員
7	テキスト：資料の作り方 テキスト：重要語句の確認					全員
8	テキスト：話し方の技術。 テキスト：重要語句の確認					全員
9	テキスト：事実の報告・内容の構成 テキスト：重要語句の確認					全員
10	テキスト：プレゼンテーション・内容の構成 テキスト：重要語句の理解					全員
11	テキスト：ディベートの技術 ディベートの論題についてディスカッションする。 テキスト：重要語句の理解					全員
12	ディベートの実践（前半のグループ） テキスト：ディベートの実践 テキスト：重要語句の理解					全員
13	ディベートの実践（後半のグループ） テキスト：ディベートの実践 テキスト：重要語句の理解					全員
14	レポート発表会を行う。（前半のグループ）					全員
15	レポート発表会を行う。（後半のグループ） 授業全体のまとめを行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	20	基本的な姿勢ができています。（聞き方、話し方、読み方、書き方） 毎回学習する事項について予習復習をしている。		課題レポート	50	形式・内容の両面において学習内容がレポートに反映されている。
口頭表現発表態度	20	学習内容を理解して発表を行っている。 ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。 相手の意見をしっかりと聞き、積極的に発言している。		レポート発表会	10	周知な準備ができています。 定められた時間内にまとまった内容を発表している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
日本語表現法 で課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。[夏期休業中に10日～14日間] ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。 [120分] レポート発表は、各自が自分に最適と思われる方法を考え準備する。				・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	「日本語表現法」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習しておくこと。 毎回辞書を持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。 授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。			教科書・テキスト	『プラクティカル日本語 文章表現編 成功する型 改訂版』清水明美他編 おうふう 2011 ISBN:978-4-2730-3632-4 『プラクティカル日本語 口頭表現編 自己表現の型』福沢健他編 おうふう 2007 ISBN:978-4-2730-3339-2 『スキルアップ！日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会 GK7 東京書籍 2012 ISBN:978-4-4878-0364-4	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	「日本語表現法」の単位を修得していること。日本語表現法 で使用したテキストを継続して用いる。	

授業科目名	LE090C 英語基礎		開講学科	短期大学部	必修・選択	自由	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着をすることを目標に、「予習・授業での理解確認・テスト・復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。</p>			<p>学生は大学で学ぶために必要な基本的語彙・文型等を確認しながら、シンプルな文を自分で組み立てて発信できるような基本的な英語力を身につける。同時に、自律的に学ぶ姿勢を獲得することを目標とする。</p>				
教授方法	演習（予習 授業での理解確認 テスト 復習・予習）の形式で行う。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方等について学ぶ。英語での自己紹介をする。						
2	Lesson 1: This is my everyday life. 一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ						
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。						
4	Lesson 2: Do you keep a diary? 一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。						
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。						
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習						
7	Lesson 5: We love our town, Sakura-Yokocho. 場所の表現 基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。						
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現 時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。						
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival? 進行形 進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。						
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞 面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。						
11	Lesson 9: What does he look like? Wh-疑問文 wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。						
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert? 基本動詞 get, have, come, go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う						
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞 put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。						
14	Lesson 12: Let's take a trip. 英語で自分を表現するために 英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。						
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)		ノートづくり・課題への取り組み	50	予習：指定された範囲の課題(ノートづくり)ができているか。質問して分かったことがノートにメモされているか。復習：本時の学習事項を定着すべく練習しているか。	
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかして自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業は予習型で進められる。単語や文の意味(発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる[40分]。不明な点等があれば授業で質問すること。 授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること[20分]。 目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。</p>				随時行う			
受講生に望むこと	1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社 2007年 ISBN:978-4-384-33378-7 C1082		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語F」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得ができなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。		

授業科目名	LE155C 英語A		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのC1（学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる）レベルの英語力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。 Unit1 Achieving goals; Lesson 1 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。（復習） 受動態を用いて自分の知っている事/知らないことについて述べるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 現在完了を用いて、自分がなし得た事柄について話すことができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 Places and communities; Lessons 1-2 動名詞/不定詞を用いて、訪問すべき場所についての助言ができるようになる。 比較級を用いて、公式/非公式の言語の特徴が使いこなせるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 形容詞を用いて、土地についての描写ができるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Stories; Lessons 1-2 動詞の過去形を用いて逸話を話すことができるようになる。 複合形容詞を用いて人物を詳細に描写することができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 動名詞句、過去分詞、現在分詞を用いて、冗談を言えるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Moving forward; Lessons 1-2 未来形を用いて物事が起こる確率について描写することができるようになる。 未来形を用いて計画や調整について話すことができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 主語と動詞の倒置表現を用いて、広範囲にわたる議論を理解することができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Making money; Lessons 1-2 強調表現を用いて、仕事関係について話すことができるようになる。 条件節を用いて、金融に関する決定や後悔について討論することができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 文を修飾する副詞を用い優先順位を表すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A～F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE160C 英語A		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語を日常的のみならず業務上においても運用できる人材が求められている。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのC1（学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができ、明確で文章構成がしっかりとした文章を作ることができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語A」を履修した者（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Understanding power; Lesson 1 冠詞を用いて貴重な建物や建造物について描写できるようになる。					
2	Unit 6; Lessons 2-3 whatever, whoever, whenever節を用いて流暢に話されるスピーチのメモを取ることができるようになる。時間と対比を論理的に繋げて自伝的文章が書けるようになる。					
3	Unit 6; Lesson 4 本課のまとめ。 Unit 7 The natural world; Lesson 1 形容詞節を用いて手順を説明することができるようになる。					
4	Unit 7; Lessons 2-3 不定詞/動名詞が続く動詞を用いて広範囲にわたる散文に基づき推測ができるようになる。 as..as表現や量を表す表現を用いて、広告が書けるようになる。					
5	Unit 7; Lesson 4 本課のまとめ。					
6	Units 6-7の理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Problems and issues; Lessons 1-2 伝達動詞を用いて違う質問をされた際に引き伸ばし戦術をとることができるようになる。 継続表現を用いてライフスタイルについて討論することができるようになる。					
8	Unit 8; Lessons 3-4 話題化（文の先頭に移動）する方法を用いて、日々の問題を説明することができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 9 People with vision; Lessons 1-2 動詞句など前置詞との連語を用いて、物事の確からしさの程度を表すことができるようになる。 談話標識を用いて自分の好みを説明するために口頭表現を用いることができるようになる。					
10	Unit 9; Lessons 3-4 仮定法過去を用いて仮定的な質問に答えることができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 10 Expressing feelings; Lessons 1-2 助動詞を用いて感情がいかに自分に影響を与えるか討論することができるようになる。 推量の助動詞を用いて非現実的な状況について考え、述べることができるようになる。					
12	Unit 10; Lesson 3 wouldを用いて子どもの頃の思い出を描写することができるようになる。					
13	Unit 10; Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の理解確認					
14	Units 8-10の単元テスト、外部テスト（特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>（小テスト・発表・タスク等）</small> 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 指示通りの形式になっているか。 リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明 & 資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある 外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の	

授業科目名	LE145C 英語B		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語を日常的のみならず業務上においても運用できる人材が求められている。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのB2（留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。Unit 1 Making connections; Lesson 1 付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。					
2	Unit 1; Lessons 1-2 付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。(復習) any/every/no/someを伴う代名詞を用いて、賛成・反対を表明することができるようになる。					
3	Unit 1; Lessons 3-4 could/might/must/mayなどの助動詞を用いて、推測を表すことができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 Making a living; Lessons 1-2 will/be going toを用いて、将来の計画や予測を表現することができるようになる。 未来進行形や未来完了形を用いて、調査結果を報告することができるようになる。					
5	Unit 2; Lessons 3-4 just in caseを用いて、就職採用試験申込書の添え状が書けるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Lessons from history; Lessons 1-2 動詞の過去形を用いて短編物語を書くことができるようになる。 a/an/the/(なし)を用いて、材料、所有物、発明品について話すことができるようになる。					
8	Unit 3; Lessons 3-4 形容詞、副詞、位置を表す表現を用いて、ある場所についてプレゼンテーションをすることができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Taking risks; Lessons 1-2 if節を用いて日記やブログの書き込みができるようになる。 義務を表す助動詞を用いてスポーツなどのやり方を説明することができるようになる。					
10	Unit 4; Lessons 3-4 強調表現を用いて、写真を比較し、違いを述べたり意見を述べたりすることができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Looking back; Lessons 1-2 used to/would/get used toを用いて、過去の外見を描写することができるようになる。 能力の程度を表す表現を用いて、思い出について語るすることができるようになる。					
12	Unit 5; Lesson 3 although/however/neverthelessを用いて本について話すことができるようになる。					
13	Unit 5; Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認					
14	Units 3-5の単元テスト、外部テスト（特記事項参照）によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	ホームワークが適切に行われているか。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明 & 資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある 外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の	

授業科目名	LE150C 英語B		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学部の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語を日常的のみならず業務上においても運用できる人材が求められている。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基づいた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>これまで学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのB2（留学や仕事で求められる抽象的な話題や専門的な議論で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語B」を履修した者（単位未修得可）					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Exploring the world; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形の用法の違いを理解し、それを用いてくれた電子メールを書くことができるようになる。					
2	Unit 6; Lessons 2-3 直接・間接話法の疑問文を用いて見知らぬ土地について質問をしたり答えたりすることができるようになる。比較級を用いて土地や人々について比較し、表現できるようになる。					
3	Unit 6; Lesson 4 本課のまとめ。 Unit 7 Indulging yourself; Lesson 1 加算・不加算名詞を用いて、食事の料理や用意の仕方を描写することができるようになる。					
4	Unit 7; Lessons 2-3 受動態を用いて正式なクレーム書面を作成することができるようになる。使役動詞のhave/get something doneを用いて、サービスについて話すことができるようになる。					
5	Unit 7; Lesson 4 本課のまとめ。					
6	Units 6-7の理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Aiming for success; Lessons 1-2 It's time/I'd rather/I'd betterの表現を用いて様々なタイプの人間について描写することができるようになる。間接話法を用いて人が言ったことを伝えたり描写したりすることができるようになる。					
8	Unit 8; Lessons 3-4 hard/hardlyを用いて調査から分かったことについて報告書を書くことができるようになる。本課のまとめ。					
9	Unit 9 Crime solvers; Lessons 1-2 原因を表す従属節を用いて、面白い物語を作ることができるようになる。must/might/can't haveなどの助動詞を用いて過去の出来事について推測したことを表現できるようになる。					
10	Unit 9; Lessons 3-4 関係代名詞を用いて記事が書けるようになる。本課のまとめ。					
11	Unit 10 Mind matters; Lessons 1-2 再帰代名詞を用いて、自分の信条や意見について議論できるようになる。動名詞や不定詞を用いて、人の見解に対する賛成・反対意見を書くことができるようになる。					
12	Unit 10; Lesson 3 様々な条件節を用いて、後悔や決意を話すことができるようになる。					
13	Unit 10; Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の理解確認					
14	Units 8-10の単元テスト、外部テスト（特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>（小テスト・発表・タスク等）</small> 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	ホームワークが適切に行われているか。 リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[50分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明 & 資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある 外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の	

授業科目名	LE135C 英語C		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基いた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのB1+～B2（職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	学科指定の者					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。 Unit 1 Relationships; Lesson 1 助動詞を用い一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。					
2	Unit 1; Lessons 2-3 単純現在と現在進行形を用いて、くだけた電子メールを書くことができるようになる。 現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。（導入）					
3	Unit 1; Lessons 3-4 現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。（展開） 本課のまとめと理解確認。					
4	Unit 2 In the media; Lessons 1-2 受動態を用いて賛成・反対意見を述べるができるようになる。 関係代名詞節を用いて問題解決場面での質問や助言ができるようになる。（導入）					
5	Unit 2; Lessons 2-3 関係代名詞節を用いて問題解決場面での質問や助言ができるようになる。（展開） 単純過去と過去進行形を用いて、自分の人生で大切な出来事について描写することができるようになる。					
6	Unit 2; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 3 Home sweet home; Lesson 1 現在進行形、be going to、willを用いて、未来の事を話したり、Home Exchangeで借りた家について、クレームの手紙を書いたりすることができるようになる。					
7	Unit 3; Lessons 2-3 比較級や最上級を用いて、都市の比較をすることができるようになる。 未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。（導入）					
8	Unit 3; Lessons 3-4 未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。（展開） 本課のまとめと理解確認。 Units 1-3のまとめと理解確認。					
9	ロールプレイングテスト Units 1-3の単元テスト（中間テスト）					
10	Unit 4 Wealth; Lessons 1-2 付加疑問文を用いておしゃべりすることができるようになる。 義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。（導入）					
11	Unit 4; Lessons 2-3 義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。（展開） if/when/unless/as soon asから始まる節を含む文を用いて、広告を書くことができるようになる。					
12	Unit 4; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 5 Spare time; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形を用いて、自分の考えを提案したり他人の考えに返答したりすることができるようになる。					
13	Unit 5; Lessons 2-3 動名詞/不定詞を目的語にする動詞を用いて映画や本の描写をすることができるようになる。 加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。（導入）					
14	Unit 5; Lesson 3-4 加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。（展開） 本課のまとめと理解確認。					
15	Units 4-5のまとめと理解確認、外部テスト（特記事項参照）による到達度確認、リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>（小テスト・発表・タスク等）</small> 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		テスト（中間・期末）	40	学習した語彙や文法が定着しているか。 内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	ホームワークが適切に行われているか。 リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkBookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明&資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE140C 英語C		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のうち、短期大学の「言語教育科目」に位置付けられている。グローバル社会を迎えた今日、英語コミュニケーション能力が日常的にも求められるようになりつつある。本授業では、いかに英語でコミュニケーションを取るかという視点から、実際場面に基いた表現を学び、様々な活動を通じて5技能（聞く・読む・会話する・発表する・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、実践的運用力をつけることをねらいとする。具体的には、CEFRのB1+～B2（職場・学校・余暇に加え抽象的な話題で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアワーク、グループワーク、発表、プロジェクト）					
履修条件	「英語C」を履修した者（単位未修得でも可）					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Travel tales; Lesson 1 過去完了形を用いて思い出深い写真を描写できるようになる。					
2	Unit 6; Lessons 2-3 likeの様々な用法を用いて、行ったことのない場所に行くために、読んだり話したりすることができるようになる。冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。（導入）					
3	Unit 6; Lessons 3-4 冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。（展開）本課のまとめと理解確認。					
4	Unit 7 Lifelong learning; Lessons 1-2 疑問詞が主語/目的語の疑問文を用いて、学習経験について読んだり話したりできるようになる。used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。（導入）					
5	Unit 7; Lessons 2-3 used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。（展開）能力を表す助動詞を用いて過去から現在に至るまでの能力について読んだり話したりできるようになる。					
6	Unit 7; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 8 Making changes; Lesson 1 仮定法過去を用いて原因と結果を述べることができるようになる。					
7	Unit 8; Lessons 2-3 副詞を用いて世界的課題について話すことができるようになる。 仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。（導入）					
8	Unit 8; Lessons 3-5 仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。（展開）本課のまとめと理解確認。 Units 6-8のまとめと理解確認。					
9	グループプレゼン Units 6-8の単元テスト（中間テスト）					
10	Unit 9 On the job; Lessons 1-2 make/let/allowを用いて自分の意見をグループメンバーに伝えることができるようになる。間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。（導入）					
11	Unit 9; Lessons 2-3 間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。（展開）過去の義務/許可を表す表現を用いて、仕事に必要な日課をこなすために何を学ばねばならなかったのか表現することができるようになる。					
12	Unit 9; Lesson 4 本課のまとめと理解確認。 Unit 10 Memories of you; Lessons 1 I wish/if onlyの表現を用いて願いごとを言うことができるようになる。					
13	Unit 10; Lessons 2-3 過去時制を用いて過去の出来事や人物について討論することができるようになる。 句動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。（導入）					
14	Unit 10; Lessons 3-4 句動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。（展開）本課のまとめと理解確認。					
15	Units 9-10のまとめと理解確認、外部テスト（特記事項参照）による到達度確認、リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>（小テスト・発表・タスク等）</small> 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		テスト（中間・期末）	40	学習した語彙や文法が定着しているか。内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物（宿題、リフレクション等）	10	ホームワークが適切に行われているか。 リフレクション：毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業は予習型で進められる。単語（発音・強勢も含む）や文の意味、使用する場面。授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること[30分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 予習・復習等の課題がほぼ毎回出されるので、期日を守って提出すること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークでは積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回目のオリエンテーションで詳細なルールの説明&資料配布があるので必ず出席すること。配布資料記載のルールを守らない場合、単位認定に影響することがある。 外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE125C 英語D		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	細川 真衣					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2+・B1（身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級（証明書コピー）によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する					
2	Unit 2 (1) 古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
3	Unit 2 (2) 古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					
4	Unit 3 (1) 姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
5	Unit 3 (2) 姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する					
6	Unit 4 (1) グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
7	Unit 4 (2) グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、Unit 5 (1) 万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
9	Unit 5 (2) 万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する					
10	Unit 6 (1) マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
11	Unit 6 (2) マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
12	Unit 7 (1) カッパドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
13	Unit 7 (2) カッパドキアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>(小テスト・発表・タスク等)</small> 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか <small>学習内容確認の小テスト</small>		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN: 9784384334784	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE130C 英語D		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	細川 真衣					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際の場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2+-B1（身近な話題・外国の行事や習慣・新聞記事等で扱われる語彙や表現を理解し使用することができる）レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	「英語D」を履修した者（単位未修得可）。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の復習					
2	Unit 8 (1) 自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
3	Unit 8 (2) 自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する					
4	Unit 9 (1) 古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。					
5	Unit 9 (2) 古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					
6	Unit 10 (1) 知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
7	Unit 10 (2) 知床について前回学んだことを基にまとめ発表する					
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、Unit 11 (1) アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
9	Unit 11 (2) アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
10	Unit 12 (1) ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
11	Unit 12 (2) ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
12	Unit 13 (1) サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
13	Unit 13 (2) サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	<small>(小テスト・発表・タスク等)</small> 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか <small>学習内容確認の小テスト</small>		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN: 9784384334784	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE115C 英語E		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	白井 雅代・山下 のぞみ (代表教員 白井 雅代)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2(旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。単位修得に関わる重要な連絡があるので全員必ず出席すること。Unit 1 (1)異文化理解をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
2	Unit 1 (2) 異文化理解についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
3	Unit 2 (1) 和食をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
4	Unit 2 (2) 和食についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
5	Unit 3 (1) 外国語学習をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
6	Unit 3 (2) 外国語学習についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
7	Unit 4 (1) スポーツをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
8	Unit 4 (2) スポーツについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
9	これまで学んだテーマから1つを選びショートスピーチを行う、Unit 5 (1) ファッションをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
10	Unit 5 (2) ファッションについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
11	Unit 6 (1) 生き物をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
12	Unit 6 (2) 生き物についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
13	Unit 7 芸術について4技能統合型の活動を行い内容を理解し意見を発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り取り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE120C 英語E		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	白井 雅代・山下 のぞみ (代表教員 白井 雅代)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA2(旅行や公共の乗り物などで使用される表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語E」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、Unit 8 (1) 核廃棄物をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
2	Unit 8 (2)核廃棄物についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
3	Unit 9 (1) ニンジャをテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
4	Unit 9 (2) ニンジャについてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
5	Unit 10 (1) 児童就労をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
6	Unit 10 (2) 児童就労についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
7	Unit 11 (1) 長寿をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
8	Unit 11 (2) 長寿についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
9	これまで学んだテーマから1つを選びショートスピーチを行う、Unit 12 (1) 騒音公害をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
10	Unit 12 (2) 騒音公害についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
11	Unit 13 (1) 食物廃棄物をテーマにリスニング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
12	Unit 13 (2) 食物廃棄物についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認した後、意見を発表する					各担当教員
13	Unit 14 ダンス芸術について4技能統合型の活動を行い内容を理解し意見を発表する					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					各担当教員
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション提出。					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE105C 英語F		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島 彬・木村 ゆかり (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>入学以前に学んできた英語力を固め、さらに上を目指し実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1(日常生活で使用する身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・クラスルール・教員紹介・学生自己紹介等。授業のねらいや、遅刻や早退の扱い、テスト、学習の仕方等について説明を受ける。 Pre-Unitで英語の語順、基本文型を確認し作文をする					
2	Unit 1 (1) 動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する					
3	Unit 1 (2) 自己紹介文の構成を理解し、自分の自己紹介文を作り発表する					
4	Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の住む町について説明する 自分の住む町について説明する英文を理解する					
5	Unit 2 (2) 自分の住む町について説明する文を理解し、自分の住む町についてライティングと発表を行う					
6	Unit 3 (1) 時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて休日の過ごし方を述べる					
7	Unit 3 (2) 休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う					
8	Unit 4 (1) 英語の基本文型を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の持ち物について説明する					
9	Unit 4 (2) 自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う					
10	Unit 5 (1) 動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分が毎日行う習慣について述べる					
11	Unit 5 (2) 自分が毎日行う習慣について述べる英文を理解して、自分が毎日行う習慣についてライティングと発表を行う					
12	Unit 6 (1) 進行形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて過去と現在における自分の変化を述べる					
13	Unit 6 (2) 過去と現在における自分の変化を述べる英文を理解し、過去と現在における自分の変化についてのライティングと発表を行う					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びスピーチを行う、リフレクション提出、					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。 指示通りの形式になっているか。 リフレクションへの記入: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	

授業科目名	LE110C 英語F		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島 彬・木村 ゆかり (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実務場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>前期に引き続き、実践的運用力をつける事をねらいとする。具体的には、CEFRのA1(日常生活で使用する身近な表現や、簡単な語彙や基礎的な表現を理解し使用することができる)レベルの力をつけることを目指す。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等)。					
履修条件	「英語F」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、Unit 7 (1) 未来形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の未来の目標や夢について述べる					
2	Unit 7 (2) 自分の未来の目標や夢について述べる英文を理解し、自分の未来の目標や夢についてライティングと発表を行う					
3	Unit 8 (1) 助動詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて今後の予定を述べる					
4	Unit 8 (2) 今晚や5年後の予定を述べる英文を理解し、自分の今後の予定についてライティングと発表を行う					
5	Unit 9 (1) 不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる					
6	Unit 9 (2) 他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う					
7	Unit 10 (1) 現在完了形の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の経験について述べる)					
8	Unit 10 (2) 過去の経験について語る英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う					
9	Unit 11 (1) 接続詞の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じていろいろな場面での自分の感情について述べる					
10	Unit 11 (2) 様々な感情について説明する英文を理解し、自分がどのような時にどのような感情をもつかについてライティングと発表を行う					
11	Unit 12 (1) 比較表現の用法を確認しつつ、様々なタスクを通じて自分の身近な人との比較について述べる					
12	Unit 12 (2) 2人の友人の比較について述べる英文を理解し、それを元に自分との比較についてライティングと発表を行う					
13	Unit 13 受動態の用法を確認しつつ、4技能を統合したタスクを通じてお気に入りの映画や本について述べる					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)、振り返り					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション最終提出、					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっているか。指示通りの形式になっているか。リフレクション:毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されているか。		外部テスト	20	目標レベルに到達しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について調べ、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>				随時行う		
受講生に望むこと	<p>1時間目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	<p>当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。</p>	

授業科目名	LE165C アクティブ・イングリッシュA		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。この本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べるができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills (福島県)では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>自分の言いたいことを効果的に述べるができるようになる。英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。</p>			
教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。					
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修（福島県）に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) 参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	British Hills (以下BH)(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。					
5	BH(2)Interview & Orienteering: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。					
6	BH(3)Dance: 英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。(受講者が8名に満たない場合には別のテーマになる)					
7	BH(4)Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。					
8	BH(5) British Wedding: イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。					
9	BH(6) World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。					
10	BH(7) Travel in UK: 英国を中心にの主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。					
11	BH(8)Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。					
12	BH(9)Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化異文化についての知識を広げる。					
13	BH(10)Group presentation 3: 最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。					
14	BH(11)Group presentation 4: 最終プレゼンテーション 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	20	ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。必要な英語表現を身に付ける。		BH研修参加態度	50	British Hillsで規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。多くの人と積極的にコミュニケーションをとる。
英文日誌	10	授業(活動)の概要について具体的に記載できている。自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。英語運用力測定
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
与えられた課題に対し、単語や文型を調べ下調べして臨むこと。[40分] 授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はそのようなテーマで取り組むのか、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]				随時行う		
受講生に望むこと	英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合には未開講となる。団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。新白河駅集合・解散。団体生活であるため、学生生活上問題があると判断された学生については参加を許可しないことがある。事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。	

授業科目名	LE170C アクティブ・イングリッシュB		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択	
担当教員名	伊藤 雄二・韋名 理恵 (代表教員 伊藤 雄二)						
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>2017年8月下旬～9月上旬に14日間の予定でカナダ・オンタリオ州セントマリー市アルゴマ大学(Algoma University)での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、カナダの文化と社会について学ぶ。海外研修中は毎日、英文日誌をつける。</p> <p>事前学習で、海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学び準備を整える。帰国後に事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>海外語学研修の準備を通じ、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。</p> <p>英語で積極的にコミュニケーションがとれる。</p> <p>異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介する。</p> <p>ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。</p> <p>語学研修・ボランティア活動を通して、カナダの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。</p> <p>語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告する。</p>				
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動						
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する(している)ことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) 参加希望者は必ず出席すること。						
2	事前学習(2):英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。カナダでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。						
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。						
4	アルゴマ大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
5	アルゴマ大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
6	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
7	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
8	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
9	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
10	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
11	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
12	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
13	アルゴマ大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
14	アルゴマ大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動						
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
事前学習	20	ミニ・プレゼンテーション積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げる。 ミニ・プレゼンテーションで聞き手に分かりやすく発表する。 必要な英語表現を身につける。		カナダ研修参加態度	50	カナダ・アルゴマ大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。	
英文日誌	10	授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> ・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。 				随時行う			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 ・どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、積極的に取り組むこと。 ・集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。 			教科書・テキスト	『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2		
指定図書/参考書等	なし/ 『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、バーウィック妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 ・事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 ・事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。 ・事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。 		

授業科目名	LE175C アクティブ・イングリッシュC		開講学科	短期大学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階(事前学習)から実施(留学)及び終了段階(事後学習)まで見直しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修、寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。</p>			<p>留学計画立案・諸準備等の事前学習、留学先で計画に沿ったの学びや地域の人々との交流、報告書にまとめ発表する事後学習を通して、自律的な学習者となり、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うことを目標とする。段階別の到達目標として、事前学習では、授業の目標である「英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うこと」を理解するとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方について理解する。提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録したりポートフォリオファイル化したりするなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告会(英語によるプレゼンテーションとディスカッション)を学生主体で行うことができる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習 オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。					
2	事前学習 研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。					
3	事前学習 留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。					
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在					
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
14	事後学習 研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)					
15	事後学習 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
事前学習	10	留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する		留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する		事後学習	20	帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。[毎日40分]英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。[毎日30分]				適宜行う		
受講生に望むこと	現地では独力で問題解決する必要性に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である。会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/ 『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年(ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および学業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける 	

授業科目名	LC100C 中国語			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	渡邊 彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
グローバル社会といわれる現代、中国の経済発展に伴い中国との交流も重要視される中で、中国語を話すことのできる人材が求められている。そこで本授業では中国語の基礎をまず身につける。授業でははじめに中国語の発音を学び、その後平易な文章を読みながら、基本的な文法と語彙を学ぶ。同時に、授業で修得した簡単な中国語を用いて、学生同士で表現練習をおこない、中国語を用いたコミュニケーションの方法を習得する。				発音の基礎を修得し、中国語を正確に発音できるようになる。 中国語で挨拶をおこない、自分の名前を正確に発音し、簡単なコミュニケーションが取れるようになる。 中国語の基本的な文の構造を理解する。 中国語の構造に関する基本的な知識を身につけ、簡単な構造の文を作ることか、て、きるようになる。 中国語で簡単な自己紹介をできるようになる。			
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習を主におこなう。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法等について)後、単母音の発音と声調(音の高低)を習得する。						
2	子音の発音を練習し、単母音と組み合わせて発音練習をして、ピンインを読めるようになる。						
3	複母音、鼻母音を練習、声調符号の付け方を習得する。						
4	声調の変化と、日常会話で用いる挨拶やフレーズを言えるようになる。						
5	第1課「人称代名詞、動詞“是”、否定詞“不”、疑問“吗”、“的”」(肯定文・否定文・疑問文の文法ポイントを理解し、教科書の本文を日本語へ訳せるようになる。)						
6	第1課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習や、ロールプレイをおこない、簡単な自己紹介ができるようになる。						
7	第2課「指示代名詞、形容詞述語文、“的”後の名詞の省略、主述述語文」(形容詞を述語とする文章、主述フレーズを述語とする文章を理解し、教科書の本文を日本語へ訳せるようになる。)						
8	第2課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこなう。						
9	第3課「場所代名詞、動詞述語文、時を表す言葉の位置、副詞“都、也”、疑問詞疑問文」(動詞を述語とする文章、文中での時間詞や副詞の位置、疑問詞を用いた疑問文を理解し、本文を日本語へ訳せるようになる。)						
10	第3課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこない、未来の予定を言えるようになる。						
11	第4課「助動詞“想”、動詞“喜欢”、動詞の重ね型、選択疑問文」(~したい、~が好き、相手に選択肢を与える疑問文の構造を理解し、本文を日本語へ訳せるようになる。)						
12	第4課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこない、自分の希望や願望を言えるようになる。						
13	第5課「数詞、量詞の使い方、“是”の省略」(1万までの数字の読み方、数量を表す際に用いる量詞、中国でのお金の数え方を理解し、本文を日本語へ訳せるようになる。)						
14	第5課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習をして、買い物をする想定でロールプレイをおこなう。						
15	習得した文法を用いて自己紹介文を作成し、口頭発表の練習をする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	20	予習復習をおこない、積極的に授業へ取り組む姿勢を評価する。			小テスト	20	授業内容を理解できているか。(1つの課が終了することに、学習の到達度確認のため、小テストをおこなう。)
自己紹介文の作成	30	文法がどれだけ身につけているか、文章は正確か。			期末試験(口頭発表)	30	発音は正確か、相手へ伝えようとする意欲が見られるか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業前には授業範囲の教科書の内容に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それからCDで音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] 授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)を暗記し、新たに学習した文法項目を復習すること。[60分] 期末試験前は自己紹介文発表に備えて、原稿の発音練習をすること。[30分]				小テストは採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 自己紹介文は次学期はじめにコメントを付けて返却する。 採点や評価等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	語学は毎日の積み重ねが大事です。授業に出席し、多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。また、授業の復習をしっかりとこなし、語彙や文法の知識を積み上げていってください。単語を調べるときは辞書を用いてください。			教科書・テキスト	『1冊目の中国語《講読クラス》』第23版 劉穎・喜多山幸子・松田かの子著 白水社 2015年 (ISBN :9784560069196)		
指定図書/参考書等	なし/『日中辞典[第3版]』小学館 2015年 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LC110C 中国語			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	渡邊 彩奈						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本授業では中国語で書かれた文章を読みながら、文法と語彙を学ぶ。その上で、授業で習得した表現方法を用いて学生同士でロールプレイを取り入れた練習をし、中国語を用いたコミュニケーションの方法を習得する。前期で学習した文法や表現方法も復習しつつ、さらに中国語の構造に関する基本的な知識を身につけ、やや複雑な構造の文を作ることができるよう練習をおこなう。最終的には自分の考えを中国語で表現できるようにすることを目標とする。</p>				<p>中国語を正確に発音できるようになる。 中国語で挨拶や自己紹介ができ、コミュニケーションを取れるようになる。 中国語の基本的な文の構造を理解する。 中国語の構造に関する基本的な知識を身につけ、やや複雑な構造の文を作ることができるようになる。 習得した文法や語彙を用いて、相手に自分のことを伝えられるようになる。</p>			
教授方法	講義とペアワーク等による会話練習を主におこなう。						
履修条件	『中国語』の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	前期の復習と、自己紹介文の返却、それから第6課「動詞“有”(所有)、反復疑問文、動詞“在”(所有を表す文章、中国語特有の反復させる疑問文、存在を表す文章の構造を理解する。)						
2	第6課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこない、事物の所在や人物の存在を言えるようになる。						
3	第7課「完了の“了”、連動文、前置詞“离”(中国語の完了形、動作を続けておこなう場合の文構造、二点間の距離や隔たりを言うときの表現を習得する。)						
4	第7課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこない、中国語で現在形と完了形を書き分ける練習をおこなう。						
5	第8課「変化を表す“了”、動詞“有”(存在)、前置詞“在”(完了の“了”と変化の“了”の違い、存在を表す文章、場所を表す前置詞の使い方を習得する。)						
6	第8課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこない、二つの“了”の使い分けができるようになる。						
7	第9課「助動詞“可以”“会”“能”、直接話法と間接話法、前置詞“给”(許可や可能を表す助動詞、ある対象に向かっての動作を表すときに用いる前置詞を習得する。)						
8	第9課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこない、助動詞の使い分けができるようになる。						
9	第10課「時刻の言い方、経験を表す“过”、動作の回数を表す言い方、方向補語(中国語での時刻の言い方、経験相の表し方、動作量の表し方、動詞の後ろに付属して方向を表す補語を習得する。)						
10	第10課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこない、現在・完了・経験の表現を用いて簡単な文章を作成できるようになる。						
11	第11課「“有点儿”、“是…的”、比較の表現”(“少し”の言い方、過去の強調構文、中国語の比較文を習得する。)						
12	第11課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、本文を元に病院で診察を受ける想定でロールプレイをおこなう。期末の自由テーマ文を作成する。						
13	第12課「“把”構文、結果補語、“从…到…”、二つの目的語を持つ動詞(目的語を前置する処置文、動詞に付属して結果を表す補語、二重目的語を取る動詞の用法を習得する。)						
14	第12課の本文発音練習、作文練習、ペアで会話練習、ロールプレイをおこなう。期末の自由テーマ文を作成する。						
15	完成した自由テーマ文の発音を確認した後、模擬発表をおこなう。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	20	予習復習をおこない、積極的に授業へ取り組む姿勢を評価する。			小テスト	20	授業内容を理解できているか。(1つの課が終了することに、学習の到達度確認のため、小テストをおこなう。)
自由テーマ文の作成	30	文法がどれだけ身につけているか、文章は正確か。			期末試験(口頭発表)	30	発音は正確か、相手へ伝えようとする意欲が見られるか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業前には授業範囲の教科書の内容に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それからCDで音声を聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] 授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)を暗記し、新たに学習した文法項目を復習すること。[30分] 期末試験の自由テーマ文発表に備え、事前にテーマを決め、中国語で文章を作成した後、発表のために発音の練習をすること。[50分]</p>				<p>小テストは採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 自由テーマ文は提出後添削し、随時返却する。 採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。</p>			
受講生に望むこと	期末試験では自由なテーマで文章を発表してもらいます。そのために事前にテーマを決めて文章を作成し、第14回の授業終了時までに提出してください。発表する原稿は必ず添削されたものを用いてください。			教科書・テキスト	『1冊目の中国語《講読クラス》』第23版 劉穎・喜多山幸子・松田かの子著 白水社 2015年 (ISBN :9784560069196)		
指定図書/参考書等	なし / 『日中辞典[第3版]』小学館 2015年 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LF100C フランス語			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
フランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説します。口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していきたいと思っています。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。				フランス語の基礎を固めると同時に、日常会話に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。フランス語という言語を通してその実感を体験しましょう。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	フランス語の基礎・発音・挨拶 Eléments de base, prononciation, salutations, tu/vous						
2	自己紹介・国籍・名前 Est-ce que tu es japonais? Moi aussi. Moi non plus.						
3	国籍・職業・形容詞の女性形・男性形 masculin / féminin						
4	規則動詞 -er の活用 verbes réguliers, habiter, travailler						
5	住んでいるところや出身地について話す。疑問文や否定文の作り方。 Tu es de Tokyo?						
6	交通手段について話す。動詞venir, 疑問詞を使った疑問文 Questions ouvertes. Tu viens ici comment?						
7	定冠詞と不定冠詞 article, verbe parler						
8	アルバイトについて話す。 Parler des petits boulots.						
9	願望の表現 C'est +adjectif, expression de la volonté						
10	ペットなどについて話す。 Est-ce que tu as un chien?						
11	動詞avoir . 不定冠詞 article indéfini. Parler de ses animaux domestiques.						
12	科目・先生について話す。数学の先生は好きですか? Est-ce que tu aimes bien le prof de maths?						
13	科目の名称・定冠詞・形容詞の性数の一致 Parler des matières et des profs.						
14	食べ物について話す・部分冠詞 Parler de ce qu'on mange. article partitif						
15	家事について話す。 Qui fait la cuisine chez toi? C'est moi qui fait la cuisine.						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。			受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）							
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]				付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。			教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書/参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	LF110C フランス語			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明します。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していきたいと思ひます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。				フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることです。言語を通してその実感を体験しましょう。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。						
履修条件	『フランス語』の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	家族について話す・所有形容詞 mon / ton について Parler de sa famille.						
2	数字 1-6 9・3人称単数形、複数形 Ton frère a quel âge?						
3	クラブ活動について話す・課外活動はしていますか? 動詞faire Parler des loisirs.						
4	習慣について話す・よく肉を食べますか? 頻度を表す語彙・否定疑問文 Parler de ses habitudes.						
5	週末の過ごし方について話す・近接未来形・動詞aller Parler du week-end.						
6	時間について話す・何時ですか? 曜日・代名動詞 Parler de l'heure. Il est quelle heure?						
7	休暇中の活動について話す・複合過去形について Parler des vacances. Passé composé.						
8	経験について話す・外国へ行ったことがありますか? Il y a~の使い方、Tu es déjà allé à l'étranger?						
9	地理について話す・場所を表わす前置詞・地方について話す Tu connais Lille? Localisation						
10	天気について話す・天気を表す語彙 Parler du temps. Il fait quel temps à Paris?						
11	過去について話す・半過去形 Est-ce que tu faisais du sport au lycée? Imparfait						
12	道を尋ねる・パリの観光名所 Demander son chemin. Découvrir Paris.						
13	レストランで注文する・メニューの見方 Commander au restaurant. Une carte.						
14	カフェで飲み物を注文する Un café, s'il vous plaît.						
15	買い物をする・数量と値段・店員との会話 Faire les courses. Acheter dans un magasin.						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得しているか。			受講態度	30	講義に積極的に参加しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習・復習をして下さい。[120分]				付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。			教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書/参考書等	授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(ゴルフ)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>ゴルフの競技特性を理解する。 ゴルフの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ~ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ~ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					
3	ショットの基礎：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ボスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					
4	ショットの基礎：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					
5	ショットの基本：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					
6	ショットの基本：ボール弾道の法則とフェースコントロール…スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					
7	ショットの基本：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					
8	ショットの基本：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					
9	ショットの基本：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。					
10	ショットの基本：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。					
11	ショットの基本：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスイング技術を習得する。					
12	ターゲットパードゴルフ ターゲットパードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					
13	ターゲットパードゴルフ ターゲットパードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドする。					
14	ターゲットパードゴルフ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。					
15	ショートゲームテストとまとめ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ~ 7 MICO ケンメディア/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(テニス)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>テニスの競技特性を理解する。 テニスの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ～ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ～ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明					田邊
2	グリップング、ラケットワーク					田邊
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。					田邊
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。					田邊
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし/なし	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(バドミントン)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子・宮本 勝裕 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「バドミントン」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「バドミントン」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>バドミントンの競技特性を理解する。 バドミントンの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ～を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ～を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス、種目選択、グルーピング、用具の説明					宮本
2	バドミントンの楽しみ方1：ラケット競技の特性を理解し、楽しむための基本的な知識を得る。 ラケットワーク(グリップ、操作方法など)を習得する。					宮本
3	バドミントンの楽しみ方2：バックハンド、フォアハンドなどの技術を理解し、基本ストローク(サーブ)が打てるようになる。					宮本
4	バドミントンの基礎(基本ストローク)1：下から上への基本ストローク(ロブ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
5	バドミントンの基礎(基本ストローク)2：下から上への基本ストローク(ヘアピン)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
6	バドミントンの基礎(基本ストローク)3：上からの基本ストローク(ハイクリアー)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
7	バドミントンの基礎(基本ストローク)4：上から下への基本ストローク(スマッシュ、カット、ドロップ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
8	バドミントンの基礎(基本ストローク)5：横からの基本ストローク(ドライブ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
9	バドミントンの基礎(基本ストローク)6：その他の基本ストローク(プッシュ)の技術を理解し、打てるようになる。					宮本
10	中間レベル確認 1：これまでに学習した基本ストローク技術(1~3)の習得度合いを確認する。					宮本
11	中間レベル確認 2：これまでに学習した基本ストローク技術(4~6)の習得度合いを確認する。					宮本
12	ゲーム 1：ダブルス・シングルのルール及び審判方法を学習し、ゲームができるようになる。					宮本
13	ゲーム 2：学習したルールに則り、ダブルスゲームを楽しめるようになる。					宮本
14	ゲーム 3：ダブルスゲームのリーグ戦を行う。					宮本
15	ゲーム 4：ダブルスゲームのリーグ戦の続きを行う。まとめ					宮本
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト ・詳細は各種目毎に説明する。
課題レポート	20	生涯スポーツとしてのバドミントン競技の意義をどの程度理解しているか				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め 60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(ゴルフ)		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実技
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>ゴルフの競技特性を理解する。 ゴルフの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ~ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ~ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>				
教授方法	スポーツ実技						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。						
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。						
3	ショットの基礎：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ボスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。						
4	ショットの基礎：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。						
5	ショットの基本：グリップ、ボスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。						
6	ショットの基本：ボール弾道の法則とフェースコントロール…スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。						
7	ショットの基本：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ることで、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。						
8	ショットの基本：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。						
9	ショットの基本：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。						
10	ショットの基本：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。						
11	ショットの基本：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスイング技術を習得する。						
12	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。						
13	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドする。						
14	ターゲットバードゴルフ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。						
15	ショートゲームテストとまとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。				
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ~ 7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）		

授業科目名	PE100C 生涯スポーツA(テニス)		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>テニスの競技特性を理解する。 テニスの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ～ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ～ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明					田邊
2	グリップング、ラケットワーク					田邊
3	基本ストローク（フォア）1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
4	基本ストローク（フォア）2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊
5	基本ストローク（バック）：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊
6	簡易ゲーム（フォア・バック）：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊
7	基本ストローク（ボレー）：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊
8	基本ストローク（サーブ）：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊
9	簡易ゲーム（フォア・バック・ボレー・サーブ）：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う					田邊
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う					田邊
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）	

授業科目名	PE110C 生涯スポーツB		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を必修科目として採用する。</p> <p>ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいと考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業（本頁）」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。（詳細はシラバス別頁を参照）</p>			<p>各種ニュースポーツの競技特性を理解する。</p> <p>各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。</p> <p>習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>～ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>～ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。					
2	フライングディスク：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。					
3	フライングディスク：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。					
4	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。					
5	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
6	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
7	インディアカ：インディアカという競技を理解し、実践する。 インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。					
8	インディアカ：インディアカという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
9	フレッシュテニス：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。（ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク）					
10	フレッシュテニス：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
11	ユニホック：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。（スティックワーク、パス、ショット）					
12	ユニホック：ユニホックという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
13	タグラグビー：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 タグラグビーの基礎的技術を習得する。					
14	タグラグビー：タグラグビーという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
15	まとめ：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか		授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。（事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。）		

授業科目名	PE110C 生涯スポーツB (集中講義: ゴルフセミナー)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは4日間わたる集中講義にて行う。ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰にでも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーヤーの格変化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことも関連していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートなプレーも出来ることながら、職場や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いためではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることでゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものと期待する。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー(本頁)」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。グリップ、ボスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。</p> <p>距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。</p> <p>ゴルフを通じた人間関係能力を養う。</p>			
教授方法	ゴルフ実技 (大学グランド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習)。					
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション: ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握/用具の準備。					永山、田邊
2	【実習 1日目 午前】 開講式/レッスン : スタンスの確認(グリップ、ボスチャー、エイミング) ショートスイング ~ スリークォーターズスイング(9I)					永山、田邊
3	【実習 1日目 午前】 レッスン : スリークォーターズスイング ~ ハーフスイング(9I)					永山、田邊
4	【実習 1日目 午後】 レッスン : ハーフスイング ~ フルスイング(9I)					永山、田邊
5	【実習 1日目 午後】 レッスン : ハーフスイング ~ フルスイング(9I、7I、5I)					永山、田邊
6	【実習 2日目 午前】 レッスン : 9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。/VTR 撮影					永山、田邊
7	【実習 2日目 午前】 レッスン : 「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。/ VTR撮影					永山、田邊
8	【実習 2日目 午後】 レッスン : ウッドクラブによるスイング(ゴルフ練習場)。					永山、田邊
9	【実習 2日目 午後】 レッスン : パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。					永山、田邊
10	【実習 3日目 午前】 レッスン : VTR によるフィードバック/クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。					永山、田邊
11	【実習 3日目 午前】 レッスン : ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習/グルーピング/打ち込み。					永山、田邊
12	【実習 3日目 午後】 レッスン : グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。					永山、田邊
13	【実習 3日目 午後】 レッスン : グランド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネジメントの考え方を学習する。					永山、田邊
14	【実習 4日目 午前】 レッスン : 民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。					永山、田邊
15	【実習 4日目 午後】 ラウンド実習 : 本コース 9ホールの中ホール体験を行う。/開講式					各担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔1回60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。4日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		

授業科目名	PE110C 生涯ｽｷｰB (集中講義:ｽｷｰセミナー)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県栂池高原ｽｷｰ場にて3泊4日の合宿形式にて行う。ｽｷｰはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、ｽｷｰ技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをめざすが、単にｽｷｰの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会ｽｷｰルの醸成なども合宿を通して学習し、「ｽｷｰヤー」としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた班別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。</p> <p>なお、「生涯ｽｷｰB」の単位は、「ｽｷｰセミナー(本質)」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>ｽｷｰの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。</p> <p>ｽｷｰに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。</p> <p>ｽｷｰの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。</p> <p>ウィンタースポーツを通じた人間関係能力を養う。</p> <p>ウィンタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。</p> <p>合宿を通じて、生涯にわたりｽｷｰを実践することの意義を理解する。</p> <p>合宿を通じて、生涯にわたりｽｷｰを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	ｽｷｰ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備(用具とその使用法の説明、パッキング)					永山、田邊
2	【実習 1 日目 午後】 開講式/クラス編成確認(技術レベル別に編成)					各班担当者
3	【実習 1 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
4	【実習 1 日目 夜】 講義：ｽｷｰ技術の変遷/ｽｷｰ用具のメンテナンス					永山、田邊
5	【実習 2 日目 午前】 VTR 撮影/クラス別レッスン					各班担当者
6	【実習 2 日目 午前】 クラス別レッスン					各班担当者
7	【実習 2 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
8	【実習 2 日目 午後】 クラス別レッスン / VTR 撮影					各班担当者
9	【実習 2 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/ｽｷｰのメンテナンス					永山、田邊
10	【実習 3 日目 午前】 VTR 撮影/クラス再編成/クラス別レッスン					各班担当者
11	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン					各班担当者
12	【実習 3 日目 午後】 クラス別レッスン					各班担当者
13	【実習 3 日目 午後】 クラス別レッスン / VTR 撮影					各班担当者
14	【実習 3 日目 夜】 VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/ｽｷｰ用具のメンテナンス					永山、田邊
15	【実習 3 日目 午前】 クラス別レッスン / 閉講式					各班担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。〔最低1日〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。						
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。3泊4日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	

授業科目名	HC100C キャリアデザイン		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	田中 康司						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業の目指すところは、自分自身を振り返り、働くことの意義や職業世界の仕組みについて学ぶことを通して、自己理解を深め、職業世界や産業への関心を高め、理解を深めることである。それにより、自らの人生をどのように構築していったらよいのかについて学ぶこととなる。</p>			<p>人の一生と働くことの間わり、そして働くことの多面的な意味について理解する。自己分析を通して、自分の長所・短所・強み・弱み等を認識し「自分が何をしたいのか」「自分がどのような仕事に向いているのか」等について理解する。働き方として、企業、NPOそして公務員の特徴と役割について理解する。多面的な業界研究を通して業界・企業理解を深める。雇用の実態を学ぶことを通して、多様な働き方について、特に「非正規労働」について理解する。日本国憲法上の規定や労働基準法等労働関係法規が働く人の権利を守っていることを理解する。</p>				
教授方法	基本的には講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション；授業の進め方や成績評価方法等について説明する。ライフ・キャリア(人の一生)とライフ・ロール(人生の役割)について考える：『ライフ・キャリアの虹』を手掛かりに、ライフ・キャリアと人生の8つの役割について理解する。「どのような人生を送りたいのか」について考える。						
2	ライフ・ロール(人生の役割)について考える：ライフ・ロールを時間軸と他者との関わり等の視点から、ワーキングを通して、理解する。						
3	働くことの意味について考える：職業の持つ多面的な意味について、『マズローの欲求の5段階説』等を通して理解する。						
4	自分を知る：『キャリア・アンカ-』(ワーキング)を通して、「あなたが価値をおいていること」等を見つける。						
5	自分を知る：仕事に必要な対人能力、対自己能力、対課題能力等について理解する。						
6	自分を知る：自らの仕事に必要な諸能力について、ワーキングを通して、確認する。						
7	社会人基礎力を育成するための学生生活の進め方について学ぶ。インターンシップの活用についても学ぶ。						
8	『職種』の視点から仕事を考える：企業・NPO・公務員の特徴と役割について理解する。栄養士の仕事について理解する。						
9	『職種』の視点から仕事を考える：「総務部」「広報部」「営業部」等の部門に焦点を当て、それらの機能と課題について理解する。						
10	『業種』の視点から仕事を考える：「製造業」「流通業」「金融業」等それぞれの業種の特徴と課題について理解する。						
11	『業種』の視点から仕事を考える：特に北陸三県の産業に焦点を当て、それらの特徴と課題について理解する。						
12	働くことについて学ぶ：「働き方の多様化」の現状と課題について理解する。						
13	働くことについて学ぶ：「非正規雇用」の現状と課題について理解する。						
14	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ：日本国憲法第27・28条を中心に、憲法上の労働権と労働基本権等について理解する。						
15	働く上で必要な法律の基礎知識を学ぶ：労働基準法等労働関係法を通して、働く人がどのように守られているのかについて理解する。講義全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加態度	30	授業への参加態度及びディスカッションについては、テーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価する。		事後の課題・レポート	70	レポートについては、課題の意図を的確に理解し、授業内容を十分に理解した上で、論理的に表現しているかという観点から評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
事前に提示したレジュメについて、目を通しておくこと。[30分] 授業終了後、テキストをもとに、新聞・インターネット等からの最新のデータ資料を参考にしながら、授業内容を復習しておくこと。[60分]			授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。				
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。 			教科書・テキスト	授業毎にレジュメを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『働くひとのためのキャリア・デザイン』 金井壽宏著 PHP新書187 (PHP研究所) 2002年10月 『キャリアデザイン入門』 大久保幸夫著 日本経済新聞出版社 ISBN 978-4-532-11096-3 『学生のためのキャリアデザイン入門<第2版>』 渡辺峻・伊藤健市編著 中央経済社 ISBN 978-4-502-08020-3 他に、講義時に紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC100C キャリアデザイン		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	野林 晴彦					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業のねらいは、本学において、学生生活の目的や目標を明確にし、計画的な日々を送ることができるようにすることにある。同時に、将来の職業世界への関心を深め、働くことの意義や職業世界の構造について知ることを通して、意欲的な人生設計への実現に向けた実践的な選択行動がとれるようにする。</p>			<p>自分自身を知り、社会を知って、自らの夢や目標を明確化する。その夢や目標の実現に向け、大学生活をどう過ごすかを考え、実践に繋げていく。卒業後どのような生き方、働き方をしたいかを自ら主体的に考える姿勢を持つ。</p>			
教授方法	講義と個人ワーク、ペアワーク、グループワーク					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション -キャリアとは何か、キャリアデザインとは何か、および授業の進め方について理解する-					野林
2	学生生活とキャリア - 社会で働くために必要な力と 態度について考え、現在の自分の基礎力測定とその向上プランを作成する -					野林
3	インターンシップのすすめ - 夏季インターンシップ参加の意義とその方法について理解する -					野林・外部講師
4	自分を知る(1)(キャリアアンカー) - 自分のこだわりを知り、そのこだわりを育てる方法を理解する -					野林
5	自分を知る(2)(自分史) - これまでの自分の人生を知り、自分史を作成する -					野林
6	自分を知る(2)(一皮むけた経験) - 自分が成長した経験を振り返り、どんな経験が自分を成長させるのかを知る。今後の学生生活へのヒントを学ぶ -					野林
7	就職活動を知る - 今後の就職活動の流れと、その準備について理解する -					野林・外部講師
8	働くということ - 働くこととは何かを学び、将来のために、今、何をすべきかの ヒントを手に入れる -					野林
9	業界・企業研究 - 業界研究・企業研究の方法を学び、今から準備すべきことを考える -					野林
10	会社と仕事(1) - 会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ -					野林
11	会社と仕事(2) - 会社の中にはどのような部門がありどのような仕事を行っているか、その仕事のためにはどのような能力が必要かを学ぶ -					野林
12	キャリアと雇用形態 - 雇用形態と諸問題を理解した上で将来をプランし、学生生活ですべきことを学ぶ -					野林
13	学生生活を面白くする(セレンディピティ：計画された偶発性) - どのような行動が幸運につながるのかを知り、日常生活でその行動を心掛ける -					野林
14	学生生活のデザイン - これまでの授業を振り返り、学生生活をどのように過ごすかのプランを作成する -					野林
15	まとめ - 全体の振り返り -					野林
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業課題	40	毎回の振り返りシート、キャリアインタビューなどの提出課題を評価する。		最終課題	50	授業の到達目標への達成度を評価する。
授業への参加態度	10	授業への取り組み状況を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること。[30分] 授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。[30分]				振り返りシートから理解度や要望を把握し次回以降の授業内容に反映する。 提出課題にはコメントをつけ返却する。		
受講生に望むこと	Reaize Your Mission - 自分のミッションを見つけ出し、またその準備のための充実した学生生活を送るために、真剣に授業に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布します)	
指定図書/参考書等	なし/「キャリアデザイン入門(基礎力編)」第2版 大久保幸夫 日経文庫 2016年 ISBN978-4-532-11352-0 「学生のためのキャリアデザイン入門<第3版>」渡辺峻他編著 中央経済社 2015年11月 ISBN978-4-502-17061-4			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC110C キャリアデザイン		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・田中 弘美・依 万里子・瀬戸 裕子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>キャリアデザインでは、自己と社会を知り、今後の意思決定に役立つ理論や考え方を学ぶ。本授業では、前期のキャリアデザインを踏まえて、就職活動に備えた実践的な学びに重点を置き、就職活動に必要な知識や能力を習得する。</p>			<p>志望する職種、業界、具体的な企業などについて知識を得る (特に、栄養士・管理栄養士の職務内容について) 会社と仕事の種類や、求める人材について理解する 就職活動のテクニカルな能力を習得する ・会社説明会参加の留意点 ・情報の収集方法 ・履歴書・エントリーシートの書き方 ・面接・グループディスカッション対策 ワーク・ライフ・バランスや労働関係の法律の概略を理解する 社会人としてもとめられるマナーについて理解する。</p>			
教授方法	講義とグループワーク					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の全体像について理解する 現代の労働環境：大きく変化している労働環境を傍観する					外部講師 新澤
2	現代の労働環境：「働き方改革」等新しい働き方について学ぶ					外部講師
3	現代の労働問題：若者に関わる様々な労働問題のうち、特に早期離職について考える					外部講師
4	働くことの基礎知識：社会保険について考える					外部講師
5	就職活動 履歴書・エントリーシートの意味と内容について学ぶ					学生支援課
6	就職活動 履歴書・「自己PR」「志望動機」を中心に、履歴書、エントリーシートを作成する					学生支援課
7	業界・企業研究：業種毎に県内企業人事担当者の業界・企業説明を通して、具体的な業界・企業研究を行う					学生支援課
8	業界・企業研究：業種毎に県内企業人事担当者の業界・企業説明を通して、具体的な業界・企業研究を行う					学生支援課
9	SPI総合検査：就職に向けた職務適性と働く上で必要となる基礎的な能力を測る					依
10	教養試験：働く上で必要となる基礎的な能力を測る					依
11	マナー講座					瀬戸裕子
12	マナー講座					瀬戸裕子
13	マナー講座					瀬戸裕子
14	マナー講座					瀬戸裕子
15	就職活動の進め方について学ぶ まとめ					外部講師 田中
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度	50	グループワークでの参加態度・貢献度を評価する		課題レポート	50	毎回授業後に課されるミニレポート、最終レポートを評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）						
事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加する。[30分] 授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。[30分]				随時行う		
受講生に望むこと	本授業は、一方的な講義方式の授業ではありません。 演習やグループワークなどにより卒業後の生き方をデザインします。 毎回の課題にしっかり取り組んで下さい。			教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布します）	
指定図書/参考書等	なし/「キャリアデザイン入門（基礎力編）」大久保幸夫 日経文庫 2006年3月 ISBN978-4-532-11096-3 「学生のためのキャリアデザイン入門<第3版>」渡辺峻他編著 中央 経済社 2015年11月 ISBN978-4-502-17061-4			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC110C キャリアデザイン		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	野林 晴彦					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
卒業後の新たなスタートの準備のために、社会人生活に必要な基礎知識を修得するとともに、今後の人生についてあらためて考える。 1) 労働と法律、税金や保険などに社会人として必要な基礎知識を修得する。 2) 実際のキャリアについての事例を知ることにより、今後の生き方について考える(動画、記事など)。			社会人生活に必要な基礎知識を修得する。 多くの人生を知り、自分の今後の生き方について深く考え、あらためてキャリアデザインを行う。			
教授方法	講義と個人ワーク、グループディスカッション。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業の目的と全体像を理解する)					
2	社会人生活に必要な知識 労働と法律について理解する。					
3	社会人生活に必要な知識 税金・保険・年金について学ぶ。					
4	社会人生活に必要な知識 消費者問題を知り、理解する。					
5	社会人生活に必要な知識 出産育児や介護について学ぶ。					
6	社会人生活に必要な知識 社会人の先輩から、社会人として必要な知識について学ぶ。					
7	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
8	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
9	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
10	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
11	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について 改めて考える -					
12	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
13	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
14	今後の人生について考える - さまざまな人の人生から、自分の今後の生き方について改めて考える -					
15	まとめとふりかえり					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
最終レポート	80	授業を参考に、今後の生き方についての考えをまとめる。		授業の参加態度	20	授業への取り組み状況。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
事前に指示した課題について、必ず準備をして授業に参加すること。[30分] 授業後、毎回必ず振り返りを行い、復習を行うこと。[30分]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
				振り返りシートから理解度や要望を把握し次回以降の授業内容に反映する。		
受講生に望むこと	卒業までの大切な時期に、自分のミッションについてあらためて考え、有意義な人生を送る準備をしてほしい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/「キャリアデザイン入門(基礎力編)」大久保幸夫 日経文庫 2006年3月 ISBN978-4-532-11096-3			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC160C 情報機器演習A		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	南 雅則					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。電子メールの送受信ができるようになる。情報倫理に関する基本的な知識を身につける。Word、Excel、PowerPointの基本操作を習得し、必要に応じたレポートやプレゼンテーションの作成ができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信および情報倫理に関する正しい知識を身につける。					
2	Word文書作成：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
3	Word文書作成：レポートの構成・形式を理解し、表の挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
4	Word文書作成：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしを作成し、提出する。課題提出					
5	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
7	Excel関数：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
8	Excel関数：表引き関数の操作方法を習得する。（基本操作、関数について的小テストを実施する）					
9	Excelデータ加工：データの加工・並べ替え方法を習得する。					
10	Excelデータ加工：基本的なグラフの作成方法を習得する。					
11	Excel課題練習：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
12	Word・Excel総合課題：レポートを完成させ、提出する。課題提出					
13	PowerPoint基本操作：スライドデザインの設定、オブジェクトの追加と操作等の基本操作を習得する。					
14	PowerPoint基本操作：ストーリーシートをもとに配布用資料を作成する。					
15	PowerPoint総合課題：配布用資料を完成させ、提出する。課題提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
総合課題	50	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		Excel小テスト	20	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(15%) / 適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
授業参加態度	20	提出物などにより授業への取り組み姿勢を評価する。		電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。（30分） Word、Excel、PowerPointのそれぞれについて課題の提出を求める。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用して課題作成にあたること。（60分）</p>				<p>各回の終了時に内容の確認と振り返りを行なう。次回の授業時にフィードバックを行なう。 8回目に小テスト（EXCEL）を行なう。理解の程度によっては学習内容定着のため補講への出席を指示することがある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第2版 noa出版 2017年出版 『2019年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2019年出版	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC160C 情報機器演習A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	医療管理秘書士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。電子メールの送受信ができるようになる。情報倫理に関する基本的な知識を身につける。Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。					
2	Windowsの基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。					
3	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。					
4	Excel関数：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
5	Excel関数：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数：表引き関数の操作方法を習得する。					
7	Excel小テスト：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。					
8	Excelデータ加工：データの加工・並べ替え方法を習得する。					
9	Excelデータ加工：基本的なグラフの作成方法を習得する。					
10	Excel課題：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
11	Word文書作成：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
12	Word文書作成：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
13	Word文書作成：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。					
14	総合課題：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。					
15	総合課題：レポートを完成させ、提出する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得しているか。		Excel関数小テスト / 課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるか。(30%) / 適切なデータの加工・グラフ作成ができるか。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分] 14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。[60分以上]</p>				<p>小テスト（電子メール・情報倫理）は、採点し次回の授業の冒頭で返却する。 小テスト（EXCEL）は、点数を次回の授業の冒頭で連絡する。 EXCEL課題は、コメントを付けて次回の授業の冒頭で返却する。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第2版 noa出版 2017年出版 『2019年度版 情報倫理ハンドブック』 noa出版 2019年出版	
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	HC170C 情報機器演習B			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	南 雅則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるプレゼンテーションソフトの基本的操作を習得する。さらに、栄養士に必要な統計処理ソフトの基本的操作を習得し、データの分析・結果の解釈ができるようになることを目的とする。				PowerPointの基本操作を習得する。 プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そうした資料を作成して発表することができる。 統計処理ソフトSPSSの基本操作を習得する。 SPSSを使ってデータの分析・結果の解釈ができる。			
教授方法	演習						
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	PowerPoint基本操作 : 情報機器演習Aでの基本操作の確認、ブラッシュアップのためのテクニックを習得する。						
2	PowerPoint基本操作 : グラフや図形の挿入、アニメーションの使用方法を習得する。						
3	PowerPointプレゼンテーションの内容と流れ: 目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。						
4	PowerPointプレゼンテーション資料作成 : 食品・食育をテーマにしたスライドを作成する。						
5	PowerPointプレゼンテーション資料作成 : 食品・食育をテーマにしたスライドを作成する。						
6	PowerPointプレゼンテーション資料作成 : 食品・食育をテーマにしたスライドを作成する。						
7	PowerPointリハーサル: グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認するとともに、わかりやすい発表のための工夫を考える。						
8	PowerPointプレゼンの実施と相互評価: 他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者の作品を評価するとともに自分作品の改善点を整理してレポートにまとめ提出する。						
9	統計処理 : 統計処理ソフトSPSSの基本操作を習得し、代表値の計算・結果の解釈について理解し、習得する。						
10	統計処理 : t検定(繰り返しあり・なし)による分析と結果の解釈について理解し、習得する。						
11	統計処理 : 2要因の分散分析(繰り返しあり)と単純主効果の検定と多重比較について理解し、習得する。						
12	統計処理 : 2要因の分散分析(繰り返しなし)と単純主効果の検定と多重比較について理解し、習得する。						
13	統計処理 : 名義尺度データの分析と結果の解釈について理解し、習得する。						
14	統計処理 : 順序尺度データの分析と結果の解釈について理解し、習得する。						
15	課題演習: 課題データの分析を行い、結果の解釈、考察をレポートにまとめ提出する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション	40	伝えたい内容が明確で分かりやすいこと。スライドが分かりやすい表現で効果的であること。発表態度(はっきりと大きな声、聴き手を見る)がよいこと。			統計処理	40	目的に沿った分析方法を用いて、適切にデータの分析ができていること。また、結果の解釈が正しく行えていること。
授業参加態度	20	提出物・発表の態度(聞く態度も含む)などにより授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。(30分)				課題を提出した次の週にコメントをつけて返却する。また、課題提出時の授業の中で行うこともある。			
受講生に望むこと	この授業での内容はプレゼンテーションと統計処理という栄養士、栄養教諭にとって基本的かつ大切なスキルである。授業時間外での復習をしっかり行ない、情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第1版 noa出版 2017年出版		
指定図書/参考書等	参考図書: 30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2013 実教出版 2014年出版 SPSSのススメ 北大路書房 2007年出版			その他・特記事項	なし		

授業科目名	HC170C 情報機器演習B		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるPowerPointの基本的操作を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。</p>			<p>Excelで複合グラフが作成できる。 PowerPointの基本操作を習得する。 プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、PowerPointで資料を作成して発表できるようになる。 どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 プレゼンターがいる場合と無人の自動スライドショーの違いを理解し、展示場所に相応しい自動スライドの作成ができるようになる。</p>				
教授方法	演習						
履修条件	「情報機器演A」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Excel関数の応用：実用的な表を作成し、情報機器演習Aで学んだ関数の振り返しを行う。						
2	Excelグラフ：グラフの編集と複合グラフの作成方法を習得する。						
3	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。						
4	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。						
5	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。						
6	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。						
7	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。						
8	PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。						
9	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
10	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。						
12	PowerPoint動画ファイル：動画ファイルの埋め込みとリンク方法を習得する。						
13	PowerPoint自動スライド：プレゼンターがいる場合と無人の自動スライドショーの違いを理解し、自動スライドを作成する。						
14	PowerPoint自動スライド：展示場所を設定し、オリジナルの自動スライドを作成する。						
15	自動スライドの相互評価：他の受講者の作品から、多様な工夫の仕方を知る。相互評価によって、自分の作品の改善点を発見する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
Excel関数の応用とグラフ作成	10	関数を利用した実用的な表が作成できるか。複合グラフが作成できるか。		プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか。スライドが分かりやすい表現で、効果的な使用か。はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか。	
自動スライド	25	展示場所に相応しい内容であるか。無人で放映して相手に伝わるか。自分の改善点を発見できたか。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>6回目に発表用のスライドを作成する。7回目の授業までに完成させること。[45分] 7回目に発表用の原稿を作成する。8回目の授業までに、作成した発表用原稿で練習を行うこと。[45分] 8回目のリハーサルで指摘されたこと、気づいたことに対して、発表用スライドの修正を行い、9回目の授業の前までに提出する。[30分] 9-11回目のプレゼンでは、発表用原稿を読み上げるのではなく、聴き手を見て発表できるように、十分な練習をする。[60分以上] パソコンの操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[30分]</p>			<p>プレゼンテーションについて、改善点を中心としたコメントを次回の冒頭で配布する。</p>				
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。		教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』 第2版 noa出版 2017年出版			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

**食物栄養学科
(1年次)**

授業科目名	FB110C 学びの基礎			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔・茶谷 信一・南 雅則・西 正人 (代表教員 坂井 良輔)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
短期大学部食物栄養学科へ入学した学生の、初年次教育に位置づく科目である。学科の授業内容を学ぶための基礎知識を習得するとともに、専門科目との関連について理解する。				大学での授業に臨む準備やノートテイクの要領などを理解し、円滑な学生生活に移行できる。 レポート作成の基本的な手法を理解するとともに、学んだことを生かし、レポートやプレゼンテーションの作成ができる。 学科の専門領域における基礎的な知識や学習方法を身につける。			
教授方法	講義、演習、グループワーク他						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーションと仲間づくり：初年次教育としての授業のねらいや進め方の説明、人間関係作りのグループ活動を学ぶ。						全員
2	大学図書館の活用：書籍等の検索方法と情報の効果的な収集や文献リスト作成法を学ぶ。						全員
3	大学図書館の活用：文献や資料などの検索や情報収集の方法と利用上のルールを理解する。						全員
4	リーディングスキル：論文講読のために基本スキルを理解し、習得する。						全員
5	リーディングスキル：レポート作成を通し、形式等の基本的な作成上の留意点を理解する。						全員
6	プレゼンテーションスキル：広告分析を通して、食に関する諸問題について関心を高め、今日における課題を整理する。						全員
7	プレゼンテーションスキル：グループで広告を分析し、広告にみられる効果や課題をまとめる。各グループごとの発表を聞き相互評価を行う。						全員
8	栄養士の業務に必要な割合の考え方から具体的な計算方法まで、その基礎的内容について習熟を図る。						全員
9	栄養士の業務に必要な割合の考え方から具体的な計算方法まで、その基礎的内容について習熟を図る。						全員
10	食とは何か？ 化学成分の視点から考える。						全員
11	食とは何か？ 栄養吸収、代謝、合成の視点から考える。						全員
12	食とは何か？ 文化の視点から考える。						全員
13	栄養士の専門科目の中で生命科学や自然科学を学ぶために必要な基礎知識を修得する（細胞の構造と機能：細胞膜や細胞内小器官の構造と働きについて理解する）						全員
14	栄養士の専門科目の中で生命科学や自然科学を学ぶために必要な基礎知識を修得する（細胞膜における輸送のしくみと生体分子の構造と化学的性質について理解する）						全員
15	栄養士の専門科目の中で生命科学や自然科学を学ぶために必要な基礎知識を修得する（生体分子である糖質、脂質、たんぱく質、核酸などの構造と化学的性質について理解する）						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
プリント作成と提出状況	40	授業中に演習する各種プリントの期限までの提出と量的・質的な内容			レポートの提出とその成果	40	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習および演習への参加状況	20	演習への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
原則として、次時に予定する学習内容について予告するので、各自予習して参加のこと。[30分] 毎回の提出を求める演習プリント類は期限を厳守すること。[60分]				提出された課題等は、原則としてコメント、添削を行って次時に返却する。			
受講生に望むこと	プリントを中心とする演習を行うことが多いため、提出を求められたプリント類は必ず期限までに提出すること。また、授業やグループ協議では自分の意見を述べることや質問ができることを歓迎する。			教科書・テキスト	知へのステップ（第5版）～大学生からのスタディ・スキルズ～ 学習技術研究会 くろしお出版 2019年 ISBN：978-4-87424-789-1		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB120C キャリア実践演習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	田中 康司						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講座の目指すところは、自らのキャリアを築いていく過程で、取り組んでいかなければならない男女共同参画社会実現に向けたさまざまな課題について、共に考察することを通して、自らの考えや意見を持つことである。同時に、社会人として、さまざまな状況下で求められる的確な「判断」の基礎となる幅広い教養を身に付けることである。</p>				<p>主たるテーマとして『女性の社会進出』を取り上げる。「育児休業制度」や「クォーター制」といった促進要因を取り上げ、現状と問題点を理解すると共に、必要とされる施策としての「ワーク・ライフ・バランス」や実現が求められる「男女共同参画社会」についても理解する。 「貧困」というテーマから雇用の実態を理解すると共に、労働基準法等労働関係法が働く者を守っているという現状についても理解する。 国内外の政治・経済・社会等の各分野にわたって、しっかりと取り組んでいかなければならない問題に焦点を当て、新聞記事等を教材として活用しながら、背景説明を受け、ディスカッションを行う。これらを通して、諸問題への関心を高め、自らの考えや意見を見出す。</p>			
教授方法	基本的に講義形式で行う。必要に応じてグループワーク等を実施する。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方や成績評価方法等について説明する。 講義テーマ：私たちが生きる現代社会について考える 「家族制度の変化」「少子高齢社会の到来」のテーマ説明を通して、わが国固有の社会状況について理解する。 新聞を読む：教材としての日本経済新聞から、記事構成や読み方等を理解する。						
2	講義テーマ：私たちが生きる現代社会について考える 「情報化の進展」「情報を読む力」「グローバル化する世界」のテーマ説明を通して、わが国を含む国際社会の状況について理解する。 コラムを読む 朝日新聞の「天声人語」等の優れたコラム記事を数多く読み、そこから記事構成や読み方等を理解する。						
3	講義テーマ：日本国憲法について学ぶ・人権思想の発達と民主政治 「今なぜ民主政治が問われているのか」「ポピュリズムとは」のテーマ説明を通して、民主政治が大きな挑戦を受けている状況を理解する。 コラムを読む コラム記事のテーマやコラムニストの主張を探る。						
4	講義テーマ：日本国憲法について学ぶ・日本国憲法の特徴 日本国憲法第3章「国民の権利及び義務」（基本的人権の保障）についての説明を通して、その特徴を理解する。						
5	講義テーマ：日本国憲法について学ぶ 「若者と参政権」「保守とリベラル」のテーマ説明を通して、若者の政治参加と社会政策及びわが国の政治思想について理解する。						
6	講義テーマ：日本国憲法について学ぶ・国会と内閣と裁判所 「行政改革」「裁判と人権」「政党と世論とマスメディア」のテーマ説明を通して、立法、行政、司法そして第四の権力とよばれるマスメディアに関わる問題について理解する。						
7	講義テーマ：日本国憲法について学ぶ・地方自治と住民の政治参加 「地方自治とは」「住民投票」「地方分権」「社会福祉行政」のテーマ説明を通して、最も身近な行政としての地方自治のあり方について理解する。						
8	講義テーマ：女性の社会進出を考える 女性の社会進出の経緯と問題点についての説明を通して、それらの意義と重要性について理解する。						
9	講義テーマ：女性の社会進出を考える 女性の社会進出促進要因としての「育児休業制度」についての説明を通して、現状と意義について理解する。						
10	講義テーマ：女性の社会進出を考える 「男女共同参画社会の実現」と「ワーク・ライフ・バランス」の説明を通して、それらの意義と重要性について理解する。						
11	講義テーマ：女性の社会進出を考える もう一つの女性の社会進出促進要因としての「クォーター制」と阻害要因としての「逆差別」についての説明を通して、現状と意義、そして問題点について理解する。						
12	講義テーマ：女性の社会進出を考える まとめとしての「女性の活躍から男女の働き方改革へ」の説明を通して、それらの意義と重要性について理解する。						
13	講義テーマ：雇用の実態について学ぶ 「相対的貧困率」「子供の貧困」「一人親世帯への支援」のテーマ説明を通して、労働の実態について理解する。						
14	講義テーマ：雇用の実態について学ぶ 「性別賃金格差」をテーマ説明を通して、国際比較を通してのわが国の労働の実態について理解する。						
15	講義テーマ：雇用の実態について学ぶ・働くことについての法律の基礎知識 労働基準法、男女雇用機会均等法そして労働者派遣法の働きの説明を通して、現在の労働問題とそれらへの取り組みについて理解する。 講義全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
講義参加態度	20	授業への参加態度及びディスカッションについてはテーマの内容を理解し、他者の意見を尊重しながら、論理的な発言ができるかという観点から評価する。			小テスト、事後の課題・レポート	80	・小テスト（第4回から第8回講義にかけて実施予定）については、前回の授業内容を的確に把握しているかという観点から評価する。 ・レポートについては論理的に表現しているかという観点から評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>事前に提示したレジュメについて、目を通しておくこと。[30分] 授業終了後、テキストをもとに、新聞・インターネット等からの最新のデータ資料を参考にしながら、授業内容を復習しておくこと。[60分] 新聞を読む習慣を身に付けることは社会人になるための必要条件である。自らの価値観や職業観を身に付けるためにも、独自の視点から、新聞を通して社会との関わりを持つことが大切である。「日経新聞」「朝日新聞」「毎日新聞」「読売新聞」等の全国紙を読む習慣を身に付けること。[30分]</p>				<p>・小テストについては、採点し、次回講義の冒頭に返却し、内容説明する。 ・授業評価シートを通して、授業内容の理解度や要望・質問等を把握し、以降の授業に反映させる。</p>			
受講生に望むこと	<p>・毎回出席確認を行う。 ・授業中の私語や携帯電話の使用は、周囲の学生にとって迷惑行為にあたるので禁止する。</p>			教科書・テキスト	授業毎にレジュメを配布する。		
指定図書/参考書等	<p>なし/ 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 金井壽宏著 PHP新書187 (PHP研究所) 2002年10月 『仕事の中の曖昧な不安』 玄田有史著 中公文庫 (中央公論新社) 2005年3月 『学生のためのキャリアデザイン入門<第2版>』 渡辺峻・伊藤健市編著 中央経済社 ISBN 978-4-502-08020-3 他に、講義時に紹介する。</p>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB130C 栄養士への道A		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・茶谷 信一・南 雅則・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子（代表教員 新澤 祥恵）					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>栄養士としての学びをはじめるとは、まず、基本的な学びへの姿勢、学びの方法を修得する。また、環境、運動、食文化、食育など様々な視点から、特に、体験学習などもおして現代の食環境での課題を探究し、それに対処できる能力を修得しながら栄養士という職業への理解を深める。</p>			<p>栄養士を目指すために必要な学びとは何かを理解する。 栄養士の役割と業務の基礎的知識を理解できる。 栄養士業務に必要な基礎的知識を修得している。</p>			
教授方法	講義、演習、実習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：栄養士の学びを始めるにあたり、この学科目の意義を理解する。					全員
2	特別オリエンテーション：先輩の体験談より、学びの意義を理解する。					全員
3	栄養士を取り巻く諸問題：廃棄物の問題を考える。					全員
4	栄養士を取り巻く諸問題：食と健康の問題を考える - 1 -					全員
5	栄養士を取り巻く諸問題：食と健康の問題を考える - 2 -					全員
6	栄養士を取り巻く諸問題：食の安心・安全を考える					全員
7	栄養士を取り巻く諸問題：食における地域の課題を考える					全員
8	食育のためのグループ演習 1					全員
9	食育のためのグループ演習 2					全員
10	体験学習（食育 1）					全員
11	体験学習（食育 2）					全員
12	体験学習（食文化）：箸の使い方から、日本の食文化を理解する。					全員
13	体験学習（流通）：卸売市場の見学により、流通の仕組みを理解する。					全員
14	体験学習（運動）：運動施設における運動体験により運動の必要性を科学的に理解する。					全員
15	体験学習（環境）：環境に関する研究施設と廃棄物処理施設の見学により環境問題への理解を深める。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度	50	授業へ積極的に関わる。授業に向けて十分に準備する。		提出課題	50	質的量的に適切である。指定期日迄の提出
授業外における学習（事前・事後学習等）						
各取組毎に内容をまとめる。[30分] 必要なことはその都度指示をする				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
				レポートは返却しないこともある。		
受講生に望むこと	日々自身の生活習慣、食習慣を意識する。与えられた課題には、積極的に取組み、問題点を見いだすよう努力する。			教科書・テキスト	『まずはここからナビゲーション』小野章史編 第一出版 ISBN：978-4-8041-1291-6	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FB140C 栄養士への道B		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・茶谷 信一・南 雅則・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
現代社会において栄養士に求められている役割を理解するため、地域社会との連携もふまえて、体験的に学びを深める。また、地域で働くための必要なスキルも修得する。特に栄養士として社会での活動のための基本的な知識を会得する。さらに、今の食の課題を取り上げながら、1年次の基礎と専門の学びを確かなものとした。			栄養士を目指すために必要な学びとは何かを理解する。 栄養士の役割と業務の基礎的知識を理解できる。 栄養士業務に必要な基礎的知識を修得している。 栄養士として働くために、社会人としての基本的役割を理解できる。				
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：社会における栄養士の役割と働き方を考え、これからの学びの方法と意義を理解する。					全員	
2	マナー講座オリエンテーション マナーの重要性					外部講師	
3	好感のもたれる身だしなみ、姿勢					外部講師	
4	正しいお辞儀の方法 1					外部講師	
5	正しいお辞儀の方法 2					外部講師	
6	面接の受け方 1：姿勢、態度、立居振舞					外部講師	
7	面接の受け方 2：姿勢、態度、立居振舞					外部講師	
8	面接の受け方 3：集団面接					外部講師	
9	マナー講座のまとめ：美しく、正しい姿勢態度					外部講師	
10	体験学習：地域との連携による食育活動					全員	
11	各職種における栄養士の仕事（就職特別セミナー）1					全員	
12	各職種における栄養士の仕事（就職特別セミナー）2					全員	
13	校外実習報告会					全員	
14	1年次のまとめ1：総合テスト					全員	
15	1年次のまとめ2：総合テストの解説					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加態度	50	授業へ積極的に関わる。 授業に向けて十分に準備する。		提出課題	50	質的量的に適切である。 指定期日迄の提出	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
各取組内容をまとめる。[30分] 必要なことはその都度指示をする				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				レポートは返却しないこともある。			
受講生に望むこと	日々自身の生活習慣、食習慣を意識する。			教科書・テキスト	『まずはここからナビゲーション』小野章史編 第一出版 ISBN：978-4-8041-1291-6		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB090C 科学の基礎		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	自由	
担当教員名	坂井 良輔・西 正人 (代表教員 坂井 良輔)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
高等学校において理科系科目の理解度の差を鑑み、栄養士養成課程専門科目群履修に必要なと思われる基礎的知識(化学)の再確認を行う。			1年生が専門科目を受講するにあたり、高等学校で履修した理科、特に生物や化学の必要不可欠な知識を完全習得する。				
教授方法	テキストに基づき、高等学校に学んだことの確認、そして確認された事項が専門科目の何処に繋がるのか、説明を行いたい。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	有機化学を学ぶにあたって：高等学校で学んだ化学の知識の確認と有機化学の基本的な考え方を学ぶ					坂井良輔	
2	有機化合物の分類と化学結合と立体化学を理解する。					坂井良輔	
3	有機化合物の構造による特徴と酸化還元、置換、付加、脱離、その他の反応を理解する。					坂井良輔	
4	炭水化物：単糖、オリゴ糖、多糖についてその構造、結合、働きと糖の誘導体についてその構造、結合、働きについて学ぶ。					坂井良輔	
5	アミノ酸とタンパク質：アミノ酸について、その種類、分類、構造とタンパク質について、その種類、分類、構造について学ぶ。					坂井良輔	
6	脂質：単純脂質について、その種類、分類、構造と複合脂質について、その種類、分類、構造について学ぶ。					坂井良輔	
7	ビタミンと無機質：ビタミン、無機質について、その種類、分類、構造について学ぶ。					坂井良輔	
8	生命活動と代謝1：生物を構成する物質について細胞の構成成分や細胞の働きと関連付けて理解する。					西 正人	
9	生命活動と代謝2：細胞における代謝について学習する。細胞において必要なエネルギーはどのように獲得されているのか、そのエネルギーの元は何かなどについて理解する。					西 正人	
10	酵素1：細胞内における酵素の役割とその化学的性質について理解する。					西 正人	
11	生物と遺伝子1：遺伝子の働きを理解する。DNAの構造、構成する物質について理解する。					西 正人	
12	生物と遺伝子2：DNAとタンパク質合成について理解する。生成されたタンパク質の生体内における働きについて理解する。					西 正人	
13	体液と循環1：生体内における化学反応は全て体液中で起こっている。細胞内や細胞を取り囲んでいる体液にふくまれている物質やそれらの働きを理解する。					西 正人	
14	体液と循環2：体液はどんなものを運搬しているのかを理解する。体液の循環を司る器官系とその働きの調節について理解する。					西 正人	
15	免疫：主な免疫細胞とその特徴を理解し、免疫系システム(自然免疫と獲得免疫)の全体像について理解する。					西 正人	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末テスト	70	講義を行った事項が理解と習得されているかを確認する。		取り組み姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
高校時に履修した理科系科目の教科書を再度通読し、問題意識をもって講義に臨んでもらいたい。この科目を学びながら、学んだあとにも他科目でも、用語、項目、概念は再出するのでそのつど、復習してもらいたい。[30分]			特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。				
受講生に望むこと	なるべく平易、簡便な方法での講義を目指すので、苦手意識を克服してもらいたい。			教科書・テキスト	栄養科学シリーズ NEXT 『基礎有機化学』 高橋吉孝 辻 英明 講談社サイエンティフィック ISBN978-4-06-06155357-6 『系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能』[2] 生化学。第13版第5刷 三輪一智 医学書院 2018年 ISBN978-4-260-01836-4 栄養生化学で使用しているテキストを使用します。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FB095C 栄養士のための計算入門		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	自由
担当教員名	茶谷 信一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
栄養士業務に必要な計算の基礎を身につける。四則計算から、溶液づくりのための知識くらいまでを履修する。			計算についての基本的な考え方を理解し、四則計算や割合に関する問題が解けるようになる。専門科目に出てくる数学的な考え方に対応できる力をつける。			
教授方法	演習プリントへの取り組みと解説、個別指導。					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスルールとオリエンテーション 科目の概要や到達目標、学習方法や評価について理解する。					
2	整数の計算の考え方を理解してできるようになる。					
3	分数の計算と考え方を理解してできるようになる。					
4	少数の計算と考え方を理解してできるようになる。					
5	割合と比の考え方を理解し計算ができるようになる。					
6	連立一次方程式の考え方を理解し計算ができるようになる。					
7	前半5回の復習をする。					
8	整数の計算の上級問題ができるようになる。					
9	分数の計算の上級問題ができるようになる。					
10	少数の上級問題ができるようになる。					
11	割合と比の上級問題ができるようになる。					
12	溶液についての基本的な考え方を理解し計算ができるようになる。					
13	後半5回の復習をする。					
14	グラフと表についての基本的な考え方を理解する。					
15	まとめとふりかえりをする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
達成度確認試験	40	履修項目全体の理解度を見る。		課題への取り組み状況	40	到達度には個人差があるが、どれだけ向上したか、意欲的に取り組んだかを見る。
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
自学自習・復習を自主的に行うこと。[30分]				提出された課題等は、原則としてコメントを付したり添削をしたりした上で評価を行い、次時の授業で返却する。		
受講生に望むこと	各回での基本的な考え方の理解につとめ、計算問題にしっかり取り組むこと。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FH100C 公衆衛生学		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	木村 敏行					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格			
授業の概要			授業の到達目標			
公衆衛生とは、地域社会の組織的な努力によって疾病を予防し、寿命を延長し、身体的並びに精神的能力を増進するための技術であり科学であると定義されている。公衆衛生活動は、主に衛生行政のなかで行われ、その課題は社会状況とともに変化し、健康増進、疾病予防に加え、重症化予防さらには社会復帰へと広がりを見せており、栄養士になるための基本的な知識を習得することを目的としている。			本科目では、社会、環境、健康との関係を理解するとともに、現代の医療、保健、福祉及び社会保障などについて知識を習得する。また、地域社会における疾病予防や国民の健康維持向上の現状並びに今後の対策について理解する。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	社会と健康 授業概要の説明：公衆衛生及び健康の概念、公衆衛生の歴史から現代の公衆衛生を知る					
2	保健統計 人口動態統計、人口動態統計、生命表、傷病統計について学ぶ					
3	疫学 疫学の概念、疫学の指標、疫学の方法について学ぶ					
4	生活習慣の現状と対策 健康に関連する行動と社会について学ぶ					
5	主要疾患の疫学・その1 生活習慣病と成人保健、主要部位の悪性新生物、循環器疾患、代謝疾患について学ぶ					
6	主要疾患の疫学・その2 骨・関節疾患、口腔疾患、精神疾患、自殺、感染症について学ぶ					
7	保健行政・その1 地域保健、母子保健、学校保健について学ぶ					
8	保健行政・その2 産業保健、高齢者保健について学ぶ					
9	環境保健・その1 人間生活と環境、環境汚染と健康について学ぶ					
10	環境保健・その2 環境衛生について学ぶ					
11	社会保障、社会福祉、医療、介護の制度・その1 社会保障の概念、医療制度について学ぶ					
12	社会保障、社会福祉、医療、介護の制度・その2 社会保険、介護保険制度と社会福祉制度を学ぶ					
13	衛生、栄養関係法規・その1 法規の定義とその種類、衛生法規について学ぶ					
14	衛生、栄養関係法規・その2 法規の定義とその種類、栄養関連法規について学ぶ					
15	国際保健 国際協力のしくみ及び国際保健について学ぶ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
単位認定試験	80	試験範囲、評価基準は後日示す。記述式		授業参加状況	20	受講態度、提出課題を参考にする。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関する課題提出により復習を行うとともに、次回講義冒頭で知識の定着をはかる。〔10分〕			講義の冒頭にコメント。			
受講生に望むこと	講義中の飲食は禁止。特別な理由がある場合は要相談。栄養士に相応しい態度。		教科書・テキスト	栄養科学シリーズ NEXT 公衆衛生学 第3版 講談社サイエンティフィック ISBN: 978-4-06-155365-1 衛生環境系ノートブック		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	この授業は、栄養士の免許を取得するための必須科目であり、ほとんどの医療職が学んでいます。		

授業科目名	FP100C 人体構造学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	井関 尚一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>栄養学の目的は、食生活を通じて人の健康を維持・増進していくことである。生活習慣病を始めとして、食生活と深く関係のある病気は多い。健康や病気のことを理解するには、まず人体のしくみを理解する必要がある。この授業では、人体を構成する細胞、組織、器官の基本的構造を学び、健康および病的状態における人体機能の理解を助けることを目的とする。</p>				<p>人体を構成する細胞の構造と機能を説明することができる。 人体を構成する組織の構造と機能を説明することができる。 人体を構成する器官と器官系の構造と機能を説明することができる。</p>			
教授方法	パワーポイントとプリントを使用した講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	細胞の構造： 細胞膜、細胞小器官、細胞骨格、核の構造と機能を説明できる。						
2	組織と器官の構造： 上皮、支持、筋、神経の4大組織および10大器官系の構造と機能を説明できる。						
3	骨格系の構造： 骨組織の構造と機能、骨形成のしくみ、全身の骨格系の構造と機能を説明できる。						
4	筋系の構造： 筋組織の構造と機能、筋収縮のしくみ、全身の筋系の構造と機能を説明できる。						
5	循環系（1）心臓と血管の構造： 心臓および全身の血管系の構造と機能を説明できる。						
6	循環系（2）リンパ系と血液の構造： 血液、リンパ系、造血系の構造と機能を説明できる。						
7	消化器系（1）消化管の構造： 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の構造と機能を説明できる。						
8	消化器系（2）消化腺の構造： 肝臓、胆道系、膵臓（外分泌部と内分泌部）の構造と機能を説明できる。						
9	呼吸器系の構造： 鼻腔、喉頭、気管と気管支、肺の構造と機能を説明できる。						
10	泌尿器系の構造： 腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造と機能を説明できる。						
11	生殖系（男性生殖器と女性生殖器）の構造： 精巣、精路、卵巣、子宮の構造と機能を説明できる。						
12	内分泌系の構造： 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎の構造と機能を説明できる。						
13	神経系（1）中枢神経の構造： 神経組織の構造と機能、脊髄と脳（脳）の構造と機能を説明できる。						
14	神経系（2）末梢神経の構造： 脊髄神経系、脳神経系、自律神経系の構造と機能を説明できる。						
15	感覚器系（皮膚、眼、耳）の構造： 皮膚、眼、耳の構造と機能を説明できる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	30	課題について主体性をもって学習し、正確に記述する。			定期試験	70	講義内容についてどれだけ理解しているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業前に教科書を読んで予習すること〔各回90分〕。 その日に習った授業範囲のプリントを家で読んで復習し、わからないところは教科書や参考書で調べること〔各回90分〕。 試験前にはプリントの内容を繰り返し繰り返し音読すること。</p>				<p>レポートはコメントをつけて返却する。レポートと試験を合わせた成績不良者には再試験として別のレポートを課する。</p>			
受講生に望むこと	授業中は講義に目と耳で集中し、プリントは復習に用いること。私語を慎むこと。			教科書・テキスト	『管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト』第4版 岩堀修明著 文光堂 ISBN978-4-8306-0040-1 C3047		
指定図書/参考書等	なし/図書館にある解剖生理学関係の参考書			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP110C 栄養生化学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
ヒトのからだを作っている基本単位である細胞について学習する。その上で、食物やヒトのからだを作っている糖質・脂質・たんぱく質・核酸などの分子がどのような形をして、どのような性質や働きがあるかについて学ぶ。次に、食物に含まれる成分がどのようにして体に入り、利用されるかについての概要について学ぶ。さらに、ヒトのからだをつくっている分子が常に壊されたり、また作られていること(物質の代謝)を分子レベルでの変化として詳細に学習する。また、生体を維持するために必要なエネルギーを栄養素からどのようにして獲得しているかの仕組み(エネルギー代謝)について学ぶ。これらの代謝がどのように調節されているのかや代謝の異常と疾病の関連についても学習する。				細胞の構造と機能について理解する。食物または生体関連物質の構造と機能・性質について理解する。糖質・脂質・たんぱく質・核酸の代謝について理解する。代謝の相互関係と調節の仕組みを理解する。代謝の異常と疾病との関連について理解する。栄養素の生体内における利用と適正な食物摂取について生化学的に理解する。また、栄養素の生理作用、様々な疾患の発症原因を考える上で必要な知識や考え方を習得する。			
教授方法	パワーポイントなどを使った講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	細胞の構造と機能1：人体の成り立ちを理解する。細胞の構造、細胞膜の構造や細胞膜による物質輸送の仕組みについて理解する。						
2	細胞の構造と機能2：細胞内に存在する小器官の構造や特徴、それらの働きについて理解する。細胞の構造と機能について問題演習によって学んだことを確認する。						
3	糖質1：糖質の種類、単糖類の基本構造、糖質の構造に関連付けてそれらの化学的な性質や特徴などを理解する。。						
4	糖質2：オリゴ糖や多糖類などの構造とそれらの性質を関連付けて理解する。人体にはどんな糖質が存在し、どんな働きがあるかを理解する。						
5	糖質3、脂質1：糖質について問題演習により、学習した内容を確認する。脂質の種類と働きを理解する。脂肪酸の構造と化学的性質について関連付けて理解する。						
6	脂質2：複合脂質の構造と化学的性質や機能について関連付けて理解する。リポタンパク質の種類と特徴を理解する。						
7	脂質3：リポタンパク質の構造と由来について理解する。リポタンパク質の生体における輸送と働きについて理解する。						
8	脂質4、タンパク質とアミノ酸1：脂質について問題演習を行い、学習した内容を確認する。人体におけるタンパク質の働きを理解する。アミノ酸の構造とその特徴や化学的性質について関連付けて理解する。。						
9	タンパク質とアミノ酸2：アミノ酸の種類、分類、基本構造と化学的性質を関連付けて理解する。タンパク質の構造形成する化学結合について理解する。。						
10	タンパク質とアミノ酸3：タンパク質の分類と人体に存在するタンパク質働きと化学的性質を関連付けて理解する。						
11	タンパク質とアミノ酸4、核酸1：タンパク質とアミノ酸について問題演習を行い、学習した内容を確認する。核酸、DNA、遺伝子、ゲノム、染色体、染色体などは何を指しているのかを理解する。核酸を構成している物質にはどんなものがあるか、人体ではどんな働きをしているかなどを理解する。						
12	核酸2：DNAとRNAの構造と働きについて理解する。RNAの種類とそれらの働きについて理解する。						
13	核酸3、酵素1：核酸について問題演習を行い、学習した内容を確認する。酵素の触媒としての働きを理解する。酵素の特性や反応に必要な補酵素や金属イオンとそれらの働きを理解する。						
14	酵素2、免疫1：酵素について理解する。酵素反応の特性と酵素反応の阻害について理解する。免疫と免疫に関わる細胞と物質などについて理解する。						
15	酵素3、免疫2：酵素について問題演習を行い、学習した内容を確認する。自然免疫と獲得免疫の特徴や仕組み、アレルギーとの関連などについて理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	80	学期末に行う試験の成績			授業外学習課題	20	レポート提出 授業の理解や応用力などを評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
講義の前、そして講義の後などに教科書を読み、分からないこと・理解できないことを見つけ、自らの課題をみつけて授業にのぞむ。[40分] 学習課題は、テキストや他の科目でも関連があると思われるものも参考にして取り組む。[50分]				課題提出締め切りの次回講義に解説を行う。			
受講生に望むこと	些細な疑問でも放置せずに調べるか質問し解決しておく。質問は他の学生の理解を深めることにつながるので積極的な質問をのぞむ。			教科書・テキスト	『系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[2]生化学 第13版』三輪一智 医学書院 2018年 ISBN: 978-4-260-01836-4		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP120C 食品学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>高等学校で学んだ化学・生物・理科の基礎知識の上にたち、それらの様々な事柄が日々の生命活動、食生活をはじめとする社会生活の中でどのように関わっているかを確かめてみる。食品の栄養素や化学成分が人体にどのように働き、関わっているかを知る。それを通して食品学を身近な学問、役に立つ知識と認識してほしい。また担当教員が係わり、成果として特許共同出願に至った産学官共同研究を紹介し、実験や研究の面白さなどを伝えたい。</p>				<p>食品・栄養・健康を食品学の知識を通して理解を深める。また食品の摂り方は生活習慣病などの疾病にも深く関係しており、生涯にわたって自分の健康についても、注意し続ける姿勢を身につける。また、数年後に取り組むと思われる就職活動のために、食品産業・業界に関係する企業等の活動や業務内容について提供された情報を活用できる。</p>			
教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	食品とは あらためて、フードマイレージ、食糧受給率、地産地消、等の観点から食品について考える。						
2	食品の分類・食品成分表 同じ食品が様々な観点、視点から分類されていることを知ることを目標とする、また食品成分表記載の成分測定法を詳しく説明する。						
3	水 生命活動の基本である水が食品とどのような関わりをもつか学ぶ。						
4	タンパク質 様々なタンパク質の構造と分類と働きについて理解する。						
5	炭水化物 様々な炭水化物の構造と分類と働きについて理解する。						
6	脂質 様々な脂質の構造と分類と働きについて理解する。						
7	ビタミン 様々なビタミンの構造と分類と働きについて理解する。						
8	無機質 様々な無機質の構造と分類と働きについて理解する。						
9	色素成分 様々な色素成分の構造と分類と働きについて理解する。						
10	呈味成分 様々な呈味成分の構造と分類と働きについて理解する。						
11	香気成分 様々な香気成分の構造と分類と働きについて理解する。						
12	食品の物性と官能評価 食品の物性の測り方、装置、それから何がわかるのか、また官能検査とはどんな検査なのかを学ぶ。						
13	食品成分間反応 食品中の各成分同士が酵素、加工、等により化学反応を起こし、新たな成分が合成される不思議さを学ぶ。						
14	食品の機能性 栄養成分 嗜好成分以外の第三の成分の構造と働きについて学ぶことを目標とする。食品物性と官能検査 物性の測定法に、官能検査の原理について理解する。						
15	バイオテクノロジーと食の安全・安心 石川県で生まれたクローン牛を中心に、バイオテクノロジー技術と問題点を探る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身についているか確認する。			取り組む姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
この講義の開始前に高校で履修した化学、生物、理科に関する部分を再度通読しておく。また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。[30分]				特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	口頭で述べる、板書する、教科書に書かれてある、それぞれの内容を上手くまとめ、関連させ、体系的に理解する力を身につける。さらにそのような学習が 将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。			教科書・テキスト	『食べ物と健康、食品と衛生 NEXT食品学総論 第3版』講談社サイエンティフィック 辻 英明/海老原 清/渡邊浩幸/竹内弘幸・編 ISBN978-4-06-155386-6		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD100C 基礎栄養学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト・社会福祉主事任用資格				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>栄養とは生物が外界から必要物質を取り入れて生命活動を営むことである。人間が健康な生活を営むためには、適切な食物摂取が必要であり、取り入れたものを消費するための生活活動など広い視点からの取組が求められる。この授業では、これらを考える上での基礎となる栄養素について、その種類と機能、消化・吸収、代謝などを取り上げ、人体と栄養素の関わりについて理解を深める。</p>				<p>栄養とは何か、その意義を理解する。 栄養と遺伝素因との関連を理解する。 健康の保持・増進、疾病予防・治療における各栄養素の役割を理解する。 人間の摂食行動から消化・吸収、代謝と栄養素の流れを理解する。 エネルギー代謝、各栄養素の代謝とその意義を理解する。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養の概念：栄養、栄養素、健康と食生活、各年齢ステージの栄養、栄養学の歴史などを理解する。						
2	食物の摂取と栄養素の補給：人間の食物摂取行動とその調節の仕組みを理解する。						
3	消化吸収と体内動態：栄養素の消化吸収など摂取後の体内動態の仕組みを理解する。						
4	糖質の栄養：糖質の種類と代謝の仕組みを理解する。						
5	糖質の栄養：糖質代謝と他の栄養素との関連を理解する。						
6	脂質の栄養：脂質の構造と代謝の仕組みを理解する。						
7	脂質の栄養：脂質の体内動態と他の栄養素との関連を理解する。						
8	たんぱく質の栄養：たんぱく質の構造とたんぱく質の代謝を理解する。						
9	たんぱく質の栄養：たんぱく質の栄養価や他の栄養素との関連を理解する。						
10	ビタミンの栄養：脂溶性ビタミンと健康との関連を理解する。						
11	ビタミンの栄養：水溶性ビタミンと健康との関連を理解する。						
12	無機質の栄養：無機質の意義、各無機質の特徴、過不足による健康障害の理解する。						
13	無機質の栄養：無機質の機能、代謝などを理解する。						
14	水・電解質等の代謝と食物繊維：水の役割、水・電解質・アルコールの代謝と食物繊維を理解する						
15	エネルギー代謝：エネルギーの概念、エネルギー代謝とそれに及ぼす要因などを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率			課題レポート	20	課題の主旨を理解し、適切にまとめられているか
授業態度	10	授業への参加意欲					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、基礎栄養学の学びを把握する。 毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。 授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。 [毎回30分]</p>				レポートは返却する。			
受講生に望むこと	他の学科目とも関連させながら勉強して欲しい 健康関連の情報（新聞・雑誌等）に関心を持つこと			教科書・テキスト	『イラスト 基礎栄養学』田村明他 東京教学社 ISBN : 978-4-8082-6036-1		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FG100C 栄養指導論			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>健康の保持・増進、健康寿命の延伸及びQOLの向上のために、食生活をとのえることは重要な役割を担っています。この授業では、対象者の行動変容とその継続につながる指導をするための基礎知識と方法を学びます。</p>				<p>栄養指導・栄養教育の目的と意義を説明できる。 国民の栄養や食事の現状と課題を列挙できる。 栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識を習得できている。 栄養アセスメント、栄養マネジメントの手順や方法を説明できる。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養指導・栄養教育の概念（栄養指導・栄養教育とは何か、その目的と必要性を理解する。）						
2	食生活の変遷と環境（食生活の移り変わりや食生活を取り巻く環境について理解する。）						
3	栄養士の歴史と活躍分野（栄養士の歴史と活躍分野を学び、時代に合わせた栄養士の活躍と今後の可能性について理解する。）						
4	栄養関係法規（栄養士業務に関する法律、栄養指導・栄養教育の法的根拠を理解する。）						
5	栄養教育（栄養教育の基本と心構え、傾聴の姿勢を理解する。）						
6	栄養教育（楽しいコミュニケーション、楽しさを伝える方法を理解する。）						
7	行動変容（行動変容について学び、健康行動とは何か理解する。）						
8	行動変容（栄養教育に活かす行動理論について理解する。）						
9	行動変容（栄養カウンセリングの専門用語、技法を理解する。）						
10	栄養マネジメント（栄養マネジメントの流れを理解する。対象者のニーズに応じた目標設定を理解する。）						
11	栄養マネジメント（対象者主体の目標設定のあり方を理解する。）						
12	栄養マネジメント（評価の方法の期間の設定、記録、報告のあり方を理解する。）						
13	情報収集（正しい栄養情報の探し方を理解する。）						
14	情報収集（栄養教育に必要な基礎資料を理解する。日本食品標準成分表、食品群、食生活指針、食事バランスガイド）						
15	情報収集（栄養教育に必要な基礎資料を理解する。日本人の食事摂取基準、国民健康・栄養調査、健康日本 21）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識が理解できているか。			提出物	30	授業内容を理解してまとめているか。
授業参加姿勢	10	テキスト等必要なものを準備し、積極的な参加姿勢がみえるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>予習：教科書を読み、キーワードについて調べる。[20分] 復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。疑問点はそのままにせず、質問するか、調べるかして解決する。[20分] 指定図書を読んで、自分の行動の評価と今後の課題を検討する。[60分以上]</p>				<p>提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。</p>			
受講生に望むこと	対象者に栄養指導・栄養教育を行うときは、まず栄養士自身が健やかであることが大切です。栄養士を目指す学生として、自分の生活時間、食生活の自己管理に挑戦して下さい。			教科書・テキスト	「栄養教育論」 今中 美栄 他著 化学同人 2018年 ISBN 978-4-7598-1448-4 「2018年度版管理栄養士栄養士必携」公益社団法人 日本栄養士会編 第一出版 2019年		
指定図書/参考書等	「科学が証明する新朝食のすすめ」 香川 靖雄著 女子栄養大学出版部 2007年 ISBN 978-4-7895-5351-3/なし			その他・特記事項	必要に応じて視聴覚教材を使用します。		

授業科目名	FG200C 栄養指導論			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
「栄養指導論」に続く、基礎知識や方法の習得と理解のうち、ライフステージ別、特定給食施設別の栄養指導・栄養教育について学びます。				ライフステージ別の栄養指導・栄養教育の意義を理解し、必要な基礎知識を習得している。 特定給食施設別の栄養指導・栄養教育の意義を理解し、必要な基礎知識を習得している。			
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ライフステージ別の栄養教育 妊娠・授乳期（妊娠・授乳期の理解と栄養教育・支援について理解する。）						
2	ライフステージ別の栄養教育 乳児期・離乳期（乳児期・離乳期の理解と栄養教育・支援について理解する。）						
3	ライフステージ別の栄養教育 幼児期（幼児期の理解と栄養教育・支援について理解する。）						
4	ライフステージ別の栄養教育 学童期（学童期の理解と栄養教育・支援について理解する。）						
5	ライフステージ別の栄養教育 思春期・青年期（思春期・青年期の理解と栄養教育・支援について理解する。）						
6	ライフステージ別の栄養教育 成人期・壮年期（成人期・壮年期の理解と栄養教育・支援および特定健康診査・特定保健指導について理解する。）						
7	ライフステージ別の栄養教育 高齢期（高齢期の理解と栄養教育・支援について理解する。）						
8	特定給食施設別の栄養教育 病院（病院における栄養教育について理解する。）						
9	特定給食施設別の栄養教育 福祉施設（福祉施設での栄養教育について理解する。）						
10	特定給食施設別の栄養教育 事業所（事業所給食での栄養教育について理解する。）						
11	特定給食施設別の栄養教育 学校給食（学校給食での栄養教育について理解する。）						
12	特定給食施設別の栄養教育 その他（その他の施設で働く栄養士の業務内容を理解する。）						
13	栄養教育の実践（実践例から栄養教育の実際について学ぶ。）						
14	栄養教育の実践（実践例から栄養教育の実際について学ぶ。）						
15	栄養教育の実践（実践例から栄養教育の実際について学ぶ。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	ライフステージ別、特定給食施設別の栄養指導・栄養教育に必要な基礎知識が理解できているか。			課題提出	30	授業内容を理解しまとめているか。
授業参加姿勢	10	必要なものを準備し、積極的に参加しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
予習：教科書を読み、キーワードについて調べる。[20分] 復習：教科書、配布資料、ノートを確認しながら理解を深める。疑問点はそのままにせず、質問するか、調べるかして解決する。[20分] 指定図書を読んで、自分の行動の評価と今後の課題を検討する。[60分以上]				提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。			
受講生に望むこと	対象者に栄養指導・栄養教育を行うときは、まず栄養士自身が健やかであることが大切です。栄養士を目指す学生として、自分の生活時間、食生活の自己管理に挑戦して下さい。			教科書・テキスト	「栄養教育論」 今中 美栄 他著 化学同人 2018年 ISBN 978-4-7598-1448-4 「2018年度版管理栄養士栄養士必携」（公益社団法人日本栄養士会編 第一出版 2019年		
指定図書/参考書等	「フードファディズム」 高橋久仁子著 中央法規出版 2007年 ISBN 978-4-8058-3004-8 / なし			その他・特記事項	必要に応じて視聴覚教材を使用します。		

授業科目名	FG220C 栄養指導論実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	三田 陽子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
「栄養指導論」で学ぶ栄養指導の理論や基礎知識を、個人や集団を対象とした現場で実際に活用するための技術・方法を学びます。				自分を対象に、アセスメントの実習を進めることができる。 アセスメントをもとに個別指導の方法を検討できる。 対象者の特性を考慮し、栄養指導の内容を効果的に伝え、対象者の理解を深める媒体を検討できる。 PDCAサイクルを用いた模擬栄養指導を検討できる。			
教授方法	講義と実習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 栄養指導論実習の意義を理解する。 基礎演習 栄養価計算（栄養士業務に必要な栄養価計算の方法を復習し、確実にできるようになる。）						
2	基礎演習 食品群と加重平均成分表、食品構成（食品群、加重平均成分表及び食品構成について復習し、理解を深める。）						
3	基礎演習 食事摂取基準（「日本人の食事摂取基準」について復習し、理解を深める。）						
4	基礎演習 食事摂取基準（「日本人の食事摂取基準」を活用した食事評価について復習し、理解を深める。）						
5	アセスメント（実態の把握） 食物摂取状況・生活時間状況・身体状況を調査する。 身体計測に基づく判定・評価、自覚症状による判定・評価ができるようになる。						
6	アセスメント（実態の把握） 食事調査の栄養価計算をし、食事摂取基準、食品群を用いた評価ができるようになる。						
7	アセスメント（実態の把握） 食事調査の結果を、栄養比率や食事バランスガイド等を用いて評価ができるようになる。						
8	アセスメント（実態の把握） 生活時間調査を整理し、結果から消費エネルギー及び身体活動レベルを算出できるようになる。						
9	PDCAサイクルを用いた栄養指導 アセスメント結果より栄養指導計画案を検討できるようになる。						
10	栄養指導の媒体 栄養教育・栄養指導に用いる媒体について理解する。						
11	栄養指導の媒体 手描き媒体の作成を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。						
12	栄養指導の媒体 作成した媒体の評価を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。						
13	栄養指導の媒体 パソコンソフトを利用した媒体作成と評価を通して、対象者の特性に合わせた媒体の作成・検討ができるようになる。						
14	PDCAサイクルを用いた栄養指導 ライフスタイル別模擬栄養指導の計画と実施を通して、PDCAサイクルを用いた栄養指導の検討ができるようになる。						
15	PDCAサイクルを用いた栄養指導 ライフスタイル別模擬栄養指導の計画と実施を通して、PDCAサイクルを用いた栄養指導の検討ができるようになる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題	50	授業内容を理解しまとめているか。			グループ演習	40	お互いに学びと理解を高め合えるような取り組み姿勢が見えるか。
授業参加姿勢	10	必要なものを準備し、積極的に参加する姿勢が見えるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
次回までに調べる必要のあることを調べる、授業時間内に仕上がらなかった課題を完成させるなど、次の段階に進むために必要な学習を確実に行って下さい。[30分]				提出された課題は、原則として次回授業の冒頭で全体にコメントを返した後、確認作業が終わり次第返却します。課題によっては返却しないものもあります。			
受講生に望むこと	授業で学んだことを毎日の生活の中で応用することに挑戦してみてください。			教科書・テキスト	「栄養教育・指導実習」関口紀子 編著 建帛社 2016年 ISBN 978-4-7679-0568-6 「日本食品成分表2019七訂本表編」 医歯薬出版編 医歯薬出版 ISBN 978-4-263-70735-7 「2018年度版 管理栄養士栄養士必携」日本栄養士会 編 第一出版 2019年		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FC100C 調理学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
調理は、日常生活では実習が先になるが、合理的に美味しく調理しようとするれば、科学的な理論を理解することが調理技術の効果的な習得に繋がる。特に将来栄養士として食の指導に携わる場合、技術のみならず理論を熟知することが必要となる。調理の過程は、食事計画、食材調達、調理操作、供食であり、これにより食品を料理（食物）とすることになり、栄養素の摂取を具現化することができる。この授業では、調理の概念、美味論、調理操作論、各食品の調理特性、調理器具について理解をすることができる。				調理の概念と食生活における位置づけ、栄養士の学びでの位置づけを把握する。 おいしいとはどういうことかを科学的に理解する。 調理の課程と其中的調理操作の特徴を理解し、適切な調理操作を選択できるようにする。 調理に必要な機器や設備を理解する。 食品毎の調理性を理解する。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	調理学の意義、食事計画論、調理文化論：この授業への導入として調理学で何を学ぶかを把握する。さらに、食事計画の概念、調理の文 化的視点を理解する。						
2	調理操作論 - 非加熱操作：「洗浄」「浸漬」「攪拌・混合」など、各非加熱操作の目的や特徴・留意点など理解する。						
3	調理操作論 - 加熱操作（湿熱加熱）：「茹でる」「煮る」「蒸す」など、湿熱加熱の特徴や留意点などを理解する。						
4	調理操作論 - 加熱操作（乾熱加熱）：「揚げる」「焼く」「炒める」など、乾熱加熱の特徴や留意点などを理解する。						
5	食べ物のおいしさ（化学的要因）：おいしさについて、味覚で感ずる味を中心に、その種類や感じ方を理解する。						
6	食べ物のおいしさ（物理的要因）：おいしさについてテクスチャーや温度との関係などを理解する。						
7	食品の調理性（砂糖、でんぷん）：砂糖が様々な食品の調理に及ぼす影響や、でんぷんの糊化や老化の過程や意義を理解する。						
8	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。						
9	食品の調理性（芋類、豆類）：じゃがいも、さつまいもなどの芋類と大豆や小豆などを調理する際の特徴を理解する。						
10	食品の調理性（穀類）：炊飯、米粉、小麦粉の調理に関わる特徴を理解する。						
11	食品の調理性（野菜類、果実類）、調理におけるたんぱく質の変性：野菜の調理とあくの除去、果実の調理の特徴を理解する。動物性食品の調理性を学ぶにあたりたんぱく質の変性を理解する。						
12	食品の調理性（獣肉肉類・魚介類）：牛肉、豚肉、鶏肉などの調理と魚介類の調理の特徴と差異を理解する。						
13	食品の調理性（卵類・乳類）：卵と牛乳の調理性を理解する。						
14	食品の調理性（油脂類・ゲル化材料）：調理に関連する油の特徴とゲル化材料の差異を理解する。						
15	調理の設備、器具、エネルギー：調理場、台所における貯蔵設備、加熱器、熱源、その他の調理器具などの特徴を学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
筆記試験	70	問題の正答率			課題レポート	20	課題への取り組み方とまとめ方
授業態度	10	授業への参加意欲					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業開始前に、教科書全体をさっと読んで、調理学の学びを把握する。 毎授業前に授業予定の部分を読んでくる。 授業で取り上げることの出来る部分は限られるが、授業終了後、その単元全体を復習する。 日常生活の中で、調理に関心を持つ。 [毎回30分]				レポートは返却する。			
受講生に望むこと	調理学実習との関連で理解をして欲しい。さらに、食品学や栄養学とも関連させて学びを深めて欲しい。			教科書・テキスト	『新 調理学』 下村道子・和田淑子編著 光生館 ISBN : 978-4-332-05038-4		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FC110C 調理学実習A		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・中村 喜代美 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
調理は献立立案から始まり、適切な食品を選び、それに調理操作を行って、美味しい食べ物に仕上げ、盛りつけし、喫食することまでが対象となる。この授業では、基礎的な調理技術(煮る、焼く、揚げるなどの加熱操作や計量、混合・攪拌などの非加熱操作)の理解と習得を目標に、日本調理様式より、出し・炊飯等よりはじめ、代表的な料理を取り上げて実習を進める。また、基礎的な調理学実験(卵の加熱、ゲル化素材の調理、小麦粉の調理、揚げ物の仕組み等)も組み入れ、理論と実際に起きる現象を確かなものとする。			基礎的な調理方法を理解し、その技術を習得する。 基本的な切り方などは、一定の水準に達すること(適切な速度で正しい包丁の使い方が出来る)。 日常的に利用する食材の扱い方を習得する。 基礎的な保存食品の調理技術を習得する。 理論と実技を関連させて理解し、実践できる。			
教授方法	講義の後、グループに分かれて実習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	日本調理の概要：日本料理の特徴、歴史等を理解する。調理実習を始めるにあたり調理の基本操作を学ぶ。					新澤
2	炊飯、清汁(混合だし)、浸し：炊飯とその理論、出汁のとり方、緑黄色野菜の茹で方を学ぶ。					新澤
3	味付け飯、煮物、漬物、米粉の調理：味付け飯の調味比率と留意点、煮物の留意点、漬け物の原理、米粉調理のうち、もち米粉の調理を学ぶ。					中村
4	味付け飯、酢の物(二杯酢)、煮物、味噌汁：かやくご飯の副材料の使い方、酢の物の合わせ酢の比率、煮物の調味比率の計算、味噌汁の調理を学ぶ。					中村
5	煮魚、酢の物(三杯酢)、米粉の調理他：煮魚の方法(煮汁の調味割合など)、三杯酢の調味、うるち米粉の調理を学ぶ。					中村
6	煮魚、酢の物(酢味噌和え)、潮汁：魚の調理(三枚おろし)、魚の酢締めの方法と理論、魚介類の旨味について理解する。					新澤
7	揚げ物調理、漬け物：天ぷらなどの調理をとおして、揚げ物の理論を理解し、調理方法を学ぶ。					中村
8	蒸しもの調理、寄せもの(寒天)：赤飯、茶碗蒸しの調理をとおして、蒸し物の原理と材料による差異を理解する。また、ゲル化材料としての寒天の調理法を理解する。					中村
9	焼き物調理、寄せもの(寒天)、めん類、保存食の調理：魚の姿焼きと鍋焼きにより、焼き物料理の特徴と直接焼き、間接焼きの差異を学ぶ。また、寒天の凝固温度の理解と、麺類の扱い方を学ぶ。保存食として梅干しの調理法を学ぶ。(1)					新澤
10	すし、寄せもの(でんぷん)：すし飯の調理を学び、でんぷんの糊化調理を理解する。					中村
11	エコクッキング、保存食の調理：環境に負担をかけない調理法について考えるきっかけとする。保存食としての梅干しの調理法を学ぶ。(2)					中村
12	調理学実験 1：鶏卵の熱凝固を理解する。寒天の凝固に及ぼす要因を理解する。					新澤
13	調理学実験 2：揚げ物における油の吸収率の計算方法や、ルーの特徴を理解する。					新澤
14	調理学実験 3：小麦粉の膨化を理解する。					新澤
15	調理の基本と切り方：切砕の技術を習得するため、基本切りの実際について理解を深める。					中村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況	50	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況		実技試験	20	基本的な切り方テスト等の試験結果
課題レポート	30	まとめとしての課題レポート、実験レポート等の記載内容				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
食材に関心を持ち、出回りの時期や価格に注意する。 常に計量する習慣をつける。(料理に使う材料の重量を把握できるようにする。)授業で習った調理の復習をする。特に実習で関わることの出来なかったところを勉強する。 実習内容をまとめる。[毎回30分]				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	授業前にテキストを読んでくる。 失敗を恐れず授業内容に取り組む。 自分自身の体調管理を行う。 日常的に調理に携わる。			教科書・テキスト	日本調理テキスト	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。	

授業科目名	FC120C 調理学実習B			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	依 万里子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
この授業では、西洋料理、中国料理の中から代表的な料理を取り上げ、日本調理様式と比較しながら、各料理の特性や調理法、食材の扱いなどを学ぶ。また、切替などの基本的な操作技術が会得できるよう、その技術の理論やコツの習得を目指す。実習は、デモンストレーション、調理、評価、試食、後片付けという流れで行う。				基礎的な調理技術を習得する。 衛生面、安全面を考慮し、食材を適切に扱うことができる。 西洋調理様式、中国調理様式の特徴を理解する。 グループ実習でコミュニケーション能力や積極性を身につける。			
教授方法	講義、実習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	講義：西洋料理、中国料理の概要、調理の基本操作（計量、調理、調理器具、調味、切り方の基本について理解する。）						
2	実習：野菜の切り方、マヨネーズ、フレーズマルキーズ（基本切り、卵黄の乳化性、生クリームの泡立ての要点について学ぶ。）						
3	実習：サンドイッチ、ヨーグルトゼリー、紅茶（サンドイッチの要点、ゼラチンの調理性、紅茶の入れ方について学ぶ。）						
4	実習：鮭のベシャメルソースがけ、マセドアンサラダ、ブラマンジェ（魚の蒸し物、ルーとソースの作り方、でんぷんの糊化について学ぶ。）						
5	実習：トマトソース、スコッチエッグ、イカのマリネ（基本のソース揚げ物の要点、イカの扱い方について学ぶ。）						
6	実習：ブラウンソース、ハンバーグ、コーンポタージュ、サラダ（基本のソース、挽肉の調理、ポタージュの要点について学ぶ。）						
7	実習：ジャム、パン（果実類の加工、パン生地の膨化について学ぶ。）						
8	実習：エビフライ、ミネストロンスープ、パバロア（エビの扱い方、フライの材料と役割、トマトの調理について学ぶ。）						
9	実習：コンソメスープ、鯖のパビヨット、オムレツ（魚の三枚おろし、コンソメ、オムレツの要点について学ぶ。）						
10	実習：拌菜、炒菜、溜菜、点心（中国料理の炒め物、あんかけ料理について学ぶ。）						
11	実習：炒菜、溜菜、烩菜、点心（中国料理の薄く煮料理について学ぶ。）						
12	実習：炒菜、焼菜、点心（中国料理の煮しめ料理について学ぶ。）						
13	実習：煎菜、炸菜、炒菜（中国料理の油焼き料理について学ぶ。）						
14	実習：湯菜、拌菜、点心（中国料理の和え物、スープ、点心について学ぶ。）						
15	実習：ポークソーセーハワイアン、マカロニグラタン、ヨーグルトサラダ（ルーを用いた調理について学ぶ。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習状況と実習記録	60	実習中の取り組み姿勢や実習記録の記載状況			実技試験	40	加熱調理（炒飯）の試験結果
授業外における学習（事前・事後学習等）							
実習前にテキストにより予習し、調理の段取りを把握しておく。[30分] 実習記録をまとめ、1週間以内に提出する。[30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 実習記録は学期内にコメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	実習前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む。 失敗を恐れず、積極的に実習に取り組む。 家庭でできるだけ調理を行う。			教科書・テキスト	西洋料理テキスト 中国料理テキスト		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FC130C 調理学実習C		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	新澤 祥恵・中村 喜代美 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、日本調理様式の料理を中心とし基礎的調理より応用的、食文化的視点により展開し、郷土食、行事食、供応食などを中心に、実習を進めていく。郷土食では、石川県の食材や代表的な郷土料理を、行事食としてはおせち料理や祭礼料理を、供応食では会席料理の献立形式にそって実習をすすめ、これらへの関心・理解を深めたい。また、漬物などの加工的調理も実習する。さらに、美味しさに関する実験により、理論的な理解に繋げる。			基礎的なものに加え、応用的な調理方法を理解し、その技術を習得する。多様な調理器具の使い方を会得する。日常的に利用する食材に加え、特殊食材の扱い方を習得する。日本料理の献立形式を理解する。郷土料理を知り、その調理法を習得する。日本の食文化を理解する。理論と実技を関連させて理解し、実践できる。			
教授方法	講義の後、グループに分かれて実習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	調理学実験 4：味の評価方法を理解する（官能検査により）。					新澤
2	味付け飯、煮物他：栗、蓮根など季節の食材の調理を理解する。					中村
3	味付け飯、田楽他：季節の食材の利用と合理的な調理方法を学ぶ。					中村
4	雑炊、刺身他：雑炊の調理を学び、鯛の様々な調理を学ぶ。					中村
5	刺身、粕汁、和菓子：さしみの基本を学ぶ。小麦粉の 膨化の調理を学ぶ。					中村
6	郷土料理 1：祭礼の献立を学ぶ。押しずし、えびすなど 当地の郷土料理の理解をする。					新澤
7	郷土料理 2：郷土食の内、特に、じぶ煮や鯛のから蒸しなどの供応食の調理を学ぶ。					新澤
8	郷土料理 3：いわしの団子汁、イカめしなど総菜的な郷土食を学ぶ。					新澤
9	青果物の調理の基本：特に地産物の農産物などを取り上げた調理を学ぶ。					新澤
10	正月料理：おせち料理の意義を理解し、その調理法を知る。					中村
11	日本料理の献立形式と伝統的保存食：我が国の供応食から日常食まで の献立形式を理解する。伝統的な保存食を学ぶ。					新澤
12	鍋料理：鍋料理（寄せ鍋）の特徴と調理法を学ぶ。					中村
13	会席献立 1：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。					新澤
14	会席献立 2：会席献立を調理し、献立の内容を理解する。					新澤
15	魚の調理の基本：魚の調理技術を習得する。					中村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況	40	実習に取り組む態度や毎回の実習レポートの記載状況		実技試験	20	加熱調理（だし巻き卵）の試験結果
課題レポートまたは筆記試験	40	まとめとしての課題レポート、実験レポート等の記載内容				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
食材に関心を持ち、出回りの時期や価格に注意する。常に計量する習慣をつける。（料理に使う材料の重量を把握できるようにする）授業で習った調理の復習をする。特に実習で関わることの出来なかったところを勉強する。実習内容をまとめる。[毎回30分]				レポートは返却する。		
受講生に望むこと	授業前にテキストを読んでくる。失敗を恐れず授業内容に取り組む。自分自身の体調管理を行う。日常的に調理に携わる。			教科書・テキスト	日本調理テキスト	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	初回の授業時に実習計画を配布するが、食材の出回り等により変更することがある。	

授業科目名	FC140C 調理学実習D		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	依 万里子・中村 喜代美 (代表教員 依 万里子)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、西洋調理・中国調理様式の料理を中心とし、基礎的調理より行事食・供応食などへ応用的に展開する。行事食ではクリスマス料理などを、また、欧風の供応形式として正餐コースを取り上げる。中国調理では大菜と点心の特徴を学ぶ。さらに魚介類の取扱など多少難易度の高い調理操作なども会得できるよう実習を進める。			基本的な調理技術をもとに、より実践的な技術を習得する。行事食、供応食などの調理に必要な知識と技術を習得する。			
教授方法	実習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習：クラムチャウダー、ポークピカタ、オレンジドロップクッキー（貝の調理、豚肉の調理、ピカタの要点について学ぶ。）					依
2	実習：エビピラフ、ロールキャベツ、フルーツサラダ（ピラフ、ロールキャベツの調理の要点について学ぶ。）					依
3	実習：ミートソース、フリッター、シェフサラダ（日本の天ぷらとの違いを理解する。）					依
4	実習：豚肉のロベール、グリーンサラダ、アップルパイ（パイ生地の高膨化について学ぶ。）					中村
5	実習：シーチキンパゲティ、クレープ、ポーチドエッグサラダ（卵調理の要点について学ぶ。）					中村
6	実習：ビーフカレー、スクランブルエッグ、コンビーフサラダ（カレーのルーについて学ぶ。）					依
7	実習：ボルシチ、カニのコキール、レアチーズケーキ（ロシア料理を作り、体験する。）					中村
8	実習：若鶏のクリーム煮、ピーマンの肉詰め、シュークリーム（シューの高膨化について学ぶ。）					依
9	実習：ビーフシチュー、クリームコロッケ、バナナケーキ（牛肉の部位と調理について学ぶ。）					中村
10	実習：鰻のムニエル、ワドルフサラダ、トリュフ（鰻の三枚おろし、ムニエルの要点について学ぶ。）					依
11	実習：オードブル、鶏のチーズ焼き（クリスマスメニューを作り、演出を学ぶ。）					中村
12	実習：デコレーションケーキ（スポンジケーキの高膨化について学ぶ。各自デコレーションを工夫する。）					中村
13	実習：溜菜、搾菜、拌菜、点心（中国料理の直火焼き料理について学ぶ。）					中村
14	実習：正餐コース前半（正餐のテーブルセットとマナーについて学ぶ。）					依
15	実習：正餐コース後半（ステーキの焼成の要点について学ぶ。）					依
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況と実習記録	60	実習中の取り組み姿勢や実習記録の記載状況		実技試験	40	魚の調理（3枚おろし含む）の試験結果
授業外における学習（事前・事後学習等）						
実習前にテキストにより予習し、調理の段取りを把握しておく。[30分] 実習記録をまとめ、1週間以内に提出する。[30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
				レポートは学期内にコメントをつけて返却する。		
受講生に望むこと	実習前にテキストを読み、内容を理解して実習に臨む。段取りよく調理ができるように、作業手順を工夫する。実習で行った料理を家庭でも作り、技術の向上を目指す。			教科書・テキスト	西洋料理テキスト 中国料理テキスト	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FC160C 給食管理実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する知識の習得を目的とする。特定給食施設について理解し、その栄養管理として、給食栄養目標量、食品構成および献立計画等について演習する。また、学内実習室において、栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食施設の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことをねらいとし、大量調理の実習を行う。講義で学んだ知識をもとに、給食対象者に満足してもらえる食事を提供することを学ぶ。講義・演習以外はクラスをグループに分けて実習を行う。				特定給食施設について説明できる。 食事摂取基準を使って給食栄養目標量を設定することができる。 食品構成をもとに献立を考えることができる。 大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理の重要性が理解できる。 実習においてコミュニケーションの必要性が理解できる。 献立管理ソフトを使って献立作成ができる。			
教授方法	講義・演習と実習						
履修条件	学科指定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	実習オリエンテーションを行う。大量調理における献立計画の基本、献立表の記載方法、栄養計算ソフト（エクセル栄養君）の操作を学ぶ。						
2	大量調理における切り方の練習、機器の取り扱いについて学ぶ。						
3	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
4	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
5	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
6	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
7	実習献立の栄養出納表を作成・評価し、献立作成の演習をする。						
8	1回目の実習を振り返り、作業管理、衛生管理（大量調理施設衛生管理マニュアル、HACCP）、諸帳票類（栄養出納表ほか）について再確認する。						
9	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
10	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
11	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
12	基本献立実習（下処理、調理、配膳、食器洗浄、関係書類作成など）：業務を分担して実習を行う。						
13	厨房機器（スチームコンベクションの使い方）及び新調理システムを学ぶ。						
14	実習献立の栄養出納表を作成・評価する。2回目の実習の振り返りをする。						
15	嗜好調査、残量調査について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
単位認定試験	60	筆記試験で、到達目標に応じた内容が把握できているか評価する。			献立作成演習・実習	15	献立作成における栄養評価、実習時における挨拶、身なり、ルールを守るなど基本的な態度を評価する。
課題	15	学んだ内容が実習報告書やレポートに丁寧に記載されているかを評価する。			授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
食材の出回り時期や価格について日頃から関心を持ってください。食材を使用する際には、はかりで測ることを心掛け、目安量を把握できるように努力してください。〔20分〕 大量調理では、食材を早くていねいに切ることが求められるので、包丁をうまく使えるように練習してください。〔120分〕 実習前の準備や持ち物の確認をしてください。 実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。時間を確保して丁寧に記載してください。〔20分〕				実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却します。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返します。 授業に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	授業中（実習も含む）の私語は慎んでください。調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。実習時は、持ち物を確認して忘れ物をせずに出席してください。食事や睡眠を意識して体調管理を心がけてください。			教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著（株）みらい ISBN978-4-86015-3434 『給食経営管理用語辞典（第2版）』日本給食経営管理学会監修 第二出版 ISBN978-4-8041-1339-5 『管理栄養士・栄養士必携 2019年度版』日本栄養士会第一出版		
指定図書/参考書等	なし/日本人の食事摂取基準〔2015年版〕 第一出版 献立作成等で各自が必要とする参考文献			その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。		

授業科目名	FC150C 食事計画実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	新澤 祥恵・田中 弘美・依 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>栄養士業務の基本となる食事計画の基礎的实践力を養うことを目標とする。この授業は、養成課程入学初期の学科目として授業を進める。まず、献立作成のために、食事摂取基準や食品成分表の基本の理解からはじめ、必要栄養量の設定や栄養価計算の基本技術の会得を目指し、さらに日常食の評価などにより、食事計画の基礎を学ぶ。特に、成人期の日常食を中心に献立作成から、調理実習を進めてその評価を行い、これをもとに、ライフステージを拡大しての食事計画へ進めたい。</p>			<p>食事計画の意義と手順を理解できる。 食品成分表を用いて栄養価計算ができる。 必要栄養量を算出できる。 必要栄養量より食品構成を作成できる。 献立作成に必要なとする調理に必要な食品やその使用目安量を把握できる。 日常食の評価ができる。 1日分から連続した数日分の献立作成を食品構成に基づいて作成できる。</p>			
教授方法	演習(献立作成等) 実習(調理) 講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食事計画実習の内容と意義：食事計画の意義とその手順を学修する。併せて、計算機の操作法も習得する。					全員
2	食品成分表と使い方：食品成分表について学修し、その活用方法を理解する。					全員
3	食品成分表と使い方：モデル献立の栄養価計算をすることにより、食品成分表の使い方を会得する。					全員
4	食品の目安量：食品の目安量や常用量を会得し、献立作成に必要な食品の数量化を学ぶ。					全員
5	食品成分表の使い方の復習 食事記録の方法を学ぶ。					全員
6	食事の評価：自身の食事内容を記録し、摂取栄養量の算出ができるよう数量化する技術を学ぶ。					全員
7	食事の評価：食事記録より栄養価計算により、栄養量を算出する技術を学ぶ。					全員
8	栄養必要量の算定：性、年齢、活動量などをふまえて個人の必要な栄養量の算定方法を学ぶ。					全員
9	食事の評価：自身の必要栄養量を算出し、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。					全員
10	食事の評価：自身の必要栄養量を算出し、食事記録より算出した摂取栄養量との比較により、評価する技術を学ぶ。					全員
11	献立作成の基本と献立構成 -：献立の形式、バランスのとれた献立に必要なこと、作成の手順など、献立作成に必要な基本的技術を学ぶ。					全員
12	献立作成の基本と献立構成：1食分の献立の作成方法を学ぶ。					全員
13	基本献立の作成1：1食分の献立を考える。					全員
14	基本献立の作成2：1食分×16回分の献立を考える。					全員
15	基本献立の作成2：献立の評価をする。(栄養価計算)					全員
16	応用献立作成：1日分の献立を作成する。					全員
17	調理実習献立の作成：献立(1日分)作成を行い、調理実習のための食事を選ぶ。					全員
18	調理実習献立の作成：選んだ献立の栄養価計算と評価をする。					全員
19	調理実習献立の作成：献立より、料理のレシピを作成する。					全員
20	調理実習献立の作成：献立、レシピに沿って、食品の購入計画を立てる技術を学ぶ。					全員
21	作成献立の調理：献立、レシピに沿って調理を行い、試食などにより、評価する。					全員
22	献立作成から調理実習の反省とまとめを行い、その結果を発表し、意見交換する。					全員
23						
24						
25						
26						
27						

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28					
29					
30					
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
各テーマにおける課題やレポート	90	授業内容の目的に応じて適切に作成されているか 質的量的に適切である 指定期日までの提出	受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
家庭における食事の際、使用される食品、そこからできる料理に留意する。 様々な場面で提供される食事の内容に関心を持ち、記録する。 毎回の課題の整理。[毎回30分]			レポートは返却する。		
受講生に望むこと	各段階で出される課題に丁寧に取り組み、期限を守って提出する。 授業中は説明を良く聞き、課題等にはきちんと取り組む。		教科書・テキスト	『日本食品成分表2019七訂本表編』 医歯薬出版編 医歯薬出版 ISBN 978-4-263-70735-7 『調理のためのベーシックデータ』第4版 松本伸子監修 女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-0317-4	
指定図書/参考書等	なし / 「栄養教育・指導演習」関口紀子 編著 建帛社 「管理栄養士・栄養士必携」日本栄養士会 第一出版 「日本調理」実習テキスト「西洋調理」実習テキスト「中華調理」実習テキスト 「調理と理論」山崎清子他著 同文書院		その他・特記事項	なし	

授業科目名	FS100C フードスペシャリスト論			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>フードスペシャリスト論では、フードスペシャリストの意義とその概要、さらにその活用について理解する。また、他の科目の殆ど扱われてはいない項目でも、フードスペシャリストとして備えるべき知識をとして身につけてもらいたい。本講では、食文化とその変遷、食品産業、食品の品質規格と表示、食情報と消費者保護制度などについて社会的、歴史的な背景も含めて幅広く理解を深め、同時に学んだ知識を使いこなす能力を養う。</p>				<p>本講では、フードスペシャリストが学ぶべき専門科目の概要についての理解とフードスペシャリストが持つべき基礎知識や考え方を身につけることを目標とする。</p>			
教授方法	テキスト及び配布資料を使った講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	フードスペシャリストの概念、業務、活躍分野などについて理解し、フードスペシャリスト資格を活かした仕事に対する自覚と責任を理解する。						
2	フードスペシャリストの養成と資格に関する制度を理解する。健全な食産業への貢献を実践するための知識や考え方を習得する。						
3	フードスペシャリストが食育を実践するために必要な知識や考え方を習得する。						
4	健康と快適な食生活、食育、健全な食産業ならびに地球環境改善に貢献するためにフードスペシャリストが果たす役割について学習する。						
5	人類の食物史、食品加工保存技術に関するこれまでの歴史を理解する。						
6	フードスペシャリストとして、グローバル化の現代にも対応できるように世界の食事情について、世界各地の食作法、宗教による食にまつわる禁忌、よく食べられる食材や重要な食糧について学習する。						
7	日本人の食生活の変遷や「新しい食」の起源を理解する。また、気候や風土によって食文化は大きく異なることや、伝統食、伝統野菜、独特の調味料など、それらの特色を学習する。						
8	戦後から現在における食生活の変化や現在の日本における食生活の特徴や消費生活、食糧自給、環境と食との関わりなどを理解し、現代や将来の日本に適した食生活について考える。						
9	外食産業、食品流通、食品製造業などの食品に関わる産業の社会的役割を理解する。						
10	食品の品質規格や表示に関わる制度、JAS（日本農林規格）の規格、表示について理解する。						
11	食品衛生法による規格とそれに基づく表示について理解する。健康増進法の制度や規格・表示について理解する。また、Codex 規格について、日本における食品の規格や表示制度などとの関連を中心に理解する。						
12	食品の安全について、食品添加物の安全基準、表示、添加物に使用される物質の特徴について理解する。消費者保護制度について理解する。						
13	食品情報の管理、食情報の有効利用について考える。また、食情報の氾濫による危険性を理解する。						
14	フードスペシャリスト資格認定試験に関連する問題演習によって、フードスペシャリスト論の内容について理解を確実にする(1)。						
15	フードスペシャリスト資格認定試験関連する問題演習によって、フードスペシャリスト論の理解を深めていく(2)。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	80	レポートは授業内容項目より、出題し理解度により評価する。			受講態度	20	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業後はテキストを読み、内容の確認と理解をする。[30分]また、授業内容と関連する認定試験過去問題を行うことで知識の定着や理解が確実になる。食文化や食に関する問題や事件に関する新聞記事や食産業の業界紙、雑誌などに触れることも授業内容の理解を深めることに役立つ。[30分]</p>				<p>特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。</p>			
受講生に望むこと	本科目の理解が他の科目の理解の助けになります。またその逆もありますので、他の科目の内容との関連についても考えながら授業に取り組んで下さい。			教科書・テキスト	『四訂 フードスペシャリスト論 [第3版]』(公社)日本フードスペシャリスト協会 編 健帛社 2016年 ISBN 978-4-7679-0573-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FT100C 教育者論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教職に関わる基礎基本の知識技術を幅広く理解して、以後の各論への学習意欲を高めるとともに、教職に対する自己の適性を判断する材料を得る。具体的には、学校現場における様々な事例を用いて課題を提示し、児童生徒に対する見方や保護者とのかかわり、学校全体の指導体制の在り方等を考え、議論し、各学生が自分なりの意見をもち表出できるようにする。</p>			<p>教職の意義、教員の役割・職務内容、学校組織の在り方、公教育制度、地域連携と学校安全など、教育上必須の基本事項を題材とし、それぞれの課題に対する自分なりの考えをきちんと持たせる。そのためには、課題を共有し、資料を収集し、根拠を明らかにし、他者の意見等も取り入れ、最終的には解決への自分なりの道筋を立てて小論文を作成できるようにする。</p>			
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成等					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学校教育の目的と目標 教育法規に基づく学校教育の各校種の目的および目標を理解する。					
2	教職の意義と特性 教職（栄養教諭）の意義や栄養教諭になるまでのプロセスを理解する。					
3	教員に求められる役割と課題 教員に求められる役割の概要と直面する課題を理解する。					
4	教員に求められる資質能力と大学での学び 採用後の職務遂行上、必要な資質等を理解する。					
5	教員としての職務の全体像 校務分掌上の職務の全容と、各人が分担する分掌を理解する。					
6	研修の必要性和教員研修制度 研修の意義や重要性等を、法規定を通して理解する。					
7	教員の義務と身分保障 服務上の義務と身分上の義務、待遇等を法規定を通して理解する。					
8	チーム学校の組織と指導体制 共通理解の下で対応する事例と、その指導体制を理解する。					
9	公教育の理念と学習指導要領 公教育の理念等を、学習指導要領の記載を通して理解する。					
10	教育制度関係法規の理解 教育諸法規の記載を通して、わが国の教育制度を理解する。					
11	教育委員会制度の理解 教育制度を支える教育委員会のしくみを、法的側面から理解する。					
12	わが国の教育制度と課題 現行教育制度が抱える課題を知り、その改善方策を理解する。					
13	地域連携と特色ある学校づくり 地域連携の重要性を知り、必要な手法を理解する。					
14	学校の危機管理と安全教育 安全管理の重要性と、必要な具体的取り組みを理解する。					
15	保護者との連携 各家庭での支援と協力体制が学校教育を支える基盤であることを具体例から理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	学校教育の中の主要テーマについて課題化し、その解決に向けて客観的な根拠をもとに、筋の通った論を展開しているか		小レポート	30	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び授業への参加	20	授業への能動的な参加（発言・応答）+グループ活動等における積極的な役割分担+予習状況				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] 提出を求める課題レポート等は、期限を守ること。[60分]</p>				<p>提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。</p>		
受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が多くなるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にすること。			教科書・テキスト	教師教育講座第1巻『教職概論』曾余田浩史編著 協同出版 2014 ISBN: 978-4-319-106707	
指定図書/参考書等	なし/中学校学習指導要領（文部科学省）、小学校学習指導要領（文部科学省）			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。	

授業科目名	FT121C 発達心理学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	南 雅則						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
人間の発達に関する理論を学び、発達段階におけるさまざまな発達の特徴について学習する。学習を支える理論やメカニズムについて学習する。幼稚園・小学校への授業参観を行ない、幼児期や児童期の特徴を実践的に学習する。				幼児、児童及び生徒の心身の発達について理解する。学習に関する基礎的知識を身につけ、学習を支える指導について理解する。人間の発達や学習について、基礎的用語を具体的な例を挙げて説明することができる。			
教授方法	講義を中心とするが、LITEやエクササイズを取り入れる。近隣の幼稚園・小学校への参観を予定している。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	発達の理論と知覚の発達：乳児から青年までの発達課題を概観するとともに、乳幼児の知覚の発達について理解する。						
2	身体・感情の発達：運動能力と身体発達のメカニズム、乳幼児の感情表出とその特徴、感情の成り立ちについて理解する。						
3	認知機能の発達：ピアジェによる思考の発達段階における特徴を概観し、園児・児童の観察から視点取得能力について実践的理解を深める。						
4	愛着と友人関係の発達：親子関係を愛着と養育態度からとらえるとともに、児童期から青年期にかけての友人関係の変化について理解する。						
5	知能と言語能力の発達：知能の捉え方と知能の測定について理解する。また、コミュニケーションの発達過程について理解する。						
6	動機づけと人格の発達：動機づけの理論について学習する。また、性格の類型論とエリクソンの漸成発達に示された自我の発達について理解する。						
7	性役割と性行動・道徳性と向社会的行動の発達：子どもの性役割とその取り込みについて理解する。また、コールバーグの認知発達段階論から道徳性の発達をとらえるとともに向社会的性の育成について考える。						
8	発達のつまずき：発達障害についてその特徴を概観し、障害を持つ児童生徒の支援のあり方について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	日常生活における社会心理学としての総合的な理解を評価する。			授業時課題	30	各実施回における振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業参加態度	10	授業中のエクササイズやワークへの積極的参加度と取り組み方を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
新聞やTVなどの報道に日々触れること。[20分/日] 授業中に取り上げたキーワードについてのまとめと整理 [60分]				振り返りシートは次回の冒頭にコメントをつけてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	栄養教諭2種免許の取得に必要な授業科目である。単位の修得がそのまま資格取得につながることを自覚し、探究心と学習意欲をしっかりと持って参加してもらいたい。			教科書・テキスト	図で読む心理学「発達」川島一夫 福村出版2012 ISBN 978-4-571-23041-7		
指定図書/参考書等	なし/授業中に随時紹介する			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FT171C 道徳・特別活動論(教育課程を含む)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
教育者論での総論的学習に続く、各論の学習開始に位置づく科目の一つである。教育課程編成の意義やねらいの学習に続いて、教育課程の必須の内容である道徳及び特別活動について、特に栄養教諭による食育との関わりにおいて、その内容を学習する。道徳の内容では食育の指導目標の一つである感謝の心、社会性の育成につながる指導を、また、特別活動にあっては、学習指導要領上で給食が位置づけられている学級活動に重点を置いて学ぶ。			教育課程編成の意義を理解し、栄養教諭が行う食育と道徳・特別活動との関わりが理解できる。			
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育課程編成のねらいと意義 オリエンテーションに続いて、教育課程の構成や内容等を、指導要領の規定をとおして学ぶ。					
2	特別活動の位置づけ 特別活動の学習指導要領及び教育課程上の位置づけと、何を目的とする活動であるかを理解する。					
3	特別活動の種類と目標 特別活動がいくつかの種類で構成され、それらがどのような目標の下に展開されるかを理解する。					
4	特別活動の教育的意義と食育との関わり 特別活動がもつ教育的意義を学ぶとともに、食育とどのように関わるかを理解する。					
5	学級活動(ホームルーム活動)の内容と特性 毎週実施される学級活動の内容や他の特別活動との違い(特性)を理解する。					
6	道徳教育はなぜ必要か なぜ道徳を教科にする必要があるのか、その目的は何かを考え理解する。					
7	道徳教育の歴史と現状 道徳教育が日本の学校教育においてどのように行われてきたのか、その歴史経緯を学び、道徳教育の目的や方法の変遷を理解する。					
8	学習指導要領と教材の検討 現行学習指導要領が定める道徳教育の目標と、それを基にして開発された教材の特徴について理解を深める。					
9	道徳教育方法論の検討 道徳教育の方法も様々に開発が進んでいる。複数の道徳教育方法論を学ぶことで、現代社会における道徳教育の在り方について検討する。					
10	クラブ活動、児童(生徒)会活動の内容と特性 クラブ及び児童(生徒)会活動の内容と特性を、校種別に対比して理解する。					
11	学校行事の内容と特性 必要に応じて実施される学校行事の内容や他の特別活動との違い(特性)を理解する。					
12	学級活動「食育」模擬授業 5分間給食指導模擬授業を行い、意見交換を通して食に関する指導への実践的な理解を深める。					
13	学級活動「食育」模擬授業 5分間給食指導模擬授業を行い、意見交換を通して食に関する指導への実践的な理解を深める。					
14	「食育」模擬授業と評価 給食指導の模擬授業実施後にルーブリック評価を行ない、評価についても実践的に理解を深める。					
15	まとめ 目標「教育課程編成の意義を理解し、栄養教諭が行う食育と道徳・特別活動との関わりが理解できる」について、達成度合いを確認する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
課題レポートおよび演習成果	60	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、模擬授業等の演習における成果		小レポート	20	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容
予習及び授業への参加	20	授業への能動的参加、グループ活動への積極性、予習状況				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味が不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] 提出を求める課題レポート等は、期限を守ること。[60分]				提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。		
受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が多くなるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にすること。			教科書・テキスト	随時、資料を提供する。	
指定図書/参考書等	なし/『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編』文部科学省 東洋館出版社 ISBN 978-4-491-03469-0C3037 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』文部科学省 廣済堂あかつき ISBN 978-4-908255-35-9C3037			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	

授業科目名	FT181C 教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、実際の授業展開に必要な教育方法・技術を学ぶ科目である。具体的には、授業づくりの基礎理論、総合的な学習の時間、学力をめぐる現状と課題などを学ぶ。また、レポート作成、グループワーク等を併用して、学んだ内容を実際の授業や指導に活かせるよう知識・技術の定着を図る。			①児童・生徒の積極的な学びを引出す基本的な指導法を理解する。②総合的な学習の時間についてその概要を知る。③学力をめぐる教育の現状と今日的課題を適切に把握する。			
教授方法	講義、グループワーク、レポート作成					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 到達目標、評価方法、レポート提出の方法等を知り、前期の教職科目における学びを後期で深める。					
2	教育方法の基礎理論と実践について理解する。					
3	学習指導の原理と形態 問題解決学習と系統学習、一斉学習とグループ学習等を対比しながら、それらの特性を理解する。					
4	授業デザイン① カリキュラムをデザインする基礎知識について理解する。					
5	授業デザイン② カリキュラムをデザインし指導法を高めるためのPDCAサイクル法を知る。					
6	総合的な学習における学習方法を体験する① 課題解決学習について理解する。					
7	総合的な学習における学習方法を体験する② 課題解決学習について理解する。					
8	総合的な学習における学習方法を体験する③ アクティブ・ラーニングによる対話型学習について理解する。					
9	総合的な学習における学習方法を体験する④ アクティブ・ラーニングによる対話型学習について理解する。					
10	話法や板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付ける。①					
11	話法や板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付ける。②					
12	情報機器を活用した効果的な授業を行うための考え方と基本的な知識を身に付ける。①					
13	情報機器を活用した効果的な授業を行うための考え方と基本的な知識を身に付ける。②					
14	学力の現状と課題 児童・生徒に身に付けさせたい学力と、実現に向けての課題を理解する。					
15	教育方法について、これまでに修得した内容を整理し、成果と課題をまとめる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準	
課題レポートおよび演習成果	50	課題レポートの期限までの提出と量的・質的な内容、グループ協議等における成果	小レポート	30	小レポートの期限までの提出と量的・質的な内容	
予習及び授業への参加	20	授業への能動的な参加(発言・応答)+グループ活動等における積極的な役割分担+予習状況				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
①講義内容に関する部分は、テキストで予習して出席のこと。その際、意味が不明な用語や内容は授業で質問できるようチェックのこと。[30分] ②提出を求める課題レポート等は、期限を守ること。[60分]			提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。			
受講生に望むこと	レポート重視のためレポートの提出回数が増えるが、指示に従い期限を守って提出すること。その際、授業で学んだことや調べたことを基にして、自分の意見を書いたり述べたりすることを大切にすること。		教科書・テキスト	『新版 教育課程・方法論』松尾知明著 学文社 2018 ISBN 978-4-7620-2765-9 C3037		
指定図書/参考書等	なし/『教育方法の理論と実践』小川哲生・菱山覚一郎著 明星大学出版部 2011 ISBN 978-4-89549-154-9		その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。		

食物栄養学科
(2年次)

授業科目名	FB200C 人間の探究			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
キリスト教概論 及び 得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書の理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは 学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、 学生が聖書の使信との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。				北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に暗唱できるようにする。聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。			
教授方法	レジュメに基づく講義、DVDや歌の鑑賞、グループワーク、振り返りシート、レポートのための教会出席。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：担当教員紹介、コースの内容、目標、予定、課題、成績評価方法等の説明：学生は本コースの概要を理解し、学びの姿勢を整える。；「運命ではなく摂理 ヨセフ物語に見出す神中心的世界観」（創世記45:1-8）；ヨセフ物語を通して運命論ではなく、神の摂理に導かれた人生観を発見する。						
2	「建学の精神」と北陸学院の歩み：北陸学院の「建学の精神」について理解を深め、学院の形成にあたり重要な役割を果たした先達たちと出会う。；「本当の友とは」（ヨハネ15:11-17）：映画「ヘイマックス」も参照しつつ、主イエスが私たちの本当の友となってくたさることを発見する。						
3	「礼拝とは」・「主の祈り」・「讃美歌フェスティバル」（ルカ11:1-13）：「礼拝」が神と人間との対話・交わりであることを発見する。「祈る」ことを知り、主イエス自らも教えてくださった「主の祈り」を理解し、祈り始める。また讃美歌にはその背後に作詞・作曲者たちの信仰のストーリーがあることを発見し、歌詞を味わい理解した上で、心から賛美できるようにする。						
4	小テスト 「主の祈り」；説教と供え物（マルコ12:41-44）：礼拝で語られるメッセージの聴き方、献金の心構えについて理解し実践できるようになる。；「労働と余暇」（ローマ12:1-8）：働くことにはどんな意味があるのかを問い、使命探求型人生を発見する。また余暇はなぜ必要で本来どんな意味を持っているのかを見出す。						
5	「十戒」；神が授けられた自由の道しるべとしての十戒を知り、自らの人生の道しるべとして理解できるようになる。；「愛国心と国際理解」（イザヤ2:1-5）：むき出しの愛国心では国家主義・民族主義は克服できない。どうすれば世界の中で日本は他国と健やかな道を歩めるかを考え、偏狭なナショナリズムを超える神の国の倫理を発見する。						
6	小テスト 「十戒」；「聖書」という書物（テモテ2:3-14-17）；聖書（旧約39巻、新約27巻）の成り立ちやジャンルを学び、創造から完成に至る聖書のグランドストーリーを発見する。；環境と飢餓（申命記24:19-22）：世界の飢餓問題の現状を知り、聖書から語りかけられるメッセージに照らして、たとえどんなに小さなことでも、自分ができることを考えられるようになる。						
7	「人格的交わりとしての性」（エペソ5:21-33）：性情報が氾濫する現代社会の中で本当に幸せな人格的交わりとしての性はどこに見出せるのかを考察し、真に相手を人格として受け止め、尊敬をもって互いに接することができるようになる。恋愛や結婚についても聖書の御言葉の光の下で理解を深める。						
8	教会と教会暦（コリントー12:12-26）；「教会」とはいったい何なのかを理解し、教会の暦について大事なものを理解できるようになる。；「生と死」（コリントー15:50-58）：なぜ人の命は尊く、人を殺めてはならないのか。命を神からの授かりものとして受け止め直すことができるようになる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	10	授業への出席と積極的な参加の度合い、「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめ、感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。			小テスト	20	学期中2回（「主の祈り」「十戒」）、重要語句を書けるようにする小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。			学期末試験	50	講義内容の理解度を測る期末試験で評価
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回指定されたテキストの該当箇所をあらかじめ読んで授業に出席することを求める。[30分] 「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、大学チャペル礼拝への主体的参加を求める。[30分] その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] 日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] 少なくとも学期に1度、地域諸教会における主日礼拝への出席を求める。[70分]				毎回の授業で、前回提出の振り返りシートについて必要に応じてコメントする。教会出席レポートについてはコメントをつけて返却する。学期末試験については、次学期冒頭に全体講評をプリントで配布する。			
受講生に望むこと	積極的に発言し、共に授業をつくりあげていく姿勢を大事にすること。本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとしていくこと。聖書・テキスト・プリント用ファイルを必ず持参すること。遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。			教科書・テキスト	『聖書』（新共同訳）（日本聖書協会） 『ここが知りたいキリスト教 現代人のための道案内』、関川泰寛、教文館、2010年。ISBN: 978-4764273153 上記2冊を毎回授業に持参する。		
指定図書/参考書等	なし/『神学よるこびーはじめての人のための『キリスト教神学』ガイド』新装増補改訂版、アリスター・E・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0 『聖書は何を語るか』、大島力、日本キリスト教団出版局、1998年。ISBN: 978-4818403161			その他・特記事項	・原則として授業はキリスト教の基本事項を学ぶ前半（45分）と、キリスト教倫理を扱う後半（45分）から成る。 ・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。		

授業科目名	FB210C 人間の探究			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>キリスト教概論 及び 得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書の理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは、学生が礼拝の作法を身に付け、礼拝者として整えられること、学生が聖書の使信との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。</p>				<p>北陸学院の「建学の精神」を理解し、本学院の学生としてのアイデンティティが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。</p> <p>。礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を会衆と共に暗唱できるようになり、前期と合わせて三聖文を身に付けて、豊かな礼拝体験を持てるようになる。</p> <p>聖書のストーリー、歴史を生きた信仰者とのつながりの中で自分の人生を理解し、聖書の「大いなる物語」の一部として自分もこの人生を生きていることを理解できるようになる。</p>			
教授方法	レジュメに基づく講義、DVDや歌の鑑賞、グループワーク、振り返りシート、レポートのための教会出席。						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：担当教員紹介、コースの内容、目標、予定、教科書・参考図書、課題、成績評価方法等の説明：学生は本コースの概要を理解し、学びの姿勢を整える。；使徒信条；自分史を描いて、自分の人生の過去・現在・未来を思い描けるようになる。						
2	古代のキリスト教：「神の冒険に乗り出す」：アブラハム（創世記12:1-8）；ザビエル 自分の人生を神が導く冒険として受け止められるようになる。						
3	中世のキリスト教・小テスト：「使徒信条」；「神に呼び出されて」；モーセ（出エジプト3:1-10）；M・L・キング教師 自分の人生を神から与えられたミッション（使命）に生きる旅として受け止められるようになる。；期末レポートプロジェクト「テーマ・文獻表」提出						
4	「巨人に立ち向かえ！」；ダビデ（サムエル記上17:41-50）；映画“Facing the Giant” 人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる。						
5	映画“Facing the Giant” ；映画鑑賞振り返り 人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる。期末レポートプロジェクト「アウトライン」提出						
6	近・現代のキリスト教：「正義と平和は口づけし」；エレミヤ（エレミヤ20:7-13）；ボンヘッファー 神の正義と平和を求めて祈り働く者としての構えができる。						
7	日本キリスト教史：「罪赦された者として」；ペトロ（ヨハネ21:15-19）；アウグスティヌス 罪赦された者の自由で謙虚な生き方を理解できるようになる。期末レポートプロジェクト「初稿提出」						
8	小テスト：「キリスト教史」；「ただ神の栄光のために」；パウロ；ルター 「回心」を経た人生が「欲望追求型人生」から「使命探求型人生」へと変貌することを理解できるようになる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加度・理解度	20	授業への出席と積極的な参加の度合い、「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめ、感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度や行為は大きく減点。			小テスト	20	学期中2回（「使徒信条」「キリスト教史」）行う小テストで評価。
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。			学期末レポート	40	聖書箇所を取り上げ、その御言葉を、自分が選んだ聖書の人物がどのように生きたか、自分が選んだキリスト教史の人物がどのように生きたか、それらに学びつつ自分はどうに人生を歩みたいかを 制限字数内（
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>毎回指定されたテキストをあらかじめ読んで授業に出席することを求める。[30分]</p> <p>聖書およびそれに立つ学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝への主体的参加を求める。[30分]</p> <p>さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を求める。[70分]</p> <p>日頃より聖書に親しみ、学院宗教諸行事への積極的参加を求める。[15分]</p>				<p>毎回の授業で、前回提出の振り返りシートについて必要に応じてコメントする。教会出席レポートについてはコメントをつけて返却する。学期末レポートについては、コメントをつけて返却する。</p>			
受講生に望むこと	<p>積極的に発言し、共に授業をつくりあげていく姿勢を大事にすること。</p> <p>本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとしていくこと。</p> <p>聖書・テキスト・プリント用ファイルを必ず持参すること。</p> <p>遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。</p>			教科書・テキスト	<p>『聖書』（新共同訳）（日本聖書協会）</p> <p>『キリスト教入門 歴史・人物・文学』、嶺重淑、日本キリスト教団出版局、2011年。ISBN: 78-4-8184-0770-1C0016</p> <p>上記2冊を毎回授業に持参する。</p>		
指定図書/参考書等	<p>なし/『神学よるこびーはじめての人のための『キリスト教神学』ガイド』新装増補改訂版、アリストター・E・マクグラス（芳賀力訳）、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0</p> <p>『大いなる物語の始まり』、芳賀力、教文館、2001年。ISBN: 978-4764265547</p>			その他・特記事項	<p>・授業は聖書の人物像に迫る前半（45分）と、歴史を生きた信仰者を扱う後半（45分）から成る。その上で、自分はどうのよう人生を歩みたいかを考えてほしい。</p> <p>・映像や音楽も取り入れた興味深い授業展開を目指す。</p>		

授業科目名	FB220C 栄養士への道C		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・茶谷 信一・南 雅則・田中 弘美・西 正人・依 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
1年次の学びを受けて、栄養士としての専門科目を学ぶための基礎となる知識を確認し、専門的なスキルを習得するために必要な技能を理解する。また、より専門的な体験学習をとおして現代の食生活での問題を見つけ、それに対処できる能力を修得する。			栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。 栄養士の社会的な役割を理解できる。			
教授方法	講義、演習、実習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	特別オリエンテーション：栄養士の役割を理解する					全員
2	栄養士業務実践のための知識 1：1年次の学びの内容を深める					全員
3	栄養士業務実践のための知識 2：2年次の学びに向けて栄養士業務への理解を深める					全員
4	栄養士に必要な基本的態度の学び 1：栄養士の活動分野への理解を深める					田中
5	栄養士に必要な基本的態度の学び 2：栄養士に求められる接遇について理解する					田中
6	栄養士に必要な基本的態度の学び 3：栄養士に求められる文章作成を習得する					田中
7	栄養士に必要な基本的態度の学び 4：栄養士に求められる表現力を深める					田中
8	栄養士業務実践のための演習により実践力をつける					全員
9	栄養士業務実践のための演習により実践力をつける					全員
10	栄養に関する課題への取組 1：個々の栄養問題を理解する					全員
11	栄養に関する課題への取組 2：家庭の栄養問題を理解する					全員
12	栄養に関する課題への取組 3：地域の栄養問題を理解する					全員
13	栄養に関する課題への取組 4：世界の栄養問題を理解する					全員
14	食育の実践 1：小児の食育を体験し、その理解を深める					全員
15	食育の実践 2：高齢者の食育を体験し、その理解を深める					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業への参加態度	50	授業に積極的に関わる 授業に向けて十分準備する		課題提出	50	量的・質的に適切である 提出期日までの提出
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
各授業内容に添って事前学習することと、事後は授業内容をまとめる。 [30分]				レポートは返却しないこともある。		
受講生に望むこと	自身の生活習慣・食習慣を意識する。			教科書・テキスト	担当者が配布する資料	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FB230C 栄養士への道D		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	新澤 祥恵・坂井 良輔・茶谷 信一・南 雅則・田中 弘美・西 正人・俵 万里子・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
卒業に向けて、これまでに学んだ栄養士としての専門知識を確認し、より専門的な技能と様々な課題に対処できる能力を修得する。			栄養士の役割と業務の応用的な知識も理解できる。 栄養士の社会的な役割を理解できる。 栄養士業務に必要な知識を総合的に理解している。				
教授方法	講義、演習、実習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	栄養士の専門知識 1, 2 : 食品学総論、公衆衛生学について理解を深める					坂井、俵	
2	栄養士の専門知識 3, 4 : 基礎栄養学、公衆栄養学について理解を深める					新澤、三田	
3	栄養士の専門知識 5, 6 : 栄養指導論、調理学について理解を深める					三田、新澤	
4	栄養士の専門知識 7, 8 : 応用栄養学、生化学について理解を深める					俵、坂井	
5	栄養士の専門知識 9, 10 : 給食管理、解剖生理学について理解を深める					田中、西	
6	栄養士の専門知識 11, 12 : 食品衛生学、食品学各論について理解を深める					西、坂井	
7	栄養士の専門知識 13, 14 : 人体構造学について理解を深め、栄養士の専門知識をまとめる					坂井、田中	
8	栄養士の専門知識を総合的に理解する					全員	
9	栄養士の専門知識を総合的に理解する					全員	
10	栄養士のための社会常識への理解を深める					全員	
11	栄養士業務の実際 1 : 先輩栄養士に学ぶ (医療分野を理解する)					全員	
12	栄養士業務の実際 2 : 先輩栄養士に学ぶ (在宅栄養分野を理解する)					全員	
13	栄養士業務の実際 3 : 先輩栄養士に学ぶ (地域活動分野を理解する)					全員	
14	食に関わる企業を理解する					全員	
15	栄養士の道のまとめ (社会での役割を考える)					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業への参加態度	50	授業に積極的に関わる 授業に向けて十分準備する		課題提出	50	量的・質的に適切である 提出期日までの提出	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
各授業内容に添って事前学習すること、事後は授業内容をまとめる。 [30分]				レポートは返却しないこともある。			
受講生に望むこと	自身の生活習慣・食習慣を意識する。			教科書・テキスト	担当者が配布する資料		
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FH200C 社会福祉概論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	前川 直樹					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・社会福祉主事任用資格			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、わが国の社会福祉の理論や歴史的経緯、制度や実施体制等の現状について、広く学びます。高齢者や障害者、児童家庭福祉等の各対象分野別の内容を中心に、新たな制度改革の経過や動向も取り入れながら学習をすすめ、社会福祉全般の実践の場を整理し、栄養士の社会福祉分野における役割や実務を理解することをめざします。			社会福祉の理論や歴史、現状を理解する。 社会福祉の援助と視点を理解する。 社会福祉分野における栄養士の役割を理解できるようになる。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業のすすめ方、社会福祉を学ぶ意義と目的：社会福祉を学ぶ意義と目的を考える。					
2	社会福祉の意味と対象：社会福祉の歴史や定義、理念と対象となる人たちについて学ぶ。					
3	社会保障制度の概要：社会保障制度の全体像を学ぶ。					
4	社会保障制度の概要：社会保険制度について学ぶ。					
5	生活保護制度のしくみ：生活保護の基本原則・原則、生活保護の実際について学ぶ。					
6	高齢者の福祉：高齢者を取り巻く状況について学ぶ。					
7	高齢者の福祉：介護保険制度の概要について学ぶ。					
8	児童と家庭の福祉：少子化の進行と家庭環境の変化、児童家庭福祉の動向について学ぶ。					
9	障害者の福祉：障害者福祉の理念、障害者の状況について学ぶ。					
10	障害者の福祉：障害者総合支援法の概要について学ぶ。					
11	地域福祉：今日の生活問題や地域福祉の内容、担い手等について学ぶ。					
12	社会福祉基礎構造改革と権利擁護：成年後見制度や利用者保護のしくみについて学ぶ。					
13	社会福祉援助の方法：社会福祉の援助と方法、視点について学ぶ。					
14	社会福祉の機関と専門職：社会福祉の実施機関や施設、専門職について学ぶ。					
15	社会福祉分野における栄養士：社会福祉分野で働く栄養士の立場と役割を考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
期末試験	80	講義内容の理解を筆記試験で評価します。		授業参加状況	20	受講態度を評価します。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
テキストを読み、各回の内容の予習、復習に努めてください。[60分]				課題ではありませんが、講義後に提出された意見や質問には、次の冒頭に口頭でコメントを行います。		
受講生に望むこと	社会福祉をより身近なものとしてとらえ、栄養士の業務や他の科目で学んだ内容と関連づけながら、関心をもって授業に臨んでください。			教科書・テキスト	「五訂 栄養士・管理栄養士をめざす人の社会福祉」 岩松珠美・三谷嘉明 編，株式会社みらい ISBN978-4-86015-344-1	
指定図書/参考書等	なし/授業中に適宜紹介します。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FP200C 生理学 (含運動生理学)		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修	
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>健康な生活を生涯にわたって続けるには、生活に適切な運動を取り入れ、栄養状態の改善を図るなどの生活習慣の確立が重要である。また、スポーツ栄養、健康維持増進、高齢者や病人の介抱や日常生活を助ける専門家は運動を含めた栄養生理を学ぶ必要があることから、本科目では運動生理や栄養生理について学習する。</p>			<p>運動、トレーニングと生理的適応に関するメカニズムを理解する。また、食事と継続的な食生活が人体に及ぼす影響についてそのメカニズムを理解する。これらの理解をとおして様々な個人に対する適切な運動や食生活を処方するための考え方を習得する。</p>				
教授方法	テキスト、パワーポイントなどを使った講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	消化器別の消化・吸収における働きと栄養素別の消化吸収機構を理解する。運動と消化・吸収に及ぼす影響について理解する。						
2	物質代謝1 吸収された栄養素がどのようにしてエネルギーを生み出しているかを物質代謝、エネルギー代謝の面から理解する。						
3	物質代謝2 基礎代謝と基礎代謝に影響を与える因子について理解する。日常の生命活動や運動時におけるエネルギー代謝を理解する。						
4	呼吸器系、循環器系の機能とそれらの調節機構について理解する。						
5	運動時の呼吸・循環機能と運動時の酸素摂取の問題について理解することにより、エネルギー代謝における問題、健康の保持増進のための運動処方の考え方について学ぶ。						
6	泌尿器系と排泄 泌尿器系が生体内部環境の恒常性を保つ働きについて理解する。						
7	内分泌系1 ホルモンの受容体と作用機序について理解する。ヒトにおける内分泌器官や組織の働きと調節機構について理解する。						
8	内分泌系2 外部環境の変化や運動などにおける内分泌系の生体調節作用について理解する。						
9	神経系 自律神経系の働きや運動器系と神経の関係を分子レベルで理解する。						
10	運動（身体的トレーニング）による身体各組織・器官の生理的効果について理解する。						
11	健康や体力の維持・増進において栄養や運動が及ぼす影響や関連性とそのしくみについて学ぶ。						
12	運動と各栄養素との関連や働きなどを理解する。						
13	筋肉の収縮機構とエネルギー代謝について分子レベルで理解する。						
14	運動処方：基礎調査、スクリーニング検査、運動負荷検査、体力検査、運動処方内容の決定までを学習する。						
15	遺伝情報：遺伝子の複製とその仕組みについて理解する。遺伝子によるタンパク質合成のメカニズムを理解する。遺伝情報の発現について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
期末試験	80	授業内容の理解と学んだことを活用できるかを評価する。		授業外課題	20	課題の意図を理解し、的確な論理に基づいて回答が導かれているかを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
授業後にはテキストや配布されたプリントを使って授業内容を振り返り、疑問や理解できないことは質問または、専門書で調べておく。[40分]			課題レポート提出後に解答、考え方について解説する。				
受講生に望むこと	人体構造学や栄養生化学で学んだことも必要に応じて復習しながら取り組むこと。			教科書・テキスト	人体構造学と栄養生化学で使用したテキストを使います。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP210C 病気のしくみ			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	井関 尚一						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>病気の原因（病因）、病気による生体の形態的・機能的変化（病態）について理解し、さらに病気の症状、診断、予防や治療について学ぶ。膨大な医学知識、専門用語を要領よく的確に身につけることが必要である。特に食事や生活習慣と病気の関連に注目し、栄養指導を通じて社会における疾病予防、健康増進に貢献するための基本的知識を習得する。</p>				<p>主な病気について病因、病態、症状、診断、予防や治療を理解する。食事や生活習慣と病気の関係を理解する。病気の予防・治療に必要な栄養指導の基本を理解する。</p>			
教授方法	パワーポイントとプリントを使用した講義。最終日にはグループディスカッションを行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	病気とは何か：病因と病態、症状、診断、予防と治療について学ぶ。						
2	栄養・代謝系疾患：糖尿病、脂質異常症を中心に学ぶ。						
3	栄養・代謝系疾患：肥満、メタボリックシンドロームを中心に学ぶ。						
4	内分泌系疾患：内分泌系疾患について学ぶ。						
5	消化管疾患：口腔から肛門までの消化管の疾患について学ぶ。						
6	肝・胆・膵疾患：消化器の付属腺である肝臓、胆道系、膵臓の疾患について学ぶ。						
7	循環器系疾患：心臓病、動脈硬化、高血圧について学ぶ。						
8	腎・尿路系疾患：腎臓および尿路の疾患について学ぶ。						
9	神経・精神系疾患：神経・精神系疾患について学ぶ。						
10	呼吸器系疾患：呼吸器系疾患について学ぶ。						
11	血液・造血系疾患：血液・造血系の疾患について学ぶ。						
12	生殖系疾患：男性生殖系、女性生殖系および乳腺の疾患について学ぶ。						
13	運動器系疾患、皮膚系疾患：運動器（骨格系と筋系）および皮膚系の疾患について学ぶ。						
14	免疫アレルギー系疾患、感染症：免疫アレルギー系疾患および感染症について学ぶ。						
15	まとめ：課題についてグループディスカッションを行い、各自がレポートを提出する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	40	課題に対して主体性をもって取り組み、自分の考えでまとめる。			定期試験	60	講義内容についてどれだけ理解しているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>予習においてはテキストをしっかりと読んでくる〔各回90分〕。 講義の後は、テキストに加え、講義プリントをよく読み、理解する〔各回90分〕。</p>				<p>レポートはコメントをつけて返却する。レポートと試験を合わせた成績不良者には再試験として別のレポートを課す。</p>			
受講生に望むこと	<p>病気のしくみは学習範囲が広く、授業ではカバーできない部分が多い。よって、テキストや配付資料に基づいた講義の予習復習はもとより、日頃より、健康問題に関心を持って、新聞等のマスメディアの記事にも積極的に目を通すことを望みます。</p>			教科書・テキスト	<p>「臨床医学 疾病の成り立ち」改訂第2版 田中 明、宮坂京子、藤岡 由夫(編集) 羊土社 ISBN-978-4-7581-0881-2 C3047</p>		
指定図書/参考書等	<p>なし/「人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療」第2版 竹中優(編著) 医歯薬出版 「人体の構造と機能および疾病の成り立ちII」疾病の成り立ち」田中清(編集) 中山書店</p>			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP220C 生理学実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>食物栄養科学を学ぶものにとって、食物という供給物質について学ぶことはもとより、供給される側の人体の基本的な構造と機能を理解することも大切である。ヒトが食物を摂取することは、消化、吸収、排泄の一連の過程と関連しており、栄養となることは、すべての器官、組織、細胞の構造や機能の健全な成長及び維持に役立っている。すでに学んだこれらの構造と機能について、実習を通して理解を深めることをねらいとしている。実習では、骨標本、人体模型、組織標本などを観察しながら構造や機能的特徴などを学修する。</p>				<p>人体の構造を巨視的（系統的）及び微視的（顕微鏡的）に説明できる。人体の臓器や組織、細胞における特徴的な構造とその機能を関連づけて理解する。人体の構造と機能について体系的に理解する。</p>			
教授方法	講義と実習、視聴覚教材を用いる場合もあります。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、人体の成り立ちと構造と機能を関連付け、体系的に学んでいくことを理解する。。						
2	骨格標本の観察（上肢骨、下肢骨）：人体の骨格を構成する骨の形状や大きさ、特徴を理解する。						
3	骨格標本の観察（頭蓋骨、体幹骨）：骨の構造と特徴、機能を理解する。						
4	人体模型の観察（胸郭部の観察）：胸郭内臓の構造、配置および大きさを観察して理解し、それらの特徴と機能を関連づけて理解する。						
5	人体模型の観察（腹部の観察）：腹部内臓の構造、配置および大きさを観察して理解し、それらの特徴と機能を関連付けて理解する。						
6	組織学研究法：顕微鏡の原理と使い方を理解する。組織標本の作製・観察法を理解する。スケッチの作法を理解する。						
7	組織標本の観察（食道）：食道組織の顕微鏡観察とスケッチを行い、消化管の基本構造と食道組織の特徴と働きを理解する。						
8	組織標本の観察（胃）：胃の構造と働きを理解する。胃の組織標本の観察とスケッチを行い、組織的な構造と働き、胃底腺の存在する細胞の特徴と働きを理解する。						
9	組織標本の観察（小腸）：小腸の構造と働きを理解する。小腸の組織標本の観察とスケッチを行い、組織の構造や特徴と働きを理解する。						
10	組織標本の観察（腎臓）：腎臓の構造と働きを理解する。腎臓の組織標本の観察とスケッチを行い、腎小体の組織的な特徴と働きを理解する。また、尿生成の仕組みや尿生成以外の腎臓の働きを理解する。						
11	消化器系の臓器とその働きと相互作用、臓器の機能がどのように調節されているか内分泌系や自律神経などの働きとの関連などを視聴覚教材を用いて理解し、説明できるようになる。						
12	内分泌系の器官、組織、細胞の構造や働きについて理解する。また、内分泌の調節機構、自律神経との関連性などについて理解し、説明できるようになる。						
13							
14							
15							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	30	実習内容の理解度を評価する。			実習レポート	70	実習課題に対する理解度と到達度
授業外における学習（事前・事後学習等）							
実習内容と関連性のある「人体構造学」や「生理学」の項目についてあらかじめ読んでおく。[30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
				実習課題について作成中に解説を行う。課題については解説後再提出を求める場合もある。			
受講生に望むこと	実習課題に取り組む過程で生じた疑問などは実習中に調べる、質問などし、解決しておく。			教科書・テキスト	人体構造学で使用したテキストを使います。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	色鉛筆（赤・青）を使用します。		

授業科目名	FP230C 栄養生化学実験		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>タンパク質・糖質・脂質・ビタミン・無機質などの栄養素を実験試料としてそれぞれの定性・半定量実験について学ぶ。栄養素を分解する消化酵素を使った実験も行う。それらの実験を通して各栄養素の構造や性質、体内での働きへの理解を一層深める。実験に慣れるために身近なもの、現象を対象にした平易なものからスタートし、未知試料を同定させるなどのクイズ形式のまとめ実験などを組み込み、学生が興味・関心を失わないように工夫する。</p>			<p>実験器具の名称を覚える。 実験機器の使用法を覚える。 各栄養素の化学変化に興味を持つ。 実習書の書かれてあることを具体的な操作へと具現化できる様にする。 段取り、手順をたてられる様にする。 安全に実験を行うことを身につける。</p>			
教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期限内にレポートを提出するものとする。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実験に際しての注意 実験を行う際の最低限の基礎知識を身につける。					
2	pH による野菜色素の呈色変化 自然界にある様々な化学物質が色素として使えることを知る。					
3	タンパク質の性質 - 等電点 , 加熱変性 - タンパク質の基本性質を知る。					
4	タンパク質の性質 -凝固・沈殿- タンパク質の基本性質を知る。					
5	タンパク質 , アミノ酸の呈色反応 タンパク質、アミノ酸の基本性質を知る。					
6	糖の定性 糖の基本性質を知る。					
7	まとめ —タンパク質 , 糖の未知試料の同定実験— 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。					
8	脂質、脂溶性ビタミンの定性 脂質、脂溶性ビタミンの基本性質を知る。					
9	まとめ -脂質、脂溶性ビタミンの同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。					
10	水溶性ビタミン、無機質の定性 水溶性ビタミン、無機質の基本性質を知る。					
11	まとめ -水溶性ビタミン、無機質の同定実験- 未知試料を同定する実験により、学んだことを再確認する。					
12	酵素・アミラーゼによるデンプン分解反応 代表的な消化酵素の働きを知る。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
レポート	70	各実験項目のレポートを提出し、理解と習得されているかを確認する。		取り組み姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
レポート提出状況	15	提出状況・枚数を点数化し加点する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1年次に履修した栄養生化学、栄養学の知識を再確認することを実習と平行して行うこと。〔30分〕 実習書をよく読んで、文章で書かれたことを、操作に変換する訓練をする。〔30分〕 また期末試験のためにレポート整理、データ整理などを怠りなく行う習慣をつける。〔30分〕				毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。		
受講生に望むこと	はじめて化学実験を行う人は、化学実験の楽しさを知って欲しい。栄養素の化学的性質を知ることで、栄養学の理解を深めてもらいたい。			教科書・テキスト	『栄養生化学実験』 坂井良輔（第一回目実験開始時に配布します）	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと	

授業科目名	FP240C 食品学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
各食品名と実物を一致させることから始める。各食品の分類、成分、由来、歴史、それらを使用した代表的料理、加工品等を紹介しながら理解を深める。各項目において金沢、石川県、北陸の御当地食材、特産物、等を詳しく説明を行いたい。				多くの食物、食品を知り、豊かな健康な食生活をおくる基礎知識を身につけてもらいたい。また、地産地消、フードマイレージ、食糧自給率などにも目を向け、様々な角度から食をを考える力を身につける。			
教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	講義のオリエンテーション 食品とは 講義の進め方を理解する。食品についてもう一度再認識する。						
2	食品の分類 食品の需要 食品学 で学んだ復習と食品輸入国日本の食品需要について学ぶ。						
3	穀類 様々な穀類の分類と成分と特徴について理解する。						
4	いも類・甘味類 様々ないも類、甘味類の分類と成分と特徴について理解する。						
5	豆類・種実類 様々な豆類、種実類の分類と成分と特徴について理解する。						
6	野菜類 様々な野菜類の分類と成分と特徴について理解する。						
7	果実類 様々な果実類の分類と成分と特徴について理解する。						
8	きのこ類・藻類 様々なきのこ類、藻類の分類と成分と特徴について理解する。						
9	魚介類、様々ないも類 甘味類の分類と成分と特徴について理解する。						
10	肉類・卵類 様々な肉類・卵類の分類と成分と特徴について理解する。						
11	乳類 様々な乳類の分類と成分と特徴について理解する。						
12	食用油脂 様々な食用油脂の分類と成分と特徴について理解する。						
13	菓子類 様々な菓子類の分類と成分と特徴について理解する。						
14	嗜好飲料 様々な嗜好飲料の分類と成分と特徴について理解する。						
15	調味料および香辛料類・調理加工食品類 様々な調味料および香辛料類、調理加工食品の分類と成分と特徴について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身についているか確認する。			取り組み姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常の食事と関連づけて、口に入る食材すべてに興味を持つ。その都度、教科書を開け、知識を確認することが望ましい。[30分]				特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	日常の調理、料理、食材、食品を再度見直す機会としてもらいたい。			教科書・テキスト	栄養科学シリーズ『食べ物と健康、食品と衛生 食品学各論 第3版』小西洋太郎 辻 英明 渡邊 浩幸 細谷 圭助 講談社サイエンティフィック ISBN978-4-06-155385-9 栄養科学シリーズ『食べ物と健康、食品と衛生 食品加工・保蔵学』海老原 清 渡邊 浩幸 竹内 弘幸 講談社サイエンティフィック ISBN978-4-06-155395-8		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP250C 食品衛生学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
食品の生産から加工、流通、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性確保について学ぶ。食品安全関連法規を学び、食品衛生行政について理解する。				日常の食生活で起こっている食中毒、または行われている食品添加物使用、表示方法などを理解し、生活を送るにあたって役にたつ学問、知識であることを再認識する。			
教授方法	授業は教科書、板書、プリント、パワーポイントなどを使った講義形式によって行う。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	食品の安全性：食品衛生と微生物：食品の安全性の確保 食品衛生の目的 微生物の種類を理解する						
2	食品の変質：食品成分の変化 腐敗、鮮度の判定 油脂の変敗を理解する						
3	変質の防止：変質の原理 変質の制御法を理解する						
4	食中毒：食中毒の分類と発生を理解する						
5	食中毒：細菌性食中毒の種類、特徴、病原性、症状を理解する						
6	食中毒：ウイルス 寄生虫 自然毒による中毒を理解する						
7	食品と寄生虫疾患：寄生虫の種類、生態、感染経路、予防法を理解する						
8	食品と感染症：経口感染症と病原体、人獣共通感染症、プリオン感染症を理解する						
9	食品汚染物質・残存物質：カビ毒、農薬、PCB、ダイオキシンについて理解する						
10	食品添加物：食品添加物の種類、性質、役割、安全性の評価、使用基準を理解する						
11	食品の包装：機能、種類、性質、衛生性、安全性を理解する						
12	食品衛生管理：コーデックス、HACCPシステムを理解する						
13	食品の表示と規格：表示法の概略、規格基準、成分規格を理解する						
14	食品安全行政：食品安全行政の対象と範囲について理解する。						
15	食品安全関連法規：食品安全基本法、食品表示法、調理師法、製菓衛生師法などを理解する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末テスト	70	教科書、プリント、それらのコピーを持ち込み可とし、学習したことが身についているか確認する。			取り組み姿勢・態度	30	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
この講義の開始前に高校で履修した化学、生物、理科に関する部分を再度通読しておく。また、分からない用語はインターネット、辞典等で調べ、疑問点を後に残さないようにする。[30分]				特定の項目の問題に関して、正答率が低かった場合は、理解の補強のために補講を行う場合がある。			
受講生に望むこと	口頭で述べる、板書する、教科書に書かれてある、それぞれの内容を上手くまとめ、関連させ、体系的に理解する力を身につける。さらにそのような学習が将来、専門分野を学ぶにあたっての基礎力となることを目標とする。また、学んだことを日常の食生活、自分の健康維持に活かして欲しい。			教科書・テキスト	食べ物と健康 食品衛生学 食の安全と衛生管理 岸本 満 編集 中山書店 ISBN978-4-521-74290-8		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FP260C 食品学実験			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	坂井 良輔						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士・フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
食品学 および食品学 で学んだ各食品に含まれる栄養素と食品成分とを定量する。そして食品成分表に載っている値もしくは食品に表示されている値と比較検討考察して、食品と栄養素への認識を新たにする。食品学と食品学 で学んだことを実際に確認してみる。				栄養生化学実験で学んだことを踏まえ、使用器具の名前と使い方を覚える。試薬の性質と扱い方を注意する。どんな栄養素がどのような食品に含有されるのかを知る。			
教授方法	実験のねらい、操作、計算法、諸注意の説明の後、実験を行う。指定期限内にレポートを提出するものとする。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	化学実験の基礎知識説明 中和滴定による酸力価とアルカリ力価検定 今後の実験に使う基本となる酸、アルカリ試薬を調整し、力価計算が出来るようになる。						
2	中和滴定による酸力価検定 食酢中の酢酸の定量 中和滴定により、されに実験技法を高める。						
3	酢酸の定量 塩分の定量 身近な食品の化学成分も定量出来ることを知り、実験技法のさらなる上積みをする。						
4	水酸化ナトリウム再滴定 総窒素の定量・水分の定量 濃度が高い酸、アルカリ試薬の取り扱いの技法を習得する、蒸留装置を組める。						
5	菓子類と栄養 パン、ケーキ、クッキー類に使われているバター、マーガリンのケン化価、ヨウ素価による油脂の化学特徴の測定 環流装置を組めるようになる。						
6	ソモギー変法による清涼飲料水 機能性飲料水中の還元糖の定量 短時間に多くの操作を行える力をつける。						
7	牛乳、乳飲料 機能性飲料中のカルシウムの定量 キレート滴定の原理を理解し、微妙な色の変化を識別出来る様になる。						
8	ハウレン草中の鉄の定量 シュウ酸の定量 灰化操作、化学成分の抽出を習得する。						
9	ハウレン草中の鉄の定量 光度計の原理と使い方を習得する。						
10	食品の酵素的褐変、非酵素的褐変を再現し、その仕組みと防止する条件を探る。						
11	菓子類と栄養 菓子類に使われるいるイチゴ、柑橘類にビタミン C が本当に多いのか？数種類をものを対象に測定し、比較する。						
12	ワインのアルコールの定量 ワインを対象として選び、記載濃度と測定結果を比較し、考察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	70	各実験項目のレポートを提出し、理解と習得されているかを確認する。			取り組み姿勢・態度	15	私語、居眠り等が履修の意欲低下の現れと判断された場合は減点の対象となる場合がある。
レポート提出状況	15	提出状況・枚数を点数化する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
この実験で扱う食品の多くは、日常の食生活や実習で使用するものである。日々、それらを食品学実験から得た知識の上になつて、扱い、活用する習慣をつける。[30分]				毎回のレポートにおいての質問をしっかりと調べ記入すること。同一内容を試験問題とする場合がある。レポートにある質問にはレポート締め切り期限が過ぎた次の講義の際、正解例を口頭で学生へ伝える。			
受講生に望むこと	目に見えない化学成分で栄養素の含有を実感してもらいたい。成分表が栄養素の化学成分測定・定量から成り立っていることを再認識してもらいたい。			教科書・テキスト	『食品学実験』 坂井良輔（第一回目実験開始時に配布します）		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	白衣と安全メガネ（ゴーグル）着用のこと		

授業科目名	FP270C 食品衛生学実験			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	西 正人						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実験
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>食品の安全性を担保することは食品を扱う者にとって人の命に関わる最も重視すべき事柄であるといえる。食の安全を保証する手段として、試験・検査を行い、適切な判断を下して正確な情報を提供することが栄養士の業務において要求されるといえる。実習では市販の食品を試料として実験を展開する。その内容は微生物やその代謝産物に関する項目、食品添加物、水質基準、食品の物理化学的性質と保存性との関連などをテーマとして扱い、食品衛生に関する基礎的な知識の獲得さらに、実験的手法を通して食品衛生の理解や実践能力を養う。</p>				<p>食品検査に関する公定法やこれを補完する「食品衛生検査指針」や「衛生試験法・注解」が利用されている。これらの基本的な原理や方法の概要の理解さらに、食品衛生に関する「試験・検査」および「判定」の目的と意義を理解する。</p> <p>実験では大きく分けて微生物学的実験と理化学的実験を行うが、両実験をとおしてサンプルの扱い方や器具、試薬、操作方法の基礎を習得する。</p> <p>実験後のレポート作成を通して、データ整理や統計処理など実験・研究において必要な報告書作成の基本を習得する。</p> <p>本実験を通して食品衛生学の基本的な知識の確認を行う。</p>			
教授方法	講義と実験						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	理化学実験における注意事項、実験器具と操作方法、有効数字や統計処理など実験データなどの数値の扱い方を学習する。						
2	食品の保存性や保存条件を考慮する評価項目として食品の水分活性がある。水分活性の測定における実験を通して、その測定原理やコンウェイ拡散ユニットの取扱、実験結果の評価方法を学ぶ。						
3	水道法に基づく水質基準項目について市販のミネラルウォーターや市水を用いて測定を行う。さらに試飲を行い、サンプルの理化学的特徴と官能的评价との関連を調べる。						
4	食品の腐敗や変質などの品質劣化の程度の指標となる一般生菌数について、生食野菜で測定する。一般生菌数の測定に必要な消毒や滅菌、無菌操作、培地の調整などの微生物試験の基礎を実践する。さらに、実験結果からデータの作成と評価方法についても実践する。						
5	光学顕微鏡（明視野顕微鏡）を用いて、食品サンプル中の細菌を観察する。観察では細菌の染色などの標本の作成方法や光学顕微鏡を使った細菌の観察方法を習得する。また、実験を通して細菌の形態的知識の理解度を深める。						
6	魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物が分解することによって生じる揮発性塩基窒素量をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する。						
7	魚肉の自己消化によって生じたペプチドやアミノ酸を微生物が分解することによって生じる揮発性塩基窒素量をコンウェイ微量拡散法を用いて測定し、魚介類の鮮度判定の手法や判定における知識などを習得する。						
8	分離・精製された酸性タール色素についてペーパークロマトグラフィーや可視光線における吸収スペクトルの極大波長による定性試験を行う。それら色素の定性試験による判定の論理的考え方や色素分離に用いる羊毛染色法の原理について学習する。（1）						
9	分離・精製された酸性タール色素についてペーパークロマトグラフィーや可視光線における吸収スペクトルの極大波長による定性試験を行う。それら色素の定性試験による判定の論理的考え方や色素分離に用いる羊毛染色法の原理について学習する。（2）						
10	漂白剤として用いられている亜硫酸塩を蒸留によって留出・精製する。実験では蒸留装置の組み方や蒸留の原理を習得する。また、二酸化硫黄の簡易定性試験方法として亜硫酸イオンの定量試験紙を用いた方法を習得する。						
11	市販の加工食品から、ソルビン酸又は、ソルビン酸 K を水蒸気蒸留によって留出・精製する。水蒸気蒸留の原理や水蒸気蒸留装置の組み方や実験操作を習得する。						
12	水蒸気蒸留によって精製したソルビン酸をチオバルビツール酸と反応させ比色定量する。ソルビン酸の理化学的性質や比色計を使った測定方法などを習得する。また、ソルビン酸と他の食品添加物や食品成分との反応生成物についても学習する。						
13							
14							
15							
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実験レポート	50	実験の目的を理解し、データを適切に統計処理する。実験結果や既存の知見などから実験を全体をとおして推察できることが述べられているかを評価する。			期末試験	50	実験で用いた原理、授業で触れた食品衛生に関わる専門知識の理解を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
レポート作成時に食品衛生学で学んだことや食品衛生学のテキストなども参考にすることでより食品衛生に関する理解が深まる。[40分]				実験の説明時にレポート作成におけるポイントなども説明する。			
受講生に望むこと	実験は失敗しても構いませんので積極的に参加してください。実験操作や手順などを振り返り、なぜ失敗したかを検証することで失敗からより多くのことを学ぶことができる。			教科書・テキスト	『食品衛生学実験』 杉山章 岸本満 和泉秀彦 編 2016年 ISBN 978-4-86015-396-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD200C 応用栄養学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	依 万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>応用栄養学では、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。まず、栄養管理の基本的な手技の習得を目指す。次に、日本人の食事摂取基準（2015年版）の考え方を理解し、ライフステージの変化に伴う生理的特徴や栄養状態に対応した栄養管理の考え方や方法を学習する。さらに、運動時及び特殊環境における栄養管理の習得を目指すこととする。</p>				<p>身体状況や栄養状態に応じた栄養管理（栄養ケアマネジメント）の考え方を理解する。 日本人の食事摂取基準（2015年版）の考え方を理解する。 各ライフステージにおける生理的な変化や栄養状態の特徴、それらに対する栄養管理のあり方を理解する。 運動時や特殊環境下での代謝変化やその際の栄養摂取方法を理解する。</p>			
教授方法	講義。教科書、パワーポイント、プリントを用いて行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	栄養ケアマネジメント： 栄養ケアマネジメントの定義やプロセス 栄養スクリーニング 栄養ケア計画の実施・モニタリング・評価、について理解する。						
2	日本人の食事摂取基準（2015年版）：食事摂取基準の 目的と策定の基本方針、活用のための理論と方法 各指標の定義、について理解する。						
3	日本人の食事摂取基準（2015年版）：エネルギーおよび各栄養素の算定根拠について理解する。						
4	妊娠期：妊娠期の生理的特徴を理解する。						
5	妊娠期：妊娠期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
6	授乳期：授乳期の生理的特徴を理解する。						
7	授乳期：授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
8	新生児・乳児期：新生児・乳児期の生理的特徴を知り、その未熟性を理解する。						
9	新生児・乳児期：新生児・乳児期の栄養ケアマネジメントと栄養補給方法を理解する。						
10	成長期：成長期の生理的特徴を理解する。						
11	成長期：成長期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメントについて理解する。						
12	成人期： 成人期の生理的特徴 成人期に特徴的な食生活と生活習慣病との関連 生活習慣病予防のための栄養ケアマネジメント、について理解する。						
13	高齢期： 高齢期の生理的特徴 高齢期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養ケアマネジメント、について理解する。						
14	運動・スポーツと栄養： 運動時の生理的特徴とエネルギー代謝 運動と栄養ケアマネジメント、について理解する。						
15	環境と栄養：ストレスおよび特殊環境条件下における生理的特徴と栄養ケアマネジメントについて理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
単位認定試験	80	講義内容についてどれだけ理解しているか			授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>事前学習：教科書の当該箇所を読んでおく。[30分] 事後学習：教科書・配布プリントを参照し、授業で扱った内容の理解を深める。[30分]</p>				<p>毎回、前回の授業内容について質問をし、理解できているか確認を行う。</p>			
受講生に望むこと	応用栄養学は栄養士の実践活動の根幹をなすものです。将来、様々な状況に対応できる応用力のある栄養士となれるよう、栄養管理の基礎を意欲的に学んでください。			教科書・テキスト	『カレント 応用栄養学』 辻悦子編著、建帛社、2014年 ISBN 978-4-7679-0511-2		
指定図書/参考書等	なし/日本人の食事摂取基準2015年版（第一出版）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD210C 臨床栄養学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	三井 悦子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。				傷病者の病態と栄養との関係を理解する。 適切な栄養管理を行うための、栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。 食品と医薬品の相互作用を知り実践に役立てることができる。 食物から人体が構成されていることの認識を深めることができ、家族や自己の健康のための栄養管理が実践できるようになる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	病院での管理栄養士、栄養士の業務、また最近の新しい話題について紹介する。：臨床栄養とはどんなものなのかイメージできるように。 食事摂取基準について：栄養管理の基本となる食事摂取基準の意味、使用方法を習得する。						
2	人体の構成、代謝、消化と吸収について：主に人体の構成、ホメオスタシスについて理解する。						
3	食品の栄養素と機能について：食品の機能を理解し特定保健用食品と特別用途食品、食品と薬との相互作用を理解する。						
4	栄養補給法について：経口栄養法 経管、経静脈栄養法について理解する。						
5	医療施設、介護福祉施設の栄養ケアについて：栄養管理システム、栄養ケア、マネジメント、クリニカルパス、リスクマネジメントの意味を理解する。						
6	栄養アセスメントと栄養量の算出について：栄養スクリーニング、栄養パラメータ、検査値について理解する。						
7	チーム医療について：病院のチーム医療、緩和、褥瘡、摂食、嚥下リハビリテーション、地域連携について、またクリティカルケア、ICUの意味を理解する。						
8	栄養記録について：POS、POMR、SOAPの意味を理解する。						
9	栄養障害：低栄養（褥瘡を有する）、及びブレデンスケールについて：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
10	代謝疾患（肥満症、メタボリックシンドローム）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
11	代謝疾患（糖尿病、妊娠糖尿病）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
12	代謝疾患（脂質異常症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
13	代謝疾患（高尿酸血症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
14	消化器疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
15	消化器疾患（胃・十二指腸潰瘍、胆石症・胆嚢炎）：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。試験範囲、形式、評価基準は後日掲示する。			毎回のレポート提出	30	指定の用紙を用い、テーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。
授業参加状況	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
シラバスに準じて事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。[30分] レポートを記載する際には、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]				レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 評価やコメントに対するの質疑にはその都度対応する。			
受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。また将来管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。			教科書・テキスト	『新しい臨床栄養管理 第3版』渡邊早苗他編（医歯薬出版株式会社）2010年3月 ISBN：978-4-263-70575-9、 『日本人の食事摂取基準 2015年版』（第一出版）2014年8月 ISBN：978-4-8041-1312-8		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD220C 臨床栄養学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	三井 悦子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は学科必修科目であり、資格取得に必要な学びを行なうための入門科目である。実際の病院での献立例、栄養指導、栄養アセスメントなどの実例を交えながら、テキストを中心に病態と栄養管理の基礎を概説する。また、管理栄養士の国家資格を取得する際の臨床栄養の基礎的な内容である。				適切な栄養管理を行うための、栄養ケアプランの作成、実施、評価の流れを理解する。病態別の食事内容について理解し使用可能食品や不可食品、特別用途食品、形態などを知りその使用を習得する。病院では特に多職種との連携が必要であり、また栄養指導においても優れた感性、コミュニケーション能力が要求される。その技法を習得する。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	消化器疾患（膵炎、肝炎）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
2	消化器疾患（肝硬変、脂肪肝）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
3	循環器疾患（高血圧症、妊娠高血圧症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
4	循環器疾患（心疾患、動脈硬化症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
5	腎疾患（急性腎炎・急性腎不全・慢性腎臓病）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
6	腎疾患（糖尿病性腎症、透析）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
7	腎疾患（ネフローゼ症候群、小児腎疾患）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
8	内分泌疾患（甲状腺機能亢進症）、感覚器・神経疾患（脳梗塞）・クリティカルケア（外傷・熱傷）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
9	血液疾患（貧血）、筋骨格疾患（骨粗鬆症）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
10	癌（胃癌）、術前・術後（短腸症候群）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
11	嚥下機能障害（嚥下障害）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
12	乳幼児・小児疾患（先天性代謝異常症、食物アレルギー）について：病態の生理、生化学、臨床成績、治療を理解する。						
13	外来患者（個人）への栄養管理と栄養食事相談について：個人と集団の指導の違いを理解しコーチング法を習得する。						
14	外来患者（集団）への栄養管理と栄養食事相談について：個人と集団の指導の違いを理解しコーチング法を習得する。						
15	QOLの向上について：ターミナルケアとホスピス、在宅医療、障害者への取り組みと栄養士の関わりを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	50	各回の講義内容のポイントを理解しているか。試験範囲、形式、評価基準は後日掲示する。			毎回のレポート提出	30	指定の用紙を用い、テーマのポイントを講義やテキスト、他の資料などを参考にして毎回記載し、提出する。
授業参加状況	20	出席状況、授業への取り組み姿勢。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
シラバスに準じて事前にテキストに目を通し、予習をして授業に臨む。[30分] レポートを記載する際は、講義、テキストの他、図書館等にある参考書、資料も読むことにより、理解を深める。[90分]				レポートは2週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 評価やコメントに対するの質疑にはその都度対応する。			
受講生に望むこと	臨床栄養は自己や家族の栄養、健康管理に必ず役に立つことを踏まえて毎回の講義に臨むことを期待する。また将来管理栄養士を目指す学生にとっても臨床の基礎的な内容であるためテキストの熟読を望む。提出物の期限を守り、返却されたレポートは保管すること。			教科書・テキスト	『新しい臨床栄養管理 第3版』渡邊早苗他編（医歯薬出版株式会社）2010年3月 ISBN：978-4-263-70575-9、 『日本人の食事摂取基準 2015年版』（第一出版）2014年8月 ISBN：978-4-8041-1312-8		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD230C 応用栄養学実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	依 万里子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「応用栄養学」で学んだ知識を基に、各ライフステージの身体的、栄養学的特徴を踏まえた適正な栄養管理について、講義、献立作成、調理実習を通して理解し、実践的な技術、知識を身につける。実習は特に配慮が必要な乳幼児期、高齢期を中心に行う。</p>				<p>各ライフステージにおける特性と問題点を理解する。各ライフステージの栄養管理に必要な衛生上、調理上の技術を習得する。対象者の身体状況、食生活状況を捉え、栄養学的配慮がなされた献立を作成することができるようになる。</p>			
教授方法	講義、調理実習、献立演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	講義：栄養管理の基礎、献立作成について理解する。						
2	実習：調乳・冷凍母乳・離乳食；生後5,6ヵ月頃（無菌操作法による調乳法を習得する。冷凍母乳の方法を理解する。離乳食を調理し、進め方の目安を理解する。）						
3	実習：離乳食；生後7,8ヵ月頃（生後7,8ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）						
4	実習：離乳食；生後9～11ヵ月頃（生後9～11ヵ月頃の離乳食を調理し、食べ方の目安、食事の目安を理解する。）						
5	講義：保育所給食（乳幼児の発育発達、誤嚥事故防止に配慮した保育所給食業務の留意点について学ぶ。）						
6	実習：保育所給食3歳未満児（3歳未満児の昼食と間食を調理する。3歳以上児との給食形態の違いや調理法、分量などを理解する。）						
7	実習：保育所給食3歳以上児（3歳以上児の昼食と間食を調理するとともに、その献立材料から各班自由に離乳食を展開してみる。）						
8	実習：幼児の間食（幼児期の間食の必要性と与え方を学び、子どもの心と体を育む間食を考える。）						
9	実習：幼児の弁当（弁当の特徴や調理上の留意点を学ぶ。調理法、詰め方は各班で工夫する。）						
10	実習：行事食；クリスマス会（行事のもつ意味を考えながら楽しい雰囲気を出す。各班ごとに工夫する。）						
11	演習：幼児食の献立作成（グループごとに幼児食の献立を作成する）						
12	実習：高齢者の食事（高齢者の身体面、精神面の変化を理解し、健康な高齢者を対象としたメニューを実習する。）						
13	実習：高齢者の食事（高齢者の食生活に変化と潤いを与える行事食について理解する。）						
14	実習：食物アレルギー対応食（幼児期の食物アレルギー対応食の特徴や調理上の留意点などを調理実習を通して理解する。）						
15	実習：作成献立の実習・評価（班ごとに作成献立の調理を行い、試食と評価を行う。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
実習のレポート	60	指定の用紙を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考にして必ず記載する。調理実習のポイント、反省、盛り付け図などを記載する。			幼児の献立演習	30	幼児の特性に応じた献立を立てる。
授業参加状況	10	受講態度、調理実習中の取り組み。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>応用栄養学で学んだ知識を生かせるよう復習しておく。[30分] 作成献立による実習は事前に試作を行う。[90分] レポートをまとめ、1週間以内に提出する。[60分]</p>				<p>レポートは学期内に評価とコメントをつけて返却する。</p>			
受講生に望むこと	実習の目的と内容を十分理解して授業に臨んで下さい。提出物は期限内までに必ず提出すること。返却されたレポートは保管すること。			教科書・テキスト	プリント配布		
指定図書/参考書等	なし/日本人の食事摂取基準 2015年版（第一出版）			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FD240C 臨床栄養学実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	上田 広美					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
臨床栄養学は医学・栄養学の進歩に伴う食事療法の在り方を常に考慮していかなければならない。臨床栄養学の講義で学んだ基礎知識を踏まえ、疾病の改善に欠くことのできない栄養ケアの実践について学ぶ。調理実習や献立演習を通して、個々の患者のニーズに合わせるとともに、病態や栄養状態に基づいて適正な栄養管理ができるよう学びを深める。疾患別の栄養ケアの先に、栄養ケアの概念及び基礎（栄養補給法や基礎実習）を学ぶ。			栄養ケアの概要を理解する。 栄養補給法について、種類や適応を理解する。 疾患別の栄養ケアについて、各疾患の概要を理解する。 「糖尿病治療のための食品交換表」を理解し、患者に指導ができるようになる。 調理実習では、まず基礎実習をしっかりと身につける。さらに各疾患の特徴を十分に理解したうえで、そのニーズに合わせた実習を行い、試食により味や舌触りを体験する。 ビデオを視聴することにより、摂食・嚥下障害の実際を理解する。			
教授方法	講義、調理実習（プリントを配布する）、献立演習、ビデオ視聴					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	講義：栄養ケアの概要・栄養ケアの基礎（栄養ケアの概要を理解する。栄養補給法の種類を学び、その長所・短所、適応と禁忌、合併症などを理解する。）、調理実習に入る前の病院における衛生管理について。					
2	実習：栄養ケアの基礎実習 - 流動食 - （流動食の種類、適応を理解する。具体的に流動食を実習し試食することにより、流動食しか食べることのできない状況を理解する。）					
3	実習：栄養ケアの基礎実習 - 五分粥食 - （軟食の種類を理解し、五分粥食を実習する。五分粥に合わせた副菜を考える。）					
4	実習：栄養ケアの基礎実習 - 全粥食 - （流動食、三分粥食、五分粥食、七分粥食、全粥食と段階を経て常食になることを理解する。）					
5	講義：疾患別の栄養ケア - 高齢者の栄養管理、口腔障害、摂食・嚥下障害 - （口腔障害、摂食・嚥下障害の概要及び機能評価と栄養ケアを関連付けて理解する。食事摂取量の低下の原因と改善の必要性を理解する。）ビデオ視聴					
6	実習：疾患別の栄養ケア - 介護食（段階別） - （ステップ1から3の段階別に調理実習を行うことにより、摂食・嚥下機能に合った傾向からの食事の形態を体験し、調理する技能を身につける。）					
7	講義：疾患別の栄養ケア - 内分泌・代謝疾患 - （肥満症、糖尿病、高尿酸血症、甲状腺機能低下症・亢進症、先天性代謝異常症について各疾患の概要を理解する。）症例検討（グループワーク）					
8	演習：献立演習 - 糖尿病食 - （フードモデルを使って「糖尿病食事療法のための食品交換表」の使い方を理解し、1日分の献立を立てる。）					
9	実習：疾患別の栄養ケア - 低エネルギー食 - （肥満症や糖尿病などエネルギーのコントロールが必要な疾患において、エネルギーを低くおさえる工夫を考える。）					
10	講義：疾患別の栄養ケア - 肝・胆・膵臓疾患、骨・関節疾患 - （肝炎、肝硬変・肝不全、脂肪肝、胆石症、膵炎について各疾患の概要を理解する。骨粗鬆症、くる病、骨軟化症について各疾患の概要を理解する。）					
11	実習：疾患別の栄養ケア - 骨粗鬆症の予防 - （カルシウムを多く含む食材を用いて調理実習を行い、普段の食事の中にどのように取り入れるかを考える。カルシウムの摂取量を食事摂取基準と比較してみる。）					
12	講義：疾患別の栄養ケア - 腎臓・尿路疾患、循環器疾患 - （急性腎臓病、慢性腎臓病、腎不全、透析療法などについて各疾患の概要を理解する。「腎臓病食品交換表」の基本を理解する。脂質異常症、高血圧症、虚血性心疾患、心不全について各疾患の概要を理解する。）					
13	実習：疾患別の栄養ケア - 腎臓病食 - （腎臓病疾患において、特に問題となるたんぱく質、エネルギー、食塩、水分について栄養ケアの実際を考える。腎臓病治療の為に治療用特殊食品を調理実習で使用し、試食することにより体験する。）					
14	講義：疾患別の栄養ケア - 胃・腸疾患、鉄欠乏性貧血 - （胃炎、消化性潰瘍、下痢・便秘、潰瘍性大腸炎・クローン病について各疾患の概要を理解する。鉄欠乏性貧血の概要・診断基準を理解する。）					
15	実習：疾患別の栄養ケア - 鉄欠乏性貧血食 - （鉄含有量の多い食材を使って調理実習を行い、造血機能を高める具体的な栄養ケアを理解する。鉄の摂取量を食事摂取基準と比較してみる。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習レポート評価	60	指定の様式を用い、テーマの特徴を講義やテキスト、他の図書などを参考にして必ず記載する。調理実習のポイント、感想、盛付図、振り返りなどを記載する。		糖尿病の献立演習	20	糖尿病の栄養ケアについて講義及び実習で学んだことを生かし、「糖尿病食事療法のための食品交換表」を用いて1日分の献立を立てる。
授業参加状況	20	出席状況、受講態度、調理実習中の取り組み。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
初回授業において「臨床栄養学実習予定表」を配布するので、テキストにより予習して授業に臨む。[30分] 定期試験を行わず、レポートにより評価するので、レポートを記載する際は、テキスト以外に図書館にある参考書などを参考に自分の覚書でなく、提出することを意識して作成しましょう。[60分] 献立演習は、2週間後までの課題とするので時間をかけてしっかり取り組むこと。[120分]				レポートは3週間以内に評価とコメントをつけて返却する。 献立演習は4週間以内に添削をして返却する。狙いの理解がみられるまで再提出と添削・返却を繰り返す。 評価やコメント等に関する疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。		
受講生に望むこと	疾患ごとの病態や食事療法の方法を理解し、個々のニーズに合わせた栄養ケアをしっかりと学んでください。 実習はまず出席し、グループの仲間と計画的・能率的に行うことが大切です。積極的に取り組んでください。 提出物は必ず期限を守ってください。 返却されたレポートは保管してください。			教科書・テキスト	「トレーナーガイド 栄養食事療法の実際 第11版」 本田佳子編 医歯薬出版 2015年 (ISBN:978-4-263-70633-6) 「糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版」 日本糖尿病学会編 文光堂 2013年 (ISBN:978-4-8306-6046-7)	
指定図書/参考書等	なし / 「第8版 腎臓病食品交換表 治療食の基準」黒川清監修 中尾俊之他編 医歯薬出版 2008年 新しい臨床栄養学 改定第6版 後藤昌義ほか著（南江堂）2014年 日本人の食事摂取基準 2015年版（第一出版）2014年			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FG210C 公衆栄養学			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	梶 真知子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>地域等の健康・栄養問題とそれらを取り巻く諸問題に関する情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養う。集団の健康増進・栄養改善に必要な公衆栄養プログラムを展開するために、公衆栄養マネジメントの概念、プログラム計画策定・実施の手法、栄養疫学・栄養アセスメント手法、プログラム評価のための指標・情報収集の方法を学ぶ。また、わが国の栄養政策、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題等も学習する。</p>				<p>地域等の健康・栄養問題に関心が持てるようになる。 公衆栄養プログラムを計画・実施・評価する手法を理解する。 わが国及び諸外国の健康・栄養問題の現状、課題、政策について理解する。 栄養関係法規を理解する。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	公衆栄養学と関連の深い『公衆衛生学』を履修済み又は受講していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	公衆栄養学の概念と公衆栄養活動（公衆栄養学とは何か、公衆栄養活動の変遷について理解する）						
2	公衆栄養マネジメント総論（公衆栄養マネジメントとは何かを理解する）						
3	公衆栄養マネジメント各論（公衆栄養アセスメントとは何か、プログラムの計画・目標設定を理解する）						
4	公衆栄養マネジメント各論（プログラムの実施について理解する）						
5	公衆栄養マネジメント各論（プログラムの評価について理解する）						
6	栄養疫学概論（栄養疫学とは何か、食事摂取量の測定方法、栄養疫学の研究方法を理解する）						
7	わが国の栄養問題の現状（健康状態・食生活・食習慣・食環境の移り変わりについて理解する）						
8	わが国の栄養問題の課題（健康状態・食生活・食習慣・食環境の課題について理解する）						
9	わが国の栄養政策（公衆栄養活動の歴史、栄養関係法規を理解する）						
10	わが国の栄養政策（国民健康・栄養調査について理解する）						
11	わが国の栄養政策（健康づくり対策の流れ、ライフステージ別の栄養政策を理解する）						
12	わが国の栄養政策（食品に関する栄養情報提供について理解する）						
13	食事摂取基準の概要（食事摂取基準とは何かその概要を理解する）						
14	食事摂取基準の活用（その活用上の留意点を理解する）						
15	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題と政策（公衆栄養活動や栄養士養成制度を理解する）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	各回の講義内容についてどれだけ理解しているか。			授業参加意欲	20	授業中の受講態度・読み取り学習の取り組み姿勢が良好か。
読み取り学習	20	各回に配布する講義内容に関連した新聞記事や資料についてどれだけ読み取れるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>毎回、教科書により予習をして授業に臨む。[30分] 授業後は、教科書・配布資料をよく読み理解を深める。[30分] 日頃から新聞等に目を通し、健康・栄養（食生活、食習慣、食環境等）に関する様々な情報を収集しておく（新聞記事の切り抜き、写し等）。公衆栄養学は、栄養士から管理栄養士をめざす場合にも重要な教科であるため、関連のある「公衆衛生学」とあわせて理解を深める。[30分]</p>				読み取り学習の提出物は添削・コメントをして全ての回の評価終了後に返却する。			
受講生に望むこと	日頃から健康・栄養（食生活、食習慣、食環境等）に関する情報に敏感になってほしい。			教科書・テキスト	『公衆栄養学』第6版 古畑・松村・鈴木編著 光生館 2018年発行 ISBN 978-4-332-02105-6		
指定図書/参考書等	なし/『国民健康・栄養の現状』国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所監修 第一出版			その他・特記事項	必要に応じて資料の配布、視聴覚教材の使用あり。		

授業科目名	FC200C 給食実務論(含計画)			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	必修
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
給食とは、特定の人に対し継続的に提供される食事であり、単なる栄養補給のための食事提供ではなく、実際に食べる量・味・盛り付けも栄養教育の媒体であり栄養管理の一環である。特定給食施設での食事は、喫食者の健康の保持増進や疾病をもつ人の治療を目的としている。病院、学校、事業所、福祉施設等の各特定給食施設の対象者の健康保持・増進、心身の健全な発育・発達、疾病の治療・予防などを目的とした給食の計画、実施、評価までの一連の業務内容を学習し、対象者の栄養改善に寄与できる適切な栄養管理を行うための知識を習得する。更に栄養士、管理栄養士の役割を理解するとともに、給食の運営や関連する業務について、具体的方法を修得する。また関係法令や行政指導等についても学ぶ。				特定給食施設における給食の目的や栄養士の役割について説明できる。関連法規について理解できる。大量調理施設衛生管理マニュアルを理解し、給食施設での調理従事者の衛生管理や衛生事故の予防と対策が考えられるようになる。給食施設ごとの給食の目標や特徴、栄養管理の方法を理解することができる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	給食の定義を理解し、給食の意義や歴史と現状を知り、特定給食施設における給食の位置づけについて学ぶ。						
2	栄養・食事管理の目的を理解し、給与栄養目標量の設定、献立計画及び評価について学ぶ。						
3	給食の安全・衛生管理について、具体例をもとに学ぶ。						
4	給食の調理管理として、食材管理について学ぶ。						
5	給食の調理管理として、調理作業管理について学ぶ。						
6	給食の施設・設備管理として、給食施設内のいろいろな設備について学ぶ。						
7	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、学校給食について理解する。						
8	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、病院給食について理解する。						
9	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、児童福祉施設・保育所給食について理解する。						
10	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、高齢者福祉施設給食について理解する。						
11	保健・医療・福祉・介護における給食施設のうち、事業所給食、その他の給食について理解する。						
12	給食の組織と機能におけるPDCAサイクルの理解と連携及び人事・労務管理を学ぶ。						
13	給食の会計・原価管理の目的を知り、原価構成や財務諸表について学ぶ。						
14	給食の情報処理管理として事務管理の実際について学ぶ。						
15	給食の業務委託と配食サービスについて学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
単位認定試験	70	栄養士に必要な知識が理解できているかを評価する。			課題	20	課題のねらいを理解して記載されているか。また、期日までに提出することを評価する。
授業参加意欲	10	授業態度も含み、学ぶ姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関する部分はテキストを読んで予習、復習してください。[30分] 関連科目とリンクさせ、主体的に学ぶことが大切です。とくに、課題の取り組みでは、図書館を利用して知識を定着させる努力をしてください。[60分]				授業に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	校外実習にも生かせるように、基本的なことはしっかり理解できるように努力してください。			教科書・テキスト	『給食の運営－栄養管理・経営管理－』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建邦社 ISBN978-4-7679-0611-9 『給食経営管理用語辞典』日本給食経営管理学会監修 第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 2018年度版 第一出版 ISBN978-4-8041-1285-5		
指定図書/参考書等	なし / 『給食経営管理論第4版』幸林友男・曾川美佐子他編著 講談社 ISBN978-4-065-14066-6 日本人の食事摂取基準 [2015年版] 第一出版 食事療養のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FC210C 給食管理実習			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士				
授業の概要				授業の到達目標			
給食管理実習 で学んだ知識をもとに計画 (plan)、実施 (do)、検討 (check)、修正のための実行 (action) の PDCA サイクルを活用し、給食対象者に適切で、豊かな食事を提供できるように、自主的に実習する。給食の運営管理の理論を実践し、給食施設の栄養士業務の計画、実施、評価を体得し、給食施設を管理するための技能と栄養士の役割について学習することを目的とする。講義・演習以外、クラスをグループに分け業務を分担して実習を行う。				給食業務を行うために必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供に関する知識が理解できる。 栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方を理解し、その実践力を身につけることができる。			
教授方法	講義・演習と実習						
履修条件	学科指定の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	献立計画 (対象別献立作成) を行う。						
2	調理作業計画: 栄養管理 (実施献立表と給与栄養目標量の評価・嗜好調査及び残食調査のまとめ) を理解する。						
3	調理作業計画: 食材管理 (食材日計表による材料費の評価・食材在庫管理) を理解する。						
4	目標: 食数管理 (発注作業など)、栄養指導媒体作成を行う。						
5	計画に基づく大量調理実習 (検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
6	計画に基づく大量調理実習 (検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
7	計画に基づく大量調理実習 (検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
8	計画に基づく大量調理実習 (検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
9	目標: 評価、振り返り、栄養指導媒体作成を行う。						
10	食数管理 (発注作業など)、調理作業計画、HACCP に基づく衛生管理チェックを理解する。						
11	計画に基づく大量調理実習 (検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
12	計画に基づく大量調理実習 (検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
13	計画に基づく大量調理実習 (検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
14	計画に基づく大量調理実習 (検収・下処理・調理・配膳・食器洗浄消毒及び栄養指導、残量調査、帳票作成など): 業務を分担して実習を行う。						
15	振り返り、まとめを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験	60	試験形式で、栄養士として必要な知識が理解できているかを評価する。		献立作成演習・実習	15	献立作成における栄養評価の確認、実習時における挨拶、身なりなどの基本的な態度と積極性を評価する。	
課題	15	学んだ内容が実習報告書やレポートに的確に記載されているかを評価する。		授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
栄養比率を理解して対象者に合わせた献立作成ができるようにしてください。 [30分] 媒体作成等は、授業時間のほか授業外の学習時間を利用して丁寧に仕上げてください。 [60分] 実習後のレポート提出は、翌日までの課題になります。校外実習においても重要なため丁寧に見やすく書いてください。 [30分] 実習前の準備や持ち物の確認をしてください。				実習中及び実習後の課題は、合同授業時に返却する。 課題及びレポートについては、添削後内容に不備がある場合は再提出、返却を繰り返します。 授業に関する質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	グループ作業が多いため役割分担するので、常に協力して行う姿勢で取り組んでください。 実習中の私語は慎んでください。 調理中は危険を伴うので、緊張感を持って実習を行ってください。 食事や睡眠を意識して体調管理をしてください。 実習時は、持ち物を確認して出席してください。			教科書・テキスト	『給食経営管理実習ワークブック第3版』藤原政嘉編著 (株)みらい ISBN978-4-86015-343-4 『給食の運営-栄養管理-経営管理-』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建帛社 ISBN978-4-7679-0611-9 『給食経営管理用語辞典 (第2版)』日本給食経営管理学会監修 第二出版 ISBN978-4-8041-1339-5 『管理栄養士・栄養士必携 2018年度版』日本栄養士会 第一出版		
指定図書/参考書等	なし / 『給食経営管理論第4版』幸川友男・曾川美佐子他編著 講談社 ISBN978-4-065-14066-6 日本人の食事摂取基準 [2015年版] 第一出版 献立作成等で各自が必要とする参考文献			その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等で問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されない場合があります。		

授業科目名	FC220C 校外実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美・三田 陽子 (代表教員 田中 弘美)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養士			
授業の概要			授業の到達目標			
医療施設・福祉施設・学校などの特定給食施設において、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として必要な知識及び技能を習得することが目的である。特定給食施設の実際を通して、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術・概要について理解するとともに給食の実務等を習得することをねらいとする。			栄養士免許取得のために必要な専門科目の授業・実習で学んだ知識技術を再認識できる。 実際の現場で学んだ貴重な体験から課題を見つけ、今後の学習意欲に結びつけることができる。			
教授方法	講義及び実習					
履修条件	「1年次に開講された栄養士免許取得のために必要な科目」の単位を履修済みの者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習前の指導：実習に向けての心得について確認する。					田中
2	実習先：施設別給食組織の概要と特徴を理解する。					担当栄養士
3	実習先：施設別献立及び給与栄養目標量の算出について理解する。					担当栄養士
4	実習先：オーダーリングシステムを理解する。					担当栄養士
5	実習先：給食の食数管理を理解する。					担当栄養士
6	実習先：食材料管理を理解する。					担当栄養士
7	実習先：大量調理について理解する。					担当栄養士
8	実習先：機械、機具の取り扱いについて理解する。					担当栄養士
9	実習先：衛生管理について理解する。					担当栄養士
10	実習先：給食関係諸報告書等の作成について理解する。					担当栄養士
11	実習先：対象者に対する栄養教育及び栄養相談について理解する。					担当栄養士
12	実習先：対象者の嗜好、喫食状況を調査・集計する。					担当栄養士
13	実習先：対象者の栄養アセスメント・ケアプランを理解する。					担当栄養士
14	反省とまとめ					全員
15	実習報告会					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習先からの評価	65	担当栄養士による評価となる。		報告会の準備・発表	15	報告会の準備を積極的に行ったか、実習における反省を生かし、今後の課題を見つけ、社会に貢献しようとしているか。
事前レポート及び準備	10	取り組み姿勢（事前訪問も含む）。		報告書の提出	10	実習後の整理がきちんとできているか（実習先へのお礼状を含む）。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
1年次に履修済みの栄養士免許取得に必要な科目の復習を十分行ってください。[120分] 図書館などを利用して疑問点を解決できるように努力してください。[60分]				課題及びレポートについては、内容に不備がある場合は添削後再提出、返却を繰り返します。 校外実習に関する質問には随時応じます。		
受講生に望むこと	・実習生としての立場を忘れず意欲的に取り組んでください。 ・事前訪問で指示されたことはきちんと守ってください。 ・包丁がうまく使えるように努力してください。			教科書・テキスト	『臨地・校外実習のてびき』木戸詔子・福井富穂編 ISBN978-4-7598-1195-7 『給食の運営－栄養管理・経営管理－』逸見幾代、平林真弓編著 長田早苗他共著 建帛社 ISBN978-4-7679-0611-9 『給食経営管理用語辞典』日本経営管理学会 第一出版 ISBN978-4-8041-1251-0 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会 第一出版 ISBN978-4-8041-1285-5	
指定図書/参考書等	『給食経営管理論第4版』幸林友男・曾川美佐子他編著 講談社 ISBN978-4-06-14066-6 /日本人の食事摂取基準 [2010年版] 第一出版 食事療養のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編			その他・特記事項	授業参加態度や課題提出等に問題があり、指摘されても改善しない場合は、単位認定されません。実習先の栄養士による評価が「不可」の場合は、単位認定されません。	

授業科目名	FS200C 食品の消費と流通			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	新澤 祥恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
食は人間の生命維持に不可欠であり、食料の安定供給は、我々の日常生活においては重要な課題である。今日、様々な技術の進歩により、食料の生産から消費者に至るまでの流通過程は拡大し、一方で、社会環境、生活環境の変化に伴い、消費者の食生活は大きく変容している。現在の我が国における食品の流通構造を理解し、そこからもたらされる様々な課題を考える。				今日の食市場を理解する。 食品の生産から消費者に至る流通過程を理解する。 外食・中食産業を理解する。 フードマーケティングの考え方を理解する。 食料消費に関わる問題を理解する。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	食市場の変化1：現代の食生活を支える食市場の概況を理解する。						
2	食市場の変化2：食品消費の変化と食生活の多様化を検証する。						
3	卸売流通の役割とそのシステム、さらに中央卸売市場の仕組みを理解する						
4	様々な小売り流通の形態を理解する						
5	外食・中食産業のマーチャンダイジングを理解する						
6	商品の分類における食品の位置づけを理解する						
7	個々の主要食品（米、小麦粉製品、野菜・果物、魚介類、食肉）の流通を理解する						
8	個々の主要食品（鶏卵、乳・乳製品、大豆加工品、漬物、佃煮）の流通を理解する						
9	個々の主要食品（食用油脂、調味料、菓子、茶・コーヒー、清涼飲料水、酒類）の流通を理解する						
10	フードビジネスとフードマーケティングを理解する						
11	食料消費における環境問題を理解する						
12	食品流通の安全確保の仕組みを理解する						
13	食料消費を取り巻く課題を理解する						
14	食と農・水産業の課題を考える						
15	これからの食品の消費の在り方考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	70	記述式として記載内容の適切度を評価する			授業参加	30	毎授業への取組姿勢
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
テキストにより、事前に学習内容の把握をする 授業内容をまとめる [各30分]				毎回の小テストは次の授業で返却・解答			
受講生に望むこと	資格試験科目の授業として、テキストの内容を確実に理解し、修得すること 様々な統計資料などに関心を持つこと			教科書・テキスト	『三訂食品の流通と消費』日本フードスペシャリスト協会 建帛社 ISBN：978-4-7679-0538-9 C3077		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FS210C フードコーディネイト論			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト				
授業の概要				授業の到達目標			
現代の「食」の旨みの環境は流動的に変化しており、それに対応するためにもフードビジネスの担い手となるフードスペシャリストが期待される。フードコーディネイト論では、食文化、調理文化、礼儀作法を始め、食に関連したコーディネイトの基本知識を学び、消費者の視点に立った快適な食全般を提供できることをねらいとする。				授業を通して、食に関するコーディネイトに必要な知識の習得と実践力を身につけることができるようになる。 食生活の諸問題を広い視野に立って考え、問題解決に向けて活動できるようになる。			
教授方法	テキスト及び配布資料による講義。DVD 視聴もある。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	五感によってとらえられる生理的なおいしさ、その他、おいしさに及ぼす影響、おいしさの本質を理解し、ホスピタリティやアメニティについて学び、フードコーディネイトの基本理念であるもてなしの心について理解する。						
2	食事とは何かを概観したうえで、日本人の食生活の歴史的な成り立ちを学ぶことを通して、人間の食事は単に生命維持のためばかりではなく、文化的社会的に大きな役割を担うものであることを理解する。						
3	世界の国々の食事の特徴や進行しつつある食のフュージョン（融合）やスローフード運動などのついて考え、日本人の食事がどのように変化しながら現代に至ったかを理解する。						
4	日本料理、中国料理、西洋料理について、各料理様式の基本的な食器・食具などのテーブルウェアと食卓のコーディネイト（テーブルコーディネイト）を理解する。						
5	食卓のコーディネイトでは、6W3H にふさわしい食事・料理形式に適した食卓のスタイルを構成することを理解する。また、食器・食具の配置（テーブルセッティング）については、国によってそれぞれの決まりごとがあるので、それらの基本知識を身につける。						
6	食卓におけるホスピタリティの精神の重要性及びサービスとマナーについての基本理念と学び、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。						
7	第 6 回に引き続き、日本、中国、西洋の各料理のサービスとマナーの特徴を理解する。						
8	ディナーとブッフェ形式およびワインについてやパーティの種類とパーティプランニングの基本事項を理解する。						
9	献立と献立を構成する料理内容の企画立案であるメニュープランニングの目的を学び、各国の料理様式の基本構成を理解する。						
10	第 9 回に引き続き、各国の料理様式の基本構成を理解する。						
11	食空間のコーディネイトの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素それぞれに対応したコーディネイトを理解する。						
12	食空間のコーディネイトの基礎を学び、食空間を売り場、食事空間、キッチンに区別した素それぞれに対応したコーディネイトを理解する。						
13	フードサービスビジネスの動向と特性、マネジメントの基本についての概要を理解したうえで、フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、コンセプトの作成について理解する。						
14	フードサービス店舗（レストラン）の企業を前提にして、立地選定、店舗選定、投資計画・収支計画の作成、損益分岐点売上高の算出などを事例を通して理解する。						
15	実践現場における食企画の基本的な流れと企画を実践するための必要不可欠な基礎スキルについて理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
単位認定試験	70	試験形式で、フードスペシャリストに必要な知識が理解できているかを評価する。			レポート課題	20	テキストの内容に応じた課題に対する取り組みを評価する。
授業参加態度	10	授業の態度や姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[15分] フードサービスが身近に感じるデパートなどの食品売場を題材にしてレポート課題に取り組むときは、自分の目で見たり聞いたり調べたりしてください。[30分] 図書館を利用し、教養を身につけ視野を広げる努力をしてください。[60分]				授業に関する確認問題を行い、次回に返却します。 質問には随時応じます。			
受講生に望むこと	毎日の生活に活かすことのできる内容ですから、自分の生活に取り入れてください。 興味を持ったことを図書館を利用して積極的に調べるなど、知識を広げていく努力をしてください。			教科書・テキスト	『三訂 フードコーディネイト論』（社）日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2012年 ISBN978-4-7679-0440-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FS220C 官能評価・鑑別論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	三田 陽子					
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	フードスペシャリスト			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>食品評価の方法には理化学的測定（化学的・物理的）によるものと官能評価がある。現代の食環境は多種多様な食品が流通しており、食品を適切に評価するための知識や技能も多岐にわたっている。この授業では、食の専門家として適切な食品選択が出来るように、食品の評価の中でも官能評価、化学的評価、物理的評価を学ぶ。さらに各食品ごとの鑑別法について理解を深める。</p>			<p>官能評価の特徴と方法について理解している。 食品そのものを評価するための基準や指標がわかる。 食生活の様々な場面で、適切な評価の方法をあてはめて考えることができる。 消費者の食品選択において適切な助言をするための知識を習得している。</p>			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食品の品質とは：食品の特性と品質について理解する。					
2	官能評価とは：官能評価の意義と問題点について理解する。					
3	官能評価の実施法：官能評価を実施する際の、パネル構成、試験の管理、手法の選択などを理解する。					
4	官能評価の手法（演習）：2点比較法（クッキー、紅茶）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
5	官能評価の手法（演習）：3点比較法（りんごジュース）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
6	官能評価の手法（演習）-1：評点法（チョコレート）を用いて実験を行い、官能評価の手法について理解を深める。					
7	官能評価の手法（演習）-2：実験結果から平均値と標準偏差を求め、評点法の解析方法について理解を深める。					
8	官能評価の手法（演習）-3：分散分析を行い、評点法の解析方法について理解を深める。					
9	化学的評価：食品の品質としての水分と色を学び、食品成分と品質との関係について理解する。					
10	化学的評価：食品の糖度及び酸度や魚の鮮度、油脂の変敗度を学び、食品の品質を化学的に評価する方法を理解する。また、近年登場した新しい評価法を学ぶ。					
11	物理的評価：食品の物理的な状態について理解する。					
12	物理的評価：食品のレオロジー、テクスチャーについて理解する。					
13	まとめ：官能評価を総合的に理解する。					
14	まとめ：化学的評価、物理的評価を総合的に理解する。					
15	個別食品の鑑別法（米）：米の品質評価について理解する。					
16	個別食品の鑑別法（麦）：麦類の品質評価について理解する。					
17	個別食品の鑑別法（トウモロコシ、雑穀、イモ類）：トウモロコシ、雑穀、イモ類の品質評価について理解する。					
18	個別食品の鑑別法（豆類、種実類）：豆類、種実類の品質評価について理解する。					
19	個別食品の鑑別法（野菜類、キノコ類）：野菜類、キノコ類の品質評価について理解する。					
20	個別食品の鑑別法（果実類、海藻類）：果実類、海藻類の品質評価について理解する。					
21	個別食品の鑑別法（魚介類）：魚介類の品質評価について理解する。					
22	個別食品の鑑別法（肉類、卵とその加工品）：肉類、卵とその加工品の品質評価について理解する。					
23	個別食品の鑑別法（乳と乳製品）：乳と乳製品の品質評価について理解する。					
24	個別食品の鑑別法（油脂類、菓子類）：油脂類、菓子類の品質評価について理解する。					
25	個別食品の鑑別法（酒類、茶類、コーヒー・ココア、清涼飲料）：酒類、茶類、コーヒー・ココア、清涼飲料の品質評価について理解する。					
26	個別食品の鑑別法（醸造食品、調味料、香辛料）：醸造食品、調味料、香辛料の品質評価について理解する。					
27	個別食品の鑑別法（その他食品）：インスタント食品、機能性食品などの品質評価を理解する。					

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
28	まとめ 個別食品の鑑別について総合的に理解する。				
29	まとめ フードスペシャリスト業務における官能評価と食品鑑別の意義を理解する。				
30	まとめ 栄養士業務における官能評価と食品鑑別の意義を理解する。				
成績評価方法と基準					
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準
筆記試験	40	官能評価、化学的評価、物理的評価、食品の鑑別についての理解度	実験レポート	20	実験の内容を理解しまとめているか
課題	30	授業の内容を理解しまとめているか	授業参加態度	10	必要なものを準備し、積極的に参加する姿勢が見えるか。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
予習：教科書を読み、重要語句を整理する。[20分] 復習：教科書、配布資料を確認しながら理解を深める。[20分]			提出されたレポートや課題は確認作業が終わり次第返却する。課題によっては返却しないものもある。		
受講生に望むこと	日常生活の中で、食品の品質に関心を持ち、授業で学んだことを応用することに挑戦して下さい。		教科書・テキスト	「三訂 食品の官能評価・鑑別演習」日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2018年 ISBN：978-4-7679-0506-8	
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし	

授業科目名	FT200C 学校栄養教育論		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	田中 弘美・宮丸 慶子・堀 栄子 (代表教員 田中 弘美)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>栄養士と教員の資格を併せもつ栄養教諭の役割と職務について学ぶ。栄養教諭が食に関する授業を行うにあたって必要な理論や知識を学ぶ。それには、学校給食の歴史・変遷や給食を「生きた教材」とするために日本の食文化の理解も必要である。加えて、児童・生徒の発達や健康状態の把握と実態に合わせた効果的な授業の工夫が必要であり、学校組織としての取り組みを考える全体計画、また家庭や地域との連携・調整も必要であることを学ぶ。</p>			<p>栄養教諭制度および食育基本法など関連法規を学び、栄養教諭の役割が理解できるようになる。 栄養教諭の職務内容である「学校給食の管理」と「食に関する指導」が理解できるようになる。 「学校給食の管理」では、栄養管理、衛生管理、物品管理が理解できる。 「食に関する指導」では各教科や道徳・特別活動、総合的な学習の時間、給食の時間と食に関する指導内容との関わりが理解できる。 食に関する全体計画作成とその展開を学び、「生きた教材」としての給食の意義が理解できるようになる。</p>			
教授方法	講義及び演習					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	栄養教諭誕生の背景と意義（食に係わる法令、諸制度、国民栄養の現状について）を理解する。					宮丸
2	児童・生徒の食に関する指導の現状と課題を学ぶ。					宮丸
3	日本と世界の食文化とその歴史（学校給食の歴史と意義を含む）を学ぶ。					宮丸
4	栄養教諭の職務内容、使命、役割について理解する。					堀
5	学校給食等施設における栄養管理、衛生管理、物品管理について理解する。					田中
6	給食の時間における食に関する指導について学び、理解する。					田中
7	家庭科における食に関する指導について学び、理解する。					田中
8	保健体育科における食に関する指導について学び、理解する。					堀
9	道徳・特別活動における食に関する指導について学び、理解する。					堀
10	総合的な学習の時間における食に関する指導について学び、理解する。					堀
11	学校・家庭あるいは学校・地域が連携した食に関する指導（アレルギー、肥満傾向等の個別指導の在り方を含む）について学び、理解する。					堀
12	食に関する指導とその方法 用教材の検討を行う	演習	食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使			全員
13	食に関する指導とその方法 用教材の検討を行う	演習	食に関する指導案・教材作成（指導案作成の手順説明に基づき、指導学年、テーマの設定、使			全員
14	食に関する指導とその方法 演習 食に関する指導案の発表と相互評価を行う。					全員
15	食に関する指導とその方法 演習 食に関する指導案の発表と相互評価と全体のまとめを行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
単位認定試験	30	設問を理解した解答がされているかを評価する。		演習	30	発表の意欲・内容と相互評価への参加態度を評価する。
レポート課題	20	学び取った内容が自分の言葉で表現されているかを評価する。		授業参加意欲	20	指導案作成・教材作成への意欲を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>講義内容に関する部分はテキストを読んで予習してください。[15分] 集中講義の開講前に指定図書のリポートを提出してください。[120分] 指導案作成、教材作成は授業時間も確保しますが、授業外の学習時間をしっかり確保してください。[120分]</p>			<p>指導案作成や教材作成のサポートをします。 授業に関する質問には随時応じます。</p>			
受講生に望むこと	1年次に履修した「教育者論」、「教育方法論」を復習し、教育実習生として授業を行うことを自覚した授業参加姿勢を望みます。			教科書・テキスト	「三訂栄養教諭論 理論と実際」 金田雅代編著 建帛社 ISBN978-4-76792104-4、「小学校学習指導要領」文部科学省編 東京書籍 ISBN978-4-487-28695-9、「中学校学習指導要領」文部科学省編 東京書籍 ISBN978-4-8278-1461-3	
指定図書/参考書等	「学校見聞録 学びの共同体の実践」 佐藤学 小学館 / 「食に関する指導の手引」文部科学省 / 「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～」 文部科学省			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FT110C 教育原理		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>授業の序盤では、教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせている諸要因とそれら相互の関係を理解できるようにする。そして中盤では、教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解できるようにする。さらに終盤では、教育に関する多様な思想、それらと多様な教育理念や実際の教育及び学校との関わりを理解できるようにする。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 ・教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係について考えることができる。 ・家庭と社会による教育の歴史を理解している。 ・近代教育制度の成立と展開を理解している。 ・現代社会における教育課題を歴史的な視点から考えることができる。 ・家庭や子供、学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 ・代表的な教育家の思想を理解している。 			
教授方法	講義					
履修条件	栄養教諭二種免許状取得を希望する者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育の基本的概念 : 教育とは何か (教育とは何かという問いの答えを人間とは何かという問いの中に探す。)					
2	教育の基本的概念 : 教育と教化と形成 (教育は教化や形成とどう違うのか知る。)					
3	教育の基本的概念 : 学校の登場 (学校がなぜ生まれ、どのように発展し、近代学校が準備されたかについて知る。)					
4	: 教育の基本的概念 : 学校とは何か (なぜ、すべての子供が学校に通うことになったのか考える。)					
5	教育の基本的概念 : 学力とは何か (学校教育の中心的な目標は何かを知る。)					
6	教育に関する歴史 : 道徳性の発達と教育 (社会的な規範のひとつとしての道徳性はどのように発達するかを知る。)					
7	教育に関する歴史 : 学習することの意味 (学ぶ喜びを味わうような学習活動を創り上げるためにはどのような工夫が必要なのかを知る。)					
8	教育に関する歴史 : 学校教育制度と教育評価 (教育の場にふさわしい教育評価の在り方とはどのようなものか知る。)					
9	教育に関する歴史 : 求められる学力観と授業観 (生きる力をつける授業とはどのような授業かを知る。)					
10	教育に関する歴史 : 教育課題と教師の力量 (教師はどのように養成されるのか。教師の力量をつくり上げていくためにはどのように努力していけばよいのか知る。)					
11	教育に関する思想 : 西洋教育史・日本教育史に見る教育思想 (時代区分ごとに西洋と日本の教育思想にはどのようなものがあるか知る。)					
12	教育に関する思想 : 我が国の戦前・戦後・現代における教育の理念 (現代における教育の理念は、戦前と戦後の教育の理念とどう違うのか知る。)					
13	教育に関する思想 : 青年期における総合的な学習の意義 (現代社会を生き抜く力 [生きる力] をどのようにつけたらよいか知る。)					
14	教育に関する思想 「社会教育と生涯学習」 (生涯を通じて自由に学習できるようになるためにはどのような制度が必要かを知る。)					
15	教育に関する思想 : よりよい教育を求めて (子供の権利がどのように自覚されてきたかについて知る。)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	・講義内容を正しく理解している。 ・教育原理について自分の考え方を持っている。		中間レポート	15	教育学の歴史について「西洋」「日本」から選択し、自分の考えを交えて書いている。
小テスト	10	・新たな基本的知識を記憶している。 ・教育原理について理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
<p>各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。 [30分]</p> <p>各回の授業では適宜ワークシートを配付するので、授業後、「ミニツクコメント」にコメントする。 [30分]</p> <p>教育の基本概念、歴史、思想など、教育に関しパソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。 [30分以上]</p>				<p>小テストを採点して返却する。 中間レポートを採点して返却する。 定期試験対策を最終回の授業で行う。</p>		
受講生に望むこと	・どんな観点でもよいので、教育または教育の原理に興味・関心をもって授業に臨んでください。			教科書・テキスト	『やさしい教育原理』、田嶋一・中野新之祐・福田須寿美子・狩野浩二著、有斐閣アルマ、1997年出版、ISBN978-4-641-12426-4	
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示、『中学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	FT210C 教育相談（生徒指導法を含む）			開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	南 雅則						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状				
授業の概要				授業の到達目標			
生徒指導の理論及び方法、教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法について学ぶ。また、教育現場の具体的事例を通して実践し得る資質や能力を身につけることをねらいとする。そのために学級集団の指導と個別の課題について、グループワークやグループディスカッションなどを取り入れながら、それぞれのテーマに対する理解や対応を学ぶ。				生徒指導・教育相談の教育的意義について学ぶ。 児童生徒の心理的特徴を理解する。 学級集団づくりや個別の課題への理解と実践力を身につける。 教職員の協働体制と家庭・地域を含めた連携について理解する。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	生徒指導・教育相談の意義と役割：生徒指導と教育相談の意義と役割、両者の違いについて理解する。						
2	児童生徒の心理と児童生徒理解：児童期・青年期のこころからだの特徴、児童生徒理解の方法について理解する。						
3	学校における生徒指導体制：生徒指導体制の基本的な考え方や教職員の協働のあり方について理解する。						
4	児童生徒の理解：児童生徒および学級のアセスメントの実際を「Q-U式学級づくり」を通じ、実践的に理解する。						
5	学級集団の指導：構成的グループエンカウンターを取り入れた学級集団指導のねらいや方法について、実践的に理解する。（グループワーク）						
6	学級集団の指導：社会性と情動の教育（SEL8S）を取り入れた学級集団指導のねらいや方法について、実践的に理解する。（グループワーク）						
7	教育相談に関する理論と基本的態度：臨床的視点とカウンセリングマインドについて理解する。						
8	カウンセリングの基本：カウンセリングの基本的な態度と具体的方法について学ぶ。（ロールプレイ）						
9	個別の課題への対応：いじめ・不登校への対応について、事例を取り上げて支援の方策を考える。（グループディスカッション）						
10	個別の課題への対応：インターネットトラブル・虐待等への対応について、事例を取り上げて支援の方策を考える。（グループディスカッション）						
11	個別の課題への対応：特別な支援を必要とする児童生徒への対応について、事例を取り上げて支援の方策を考える。（グループディスカッション）						
12	事例検討の実際：事例をもとにしたPCAGIP法による事例検討を行い、児童生徒の支援のあり方について考える。（グループワーク）						
13	教師の役割と児童生徒の適応：子どもをとらえる教師の視点とナナメの関係について考える。						
14	保護者との関係づくり・教師のメンタルヘルス：保護者との信頼関係の構築のために教師ができることについて考える。教師を取り巻く状況と教師の支援について考える。						
15	学校における連携と協働：チーム支援体制とスクールカウンセラー、専門機関との連携について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題レポート	60	授業中取り上げたテーマについてのレポート（2回実施）			授業課題	20	毎回のふり返しシート、コミュニケーションシートなどの提出課題
授業への積極的参加	20	グループワークやグループディスカッションなどへの取り組み状況					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
学校現場における様々な問題に関するニュースや新聞記事（Webも可）に積極的に触れ、関心を持ち、報道に日々触れること。〔20分/日〕 授業中取り上げたキーワードについてのまとめと整理〔60分〕				ふり返しシート、コミュニケーションシートは次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。感想レポートは次学期の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	栄養教諭2種免許の取得に必要な授業科目である。単位の修得がそのまま資格取得につながることを自覚し、探究心と学習意欲をしっかりと持って参加してもらいたい。特にワークやグループディスカッションでは積極的な参加を求めます。授業中の私語や携帯電話の使用など、授業に悪影響を及ぼし、改善が見られない場合は場合は退室を指示します。			教科書・テキスト	『生徒指導提要』文部科学省 教育図書 2010 ISBN978-4-87730-274-0		
指定図書/参考書等	なし/授業中に随時紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	FT250C 教職実践演習（栄養教諭）		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一・堀 栄子（代表教員 茶谷 信一）					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、2年間の教職課程学習のまとめとして、実際の教育現場で役立つ知識・技術を、総合的かつ実践的に身につけるために学ぶ科目である。このため、具体的な課題に基づきグループディスカッション、模擬授業、プレゼンテーション等の演習等により、栄養教諭の職務に必要な様々な指導力の定着を図る。			学校組織の一員として、指導に必要な基本的な知識・技術を身につける。食育にかかる学習指導案と教材の作成、それらを使った指導ができる。			
教授方法	演習（グループディスカッション、模擬授業等）、レポート作成等					
履修条件	1年次からの全教職科目の履修					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 科目の到達目標、評価方法、授業方法等を理解する。					全員
2	栄養教諭の意義・役割、職務内容 学校における栄養教諭の実務や役割の重要性等について具体的に理解する。					堀
3	食に関する指導の意義と内容 学校における食育推進の今日的意義とその内容、課題について理解する。					堀
4	食に関する指導の実際 給食指導（準備、食事、後片付け）の実際的な方法を学ぶ。					堀
5	食に関する指導の実際 栄養指導の実際的な方法を学ぶ。					堀
6	食に関する指導の実際 ロールプレイング等を通して、児童・生徒や保護者に対する個別対応の指導力を育成する。					堀
7	学級経営のヒント 学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める。					茶谷
8	学級経営のヒント 学級経営に関する場面指導の課題について、グループ討議等を通して自分の考えを深める。					茶谷
9	特別支援教育 特別な配慮を要する児童への支援について学び、栄養教諭としての関わり方を考える。					茶谷
10	優れた授業から学ぶ 優れた模擬授業を教材で視聴後、学習指導案と対比しながら指導法を学ぶ。					堀
11	優れた授業から学ぶ 優れた研究授業を学習指導案に基づいて教材で視聴し、指導の工夫や気づきを通して指導力を養う。					堀
12	給食指導案と評価表の作成 対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。					茶谷
13	給食指導案と評価表の作成 対象校種や学年に相応しい給食指導案とその評価表を作成し、指導案作成力と評価力を磨く。					茶谷
14	給食指導模擬授業 最も自信が持てるテーマによる5分間の模擬指導を行い、意見交換を通じて指導力の一層の向上を図る。					茶谷
15	まとめと振り返り 子供たちを取り巻く現代の食環境について考察し、食にかかわる社会人としての義務と役割について考える。また、学校における栄養教諭の役割と意義について確認する。					茶谷
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
演習成果	40	模擬授業や場面指導など、様々な演習における成果		レポート	40	課題レポートの提出状況（期限、量、質）
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）+グループ活動等における積極的な役割分担+演習準備				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
課題レポートや模擬指導準備等は、期限を守る こと。[90分]				原則として、提出をうけた課題は、コメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する。また、演習や発表等を行った場合は、その場で指導講評を行う。		
受講生に望むこと	授業では演習に対する積極性や粘り強さ、事前準備の良否等を重視する。このため、これまでに学んだ知識・技術を意図的に演習の中に取込むことが大切である。また、これまでの学びや調べたことを基にして、自分流の方法を工夫することによって、知識や技術、指導力の一層の深化・総合化を図る。			教科書・テキスト	なし(必要に応じて資料を準備する)	
指定図書/参考書等	なし / 『教育実践の理論と方法』長瀬善雄編 教育出版 2017 ISBN 978-4-316-80450-7			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	

授業科目名	FT230C 栄養教育実習指導		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一・田中 弘美・堀 栄子 (代表教員 茶谷 信一)					
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、栄養教育実習の円滑な実施ならびに実習成果の確実な定着のために学ぶ科目である。事前学習では実習に臨むに際しての準備や心構え、学校の実務、学習指導案づくり等を学ぶほか、模擬授業により実際の指導を演習する。事後学習では研究授業の振り返り等による課題の明確化を行うとともに、実習報告書の作成・発表などを通して、必要な実践的指導力を確実に定着させる。			教育実習の意義や目的、心構えなどを理解する。 学習指導案作成、教材・教具の作成など、実習に必須の基本的な知識・技術を習得する。 教職に対する自己の適性を再認識し、教職への意識を一層高める。			
教授方法	講義、演習、グループワーク、レポート作成					
履修条件	科目「栄養教育実習」の並行履修					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、採用と配置 科目の概要、科目の到達目標、学習方法、評価方法等について理解するとともに、栄養教諭の採用状況や採用の方法等を理解する。					田中・茶谷
2	教育実習の目的・意義 教育実習の目的や意義を深く理解し、必要な準備に積極的に取り組む。					田中・茶谷
3	教育実習の形態 校種別、教科別の教育実習の一般的な形態及び栄養教育実習特有の形態について理解する。					田中・茶谷
4	教育実習の事前準備 教育実習の開始までに必要な準備と事前打合せ、実習校の概要の調べ方等について理解する。					田中・茶谷
5	教育実習のあらまし 校種別・教科別の教育実習及び栄養教育実習の期間や内容等について、それらの概要を理解する。					田中・茶谷
6	教育実習生の一週間 教育実習生の毎日の日課と1週間で実習する内容を具体的に理解する。					田中・茶谷
7	教育実習生の心構え 教師に求められる資質や能力、心構えなど、教育実習で知っておくべき基本的な事項を理解する。					全員
8	研究授業と整理会の進め方 教育実習における研究授業の位置づけや進め方について学ぶとともに、その重要性を理解する。					全員
9	学習指導案の基本 一時間の授業で使用する学習指導案の構成(形式)や記載内容について、必要な事項を確認する。					全員
10	学習指導案の基本 学習指導案の記載項目への理解を深めるとともに、簡易な構成である給食指導案の書式をマスターする。					全員
11	授業研究 現役の栄養教諭による授業DVDの視聴を通して、研究授業準備の重要性を理解する。					全員
12	授業研究 優れた授業のDVD視聴を通して、導入、発問、まとめなどの指導の工夫や授業の流れを理解する。					全員
13	栄養教育実習の実務 栄養教諭の教育実習に特有な業務について、その実態や意義等を学ぶ。					全員
14	栄養教育実習の実務 栄養教諭としての教育実習の実務を中心に、その具体的な内容を理解する。					全員
15	食に関する指導の実際 授業や給食時間中の食育指導で用いる学習指導案づくりの実務を学ぶ。					全員
16	食に関する指導の実際 給食時間中における食に関する指導案づくりや、アナウンスによる指導の基本を学ぶ。					全員
17	食に関する指導の実際 授業や給食指導で用いる教材・教具の作り方や使い方の基本を学ぶ。					全員
18	食に関する指導の実際 示範授業の参観を通して、臨牀的場面における食に関する指導法を実践的に学ぶ。					全員
19	先輩の実習に学ぶ 現栄養教諭による講義を通して、学校における栄養教諭の役割を学ぶ。					田中・茶谷
20	先輩の実習に学ぶ 現栄養教諭による講義を通して、学校における栄養教諭の役割を学ぶ。					田中・茶谷
21	給食指導学習指導案づくり 給食指導における学習指導案を作成する。					田中・茶谷
22	給食指導学習指導案づくり 給食指導における学習指導案を作成する。					田中・茶谷
23	給食指導模擬授業 模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。					田中・茶谷
24	給食指導模擬授業 模擬授業を通して指導力を磨くとともに、級友との意見交換により指導案作成や実際の指導に慣れる。					田中・茶谷
25	学習指導案づくり 学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教官の指導を受けて検討を進める。					田中・茶谷
26	学習指導案づくり 学習指導案の原案を作成し、グループで話し合ったり担当教官の指導を受けて進化させる。					田中・茶谷
27	学習指導案づくり 学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。					田中・茶谷

授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標				担当教員	
28	学習指導案づくり	学習指導案を完成させるとともに、指導案に基づき必要な教材・教具の準備、板書計画を立てる。			田中・茶谷	
29	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員	
30	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員	
31	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員	
32	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員	
33	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員	
34	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員	
35	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員	
36	模擬授業	作成した学習指導案や教材等を用いて模擬授業を実施し、意見交換や指導講評を参考に指導案等を改善する。			全員	
37	実習成果の振り返り	教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。			全員	
38	実習成果の振り返り	教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。			全員	
39	実習成果の振り返り	教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。			全員	
40	実習成果の振り返り	教育実習の概要報告・総括を行うとともに、意見交換や指導講評を通じて課題の整理や明確化を行う。			全員	
41	教育実習報告会準備	成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。			田中・茶谷	
42	教育実習報告会準備	成果発表の資料や原稿づくりを通して、実習成果を定着させるとともにプレゼン能力を向上させる。			田中・茶谷	
43	教育実習報告会準備	準備した資料に基づいてリハーサル発表を行い、全員が各自の分担を最終確認する。			田中・茶谷	
44	教育実習報告会	資料を提供し実習成果を発表し合う。			全員	
45	教育実習報告会	資料を提供し実習成果を発表し合う。			全員	
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
課題レポート及び演習成果	40	課題レポートの期限までの提出と質的・量的な内容、模擬授業での成果と指導案の完成度		実習成果としての報告や発表	40	実習成果としての報告書、研究授業、成果発表の取組状況や発表技能
授業への参加状況	20	授業への能動的な参加（発言・応答）＋グループ活動等における積極的な役割分担＋実習準備				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
課題レポートや模擬授業のための準備等は、期限を守ること。[90分]			提出をうけた課題等は、原則としてコメントを付したり添削した上で評価を行い、評価結果とともに次時の授業で返却する			
受講生に望むこと	栄養教育実習で最も重要なのは研究授業に対する周到な準備・実施と事後の振り返りである。このため、時間を惜しまず万全の準備を整えて真摯な態度で模擬授業等に臨むことが大切である。		教科書・テキスト	特に指定せず、適宜資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/教育実習の常識～事例にもとづく必須66項～ 教育実習を考える会編 富丘出版 2008 ISBN 978-4-915442-11-7 栄養教諭養成における実習の手引(第二版) 市場ほか 東山書房 2011 ISBN 978-4-8278-1444-6 『栄養教諭養成のための栄養教育実習マニュアル』赤松利恵 他著 現代図書 2009 ISBN 978-4-86299-015-0		その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得にはこの科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。		

授業科目名	FT240C 栄養教育実習		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	茶谷 信一・田中 弘美 (代表教員 茶谷 信一)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、栄養教諭二種免許の資格取得を目指す学生が、大学で学んだ知識・技術を実地に応用し、体験を通して確実に習得するための科目である。このため、学校現場での児童・生徒への食に関する指導の基本、校務分掌、給食指導など栄養教諭に求められる様々な知識・技術を、実習を通して深化・総合化する。なお、実習は小学校(中学校)における1週間の校外実習(栄養士資格取得)と1週間の栄養教育実習から成る。			大学で学んだ知識・技術を学校現場で実際に応用できる。実習校での教育活動及び給食管理実務で基本的な知識・技術を定着させる。児童・生徒との直接の触れ合いを通して、教職への意識を一層高める。			
教授方法	栄養教育実習(研究授業、給食指導、授業参観など)、給食管理実習					
履修条件	科目「栄養教育実習指導」の並行履修					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	実習オリエンテーション及び実習校の学校経営 服務等の諸注意並びに実習校の管理・運営方針等について説明を受ける。					全員
2	学校の概要と校務分掌 児童生徒の現状や校務分掌組織等の説明を受け、実習に関わる連絡等が必要な部署を確認する。					全員
3	教育活動の参観・補助 学級活動や給食の時間(配膳指導や後片付け指導)等での、食に関する指導の参観、補助を行う。					全員
4	教育活動の参観・補助 朝の会や終わりの会、担任の授業、特別活動、清掃、他学年の授業などの参観、補助を行う。					全員
5	給食管理作業の参観・補助 厨房における調理作業の確認・補助と、各教室への配送までの経路を参観・補助する。					全員
6	学習指導案づくり 教育実習校での研究授業テーマの決定と、必要な準備や手順について担任・栄養教諭から指導を受ける。					全員
7	学習指導案づくり 研究授業用指導案の作成を進め、疑問点を相談するなどして担任・栄養教諭から必要な指導を受ける。					全員
8	教材・教具等の作成 学習指導案に基づく板書計画、教材プリント等について、担当教諭に原案を示して必要な指導を受ける。					全員
9	学習指導案づくり 研究授業指導原案を完成させて提出するとともに、関係者に回覧し必要な指導を受ける。					全員
10	学習指導案づくり 指摘を受けた箇所を改善して学習指導案を完成させ、校長等への配付を兼ねて当日の参観を依頼する。					全員
11	教材・教具等の作成 当日の授業をイメージして、教材・教具を完成させ、必要数を期限までに確実に準備する。					全員
12	研究授業の準備 準備した学習指導案および教材・教具、教室等の最終確認と、本番をイメージしてのリハーサルを行う。					全員
13	研究授業の実施 学習指導案に基づいて、参観者を前にして児童・生徒を対象とした45(50)分間の授業を実践する。					全員
14	研究授業反省会 授業終了後、関係者に授業所感を発表するとともに、改善点等の指導を受けて指導力の一層の向上を図る。					全員
15	実習記録簿等の整理 研究授業準備等の実習記録、日々の学びや所感等の記録を行い、毎日放課後に担当者の指導を受ける。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
実習状況	70	実習校で誠実に勤務し、かつ研究授業をはじめとする実習プログラムに積極的に取組んで実習成果を得るとともに、学校教職員と望ましい人間関係を保つ。		実習記録簿	15	実習記録簿の各項目及びまとめ報告に正確かつ十分な記載があり、指定期日までに提出する。
実習校での研究授業	15	研究授業における成果、研究授業のために作成した学習指導案				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
期間中における翌日の実習のための事前準備[60~120分] 実習中及び実習後の提出課題の作成[30分]				実習校における研究授業を担当教官が参観するとともに、大学へ戻ってからのクラス報告発表では、課題の整理や指導講評を行う。		
受講生に望むこと	誠実な態度で、時間に余裕をもって教育実習に臨むことが重要である。特に研究授業に必要な学習指導案の作成や教材・教具の準備に関しては万全を期す必要がある。また、児童・生徒や実習校の教員に関わる問題については、自分勝手な判断をしないで、必ず教職員の誰かに速やかに連絡・相談して、指示を受けて対処することが必須である。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/食に関する指導の手引き(文部科学省) 東山書房 2011 ISBN 978-4-8278-1492-7			その他・特記事項	学童保育や子ども会等でのボランティア活動などを通して、可能な範囲で日頃から児童・生徒と接する機会を持つことが望ましい。なお、栄養教諭二種免許の取得には、この科目を含めて開講される全ての教職科目を履修する。	

授業科目名	FT150C 日本国憲法		開講学科	食物栄養学科	必修・選択	選択
担当教員名	今井 竜也					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	栄養教諭二種免許状			
授業の概要			授業の到達目標			
憲法、および人権の基本原則を理解し、人権の中でも特に自由権と呼ばれる権利の性質について、並びに国会、内閣、裁判所という統治機構の仕組みについて、学説や判例等を交えながら解説する。			憲法で保障されている基本的人権が、いかなる理論を基礎として形作られているのか、それが私たちの社会生活といかに密接に関係しているのか、統治機構が国民の人権を保障するためにどのような働きをしているのかを知ることで、憲法に対する理解と見識を深めるとともに、「国のかたち」を示す憲法の重要性を理解し、私たちの国や社会がどうあるべきかについて改めて考えなおすきっかけを提供する。			
教授方法	レジュメ、資料集を配布し、講義形式で行う。重要な論点については適宜板書を交えて説明するので、各自、必要に応じ板書を取る。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	憲法とは何か 「憲法」のおおまかなイメージをつかむ (イントロダクション、憲法を学ぶことの意義、憲法の内容と意味、規範としての特質と分類)					
2	人権の設計図 人権の概念と種類 (人権を生み出した自然権という概念とはどのようなものであり、人権はその性質にあわせてどのような分類が出来るのかについて学ぶ)					
3	人権の設計図 人権の主体と範囲 (人権とはどのような人がそれを享有し、行使することが出来、その効力はどの範囲にまで及ぶものなのかについて学ぶ)					
4	法の下での平等 「平等」の持つ意味 (憲法上の権利と平等とはどのような関係性を持つのか、現代社会における平等のあり方を正義の実現という観点から学ぶ)					
5	法の下での平等 平等原則と差別の禁止 (憲法14条に規定されている法の下での平等の意味について、家族、教育に関する事件の判例から法の下での平等が何を要求しているのかを学ぶ)					
6	精神的自由権 思想・良心の自由 (人間の精神活動の中で最も基本的・かつ絶対的なものとして位置づけられる思想・良心の自由の内容について学ぶ)					
7	精神的自由権 信教の自由、学問の自由 (近代自由主義の礎として意味づけられる信教の自由、真理探求という営みにおける学問の自由のあり方について学ぶ)					
8	経済的自由権 職業選択の自由、居住・移転の自由 (特権から人権となった経済活動の自由を保障するものとしての職業選択、居住・移転の自由について学ぶ)					
9	経済的自由権 財産権の保障 (自由権から社会権への流れとともに変容する財産権の性質と保障のあり方について学ぶ)					
10	人身の自由 奴隷的拘束および苦役からの自由、適性手続の保障 (権力者による恣意的な処罰、身体に対する不当な拘束、威嚇に対抗する権利としての人身の自由について学ぶ)					
11	人身の自由 被疑者の権利と被告人の権利 (不当な逮捕、抑留や拘留に対抗する権利、公正で迅速な公開裁判を受ける権利という、被疑者、被告人が有する権利の内容について学ぶ)					
12	国会 立法を司る機関の仕組み (国民の代表で構成され、法律を制定する権限である立法権を有する統治機構である国会の地位、権能、活動について学ぶ)					
13	内閣 行政を司る機関の仕組み (国家における行政を担い、国政の中心的役割を果たす内閣の組織と権限、立法府である国会との関係、行政の意義について学ぶ)					
14	裁判所 司法権の意味と司法権の独立 (裁判所が有する司法権の概念、裁判所の組織構成と権能、および司法権の独立がどのような意義や内容を有しているのかについて学ぶ)					
15	裁判所 違憲審査制、国民の司法参加と裁判員制度 (憲法81条に規定されている違憲審査制の法的性質とその対象、方法と効力、ならびに国民の司法参加を目的として創設された裁判員制度について学ぶ)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
筆記試験	80	授業内容の基本的な理解と、身につけた知識を応用する能力を見る。筆記試験の詳細については、授業内で指示する。		出席状況および授業アンケート記載内容	20	毎時間、出欠状況と授業の理解度確認のため行う授業アンケートに記載されている内容(授業内容についての意見、感想、質問等)で評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
・予習は余力のある場合のみで良いので、とくに復習に力を入れること。その週の授業内容については、理解の不十分な箇所については各自、参考書なども参照しながらレジュメや板書を読み返しておくこと。[30分] ・憲法改正議論など、今後、社会においてタイムリーな話題として憲法問題が扱われることが多くなると思われるので、可能な限り新聞やテレビのニュース等に目を通して、社会で起きている出来事についても、アンテナを張りめぐらせること。[30分]			毎時間行う授業アンケートに記載されている疑問、質問等の内容から、特に補足が必要と思われるトピックスについては、次週の冒頭において適宜、復習を行います。			
受講生に望むこと	一見すると、日常生活からは遠い存在のように見える憲法は、実は私たちの社会生活と密接な関わりを持っています。特に、憲法改正が現実味を帯びてきている昨今、私達人間も、国や社会のあり方について、相応の見識を持つことが必要になります。授業を通じ、憲法を始めて知る法的作用を知るだけでなく、広く社会に対し興味関心をもって欲しいと思います。		教科書・テキスト	使用しない		
指定図書/参考書等	なし/特に指定はしないが、予習復習のため、初学者用の日本国憲法概説書(2000年前後で、出版年の新しいもの)を各自一冊、手元に用意しておくことが望ましい。最近出たものとして、『教職教養憲法15話 改訂2版』加藤一彦著 北樹出版 2014年、定評のある入門書として『憲法1 人権 第5版』渋谷秀樹・赤坂正浩著 有斐閣アルマ 2013年を紹介しておく。		その他・特記事項	各週の授業内容については、出席と授業内容の理解度確認のために毎時間行う授業アンケートを元に、次回の授業冒頭で補足を加える。受講者の疑問や質問、意見、感想などはなるべく全体で共有し、各自の授業内容理解に役立てたいと考えています。		

コミュニティ文化学科

授業科目名	CL200C 初教と生活			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
キリスト教的視点から日常生活における生活環境の課題とあり方について学ぶ。				生活の意義について理解している。現代社会における生活課題に気づいている。家庭生活の経済の現状を理解している。環境問題と生活の関係について理解している。			
教授方法	講義と一部演習形式で行う。また、一部教室外活動を取り入れる。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	生活とは何かについて科学的に考える。 目標：生活の定義、生活の意義について理解できている。						
2	家族と家庭と福祉について考える。 目標：家族と家庭の意義と関係について福祉の視点から理解できている。						
3	私たちにとっての家族とは何かについて考える。 目標：授業の1・2回を踏まえて、家族と家庭の在り方についてグループで話し合い、考えを共有する。						
4	家庭における現代的課題について家庭や家族を取りまく現状から考える。 目標：現代社会における家庭の抱えている課題について理解している。						
5	自分流のライフスタイルについて考える。 目標：ライフステージと生活課題について理解し、自分のライフスタイルのあり方について述べるができる。						
6	家庭経営と個人の生活について考える。 目標：家庭経営のあり方と現在における個人の生活への影響を理解できている。						
7	自然保護とライフスタイルについて考える。 目標：自然はなぜ守るべきものなのかについて、自然の利用の目的や自然保護がもたらす利益から自分の意見を述べられる。						
8	イエスの時代の生活と私たちの生活について考える。 目標：私たちの生活に根ざすキリスト教的生活観について、比較し述べるができる。						
9	『12の贈り物』から人生に必要なものについて考える。 目標：私たちに与えられた豊かな人生を送るために必要なものを述べられる。						
10	『人生の四季 発達と成熟』から人生のあり様について考える。 目標：ライフステージの各時期を充実したものにするために必要な事について述べられる。						
11	ビジネスとしてのブライダルについて考える。 目標：ブライダル産業における“結婚式”の位置づけについて理解している。						
12	ビジネスとしてのブライダルについて考える。(教室外授業) 目標：チャペルウエディングの施設を訪問を通して、ブライダル産業の実際について理解している。						
13	教会における結婚式について考える。 目標：キリスト教的観点から“結婚式”の意味を理解している。						
14	教会における結婚式について考える。(模擬体験授業) 目標：キリスト教的観点からの“結婚式”について、体験を通して理解を深めている。						
15	講義の最終振り返り 目標：グループワークを通じて、キリスト教的価値観から私たちの生活にのあり方について共有できている。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
課題作成	50	授業中に作成した課題で、講義の理解状況を測る。			授業外学習レポート	40	授業外学習での学びの深さ等についてレポートの完成度を通じて見る。
授業への参加度	10	グループワークの参加度や積極的な発言の有無など。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。[合計20時間] ブライダル産業の現状について事前に調べる。[5時間] キリスト教の教会における“結婚式”について模擬結婚式を通して学んだ事や疑問に思ったことについて調べる。[5時間]				ミニテストは翌週に返却する。 授業学習レポートも講義終了後に返却する。			
受講生に望むこと	何気なく過ごす、日常生活における、「普通」や「当たり前」がいかに重要で難しいことかを意識して考えてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	【参考図書】 ・シャーリー・コスタンソ 著、黒井健 訳『12の贈り物』ポプラ社 2003年 ・ポール・トゥルニエ 著、三浦安子 訳『人生の四季 発達と成熟』日本キリスト教出版社 2007年			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL210C 初級教とホスピタリティ			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>商業ベースでは「おもてなし」として、顧客満足度を上げるキーワードとしてホスピタリティが使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。これらの違いを学ぶと共に、日常生活或いは福祉にまで視点の配意を広げ、現代社会におけるホスピタリティのあり方について学ぶ。</p>				<p>ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。</p>			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション ホスピタリティとサービスの違いについて理解している。						
2	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。						
3	社会福祉とホスピタリティ 目標：ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。						
4	宗教とホスピタリティ 目標：種々の宗教におけるホスピタリティについてその違いを理解している。						
5	海外のキリスト教社会福祉から考える。 目標：救済法は他者援助なのかについて、自分の意見を述べられる。						
6	海外のキリスト教社会福祉から考える。 目標：本当に他者のことを考えているのは誰なのか自分の意見を述べられる。						
7	日本のキリスト教社会福祉から考える。 目標：歴史から見る日本の福祉ながれについて理解している。						
8	外国人に対する社会的支援から考える。 目標：観光の視点からのホスピタリティについて理解している。						
9	茶道に見るおもてなしの原点。 目標：茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。						
10	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 目標：ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。						
11	ヘレン・ケラーに学ぶ。 目標：ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。						
12	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 目標：マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。						
13	マザー・テレサに学ぶ。 目標：マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。						
14	賀川豊彦に学ぶ。 目標：賀川豊彦の活動から他者への思いやりについて理解している。						
15	映画にみるホスピタリティ 目標：映画を通して、種々のホスピタリティの事例を理解すると共に説明できる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ワークシート	50	授業中に作成したワークシートで講義の理解状況を測る。			レポート	40	主張の明確さ等で完成度を見る。
授業への参加度	10	グループワークの参加度や積極的な発言の有無など。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。[合計18時間] 授業で取り上げられた人物について調べる。[4時間] 授業で取り上げられた映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。[8時間]</p>				<p>レポート類は採点の後、講義終了後に返却する。</p>			
受講生に望むこと	ビジネスとしてではなく、生活を送る上でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	<p>【映画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『アイ・アム・サム』 ジェシー・ネルソン 監督作品 『ホテルワウダ』 テリー・ジョージ 監督作品 『ハッピーフライト』 矢口史靖 監督作品 『おくりびと』 滝田洋二郎 監督作品 			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・取り上げた自分物については講義回前に調べておくこと。 ・映画に関しては、各自が講義回前に視聴しておくこと 		

授業科目名	CL130C 青年の心理			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	南 雅則						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
青年の心理や青年期の特徴である、自我のめざめ、身体的発達、社会的な関係についての理解を深める。受講者にとって、本授業での学びが自分自身の生き方を考える機会となるような内容にしたいと考えている。				青年期の身体的心理的特徴について説明できる。 青年期の発達課題や問題について考える姿勢を身につける。 授業を通して自己理解を深め、自分自身の生き方についての手がかりを得る。			
教授方法	講義（適宜グループディスカッションを取り入れます。）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	青年とは：青年期の成立過程を歴史的背景から概観するとともに、今日の青年期のとらえ方を理解する。						
2	青年期の思考：情報処理能力の獲得を発達段階による認知面からとらえ、ピアジェの形式的捜査段階における認知や思考の特徴について理解する。						
3	自我のめざめ：青年期の自己理解の特徴を学び、自己理解の側面やセルフエスティームを高めるみちすじについて理解する。						
4	アイデンティティとは何か：エリクソンのアイデンティティに関する理論を学び、青年期におけるアイデンティティの発達について自らの自己形成を通して考える。						
5	青年のからだところ：青年期の身体的発達とそれによる心理的影響について理解するとともに、青年期の性行動やボディイメージへの影響について考える。						
6	青年と性：性の概念と性役割の発達の過程、性役割ステレオタイプについて理解する。また、恋愛に関する諸理論を通して愛情や好意、妬みや嫉妬について考える。						
7	青年と家族の関係：自分自身の経験を通し、親子やきょうだいの関係から依存と独立の欲求について考えるとともに、現代の青年における家族の役割や意味について理解する。						
8	青年の友人関係：青年期の友人関係の発達の变化や特徴について理解する。また、友人関係が青年にもたらす混乱について考える。						
9	青年とネット社会：現代青年のケータイ・スマホ化やSNS・オンラインゲームに依存する心理とネット社会における青年の自立について考える。						
10	青年と学校：青年にとっての日本の学校制度について理解するとともに、学校における学びと校種間移行の適応について考える。						
11	青年の進路と職業選択：スーパーのキャリア発達理論について理解し、青年の進路に対する意識の変化と学校から仕事への移行について理解する。						
12	青年と社会・政治：青年がつくる歴史や社会について理解し、青年の政治に対する関心や評価、投票に対する態度などから青年の政治参加について考える。						
13	青年期の病理：青年前期の心理的課題とされる不登校・引きこもりについて理解するとともに、青年の心理的居場所について考える。						
14	青年期の病理：青年期にみられる気分障害やパーソナリティ障害について理解する。また、青年の自己愛的パーソナリティを生み出す背景について考える。						
15	青年を理解する：青年をとらえる視点と青年を理解する方法について、自己理解、他者との関係からのとらえ直しを考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末論述試験	50	授業中に取り上げたテーマやキーワードについての理解			課題レポート	20	授業中指定したテーマについてのレポートの提出（6回目と11回目の終了後に指示します。）
授業課題	30	毎回のふり返しシート、コミュニケーションシートなどの提出課題を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習として、自分自身の体験を整理する。（60分） 事後学習として、参考図書などで学びを深め、課題レポートに取り組む。（120分）				ふり返しシート、コミュニケーションシートは次回の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。課題レポートは次学期の冒頭にコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	グループディスカッションでは積極的な参加を求めます。（自分の考えや意見を述べ、他の人の意見をしっかりと聞いて下さい。）授業での学びを通じて、自分自身の生き方を意味づけ、考えてもらえたらと思います。			教科書・テキスト	特定の教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『やさしい青年心理学』白井利明・都筑 学・森 陽子 2002 有斐閣アルマ ISBN978-4-641-12481-3 ・『青年の心理 ゆれ動く時代を生きる』遠藤由美 2000 サイエンス社 ISBN4-7819-0962-0 ・『エピソードでつかむ青年心理学』大野 久 2010 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-05737-5			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL220C 結婚と家族形成			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
現代の日本では、晩婚化、未婚化、少子化、高齢化が進み、家族形態は多様化している。日本の社会制度はこうした多様な家族を平等に扱っているのか、家族の形態によって貧困のリスクは異なるのか、性別によって働き方はどのように異なるのか。また、結婚とは何か、なぜ少子化が進行しているのか、高齢化が進み家族はどのように変化しているのか。本講義では、これらについて様々なデータや制度から現状を知り、映画を通して課題を理解し、多様化する家族のあり方について考える。				日本における結婚と家族について、現状を理解する 日本における結婚と家族の課題を理解し、そのあり方について自分の意見を述べるようになる			
教授方法	講義、グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	家族とは(1)：家族の類型と期待についてディスカッションする						
2	家族とは(2)：映画を通して、家族の変化について考える						
3	家族・貧困・福祉(1)：家族の形態による貧困のリスクについて考える						
4	家族・貧困・福祉(2)：映画を通して、ひとり親世帯の課題を理解する						
5	家族・貧困・福祉(3)：ひとり親世帯の課題についてディスカッションする						
6	結婚：結婚の機能、制度、問題点について考える						
7	就業と家族(1)：性別によってどのように働き方が異なるかを考える						
8	就業と家族(2)：映画を通して、1958年頃の男女の役割について理解する						
9	就業と家族(3)：男女の働き方についてディスカッションする						
10	妊娠・出産・子育て(1)：日本はなぜ少子化しているのかについて考える						
11	妊娠・出産・子育て(2)：映画を通して、親とは何か、子とは何かを考える						
12	妊娠・出産・子育て(3)：親子関係についてディスカッションする						
13	高齢化社会と家族(1)：高齢化による家族の変化について考える						
14	高齢化社会と家族(2)：映画を通して、介護の課題について理解する						
15	多様化する家族：国際結婚と多文化家族について考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	ディスカッションなど授業への取り組み姿勢。			提出物	30	所定の書式に従って作成している。自分の考察を加えて記入している。
期末テスト	50	講義内容を理解しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
友人、家族などを対象にインタビューを行い、その結果をまとめる。[60分]				提出物はコメントを付けて、次回の冒頭に返却する。			
受講生に望むこと	講義内容は皆さんにとってまだ先のこともかもしれませんが、人生の中で重要な「結婚」や「家族」のあり方を、皆さん自身で考えてもらいたいと思います。			教科書・テキスト	『問いからはじめる家族社会学 - 多様化する家族の包摂に向けて』 岩間暁子・大和礼子・田間泰子著 有斐閣 ストゥディア 2015年出版 ISBN:978-4-641-15016-4		
指定図書/参考書等	なし/『現代家族を読み解く12章』 日本家政学会編 丸善出版 2018年出版 ISBN 978-4-621-30343-6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL110C 健康論		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。</p>			<p>健康的な生活の意義を理解する。 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。						
2	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。						
3	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。						
4	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。						
5	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。						
6	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。						
7	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。						
8	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。						
9	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「高脂血症」「高血圧」						
10	健康を脅かすもの：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」						
11	運動習慣と疾病の関係：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。						
12	運動習慣と疾病の関係：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。						
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。						
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。						
15	まとめ：これまで学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
受講態度	60	・受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なものへと変化させているか		学期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] 各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前・事後学習内容の詳細は授業内で説明する。				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。			教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。		
指定図書/参考書等	「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著 北國新聞社 2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL230C 社会心理学の基礎			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	南 雅則						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>私たちの生活の中で似られる人の様々な考え方や行動の多くは、社会心理学の広範な知見からとらえることができます。この授業では、集団と個人の関係、コミュニケーション、社会生活における領域を軸に暮らしの中でみられる社会心理学の諸様相について、例を挙げて解説します。他者との関係から心の性質について考えられるようになること、また自分の身の回りでみられる社会的行動が説明できるようになることを目標としています。</p>				<p>集団場面における個人の心の働きや社会的行動について理解する。社会や日常生活にみられる考え方や行動を社会心理学の用語を用いて説明することができる。自分自身の考え方や行動について、社会心理学の用語を用いて説明することができる。</p>			
教授方法	講義を中心に、一部エクササイズやワークを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	暮らしの中にある社会心理学：私たちの生活の中でみられる人の様々な考え方や行動を、社会心理学の理論を通して考え、身の回りでみられる社会的行動について理解する。						
2	対人関係：私たちが他者に対して魅力を感じる要因や社会的交換理論、情動の2要因理論、対人魅力を感じる要因などについて理解する。						
3	対人関係：利害に基づく葛藤関係とその解決、応戦戦略（利害が絡む他人はどのように医師や行動を変えるのか、相手を思うように動かすためにどのような行動を取るのか等）について理解する。						
4	集団の中の個人：集団の特徴と集団の成員に及ぼす影響について理解し、自分一人くらいという心理や道徳心と全体の利益との関係について考える。						
5	集団の中の個人：同調と権威への服従のメカニズム（集団の社会的圧力や権威者からの命令や要請が、個人の意見や行動に与える影響など）について理解する。						
6	集団の中の個人：集団的浅慮とリスクシフト（「みんなで決めた」ことや「いったん決めた」ことを撤回することの難しさと、それを防ぐ方略など）について理解する。						
7	集団間の関係：集団内におけるリーダーシップ（PM理論とコンティンジェンシー理論、リーダーの心理など）について理解する。						
8	集団間の関係：ステレオタイプや偏見などの集団間態度の成立と解決について、内集団と外集団の関係から生じる差別と偏見をステレオタイプや確証バイアスの面から考える。						
9	コミュニケーション：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて、文化的背景による違いや日常生活でみられるパーソナルスペースについて理解する。						
10	コミュニケーション：コミュニケーションが認知や行動に与える影響についてワークを通して考える。（視線、姿勢、距離の関係や言葉による印象について理解する。）						
11	社会の中の社会心理学：インターネットの中の人間関係とネット・ゲーム依存の実態と対応について、なぜネット・ゲームに依存してしまうのか、その実態と対応について理解する。						
12	社会の中の社会心理学：共感性と向社会的行動について、緊急事態などにおける援助行動に至る過程を傍観者効果の面から理解する。						
13	社会の中の社会心理学：世論と社会過程：世論の形成に影響を与える要因について、限定効果論からマスメディアの影響について理解する。						
14	社会の中の社会心理学：意思決定と合意形成について、意思の決定や合意形成の過程を社会的手抜き・集団極化の面から理解する。						
15	社会と文化：異なる文化における心理・行動傾向にみられる差異について、文化的自己観の違いが対人評価に与える影響について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート課題	60	日常生活における社会心理学としての総合的な理解を評価する。（2回実施）			授業時課題	30	各実施回における振り返りシートの提出と内容について評価する。
授業参加態度	10	授業中のエクササイズやワークへの積極的参加度と取り組み方を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
新聞やTVなどの報道に日々触れること。【20分/日】 授業中取り上げたキーワードについてのまとめと整理。【60分】				振り返りシートは次回の冒頭にコメントをつけて返却するとともに、全体へフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	授業内容と日常生活との接点を見出し、自分自身と社会の関わりについて、興味や関心を広げて欲しい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし / 『社会心理学』 池田謙一他 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5375-5 『社会心理学キーワード』 山岸俊男有斐閣 2001年 ISBN 4-641-05872-5 『暮らしの中の社会心理学』 安藤香織他 2012年 ISBN 978-4-7795-0659-8			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CL120C 現代社会の基礎知識			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目では、社会（集団）に適応して生きていくための思考と行為についての基本的事項、社会学の対象分野や分析方法について講義すると同時に、皆と共に考えていきたい。そうすることで、自立的人間として成長していく基礎力を養成したいと考える。公務員等の試験にも多く出題される内容を含んだ科目なので、幅広く講義する予定である。</p>				<p>社会学の基本的な理論・概念を、具体的な事例に当てはめて、文章化して説明することができる。 現代社会を様々な切り口から理解し、特に自ら問題関心を持つ領域や現象について、これまで何が議論の対象になってきたか、そして今日の社会でどのように問題になっているのか、文章化して説明することができる。 自らの問題関心や意見に沿って、他者との意見交換や共有を積極的に行うことができる。</p>			
教授方法	講義・グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：社会学とはどういった学問であるのか、何を学ぶことができるのかといったことについて理解する。						
2	社会集団論：一般的な社会集団を例に挙げながら、自己と他者、個人と社会の関係について理解する。						
3	集合行動論：組織・集団という明示化された枠組みを超えた領域における人間行動について、社会というフィルターを通して理解する。						
4	地域社会・都市：生活圏としての地域社会・都市が人々にとって持つ意味を理解すると共に、地域社会・都市をめぐるマクロな変動について理解する。						
5	個人・家族：親密圏としての家族が個人にとって持つ意味を理解すると共に、マクロ社会の変化に伴って家族が持つ意味を再考し、理解する。						
6	ジェンダー論：自己と他者の関係構築や家族の構成といった論点の応用から、現代社会におけるセクシャリティ・ジェンダー問題について理解する。						
7	社会病理現象：時代や文化によって異なる社会病理現象について理解すると共に、病理性を規定する社会という存在そのものについて理解する。						
8	逸脱行動論：逸脱行動と社会病理現象の異同について理解すると共に、代表的な逸脱行動論についても理解する。						
9	医療・看護と社会：「医療・看護」を切り口に感情社会学や臨床社会学について学ぶと共に、現代社会論から価値の変容についても理解する。						
10	少子・高齢化と福祉政策：少子・高齢化現象をマクロな視点から理解し、それらをめぐる福祉政策実践についても理解する。						
11	消費社会論：消費行動の変容を切り口に、マクロ社会の変動と共に自己と他者の関係性の変容についても理解する。						
12	リスク社会論：大規模災害や食中毒事件等の問題を素材としながら、リスク社会論について理解する。						
13	情報社会論：情報技術の発達によってもたらされた現代の情報社会が成立した過程を理解すると共に、それが人々に与えた影響について社会的観点から理解する。						
14	国際化と多文化共生：情報といった形の無いものだけではなく、実際のヒトとモノの流動性が高まった現代社会のあり様を理解し、それによって我々が直面しなければならない問題・課題について考える。						
15	グループディスカッション：これまでの学習内容を踏まえて、「社会」とは何か、「社会学」とは何か、「社会的思考様式」とはどういったものであるのかについて、他者との意見交換や共有を通して、自らの考えを深める。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業への参加度	20	日常的な授業態度を評価する。			グループディスカッション	20	グループディスカッション時の積極的な参加態度等を評価する。
レポート	60	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切に分かり易くまとめられているか評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>各回の授業で学習した社会学理論や社会的視点、社会学用語について、様々な具体的な事例に応用して説明できるように、社会学のテキストや事典を活用して復習し、文章化する練習をする。[45分] 各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>				<p>・各回の授業でコミュニケーションペーパーの提出を求め、そこで質問は次回に全体共有する。</p>			
受講生に望むこと	<p>・日頃から社会の様々な事柄に対してアンテナを張り巡らせ、疑問を持つことが望ましい。 ・問題意識を高めること、多様な視点・観点から捉え直すことによって社会的な思考様式の獲得は大いに進むと思われるが、自分が興味を持っている事柄について考えることをその入り口とするところから始めていただきたい。</p>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）		
指定図書/参考書等	<p><参考書> 『社会学がわかる事典 読みこなし使いこなし活用自在』 森下伸也 日本実業出版社 2000年 ISBN:978-4534031730</p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習やグループ作業について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。 ・社会学科目「社会学概論B」と合同開講である。</p>		

授業科目名	CS100C スタートアップ セミナー			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>大学における学びは学問を通して、社会人として教養と自立した活動を行うための知識や技術を身につけることを目的としている。 本授業ではその為の基礎として読む力、書く力、数量的な概念及び伝える力を身につけるために、様々なグループワークの手法、ライティング、リーディング、プレゼンテーションの各技術の基礎を修得する。</p>				<p>グループワークにおける自己の役割を理解している。 プレゼンテーションの技法が身につけている。 大学での学びの姿勢が身につけている。</p>			
教授方法	講義形式で基本的知識を学ぶと共に、グループワークおよびプレゼンテーションの実践をとおして、スキルを向上する。						
履修条件	他学科学生の履修不可						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：本授業の全体の流れを理解する。また、ルーブリックを用いて達成目標を理解する。						
2	グループワーク<基礎1：ブレインストーミングの理論> グループワークの全体像をつかむと共に、メンバーの役割について理解する。						
3	グループワーク<基礎2：ブレインストーミング結果を基に発表用のツールを作成> 様々なグループワーク事例の特徴を理解し、場面に応じて使い分けの基礎を築く。						
4	グループワーク<応用1：課題の抽出と解決策の検討> 実践形式で、グループワークを体験し、メンバーの役割の中から自分の位置を見つけ出す。						
5	グループワーク<応用2：解決策の具体的立案と提示資料の作成> グループワークにおける自分のグループ内でのスキルを向上させる。						
6	グループワーク<まとめ：全体に対するグループの提案と共有化> 2回目から5回目を踏まえ、グループワークについて個人とグループで振り返ると共に、知識を共有する。						
7	プレゼンテーションの基本<他己紹介を用いた学び> プレゼンテーションの基本について理解する						
8	プレゼンテーションの準備作業<練習1：図書案内作成準備> プレゼンテーションツールの作り方についての解説、テーマの決定及び資料の収集をする						
9	プレゼンテーションの準備作業<練習2：ポスターとシナリオ作成。発表> プレゼンテーションツールの作り方についての解説、資料の収集および資料の整理						
10	プレゼンテーションツールの作成（応用1：「同窓会」案内及び当日プログラムの構想作業） 収集資料に基づき、全体の流れを構成すると共に、ツールを作成する。						
11	プレゼンテーションツールの作成<応用2：案内用往復はがきの作成と当日シナリオの完成> 引き続きツールを作成すると共に、全体を俯瞰し修正を行う。						
12	プレゼンテーションの練習<グループ内でのシナリオの共有化とグループとしてシナリオ作成> 作成したツールを用いて実際に発表を行うと共に、相互に評価し合う事により、修正を図る。						
13	総合演習<1：キャラクターの設定と訴求点の検討> 課題に基づく資料の収集、全体の流れを構成すると共に、ツールを作成できるようになる。						
14	総合演習<2：キャラクターと訴求点の確立> 引き続きツールを作成すると共に、全体を俯瞰し修正できるようになる。						
15	総合発表<ポスターセッションの実施> 個人が他者の発表内容を分析し、自分の発表に反映できるようになる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
グループ活動	60	グループ活動に積極的に参加しているかをルーブリックを使用して評価する			最終プレゼンテーション	40	基準に沿ったプレゼンテーションが出来ているかをルーブリックを使用して評価する
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の終わりに次回に向けての課題を出すので必ず事前学習をしてくること。 学習時間は合計30時間分を、その都度の進行状況によって指示する。				原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。			
受講生に望むこと	様々なグループワークの手法を紹介するので、自分に合ったものを探すと共に、自分の役割を見いだしてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CS110C 基礎ゼミ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子・富岡 和久・野林 晴彦・葦名 理恵 (代表教員 沢田 史子)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>短期大学生としての基本的な学びの姿勢、知的探究の方法を少人数グループで習得する。まず、大学の講義受講に必要な、ノートテイキングの手法を確認する。そしてレポート作成に必要な「読む・書く」のリテラシーと図書館の利用やインターネットの情報収集について、求められる水準を満たすよう基本を強化する。同時に他教科との関連を知ることによって、一つの教科の学びで得られた知識を他の教科で応用し、アレンジすることにより、学びを積み上げ、深めることが出来るようになる。</p>			<p>短期大学の学びを行う上で必要となるノートテイキング・リーディング・アカデミックライティングの基本的スキルを身につける。 図書館の利用方法を身につける。 グループディスカッションに参加し、自分の意見を述べる事ができる。 与えられた課題について、指定された文字数や書式などに従いレポートが作成できる。 与えられた課題について、自分の意見をまとめ発表ができる。</p>			
教授方法	全体で集合する場合と、グループ単位に分かれて演習を行う場合がある。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「基礎ゼミ」の使い方と使用するテキストとの関連について説明する。					全員
2	スタディスキル：年間・週間スケジュールを作成し、自らスケジュールを立てる際のノウハウを学ぶ。(テキスト第1章)					全員
3	ノートテイキングのスキル：学生として必要なノートの取り方について学ぶ。(テキスト第2章)					全員
4	図書館利用オリエンテーション：図書の種類な検索方法について学ぶ。					全員
5	リーディングのスキル：文章を読む場合に気をつけるポイントについて学ぶ。(テキスト第3章)					全員
6	グループワークの事前学習とグループディスカッションの練習：「北陸学院セミナー」に向けてディスカッションを行う場合の注意点を学ぶ。					全員
7	北陸学院セミナーの振り返り：「北陸学院セミナー」で考えた内容を元に意見交換を行い、学びの内容を深める。					全員
8	より深いリーディングのために：テキストを読んで、要約する技法を学ぶ。(テキスト第4章)					全員
9	より深いリーディングのために：テキストを読んで、感じたこと・考えをまとめる。(テキスト第4章)					全員
10	アカデミックライティングの基本：文章構成を意識したレポート作成の方法について学ぶ。(テキスト第8章)					全員
11	効果的なアカデミックライティング：わかりやすい文章と視覚的にわかりやすい表現方法について学ぶ。(テキスト第9章)					全員
12	調査活動：「基礎ゼミ」で学んだ内容を活かすためのレポート作成に向け、テーマを選び調査活動を行う。					全員
13	レポート作成：期限を決め、調査した結果を基にレポートを作成する。					全員
14	レポート作成：ゼミ担当教員のチェックを受けながらレポートを作成する。					全員
15	レポート提出とゼミ内発表会：レポートを提出し、ゼミ内で発表する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	60	ワークシートの内容や授業中の発言など積極的参加を重要視する。		レポート	40	学んだ内容を反映した結果となっているかを重視する。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
<p>予め「知へのステップ」該当箇所を読み、予定されている内容を把握しておく。[30分] 事後は行った内容について、テキスト・ノート・配布資料を読み復習する。[20分] 指示されたレポート作成を期日までに進行。[60分]</p>			<p>授業中に実施したワークシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 期末レポートは、夏休み前までに採点およびコメントを付けて返却する。</p>			
受講生に望むこと	高校までと異なる「大学ならではの学び」のための基礎を身に付けて欲しい。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN: 978-4-87424-789-1	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CS120C 基礎ゼミ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子・富岡 和久・野林 晴彦・葦名 理恵 (代表教員 沢田 史子)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「基礎ゼミ」で確立した学ぶ姿勢の発展として研究を行う。自分の興味のあるテーマを設定し、調査活動を行いレポートを作成する。後半の発表では、ゼミ単位で研究を共有し、多様性を知り自分の視野を広げることができる。最後に全体発表会を行うが、これらの活動は、課題やテーマを見つけて、情報収集し発表して他からアドバイスを受け改善して次の研究に繋げるものであり、2年次の「専門ゼミ」で行われる研究の土台となる。</p>			<p>興味のあるテーマを設定し、レポート作成に必要な文献などの情報を集めることができる。 設定したテーマについて、アカデミックライティングのルールに沿ったレポートが作成できる。 設定したテーマについて、パワーポイントを用いてプレゼンテーションができる。</p>			
教授方法	全体で集合する場合と、グループ単位に分かれて演習を行う場合がある。					
履修条件	「基礎ゼミ」の単位を修得済の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「基礎ゼミ」の使い方と後期スケジュールについて説明する。					全員
2	夏休み活動報告：インターンシップや海外研修など夏休みの活動を発表する。					全員
3	ゼミのプランニング：研究対象を決め、調査・レポート作成の計画を立てる。					全員
4	調査活動：レポート作成のため、図書館やインターネットなどを用いて情報収集を行う。					全員
5	調査活動：レポートのアウトラインを考え、情報を整理する。					全員
6	調査活動：最終的な構成を考え、参考文献リストを添えて提出する。					全員
7	レポート作成：構成に基づき、レポートを作成する。適宜ゼミ教員から指導を受ける。					全員
8	レポート作成：評価ポイントに従い、レポートをチェックする。適宜ゼミ教員から指導を受ける。					全員
9	レポート作成：ゼミ教員から指導を受け、レポートを修正する。					全員
10	表現する・伝える：プレゼンテーションを行う際に注意すべき点を学ぶ。(テキスト11章)					全員
11	わかりやすいプレゼンテーションのために：プレゼンテーションで正確に伝える上で重要となる視覚資料の使い方について学ぶ。(テキスト12章)					全員
12	プレゼンテーション準備：ゼミ内発表に向けスライド作成を行う。					全員
13	プレゼンテーション準備：ゼミ内発表に向けリハーサルを行う。					全員
14	ゼミ内プレゼンテーション：全体プレゼンテーションに向けゼミ内発表を行い、ゼミ毎に代表を選出する。					全員
15	プレゼンテーション大会：ゼミ代表者による「基礎ゼミ」調査結果の発表を行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	ゼミ実施時の積極的参加を重要視する。		レポート	40	学んだ内容を反映した結果となっているかを重視する。
プレゼンテーション	20	プレゼンテーション(レポート発表の内容・スライド・発表態度)について評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>参考文献として選んだ書籍を読む。[120分以上] 指示されたレポート作成を期日までに。[90分] ゼミ内プレゼンテーションの練習を行う。[60分]</p>				<p>授業中に実施したワークシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。 期末レポートは、春休み前までに採点およびコメントを付けて返却する。</p>		
受講生に望むこと	「専門ゼミ」につながる「主体的学び」を学習する機会として、自らが選んだテーマに対して、積極的に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN: 978-4-87424-789-1	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CS200C 専門ゼミ		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	沢田 史子・池村 努・富岡 和久・野林 晴彦・高島 彬・葦名 理恵・木村 ゆかり (代表教員 沢田 史子)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
各ゼミで示されるゼミプランにしたがい、ゼミ担当教員の専門分野と関連させながら、各自の問題関心に沿った内容について、共同あるいはグループで学習を進める。専門分野に関する文献を多く読み、理解に努める。その後、ゼミ担当教員の指導のもとに、各自が研究テーマの設定に向けて文献・資料検索、データ収集などを行う。前期の研究テーマ設定に基づき、後期の「専門ゼミ」に繋げ、自分の研究テーマをより深めていく。			基礎ゼミで身につけた学習および研究方法を土台として、選択したゼミ担当教員のもとで問題関心を具体化する。グループディスカッションにより課題・問題を共有し、考え方の多様性を知る。グループによる協働学習から研究テーマの設定を導く。必要な作業実施に向けた計画（段取り・調整）を行う。				
教授方法	演習						
履修条件	「基礎ゼミ」の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	「専門ゼミ」概要説明					全教員	
2	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）					全教員	
3	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）					全教員	
4	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）					全教員	
5	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）					全教員	
6	研究テーマ検討					全教員	
7	研究テーマ（仮）提出					全教員	
8	研究スケジュール及び方法立案					全教員	
9	資料収集、調査実施、データ確認					全教員	
10	資料収集、調査実施、データ確認					全教員	
11	資料収集、調査実施、データ確認					全教員	
12	レポート作成およびチェック					全教員	
13	レポート作成およびチェック					全教員	
14	レポート作成およびチェック					全教員	
15	ゼミ内発表					全教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準	評価項目	割合	評価基準		
授業参加態度	60	グループワークやディスカッションへの積極的な参加調査・研究に対する意欲。	レポート	40	調査・研究結果・中間発表をまとめるに当たり、文献調査を確実にを行い、内容を精査しているか。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
事前事後の学修は合計で30時間分をゼミ教員の指導に従い行う。			原則、課題を提出した翌週に返却。また、課題提出回の授業で使用することもある。				
受講生に望むこと	積極的に参加すること。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			

授業科目名	CS210C 専門ゼミ			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	沢田 史子・池村 努・富岡 和久・野林 晴彦・高島 彬・葦名 理恵・木村 ゆかり (代表教員 沢田 史子)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
各自、テーマの掘り下げ、方向付け、文献や資料の収集をしながら、自分で設定したテーマについてゼミ担当教員の指導を受けながら研究を進める。ゼミ担当教員の指導のもとで研究発表についてゼミ生相互の検討や意見交換などを行う。最後に学科全体でゼミ発表会を行う。				「専門ゼミ」で決めた研究方法に基づいて、専門分野で設定したテーマに沿ってレポート等をまとめる。最終レポートを提出し、学科全体の発表会で発表する。卒業後に取り組むであろう様々な課題に対する探求姿勢が身につく。			
教授方法	演習						
履修条件	「専門ゼミ」の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	「専門ゼミ」スケジュール確認						全教員
2	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）						全教員
3	ゼミグループ学習（ディスカッションを含む）						全教員
4	本テーマ確定						全教員
5	資料収集、調査実施、データ確認						全教員
6	資料収集、調査実施、データ確認						全教員
7	資料収集、調査実施、データ確認						全教員
8	資料収集、調査実施、データ確認						全教員
9	レポート作成						全教員
10	レポート作成						全教員
11	レポート作成						全教員
12	レポート作成						全教員
13	レポートを指導教員に提出						全教員
14	レポート指導・修正						全教員
15	グループ別発表（リハーサル）						全教員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	40	調査・研究時の積極的参加を重要視する。また、最終プレゼンテーションも含める。			レポート	60	調査・研究結果をまとめるに当たり、文献調査を確実にし、内容を精査して提出すること。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前事後の学修は合計で30時間分をゼミ教員の指導に従い行う。				原則、課題を提出した翌週に返却。また、課題提出回の授業で使用することもある。			
受講生に望むこと	積極的に参加すること。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CC110C キャリア開発セミナー-A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	章名 理恵					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>ビジネスマナーや立ち振る舞いを含めた社会人基礎力を身につける。マナーの意義と必要性を確認し、自分が周囲に与える印象を考える。同時に他者との相互理解を深めクラスとしてチームを形成する意識を醸成する。言葉や態度の意味を理解し心を込めた自然な行動となって醸し出される教養を身につける。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・社会人として必要な基本的ビジネスマナーを身につける。 ・日常、またビジネスシーンに必要なコミュニケーションスキルの基礎を理解し、行動できる。 ・基本的な敬語の使い方を身につける。 			
教授方法	講義、演習、グループワークなど					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方。評価方法、「就活Navi」説明 自己紹介					
2	インターンシップフェス説明					
3	ビジネスマナー・ビジネスマナーはなぜ必要なのかを知る					
4	第一印象の作り方・身だしなみと挨拶を整える理由を知る					
5	言葉遣い・正しい敬語を使いこなす					
6	電話のマナー・かけ方、受け方、タイミングを知る					
7	メールのマナー・SNSチャットとの使い方の違いを知る					
8	訪問の仕方：名刺交換と紹介のマナーを知る					
9	ビジネスパーティでのマナー 実施回変更有					
10	ビジネスパーティでのマナー 実施回変更有					
11	ビジネスパーティでのマナー 振り返りと反省 実施回変更有					
12	来客対応のルールを知る					
13	仕事におけるコミュニケーション 傾聴、アサーション					
14	仕事におけるコミュニケーション 受命と報告					
15	自己紹介 インターンシップに行く前に					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
演習・グループワーク	30	演習態度、グループワークへの積極性や貢献度を評価する。		振り返りシート	20	授業内容を自己の言葉で表現、理解できているかどうかを評価する。
課題提出	50	提出課題を期日に遅れることなく作成、提出することとその完成度を評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
特に言葉遣いにおいて敬語の種類、使い方を理解し、書く、話すに支障がなくなるよう毎回復習をすること。（30分）				原則、課題レポートなどは提出の翌週に返却する 演習におけるフィードバックは授業中に行う。		
受講生に望むこと	マナーやコミュニケーションスキルは授業のみで習得できるものではないため、学習したことを日ごろから活用するように望む。			教科書・テキスト	『未来をひらくビジネスマナー』 長江由美子著 株式会社大学教育出版 2018年 ISBN：978-4-86429-535-2	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CC120C キャリア開発セミナー-B			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「キャリア開発セミナーA」で固めた基礎と教養を、就職活動を意識したりハラスルとして就職活動の流れを学びながら実践する。自己表現の方法を実践で活かせるように教員や学生支援課の指導を受ける。模擬面接や書類の作成において表現力やコミュニケーション能力を高める一方で、実際の就職活動を目前に、企業研究をして、現実社会に就職していく自分を想定する。情報を集めると同時に、求人現状と自分の能力の現実を受け入れ、就労や就職に希望を持って準備する。</p>				<p>自信をもって就職活動を始める準備ができるようになる。 就職活動の障害を排除する方法を知る。 適切な就職活動のための、正しい情報収集法を知り、実行できる。</p>			
教授方法	複数の教員による講義、グループディスカッション						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 目標：科目の必要性と全体の流れを把握するとともに、今後の自分のすべき事を理解する。						富岡
2	就職活動の進め方 目標：2020年度の就職環境・就職活動のスケジュールを理解する。 3月前までの就職活動準備の大切さを知り、第5回目以降の講義において前向きに取り組むことができるようになる。						富岡・外部講師
3	自己分析・自己PR<基礎> 目標：自己分析の基本的な方法を学び、実際にワークを通して自己理解を深める。 現時点でも、何がしかの力を持っているという認識をし、自身の力を見る事の大事さを感じる。						富岡・外部講師
4	自己分析・自己PR<応用> 目標：<基礎>で行った自己分析を、企業視点を踏まえた上でPR文章として組み立てることができるようになる。						富岡・外部講師
5	業界・企業研究<基礎> 目標：企業研究の基本的な方法を学び、実際にワークを通して「広げる」方法を身に付ける。 まずは視野を広げる大切さを理解し将来の選択肢の幅を増やす。						富岡・外部講師
6	業界・企業研究<応用> 目標：「広げた」企業を「深める」方法を学ぶ。同業他社比較ワークを通し、個社比較を行うことでより深い企業理解ができるようになる。 志望動機を書く際も個社の違いを踏まえたうえで、書くことができるようになる。						富岡・外部講師
7	履歴書・エントリーシート<基礎> 目標：各々の基礎知識と、企業が見ているポイントについて理解する。						富岡・外部講師
8	履歴書・エントリーシート<応用> 目標：第3回～第7回までを踏まえ、自己PR・志望動機を実際に記入し完成させる。						富岡・外部講師
9	グループディスカッション 目標：「面接・グループディスカッションの基礎知識」、各々の基本知識と、企業が見ているポイントについて理解する。 「グループディスカッションの実践」、テーマに沿って、実際にディスカッションを実践。他者との意見の違いや、時間内にまとめることの難しさを認識することができる。						富岡・外部講師
10	グループディスカッション 目標：「面接・グループディスカッションの基礎知識」、各々の基本知識と、企業が見ているポイントについて理解する。 「グループディスカッションの実践」、テーマに沿って、実際にディスカッションを実践。他者との意見の違いや、時間内にまとめることの難しさを認識することができる。						富岡・外部講師
11	面接 目標：「面接のポイント確認」話し方、話す内容の確認。面接のチェックポイント(声の大きさや視線)を伝え、意識する。 「面接の実践」第10回で作成した自己PR・志望動機をもとに、グループで面接練習を実施。学生同士で実施し、お互いにFBする事で、客観的な視点を持つとともに、自身の課題への認識を深める。						富岡・外部講師
12	面接 目標：「面接のポイント確認」話し方、話す内容の確認。面接のチェックポイント(声の大きさや視線)を伝え、意識する。 「面接の実践」第10回で作成した自己PR・志望動機をもとに、グループで面接練習を実施。学生同士で実施し、お互いにFBする事で、客観的な視点を持つとともに、自身の課題への認識を深める。						富岡・外部講師
13	キャリアガイダンス(2コマ分の1) 目標：実際の企業の人事担当者による講話と就職内定者の話を通して就職試験の実際を知る。 また、就職の内定した先輩との交流を通して就職活動の実際について知る。						外部特別講師
14	キャリアガイダンス(2コマ分の1) 目標：実際の企業の人事担当者による講話と就職内定者の話を通して就職試験の実際を知る。 また、就職の内定した先輩との交流を通して就職活動の実際について知る。						外部特別講師
15	キャリアガイダンスの振り返り 目標：グループディスカッションを通して知識の共有と深化を図る。						富岡
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
講義への取り組み	50	グループワークの準備・チームワーク			総合評価	50	レポート等複数の成果物
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前学習：各テーマの予習を十分に行う。 事後学習：講義の振り返りと疑問点などの抽出及び疑問点解決のための取り組みを行う。 [60分程度]				課題提出後に添削の上で返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。			
受講生に望むこと	この科目は就職活動そのものに近い部分まで指導や活動を行うものである。 授業時間にしっかりと活動を行うこと。 外部とのかわり方でイレギュラーな日程で授業が行われるため、欠席をしないように気を付けること。			教科書・テキスト	『就活Navi』(本学配布)		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	授業時間内で適宜資料を配布予定。		

授業科目名	CC200C キャリア開発セミナーC		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵・竹下 正弘 (代表教員 富岡 和久)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「キャリア開発セミナーB」を踏まえ、就職時期において実践レベルである事を理解するとともに、自己概念の確立と社会人として身につけておくべき基礎力の点検と発揮を学ぶ。</p> <p>多くの一般社会人に共通して必要な能力・知識・心得などを知識と実践の両面でも高める。企業から選ばれる人材の要素は業種や企業やその歴史などで様々であるが、多くの新社会人に共通に必要なものの一つに、社会性や社会力がある。</p> <p>社会を形成する一個人としての自覚を持ち、知識を得ると同時に、実践して社会力を高め、企業から選ばれる人材への成長につなげる。</p>			<p>時事・社会問題について自己の考えを適切に表現できる。</p> <p>適切な情報を取捨選択し、対象企業に応じた履歴書が書ける。</p> <p>企業面接において、質問に対して適切な応答が出来る。</p>			
教授方法	講義・演習形式					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 目標：就職活動のコンピテンシーを習得する。就職活動やその準備で、具体的なチェック項目を確認する。現状の自分を把握できる。					富岡・葦名
2	時事・社会問題と新聞の社説 目標：時事や社会問題を理解する上での新聞社説の位置づけを理解している。					竹下
3	新聞社説の要約 目標：新聞社説の要約方法について基本的事項を理解している。					竹下
4	新聞社説の要約 目標：新聞社説の要約が出来る。					竹下
5	新聞社説の要約 目標：新聞社説の要約が課題提出者の意図に合わせて要約できる。					竹下
6	時事・社会問題の理解 目標：現代社会における時事や社会問題にどのようなものがあるか理解している					竹下
7	時事・社会問題の説明 目標：現代社会における時事や社会問題について、背景などを説明できる。					竹下
8	時事・社会問題に対する提案 目標：現代社会における時事や社会問題について、自己の意見を伝える事が出来る。					竹下
9	自己分析と自分史の作成 目標：自己の長所及び短所を明確に伝えられる。					葦名・富岡・ 学生支援課
10	履歴書作成 目標：個々の業種（企業）に合わせて履歴書が書くことが出来る。					葦名・富岡・ 学生支援課
11	インターンシップ理解 目標：インターンシップフェスや具体的な内容を理解し、冬季インターンシップの参加意欲を高める。					葦名・富岡・ 学生支援課
12	石川県の中小企業の理解と研究 <企業説明会> 目標：企業説明会で企業の採用担当者から概要を聞くことにより、企業理解を深める。					葦名・富岡・ 学生支援課
13	企業説明会 <企業交流会> 目標：企業交流を通して、企業理解の向上を図ると共に、採用担当者と話すことに慣れる。					葦名・富岡・ 学生支援課
14	企業理解および面接練習 目標：模擬面接を通して、言葉による適切な自己表現が出来る。					葦名・富岡・ 学生支援課
15	キャリア開発活動のまとめと3月の合同企業説明会に向けての説明 目標：採用試験における適切な活動が総合的に出来る。					富岡・葦名
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
取り組み姿勢	30	演習態度、グループ活動への参加の積極性や貢献度		中間試験	50	時事・社会問題について自己の考えを適切に表現できる。
課題	20	課題内容について、自己の意見等を明確に述べることが出来るかどうか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>実際の活動は授業外に及ぶ。計画をしっかり立てることがポイント。</p> <p>個人活動となるため、授業時間内の一括指導では行き届かない部分があることから、報告のために授業外の活動や学びは記録すること。</p> <p>事前事後の学習時間の割り振り合計30時間分を随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出した翌週に返却。</p> <p>また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	この科目の活動は、早晩就職活動で利用できる事柄ばかりであるため、就職活動を意識して積極的な姿勢で臨んでほしい。			教科書・テキスト	就活ナビ<本学配布>	
指定図書/参考書等	なし/適時講義の中で紹介する			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CC130C キャリア教養講座A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修
担当教員名	池村 努・松原 敏治 (代表教員 池村 努)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は全学共通科目、キャリア教育科目として開講する。キャリア形成の段階や、専門的な職業人として求められる専門的知識と、技術を獲得する上で必要となる教養を身につけ、社会人基礎力を養成する。</p> <p>具体的には、政治経済、現代社会における課題などをトピックス別に開設するとともに、学生自身が新聞記事等から読取り、まとめ、発表する。また、一般常識問題を読み解き、文章理解、判断推理等の基礎を身につける。</p>			<p>時事・政治・経済分野に於いて、「今起きていること」や、「社会人として知っておくべきこと」を理解する。もう一度数学に取組むことにより、社会人として必要な基礎的数学力を身につける。</p> <p>時事・政治・経済分野、文章読解、数学を通じ、就職活動で求められる一般常識問題やSPI試験への対策の足がかりとする。</p>			
教授方法	プリントを用いて問題を解き、解説を加える。クラスを二つに分け、それぞれ一般常識、数学を週替わりで学習する。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：科目ガイダンスと進路調査を行う。なぜ「キャリア教養講座」を学ぶのか。どのようにして学ぶのかについて説明し、動機付けをする。					池村
2	一般常識 2018年の出来事を振り返る。一般常識クリア問題集を使った授業の進め方。					池村
3	一般常識 国語（漢字問題）、メール文章の練習。					池村
4	数学 1次式のしくみ：実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。					松原
5	数学 1次式のしくみ：実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。					松原
6	数学 速さの問題：基本的な問題から取り組む。数学～の小テストを行なう。					松原
7	一般常識 社会（日本史・世界史）、メール文章の練習。					池村
8	一般常識 文化（一般）、メール文章の練習。					池村
9	一般常識 文化（音楽）、メール文章の練習。					池村
10	数学 集合の問題：集合の要素の数を求める様々な種類の問題に取り組む。					松原
11	数学 数え方の問題：場合の数をもれなく数える様々な種類の問題に取り組む。					松原
12	数学 理科に関する問題：SPIに出題される理科関係の問題に取り組む。数学～の小テストを行なう。					松原
13	一般常識 「消費者トラブル」に備える。					池村
14	一般常識 SPI3試験（言語能力）、新聞要約。					池村
15	一般常識 新聞要約、一般常識～の小テスト実施。					池村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
単位認定試験による	60	教授内容を理解していること。		授業への積極的取り組み	20	課題に対し、積極的に取り組んでいること。
小テスト	20	学んだ内容について振り返りを行なう。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>指定された箇所について目を通し、理解できていなかったところを質問できるようにする。[30分]</p> <p>出題された問題について、解けたものも含めた全ての問題について、復習を行う。[30分]</p>				授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。また、授業時間外には代表教員が取りまとめ、対応する。		
受講生に望むこと	社会人に必要な一般常識を学ぶに当たり、苦手意識を持たずに取り組んで欲しい。			教科書・テキスト	『最新最強の一般常識クリア問題集'20年版』成美堂出版編集部(2018) ISBN978-4-415-22693-4 (国語・時事・一般常識) 『情報倫理ハンドブック2019年度版』noa出版 (情報機器演習で使用)	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	適宜頭脳パズル等を用いる。	

授業科目名	CC140C キャリア教養講座B		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	必修	
担当教員名	池村 努・松原 敏治 (代表教員 池村 努)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「キャリア教養講座A」を踏まえ、体系的な就職対策の実践問題を通して、教養と社会人基礎力をさらに高める。具体的には、政治経済、現代社会における課題などをトピックス別に開設するとともに、学生自身が新聞記事等から読取り、まとめ、発表する。また、一般常識問題を読み解き、文章理解、判断推理等の基礎を学ぶ。 SPI2 試験を受け、その結果を基に自らの理解度を確認する。</p>			<p>時事・政治・経済分野に於いて、「今起きていること」や、「社会人として知っておくべきこと」を理解する。もう一度数学に取り組むことにより、社会人として必要な基礎的数学力を身につける。 時事・政治・経済分野、文章読解、数学を通じ、就職活動で求められる一般常識問題や SPI2 試験への対策の足がかりとする。</p>				
教授方法	プリントを用いて問題を解き、解説を加える。クラスを二つに分け、それぞれ一般常識、数学を週替わりで学習する。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	一般常識 SPI3試験(非言語能力)、新聞要約。					池村	
2	SPI2 試験：入社試験等で用いられている SPI2 試験を実施する。実際に解くことで入社試験への対策がどの程度取れているかを確認し、後半の学習に繋げる。					池村・学生支援課	
3	数学 割合と比 割合とは何かや割合の表し方について問題を解きながら学ぶ。					松原	
4	数学 割合と比 割増しと割引や構成比と濃度について問題を解きながら学ぶ。					松原	
5	数学 場合の数と確率の基礎 基本的な問題から取り組む。～ の小テストを行なう。					松原	
6	一般常識 国語(名言・慣用句)、メール文章の練習。					池村	
7	SPI2(言語的・非言語的問題)自己分析：SPI模擬試験の結果をもとに自分の適性等について考える。					池村・学生支援課	
8	一般常識 社会(日本地理・世界地理)、メール文章の練習。					池村	
9	一般常識 社会(法律)、新聞要約。					池村	
10	数学 平面図形の基礎 角度を求める問題や三平方の定理を用いる問題などに取り組む。					松原	
11	数学 命題と論理 あることがらが成り立ったとき、さらにどんなことがいえるか学ぶ。					松原	
12	数学 2次・3次の計算と指数法則 実例をもとにして、問題を解きながら学ぶ。～ の小テストを行なう。					松原	
13	一般常識 社会(社会保障)、メール文章の練習。					池村	
14	一般常識 国語(手紙文・長文読解)、新聞要約。					池村	
15	一般常識 一般常識 ～ の振り返り、覚えておきたいキーワード。					池村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
単位認定試験による	60	教授内容を理解していること。		授業への積極的取り組み	20	課題に対し、積極的に取り組んでいること。	
小テスト	20	学んだ内容について振り返りを行なう。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>前回使用されたプリントに目を通し、理解できていなかったところを質問できるようにする。[45分] 出題された問題について、解けたものも含めた全ての問題について、復習を行う。[30分]</p>				<p>授業開始前、または終了後に質問を受け付ける。また、授業時間外には代表教員が取りまとめ、対応する。</p>			
受講生に望むこと	就職試験や編入学を見据えて、積極的に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	『最新最強の一般常識クリア問題集'20年版』成美堂出版編集部(2018)ISBN978-4-415-22693-4(国語・時事・一般常識) 『情報倫理ハンドブック2019年度版』noa出版(情報機器演習で使用)		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	適宜頭脳パズル等を用いる。		

授業科目名	CC220C ビジネス人間関係論			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
上司や取引先、同僚や部下など、ビジネスは多くの人と関わることでなりたっている。本授業では、職場をはじめとするビジネスの現場における人間関係論を学び、よりよい人との関わり方を考える。				授業で設定されたテーマを理解する。 授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。 授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。			
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション - ビジネス社会での人間関係とは -						
2	上司の心理 : 上司のタイプとその上司との良い人間関係の作り方について考える						
3	部下の心理 : 部下のタイプとその上司との良い人間関係の作り方について考える						
4	同僚の心理 : 同僚のタイプとその同僚との良い人間関係の作り方について考える						
5	信頼の構築 : 人間関係を作るのに大切な信頼の構築について考える						
6	ビジネスとEQ(1) : 人間関係におけるEQの重要性とその概要を学ぶ						
7	ビジネスとEQ(2) : 人間関係におけるEQの鍛え方を考える(1)						
8	ビジネスとEQ(3) : 人間関係におけるEQの鍛え方を考える(2)						
9	コミュニケーション : 職場やビジネス上でのコミュニケーションについて理解する						
10	リーダーシップ(1) : リーダーシップのさまざまな考え方について学ぶ						
11	リーダーシップ(2) : 職場でのリーダーシップについて考える						
12	フォロアースhip : リーダーを補佐するフォロアーの役割について理解する						
13	モチベーション : 仕事についてのモチベーションについて考える						
14	職場のストレスとメンタルヘルス : 職場でのストレスと、メンタルヘルス対策について理解する						
15	まとめ - 全体を振り返る -						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	90	授業内容の理解度を評価する			授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと [30分] 授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語や内容を深く理解する [60分]				終了後にフィードバックを行う			
受講生に望むこと	日々の学校生活やサークル活動、バイト等を通じ、人間関係論について考えることを期待する。			教科書・テキスト	なし（資料を配布する）		
指定図書/参考書等	なし / 『職場の心理学』齊藤勇 西東社 2015年 ISBN978-4-7916-2032-6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CC090C 数学基礎			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	自由
担当教員名	松原 敏治						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
大学の専門科目の中には数学的な考え方が要求されるものがあるが、その習得が必要である。また、数学的な見方や考え方を身につけておくことは社会生活を送る上で役に立つ。このため、主として数・Aまでの題材の中で専門科目の講義や社会生活を送る上で必要な事項を取り上げ、理解を深める。				各回の内容について基本的な考え方を理解し、問題が解けるようにする。授業前半の解説をもとに、後半は問題プリントに取り組む。問題プリントは提出を求める。専門科目の講義に出てくる数学的な考え方、就職試験などに出てくる各種問題に対応できる力をつける。			
教授方法	演習プリントの取り組み、解説、関連事項の解説。添削指導。						
履修条件	学科指定の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション : 学習の仕方などについて説明を行い、あわせて計算力調査を行います。						
2	計算の基礎 : 整数の加減のしくみについて問題を解きながら学びます。						
3	計算の基礎 : 整数の乗除のしくみについて問題を解きながら学びます。						
4	計算の基礎 : 小数の加減のしくみについて問題を解きながら学びます。						
5	計算の基礎 : 小数の乗除のしくみについて問題を解きながら学びます。						
6	第2回から第5回についてのまとめとふりかえり。単元テスト。						
7	割合と比 : 割合とは何かや割合の表し方について問題を解きながら学びます。						
8	割合と比 : 割合の計算について問題を解きながら学びます。						
9	割合と比 : 割増と割引について問題を解きながら学びます。						
10	割合と比 : 構成比と濃度について問題を解きながら学びます。						
11	第7回から第10回についてのまとめとふりかえり。単元テスト。						
12	一次方程式 : 基本的な考え方について問題を解きながら学びます。						
13	平面図形と面積 : 実例をもとにして、問題を解きながら学びます。						
14	グラフと表の読み方 : 実例をもとにして、問題を解きながら学びます。						
15	第12回から第14回についてのまとめとふりかえり。単元テスト。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
単元テスト	40	単元ごとの履修項目の理解度をみるもので、基本的には7割の正解が望まれる。			課題への取り組み状況	40	各人の能力には差異があるが、どれだけ向上したか、どれだけ意欲的に取り組んだかをみる。
積極性	20	毎回意欲的に取り組んでいた時、高い評価をする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業開始時に、前回の講義内容を復習して講義に臨む。過去に算数・数学でつまづいた箇所を振り返っておくこと。事後学習として、学習プリントの復習を最低30分必ず行ってください。さらに、該当の内容の問題を自分が過去に使った数学の教科書あるいは数学検定問題集から探して解いてみることを勧めます。				提出されたプリントは、その次の講義で返却する。返却時には添削がしてあります。その添削についてわからないことがある場合は、積極的に質問をすること。			
受講生に望むこと	各回における数学的な考え方の理解につとめること。計算問題への取り組み。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/参考図書： 『受かる！数学検定3級』 日本数学検定協会（監修） 学研教育出版 2012年 ISBN978-4-05-303591-2			その他・特記事項	数学検定に挑戦したい学生には別途アドバイスします。		

授業科目名	CF100C 統計の基礎			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
アンケート調査や実験などの測定データを整理し、そのデータの持っている傾向や性質の把握および、予測などを行う方法を統計的手法という。今日、このような手法は自然科学や社会科学、人文科学の分野を問わず、広く浸透し活用されている。履修者にとっては、卒業レポート作成時や仕事において、必要となる場面が多くあるだろう。本講義では、統計学の基本概念を理解し、統計的手法を利用する能力を養うことを目的とする。難しい数学を使わずできるだけ平易に解説し、確実に習得できるよう問題演習を行う。				統計の基礎概念を理解する。 基本統計量を理解し、EXCELを用いて導出できる。 相関関係を理解し、EXCELを用いて回帰分析ができる。 検定の考え方を理解し、それらを活用できる。			
教授方法	講義、演習						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	統計の基礎概念：母集団と標本、基本統計量、データ尺度について理解する。						
2	基本統計量：平均、中央値、最頻値、分散を導出する。						
3	基本統計量：標準偏差、不偏分散、変動係数を導出する。データの標準化を行う。						
4	基本統計量：EXCELを用いて、基本統計量の導出を行う。						
5	度数分布とヒストグラム：度数分布表とヒストグラムを作成する。						
6	相関：相関関係を理解し、相関係数を導出する。						
7	単回帰分析：回帰直線と決定係数について理解する。EXCELを用いて回帰分析を行う。						
8	課題演習：実データをダウンロードし、EXCELを用いた回帰分析を行う。						
9	時系列データ分析：移動平均法と自己回帰分析について理解する。						
10	時系列データ分析：EXCELを用いた移動平均の導出と自己回帰分析を行う。						
11	正規分布：正規分布、標準正規分布、正規分布表の使い方について理解する。						
12	検定：帰無仮説と対立仮説、有意水準など検定の考え方を理解する。						
13	検定：母平均の差の検定（対応のないt検定）を理解する。						
14	検定：母平均の差の検定（対応のあるt検定）を理解する。						
15	課題演習：EXCELを用いてt検定を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢。			演習課題	20	課題への取り組み姿勢。正しい分析ができているか。
期末テスト	60	講義内容を理解しているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前に、各回のテキストの当該箇所を目を通しておくこと[15分] 期末テストに備えて、毎回授業で習ったことを復習すること[20分]				提出した課題は、採点したものを次回の冒頭で返却する。			
受講生に望むこと	授業内容の理解を深めるため、問題演習に真面目に取り組むこと。			教科書・テキスト	『基礎から学ぶ統計解析 - EXCEL2010対応 - 』 沢田史子、杉森公一、大藪多可志 著 共立出版 2011年 ISBN 978-4-320-01974-4		
指定図書/参考書等	なし / 『ゼロからの統計学 - 使えるシーンが見える - 』 竹田茂生、藤木清著 くろしお出版 2010年 ISBN 978-4-87424-471-5			その他・特記事項	ノート・電卓（計算できるもの）を準備すること。		

授業科目名	CF200C リサーチ入門			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	富岡 和久						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>研究レポートやビジネスプレゼンに説得力を持たせるための調査スキルを身に付けることを目的とする。調査の基本概念（調査方法の種類と特徴）、質問紙調査の基礎（調査票作成とサンプリングの方法）と実施方法、インタビュー調査の流れとポイントについて学び、インタビュー調査を実施する。</p>				<p>定性および定量型の調査・集計・分析の基本的な知識やスキルを修得する。観察調査、インタビュー調査および質問紙調査を取り上げ、調査の基礎を演習形式で身につける。</p>			
教授方法	演習形式を交えた講義						
履修条件	「統計の基礎」を履修していることが望ましい。（単位未修得可）						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	<p>科学的方法を学ぶ(第1章) 目標：科学する方法、記述と説明、合意と信用について理解する。</p>						
2	<p>データの種類と尺度(第2章) 目標：データの種類、変数・仮説一尺度及び尺度別アンケート質問について理解する。</p>						
3	<p>調査の基本概念(第3章) 目標：調査の種類と特徴及び最適な調査方法はどれかなどを理解する。</p>						
4	<p>観察調査(1) 観察調査の基礎と調査研究計画書の作成(第4章) 目標：観察調査の種類、ミステリーショッパー(店舗観察調査)の流れを理解する。</p>						
5	<p>観察調査(2) 観察シート作成(第5章) 目標：観察シート作成のポイントを理解する。 グループのメンバーが観察シートを持ち寄り、調査に使用する1つの観察シートを完成する</p>						
6	<p>観察調査(3) 調査結果の整理と報告(第6章) 目標：観察調査の結果の分析ができる。</p>						
7	<p>観察調査(4) 発表準備一発表(第6章) 目標：効果的な発表が出来るようになる。</p>						
8	<p>インタビュー調査(第7章) 目標：インタビュー調査の流れとポイントを理解する。</p>						
9	<p>質問紙調査(1) 概要 = 質問紙調査の理解と調査研究計画書の作成(第8章) 目標：質問紙調査の流れ、調査企画書の作成、サンプリング、ワーディングを理解する。</p>						
10	<p>質問紙調査(2) 質問紙作成(第9章) 目標：質問紙作成の手順を理解し、質問紙を作成できる。</p>						
11	<p>質問紙調査(3) データ入力(第10章) 目標：目的に応じたデータ作成ができる。</p>						
12	<p>質問紙調査(4) データ分析(第10章) 目標：データ分析の準備(ラベル入力など)と基礎的な集計ができる。</p>						
13	<p>質問紙調査(5) データ分析(第11章) 目標：分析の方法を理解し、考察できるようになる。</p>						
14	<p>質問紙調査(6) 発表準備(第12章) 目標：質問紙調査の結果をまとめられる。</p>						
15	<p>質問紙調査(7) 発表(第12章) 目標：質問紙調査の分析結果を発表できると共に、他の人の発表を共有できる。</p>						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
ワークシート	15	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度			観察調査研究計画書、観察シート、質問紙調査研究計画書及び調査票	20	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度
観察調査プレゼン	25	資料及び発表の完成度			質問紙調査レポート	40	目的に対する妥当性・表現力・正確性などの完成度
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
ワークシート、各種調査シート、計画書等の作成[30時間] 観察調査、インタビュー調査および質問紙調査[30時間]				課題提出後に添削の上で返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。			
受講生に望むこと	積極的に実地調査に取り組んでください。 また、論理的思考を身につけることを意識してください。			教科書・テキスト	竹田茂生・藤木清著『知的な論文・レポートのためのリサーチ入門』くろしお出版2013年 ISBN 978-4-87424-598-9		
指定図書/参考書等	学習技術研究会著『知へのステップ第4版』くろしお出版2015 ISBN 4874246508			その他・特記事項	特になし		

授業科目名	CF110C アガミツクリディング			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	松岡 香						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>大学生として必要な「読む力」の修得を目的とする。文系領域を中心とした学問分野におけるクリティカルリーディングの技術を習得し、批評的な思考や姿勢を自身の中に取り込んでいく。文学、美術、心理学、社会学などさまざまなテーマに基づいた文献を読み、読んだ内容についての意見をまとめる。さらには、学生同士、あるいは教員との意見交換など、双方向的なやり取りを行いながら、授業を進めていく。</p>				<p>評論やエッセイなどを正しく理解する能力を習得する。内容を論理的に要約、説明する能力を身につける。論理的な読解を通して、批判的な読み方を身につける。四年制大学編入を視野に、文章読解力と表現力とを習得する。</p>			
教授方法	講義を中心に、討論などを取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業のガイダンス 講義の進め方や成績評価について説明 大学における学問領域についての確認						
2	学術的な文章の構成についての説明。読解するための読み方を考える						
3	文学的な内容のエッセイと評論とを読み、違いを考える						
4	美術評論を読み、該当の作品を鑑賞しつつ内容を理解する						
5	哲学、心理学的な評論を理解する						
6	民俗学的なエッセイ、評論を読み、内容を理解する						
7	社会学的な文章を読むとともに、統計表の読み取り方を身につける						
8	歴史的なエッセイ、評論を読み、内容を理解する						
9	新聞の論説を中心に、国際情勢に関する理解を深める						
10	これまでの読解を深め、関心のある領域について自身の意見をまとめる(1)						
11	図書館の資料等を利用しつつ、関心のある領域についての意見をまとめる(2)						
12	それぞれの意見の中からいくつかを選出、ディスカッションを行う						
13	履修者の志望や関心に基づいた文献を紹介、理解を深める(1)						
14	履修者の志望や関心に基づいた文献を紹介、理解を深める(2)						
15	全体の総括 学術的な文章の読解とそれを表現する方法を考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業内課題	60	毎回の課題の提出と完成度			授業への取り組み	30	積極的な授業参加の姿勢、発言
小テスト	10	全3回の確認テスト					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>新聞等を中心に、日常的に多くの文章を読むことを強く勧める。(30分) 授業で取り上げる内容については、必ず予告するので、それらについて事前に調べておくことが望ましい。(30分) 社会的に話題になっている書物について、目を通しておくこと。(月に2冊程度)</p>				<p>提出物については、添削だけでなくコメントをつけて返却する。 発言や発表については、その場で質疑に応じる。</p>			
受講生に望むこと	文章を読み、理解する力を養うことは、自信の確立につながる重要な作業です。四年制大学編入を目指す人はもちろん、読解力や理解力を高めたい学生の受講を期待します。正しく理解し、意見を持ち、さらにはそれを的確に表現できるよう、積極的に授業に参加してください。			教科書・テキスト	なし(授業内で配布)		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	国語辞典必携のこと		

授業科目名	CF210C 小論文作成法			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	高島 彬						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
日本語での論述力を高めるための講義である。特に、編入学試験で課される小論文対策を主たる目的とする。小論文やレポートは、とにかく書く(数をこなす)ことによるのみ上達する。それ故、この講義では受講生各自の専攻・興味・関心に応じて、短いレポートから、長めの小論文をたくさん書いてもらうことになる。				自らの考えを相手に適切に伝える「表現力」を身につける。編入学試験で合格レベルに達する小論文の書き方を身につける。			
教授方法	演習、講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	レポート・小論文の書式とレイアウト、文体、符号の使い方						
2	引用文の表記法、注釈の表記法						
3	文献、資料の収集法 (1)						
4	文献、資料の収集法 (2)						
5	レポート・小論文を基にしたプレゼンテーションについて						
6	卒業論文の書き方						
7	实例に学ぶ 優れた小論文を読む (1)						
8	实例に学ぶ 優れた小論文を読む (2)						
9	实例に学ぶ 様々な小論文を読んで、批評、討論 (1)						
10	实例に学ぶ 様々な小論文を読んで、批評、討論 (2)						
11	实例に学ぶ 様々な小論文を読んで、批評、討論 (3)						
12	小論文を書いてみよう(1)						
13	小論文を書いてみよう(2)						
14	受講者の小論文に対するフィードバック、討論						
15	受講者の小論文に対するフィードバック、討論、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
小論文	60	実際に小論文を6本ほど書いてもらい、講義で話し合ったルールを守って書いているかという点と、論の組み立て方、内容の点で評価する。			授業態度	10	授業中の討論に積極的に参加し、発言しているか。
レポート(宿題)	30	小論文以外の宿題(レポート、感想文)を課すが、それらをきちんと提出しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
普段から良い(小)論文をたくさん読む努力もしてほしい。それを、自分が(小)論文を書く際のサンプルにしてほしい。良い(小)論文は、授業担当者も提示するが、各自図書館やインターネットで収集し、積極的に読んでみる。[論文によるが120分~360分/1論文]				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。期末試験は希望者にのみ返却する。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	小論文やレポートは、とにかく書く(数をこなす)ことによるのみ上達する。それ故、この講義では受講生各自の専攻・興味・関心に応じて、短いレポートから、長めの小論文をたくさん書いてもらうことになる。			教科書・テキスト	『新版 大学生のためのレポート・論文術』 小笠原喜康、講談社現代新書、2009年 (ISBN: 978-4062880213)		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB100C 資格簿記A			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	蘭守 貴弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	全国経理教育協会簿記能力検定試験3級（全経簿記3級）				
授業の概要				授業の到達目標			
全ての企業が行う会計業務を遂行するために必要となる簿記の基礎的な知識を習得する。				7月に行われる全国経理教育協会簿記能力検定試験3級の合格を目指します。			
教授方法	講義と問題演習の併用。						
履修条件	簿記検定資格取得希望者に限る						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	簿記の目的について理解する。						
2	損益計算書と貸借対照表について理解する。						
3	簿記上の取引とは何かを理解する。						
4	勘定と仕訳について理解する。						
5	商品売買の記帳について理解する。						
6	売掛金・買掛金の意味と記帳について理解する。						
7	簿記上の現金の意味と記帳について理解する。						
8	当座預金と当座借越の意味と記帳について理解する。						
9	手形の意味と記帳について理解する。						
10	その他債権債務の意味と記帳について理解する。						
11	決算（その1）売上原価の計算と記帳について理解する。						
12	決算（その1）貸倒引当金の計算と記帳について理解する。						
13	決算（その1）減価償却費の計算と記帳について理解する。						
14	全国経理教育協会簿記能力検定試験3級の問題演習（試算表の作成を中心として）						
15	全国経理教育協会簿記能力検定試験3級の問題演習（精算表の作成を中心として）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	定期試験の評点により評価を行う。			提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回で指示をした演習問題を次回授業までに解き、分からないところの洗い出しをしておく。[50分] また実施した小テストで間違ったところは、必ず復習とチェックを行う。[20分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[180分]				実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。			
受講生に望むこと	電卓を携行すること。 分からないことは何でも、何度でも質問すること。			教科書・テキスト	大原で合格る 日商簿記3級 中央経済社 2018年 ISBN：978-4-502-24931-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	全経3級の受験が単位認定の要件の1つとなる。ただし、合否は成績に反映されないものとする。なお、全経3級または全商3級取得済みの学生で日商3級取得希望者は、全経3級の受験は免除される。		

授業科目名	CB105C 資格簿記B			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	蘭守 貴弘						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	日商簿記検定3級				
授業の概要				授業の到達目標			
簿記の学習は、商業簿記と工業簿記から成り立っています。資格簿記Cでは、商業簿記については株式会社における会計処理を学び、工業簿記においては製造業における会計処理の概要について学びます。				製造業における記帳体系を学び、工業簿記が商業簿記とどのようにつながりを持っているのかを理解することにより、日本商工会議所簿記検定試験2級受験に向けての基礎地知識を身に付けることを目指す。			
教授方法	講義と演習の併用による。						
履修条件	資格簿記Aを履修した者または、高校において簿記を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	簿記一巡の手続きと財務諸表について理解する。						
2	銀行勘定調整表の作成と、それに伴う記帳について理解する。						
3	有価証券の意味と記帳について理解する。						
4	商品売上の記帳方法を学ぶとともに、売上原価の意味と記帳について理解する。						
5	固定資産（有形固定資産、無形固定資産）の意味と記帳について理解する。						
6	引当金、特に貸倒引当金と賞与引当金の意味と記帳について理解する。						
7	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その1）						
8	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その2）						
9	損益計算書と貸借対照表の様式について理解する。						
10	工業簿記の概要について理解する。						
11	工業簿記特有の勘定科目と記帳体系について理解する。						
12	個別原価計算における製品現価の集計方法を理解する。						
13	商企業の財務諸表と比較しつつ、工企業の財務諸表について理解する。						
14	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その1）						
15	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その2）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	定期試験の評価により評点を行う。			提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回で指示をした演習問題を次回授業までに解き、分からないところの洗い出しをしておく。[50分] また実施した小テストで間違ったところは、必ず復習とチェックを行う。[20分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[600分]				実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。			
受講生に望むこと	電卓を必ず携行すること。 分からないことは、何でも何度でも質問すること。			教科書・テキスト	大原で合格る 日商簿記3級 中央経済社 2018年 ISBN：978-4-502-24931-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	日商3級の受験が単位認定の要件の1つとなる。ただし、合否は成績に反映されないものとする。		

授業科目名	CB200C 資格簿記C			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	蘭守 貴弘						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	日商簿記検定2級				
授業の概要				授業の到達目標			
簿記の学習は、商業簿記と工業簿記から成り立っています。資格簿記Cでは、商業簿記については株式会社における会計処理を学び、工業簿記においては製造業における会計処理の概要について学びます。				製造業における記帳体系を学び、工業簿記が商業簿記とどのようにつながりを持っているのかを理解することにより、日本商工会議所簿記検定試験2級受験に向けての基礎地知識を身に付けることを目指す。			
教授方法	講義と演習の併用による。						
履修条件	資格簿記Bを履修した者または、高校において簿記を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	簿記一巡の手続きと財務諸表について理解する。						
2	銀行勘定調整表の作成と、それに伴う記帳について理解する。						
3	有価証券の意味と記帳について理解する。						
4	商品売上の記帳方法を学ぶとともに、売上原価の意味と記帳について理解する。						
5	固定資産（有形固定資産、無形固定資産）の意味と記帳について理解する。						
6	引当金、特に貸倒引当金と賞与引当金の意味と記帳について理解する。						
7	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その1）						
8	株式会社の意味と、その固有の会計処理について理解する。（その2）						
9	損益計算書と貸借対照表の様式について理解する。						
10	工業簿記の概要について理解する。						
11	工業簿記特有の勘定科目と記帳体系について理解する。						
12	個別原価計算における製品現価の集計方法を理解する。						
13	商企業の財務諸表と比較しつつ、工企業の財務諸表について理解する。						
14	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その1）						
15	総合原価計算の計算方法と、その記帳について理解する。（その2）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	70	定期試験の評価により評点を行う。			提出物	30	講義内容ごとに小テストを行い、その理解度により評価を行う。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回で指示をした演習問題を次回授業までに解き、分からないところの洗い出しをしておく。[50分] また実施した小テストで間違ったところは、必ず復習とチェックを行う。[20分] 資格試験の受験前には、試験対策として演習問題を行う。[600分]				実施した小テストは、提出した次の授業で返却する。 分からないところを残したままにすると、資格試験受験の合格に支障を来すため、授業中や授業の前後に質問して速やかに解決をすること。 開講日には講師室でも質問対応を行う。			
受講生に望むこと	電卓を必ず携帯すること。 分からないことは、何でも何度でも質問すること。			教科書・テキスト	大原で合格る 日商簿記2級 中央経済社 2018年 ISBN：978-4-502-25301-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB110C 資格接客サービスA			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	中川 真由美						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 サービス接客検定3級				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>実務技能検定協会・サービス接客検定3級取得に向けた問題演習を行うとともに、ホテル業や販売業・接客業務に携わるうえで必要な基礎的な内容が盛りだくさん組み込まれている内容になっている。6月中旬に3級を受験し、その後は2級を目指し、さらにランクアップした内容にチャレンジする。2級の資格取得の受験は後期の授業の中で更に学習を深め11月に受験予定とする。</p>				<p>サービス接客検定3級の受験と合格を目指す。接客業務に必要な基本的なマナー・ルールを身につける。コミュニケーション能力が身につくこと。</p>			
教授方法	講義・ロールプレイング						
履修条件	サービス接客検定資格取得希望者に限る。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	サービス接客検定についての説明・学習方法・ホスピタリティマインドについて理解する。						
2	サービスを担当するスタッフの必要要件について理解する。						
3	サービスを担当するスタッフの必要な資質について理解する。						
4	サービスとホスピタリティとの関係と事例検討について理解する。						
5	経済活動・商業活動・について理解する。						
6	マーケティングについて理解する。						
7	一般知識（ビジネス用語・社交マナー・贈答マナー等）に必要な知識を学び、理解する。						
8	その他の一般常識について学習し、知識の習得を目指す。						
9	顧客心理についての学習するし、CS（顧客満足）の向上に向けての対応力を身につける。						
10	CS（顧客満足）についての学習を事例をもとに実施する。						
11	CS（顧客満足）についての事例検討から学び、CS（顧客満足）に関する知識を深める。						
12	接客用語の学習：基本的な接客用語を理解する。						
13	接客会話の学習：理解した接客用語を用い会話を通じて理解を深める。						
14	接客（接客）の実際について理解する。						
15	接客（接客）対応のロールプレイングを行い実践的に理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
知識の取得 割合	40	期末試験・小テスト			知識の体得 の割合	40	レポート（課題）
学習の参加 割合	20	授業・ロールプレイングへの参加割合					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業で配布した資料、演習問題は必ず授業後に復習すること。[40分] 試験に出題されることの多い重要なところです。 授業外での学習量が資格取得には欠かせません。</p>				<p>レポート等については必ず評価し、個々にフィードバックをする。 また内容的に受講学生と共有した方がよいものがあれば全員にフィードバックし課題を共に考える。（その際記入者の名前は発表しないこととする）</p>			
受講生に 望むこと	資格を目指すことの授業となるので、資格試験を受験することは必須とします。検定試験の可否は成績には反映しません。			教科書・ テキスト	『サービス接客検定実問題集3級 第39～43回』（早稲田教育出版） ISBN 978-4-7766-1292-6		
指定図書/ 参考書等	各出版社から多数問題集が出ているので、自分に合った物を選択して下さい。			その他・ 特記事項	3級を取得済みの学生でも、2級取得希望者は履修可		

授業科目名	CB115C 資格接客サービス			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	中川 真由美						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 サービス接遇検定2級、準1級				
授業の概要				授業の到達目標			
実務技能検定協会・サービス接遇検定2級取得に向けた問題演習を行う。更に上級接遇レベルの知識の習得をめざす。検定試験終了後は準1級の取得に向けた面接練習の実施など、接客サービス業に必要な知識を習得する。				サービス接遇検定2級の受験と合格を目指す。業務において基本的なルール・マナーが身に付いていることはもちろん、更にステップアップした顧客心理やそれに準じた対応ができるようスキルのレベルアップができています。			
教授方法	講義・ロールプレイング						
履修条件	サービス接遇検定資格取得希望者に限る。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	経済のサービス化とサービスのとらえ方について理解する。						
2	サービスマネジメントの考え方woサービススタッフのマネジメントを理解する。						
3	サービスの知識の学習 : サービスの種類を理解を深める。						
4	サービスの知識の学習 : 顧客のマネジメントについて学び、理解する。						
5	顧客満足 (CS) の重要性についてさらに理解をする。						
6	顧客満足から顧客ロイヤルティについての学習と理解を深める。						
7	プロとしての接遇マナー・接遇スキルについてロールプレイングを通して理解を深める。						
8	顧客対応の基本: ホスピタリティ マインドについて説明を行い事例検討を通して理解を深める。						
9	顧客対応の基本: 第一印象について学び、理解をする。						
10	サービススタッフの基本的な言葉づかいを学び、理解する。						
11	電話対応の基本について学び、理解をする。						
12	問題解決の進め方(クレーム処理)について事例検討から理解を深める。						
13	チームワークについて理解する。						
14	準1級に向けてのロールプレイング : サービス知識に関する理解の確認を行う。						
15	準1級に向けてのロールプレイング : 検定対策を全般のまとめを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
知識の取得度合	40	期末試験・小テスト・レポート等から			知識の体得度合	40	ロールプレイングの実施
学習の参加度合	20	授業・ロールプレイングへの参加度合					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業で配布した資料、演習問題は必ず授業後に復習すること。[40分]試験に出題されることの多い重要なところです。授業外での学習量が資格取得には欠かせません。				レポート等については必ず評価し、個々にフィードバックをする。また内容的に受講学生と共有した方がよいものがあれば全員にフィードバックし課題を共に考える。(その際記入者の名前は発表しないこととする)			
受講生に望むこと	サービス接遇検定2級を受験することを必須とします。検定の可否は成績に反映しません。			教科書・テキスト	『サービス接遇検定実問題集1-2級』(早稲田教育出版) 9月上旬刊行予定		
指定図書/参考書等	書店にて自分に合った問題集を購入して実施することを勧めます。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB120C 資格秘書技能A		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	中川 真由美					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 秘書検定3級			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>社会人として必要なルールやマナーを学べる実務技能検定協会・秘書検定3級及び2級取得に向けた問題演習を行う。検定取得にとどまらず今後の社会生活においても必要な基本的な社会常識を身につける。前期では検定試験は受験せず、後期終了後に2級を受験する(2月受験予定)。</p>			<p>社会常識・一般常識を身につける。秘書検定3級レベルの知識の習得。</p>			
教授方法	講義・ロールプレイング・グループセッション					
履修条件	秘書検定資格取得希望者に限る。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	. 必要とされる資質： 心構えについて理解をする。					
2	. 必要とされる資質： 要求される資質について理解をする。					
3	. 職務知識： 秘書の機能と役割について理解を深める。					
4	. 職務知識： 秘書の業務について説明を行い、グループディスカッションを通じて理解をする。					
5	知識確認テストの実施					
6	. 一般知識： 企業と経営について理解する。					
7	. 一般知識： 社会常識について理解する。					
8	. 一般知識： ビジネス用語について理解する。					
9	. マナー・接遇： 話し方・聞き方について説明し、ワークを通して理解を深める。					
10	. マナー・接遇： 敬語について(パート)について説明し、ワークを通して理解を深める。					
11	. マナー・接遇： 敬語について(パート)について説明し、ワークを通して理解を深める。					
12	. マナー・接遇： 接遇用語についてケースワークを通して理解を深める					
13	確認確認テスト					
14	. マナー・接遇： 電話対応スキルの習得(ワークを通して学習を実施)					
15	. マナー・接遇： 接遇対応スキルの習得(ロールプレイングを中心に行う)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
知識の習得度合	40	期末試験、中間試験の実施・途中小テストにて理解度のチェック、グループワークでの成果・レポート等		課題の取組・提出等	40	決められた課題に対して期限までに提出・内容のマッチング等
授業への参加度合	20	授業への積極的取組等				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業で配布した資料、演習問題は必ず授業後に復習すること。[40分] 試験に出題されることの多い重要なところです。 授業外での学習量が資格取得には欠かせません。</p>				<p>途中の小テスト及びレポート等は必ず評価しフィードバックをします。</p>		
受講生に望むこと	<p>検定試験に関しては基本2級資格の取得を目指すため、後期11月に受験することを目的とします。2級は合格率全国平均でも50%前後であり前期後期かけて知識の習得を目指し、合格だけにとどまらず社会人としての知識の習得を希望します。</p>			教科書・テキスト	<p>『秘書検定2級集中講義』 ISBN978-4-7766-1019-9 早稲田教育出版 『秘書検定2級クリアテスト』 ISBN978-4-7766-1023-6 早稲田教育出版</p>	
指定図書/参考書等	書店にて自分の好みの問題集を購入して実施して下さい。			その他・特記事項	<p>秘書検定2級は後期終了後2月に受験予定。 11月に受験することも可能。 また同時に3級の受験も可能。</p>	

授業科目名	CB125C 資格秘書技能B		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	中川 真由美					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	実務技能検定協会 秘書検定2級			
授業の概要			授業の到達目標			
前期に引き続き秘書技能検定2級を目指し問題演習を行う。前期にて基本的な心構えや社旗常識を中心に学習してきたが、後期は更にそのレベルを深める。具体的な接遇方法や文書の作成・ファイリング・社会人としての交際マナー・会議業務等の知識を深める。11月に実施予定の秘書検定2級の受験合格をめざし、その後はさらに社会人になったときと想定し現場に通用するルールマナーの学習を実施しそれらを身につけることを目的とする。			秘書検定2級の受験と合格。社会人として現場で求められる基本的就業力を身につける。			
教授方法	講義・グループセッション					
履修条件	秘書検定資格取得希望者に限る。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	秘書としての役割について・役割と仕事の処理方法の基本について学ぶ。					
2	接遇と交際マナーの実際について学び、理解する。					
3	会議と文書作成について学び、理解する。					
4	文書の取り扱い(ファイリング)とオフィス管理について理解する。					
5	社会人としての基礎マナー・ルールを身につける : 事例ワークを通して学習する。					
6	社会人としての基礎マナー・ルールを身につける : グループディスカッションを通じて理解を深める。					
7	秘書検定受験に向けての課題 : 役割と仕事の処理基本について理解度を確認する。					
8	秘書検定受験に向けての課題 : 文書作成とオフィス管理について理解度を確認する。					
9	秘書検定受験に向けての課題 : 社会人としての基礎マナー・ルールについて理解度を確認する。					
10	理論問題の復習と確認 : 秘書としての資質や職場の役割について復習と確認を行う。					
11	理論問題の復習と確認 : 職務知識御呼び一般知識について復習と確認を行う。					
12	実務問題の復習と確認 : 言葉づかい及び接遇の際のマナーについて復習と確認を行う。					
13	実務問題の復習と確認 : 情報の扱いと知識及びスケジュール管理や職場環境の整備について復習と確認を行う。					
14	過去問題の実施					
15	過去問題の実施					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
知識の習得度合	40	期末試験・グループワークでの成果・ロールプレイングでの成果・2級及び3級の検定の受験。理解の確認のための小テストの実施。		授業への参加度合	40	授業や課題への積極的取り組み等
課題への取り組みと提出	20	決められた課題の提出と内容のマッチング等				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業で配布した資料、演習問題は必ず授業後に復習すること。[40分]試験に出題されることの多い重要なところです。授業外での学習量が資格取得には欠かせません。				途中実施する小テストやレポート等については、評価しフィードバックをする。		
受講生に望むこと	検定に向けた授業となるので必ず受験するようにしてください。受験後は更に秘書だけにとどまらず、社会人としてすべての業務に必要な知識の習得を目指しますので積極的に授業に参加し、スキルを身につけてください。			教科書・テキスト	『秘書検定2級集中講義』 ISBN978-4-7766-1019-9 早稲田教育出版 『秘書検定2級クリアテスト』 ISBN978-4-7766-1023-6 早稲田教育出版 (「資格秘書技能A」と同じテキストを使用)	
指定図書/参考書等	書店で販売されている問題集を購入し、実施することも勧めます。			その他・特記事項	秘書検定2級または3級の受験が単位認定の要件の1つとなる。ただし合否は成績には反映されないものとする。	

授業科目名	CB130C 資格コンピュータA		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	マイクロソフト オフィス スペシャリスト (MOS) Word、Excel			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>コンピュータ関連資格として世界的に通用するMicrosoft Office Specialist (以下MOS) 資格の取得を目指す。テキスト(問題集)に基づき、自分のペースで問題を解きながら練習する。練習問題と模擬テストはそれぞれ履歴を付け、成長を確認しながらすすめる。模擬テストにより実力を判定した後、MOSの本試験を受け合格を目指す。模擬テストを行なった結果、受験するだけの力を有していないと科目担当が判断した場合は、本試験受験を認めない。</p>			<p>MOSのWord2013,Excel2013どちらかの取得を到達目標とする。特に「資格コンピュータA」ではMOS Excel 2013の取得を目指す。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	MOS資格取得希望者に限る。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：MOS試験概要の説明、演習の進め方についての説明。					
2	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第1章：ワークシートやブックの作成と管理。					
3	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第2章：セルやセル範囲の作成。					
4	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第3章：テーブルの作成。					
5	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第4章：数式や関数の適用。					
6	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Excel第5章：グラフやオブジェクトの作成。					
7	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
8	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
9	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
10	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
11	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。 模擬テストで1,000点取得を目標とする。					
12	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
13	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。 MOS受験に向けた見極めを実施する。					
14	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
15	テストの振り返り：取得した得点の振り返りと、次の資格への準備を行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
MOS受験	55	MOS(いずれか一つ)の受験		授業態度	25	授業への積極的取り組みに基づき判断する
MOS合格	20	MOS(いずれか一つ)への合格				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業時間外に自習室等を利用してレベルアップを図ることが望ましい。[60分]				練習問題及び模擬試験に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。		
受講生に望むこと	無理することなく自分のレベルを上げて、合格を目指して欲しい。			教科書・テキスト	『MOS攻略問題集 第2版 Excel2013』日経BP社 2015 ISBN:978-4-8222-9764-0	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	MOS受験には規定された受験料が必要となる。 テキスト添付の問題を自宅で行う場合には、学習環境が同じである必要がある(Microsoft Office 2013/2016)。	

授業科目名	CB135C 資格コンピュータB		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	マイクロソフト スパシャリスト (MOS) Word、Excel			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>コンピュータ関連資格として世界的に通用するMicrosoft Office Specialist (以下MOS) 資格の取得を目指す。テキスト(問題集)に基づき、自分のペースで問題を解きながら練習する。練習問題と模擬テストはそれぞれ履歴を付け、成長を確認しながらすすめる。模擬テストにより実力を判定した後、MOSの本試験を受け合格を目指す。模擬テストを行なった結果、受験するだけの力を有していないと科目担当が判断した場合は、本試験受験を認めない。</p>			<p>MOSのWord2013,Excel2013どちらかの取得を到達目標とする。特に「資格コンピュータB」ではMOS Word 2013の取得を目指す。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	MOS資格取得希望者に限る。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：MOS試験概要の説明、演習の進め方についての説明。 演習：1章から順に各自のペースで実施。					
2	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第1章：文章の作成と管理。					
3	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第2章：文字、段落、セクションの書式設定。					
4	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第3章：表とリストの作成。					
5	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第4章：参考資料の適用。					
6	演習：1章から順に各自のペースで実施。 Word第5章：オブジェクトの挿入と書式設定。					
7	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
8	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
9	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
10	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
11	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。 模擬テストで1,000点取得を目標とする。					
12	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
13	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。 MOS受験に向けた見極めを実施する。					
14	模擬テスト：問題集付属の模擬テストを実施する。					
15	テストの振り返り：取得した得点の振り返りと、次の資格への準備を行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
MOS受験	55	MOS (いずれか一つ) の受験。		授業態度	25	授業への積極的取り組みに基づき判断する。
MOS合格	20	MOS (いずれか一つ) への合格。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
授業時間外に自習室等を利用してレベルアップを図ることが望ましい。[60分]				練習問題及び模擬試験に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。		
受講生に望むこと	無理することなく自分のレベルを上げて、合格を目指して欲しい。			教科書・テキスト	受験する資格に応じて選択し購入する 『MOS攻略問題集 第2版 Word2013』日経BP社 2015 Word ISBN:978-4-8222-9763-3	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	MOS受験には規定された受験料が必要となる。 テキスト添付の問題を自宅で行う場合には、学習環境が同じである必要がある (Microsoft Office 2013/2016)。	

授業科目名	CB205C データ活用利用法			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
データベースとは何か、データベースの考え方について演習を通じて学習する。実際に利用する機会が多いExcelを用い、データ分析の能力を高める。特に、将来利用する可能性が高い販売に関するデータ分析について取り組む。				1.身近なデータベースの種類について理解し、説明できる。 2.Excelを用いたデータ分析が行えるようになる。			
教授方法	講義による説明と、その内容に基づいた演習。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	データベースとは：私たちの生活に多くのデータベースが使われている。データベースとは何か。データベースを使うことで得られるメリットとは何か、実例を挙げながら紹介する。						
2	データベースの事例：社会ではデータをどのような形で集め、どのように扱っているのか、そこから何を導き出しているのか、シンクタンクを例に挙げデータ活用の事例について学ぶ。						
3	データ分析：データ分析を行なう理由と、データ分析の方法を学ぶ。						
4	ビジネスデータの収集と加工：データを効率的に集める方法について学習する。						
5	ビジネスデータの収集と加工：データ分析で使うExcelの機能について学習する。						
6	ビジネスデータの収集と加工：データを活用できるよう、整理する方法について学習する。						
7	ビジネスデータの収集と加工：データをビジュアル化し、特徴を捉える方法について学習する。						
8	販売に関するデータ分析：Zチャートを用いた分析方法について学ぶ。						
9	販売に関するデータ分析：Zチャートから、計画と実際を比較する方法について学ぶ。						
10	販売に関するデータ分析：ABC分析と、パレート図について学ぶ。						
11	販売に関するデータ分析：2つの項目からABC分析により評価する方法を学ぶ。						
12	販売に関するデータ分析：詳細に分析することにより、見えない情報を見つける方法について学ぶ。						
13	販売に関するデータ分析：その他の分析手法により、販売に繋がる情報を見つける方法について学ぶ。						
14	データ分析振り返り：Excelデータ分析について振り返り課題を行なう。						
15	データ分析振り返り：14回に引き続き、Excelデータ分析について振り返り課題を行なう。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
振り返り課題	40	データ分析に関する振り返り課題の完成度により評価する。			提出課題	50	演習における課題提出物の完成度により評価する。
授業参加態度	10	積極的な授業参加と、授業への貢献度により評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
次回行なわれる内容についてテキストを読み確認する。[30分] 授業で学んだ関数や手続きについて復習を行なう。[30分]				授業内に質問を受け付ける。 授業時間外の質問も随時受け付け回答する。			
受講生に望むこと	インターネットやデータベースに関心を持ち、積極的な取り組みを望む。			教科書・テキスト	『できるビジネスパーソンのためのExcelデータ分析の仕事術』SB Creative 2016年 ISBN978-4-7973-8682-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB210C デザインソフト演習			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>コンピュータ関連技能として、デザインソフトの技術を習得する。デザインソフトとしてAdobe Illustratorを用いる。Illustratorのようなドロー系ソフトウェアは事務能力としてのニーズが高まりつつある。演習を通してデザインソフトの操作について学び、学期末には成果課題を完成させる。</p>				<p>Adobe Illustratorの操作技能を習得する。レイヤーの概念について理解する。最終成果課題として一定の要件を盛り込んだ課題の作成を行い、習熟度を判定する。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：ドロー系ソフト、ペイント系ソフトの違い。Adobe Illustratorの概要説明を行なう。						
2	Illustratorの基本操作学習：Illustratorを扱う上で基本となる操作について学習する。(Lesson01)						
3	基本図形描画(1)：基礎的な図形を描画する。四角・円・多角形などを作成する。(Lesson02)						
4	基本図形描画(2)：基礎的な図形を描画する。図形描画の組み合わせについて学習する。(Lesson03・04)						
5	基本図形描画の振り返り：第4回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。						
6	オブジェクト操作(1)：オブジェクトの基本について学ぶ。(Lesson05)						
7	オブジェクト操作(2)：オブジェクト操作とレイヤーについて学ぶ。(Lesson06)						
8	オブジェクト操作(3)：パスと合成の概念について学ぶ。(Lesson07)						
9	オブジェクト操作の振り返り：第8回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。						
10	色・線・文字の設定(1)：色を設定しイメージ通りの配色を行なう。(Lesson08)						
11	色・線・文字の設定(2)：様々なツールを使い描線を行なう。(Lesson09)						
12	色・線・文字の設定(3)：文字を配置し、レイアウトの変更を行なう。(Lesson10)						
13	色・線・文字の設定の振り返り：第12回までの学習内容を元に、成果課題を作成する。						
14	成果課題作成：前期に学習した内容を用い、成果課題を作成する。						
15	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
成果課題	40	ループリックを用い、学習した内容が用いられているかについて評価する。			振り返り成果課題	40	各ユニット毎の最終に行なう成果課題の到達度について、ループリックを用い評価する。
授業参加態度	20	積極的な取り組みについて評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>各回に指示されたテキストを事前に読み、内容を把握すると共に疑問点を明確にしておく。[60分] 授業で行なった内容を復習し、テキストを見なくても操作できるようにする。[90分]</p>				<p>授業内容及び練習問題に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。</p>			
受講生に望むこと	疑問点ができた場合、速やかに質問を行なうなどのアクションを起こして欲しい。			教科書・テキスト	『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 CC/CS6対応版』技術評論社 ISBN:978-4-7741-8629-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修登録人数によって、履修制限を行なうことがある。		

授業科目名	CB215C デザインソフト演習			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>コンピュータ関連技能として、デザインソフトの技術を習得する。デザインソフトとしてAdobe Illustratorを用いる。Illustratorのようなドロー系ソフトウェアは事務能力としてのニーズが高まりつつある。前期「デザインソフト演習A」に続き、演習を通してデザインソフトの操作について学び、学期末には成果課題を完成させる。</p>				<p>Adobe Illustratorの操作技能を習得する。レイヤーの概念について理解する。最終成果課題として一定の要件を盛り込んだ課題の作成を行い、習熟度を判定する。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	「デザインソフト演習」の単位を修得済の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オブジェクト操作(4)：オブジェクトに対して様々な設定を加える。(Lesson11)						
2	オブジェクト操作(5)：描画モードについて学習する。(Lesson11)						
3	デザイン効果の追加(1)：3D効果、グリッドなどにより、イラストに立体感を加える。(Lesson12)						
4	デザイン効果の追加(2)：メッシュやシンボル機能を学習する。(Lesson12)						
5	表やグラフの描画：効果的な表とグラフを作成する。(Lesson13)						
6	図形の変形：オブジェクトに変形を加える。(Lesson14)						
7	印刷データ作成：完成したイラストを提出するための注意点などについて学ぶ。(Lesson15)						
8	成果課題作成(1)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『印影』『ピクトグラム』						
9	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。						
10	成果課題作成(2)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『カレンダー』						
11	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。						
12	成果課題作成(3)：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『案内図』						
13	成果課題評価：完成した成果課題を相互評価する。						
14	最終作品作成：これまでに学習した内容を用い、成果課題を作成する。『招待状』						
15	最終作品相互評価：完成した作品を相互評価する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
成果課題	20	ループリックを用い、学習した内容が用いられているかについて評価する。			振り返り成果課題	20	各ユニット毎の最終に行なう成果課題の到達度について、ループリックを用い評価する。
授業参加態度	20	積極的な取り組みについて評価する。			最終作品課題	40	ループリックを用い、学習した内容を網羅しているかについて評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>各回に指示されたテキストを事前に読み、内容を把握すると共に疑問点を明確にしておく。[60分] 授業で行なった内容を復習し、テキストを見なくても操作できるようにする。[90分]</p>				<p>授業内容及び練習問題に対するフィードバックは、授業時間内に教員が巡回し適宜実施する。 また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。</p>			
受講生に望むこと	疑問点ができた場合、速やかに質問を行なうなどのアクションを起こして欲しい。			教科書・テキスト	『世界一わかりやすいIllustrator操作とデザインの教科書 CC/CS6対応版』技術評論社 ISBN:978-4-7741-8629-0		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修登録人数によって、履修制限を行なうことがある。		

授業科目名	CB220C プレゼンテーション演習			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>プレゼンテーション資料制作を通じて、「適切なタイミングで、求めている人に、正確な情報を伝える」というプレゼンテーションの基本と、「伝える・説明する・説得する」というプレゼンテーションの要素について学ぶ。</p> <p>資料作成・発表・ふり返りのサイクルを繰り返して、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成の技術と、発表における注意点を身につけていく。</p> <p>プレゼンテーションに用いられる機材のセッティング方法について、発表練習の準備を通して身につける。</p> <p>発表について相互評価することにより、他者発表の良い点・悪い点を自分の発表にフィードバックする。</p>				<p>・適切な構成を考え、状況に合ったプレゼンテーションを準備することができるようになる。</p> <p>・パワーポイントの様々な機能を目的に合わせて利用することができる。</p> <p>・発表するための機材準備を行うことが出来るようになる。</p> <p>・聞き手の立場に立った発表ができる。</p>			
教授方法	上手に伝えるためのプレゼンテーションテクニックについて説明し、その内容に基づいた資料作成・発表練習を反復して行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	プレゼンテーションの基本：プレゼンテーションに関する要素を復習する。						
2	成功するプレゼンテーション：聞いてもらえるプレゼンテーションとは何か、人間の感覚について学ぶ。						
3	発表資料作成の注意点：発表資料を作成する際の手順と気をつけるべきポイントについて学ぶ。PROS-CONSリストや三段論法について学習する。						
4	構成表作成：プレゼンテーションの骨格となる構成表を作成する。プレゼンテーション資料作成の準備を通して、手順について学ぶ。						
5	発表テクニック：バーパルチャネル・ノンバーパルチャネル・パラランゲージの役割と重要性について学び、それらを活かす方法について学ぶ。						
6	演習1-1：「本を紹介」をテーマとして、1枚チラシを作成する。						
7	演習1-2：1対1による発表と振り返りを行なう。1対多と異なるプレゼンテーションを体験する。						
8	演習2-1：指示書を用いたチームプレゼンテーションに取り組む。自分の意図が伝えられるような指示書を作成する。						
9	演習2-2：作成されたプレゼンテーションを用いて、チームごとのプレゼンテーションを行なう。指示書を用いることで、自分が意図した内容を相手に伝えられるかについて確認する。						
10	演習3-1：「わが町紹介」をテーマとして資料収集を行い、構成表を作る。						
11	演習3-2：発表と振り返りを行なう。録画した映像を元に、アイコンタクトができていないか、画面だけを見ていないか、自分のクセについて確認する。						
12	練習4-1：「私は をお勧めします」をテーマとして、PROS-CONSリストで作成した題材を紹介するための構成表を作り発表する。						
13	演習4-2：発表と振り返りを行なう。						
14	演習5-1：表やグラフを用いたプレゼンテーション制作を行なう。効果的にグラフを用いる方法について、演習を通じて学ぶ。						
15	演習5-2：表やグラフを用いたプレゼンテーション発表と振り返りを行なう。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
プレゼンテーション発表	70	発表において、聞き手を意識できているか、独り善がりな発表になっていないかを重視して評価する。			発表資料提出物	20	発表に用いる配布資料がプレゼンテーションとリンクしてわかりやすいものとなっているかを重視して評価する。
授業への取り組み	10	振り返り等において、積極的な取り組みを行っているかによって評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の指示に従い発表に向けた資料作成、自己リハーサルを行うこと。発表後の振り返りに基づいた発表原稿・資料の改善をおこなうこと。[30分] 発表テーマに合わせ、事前に調査するなどの準備を怠らないこと。[90分]				発表時それぞれの発表にコメントと共に指示をする。 授業時間外の質問も随時受け付け回答する。			
受講生に望むこと	「伝えたい」という気持ちを持ち、どうしたら上手に伝わるかを考えて参加して欲しい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』第1版 noa出版 2017年出版（「情報機器演習A・B」で使用）		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修希望者数が24名を上回った場合には履修制限を行う。		

授業科目名	CB140C 情報科学			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	池村 努						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
現代社会で必要不可欠となっているコンピュータや情報通信機器などについて学び、道具として活用できるための基礎的能力を身につけることを目的とする。テキストを通して日常利用しているコンピュータの成り立ち、基本的な構造を知る。高度情報化社会の中で、情報がどのように我々に関わるのか、正しく情報を扱う上で必要となるマナーやモラルとは何かについて学習する。				情報とはなにかについて、説明することができるようになる。電気で動くコンピュータがどのように計算処理を行っているかについて理解する。スマートフォンを初めとするコンピュータが、どのように成長してきたかを理解する。携帯電話ネットワークやインターネットなど、情報通信網の概要を理解する。情報を適切に管理するための知識を身につける。			
教授方法	パワーポイントとレジュメを用いた講義形式と、ビデオ視聴とその内容に基づくディスカッションの両方を取入れて行なう。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	情報とは・情報社会とICT：身の回りに普通に存在する情報。しかし気づいていないケースや、特に意識せず扱っていることも多い。「情報とはなにか」「私たちとどのように関わっているのか」について社会の流れとともに学ぶ。						
2	メディア・情報伝達技術：情報を伝えるメディア（媒体）とはどんなものか。メディアを用いるとはどういう状態なのか。私たちはどのようにしてメディアを利用するようになってきたのかなどについて、人類の歴史をひもときながら学ぶ。						
3	わたし達が生きる情報化社会：便利で良いことだけが存在するわけではないインターネットの世界で、どのようにして自分とその周りの権利や財産を守っていくか。代表的な対処方法について学ぶ。						
4	情報やメディアに関する技術：情報伝達に使われる技術を紹介する。特にコンピュータに関わる部分では、どのような技術が使われているのかについて学ぶ。						
5	コンピュータの基礎：身近すぎて存在するのが当たり前になってきた携帯電話（ケータイ）やコンピュータ。その始まりはどのような姿だったのか。どのように進化して現在見られる姿になってきたのか。どのような考え方が根底にあるのかについて学ぶ。						
6	ハードウェアに関わる技術：コンピュータを構成するハードウェアはブラックボックスとして捉えられることが多い。このハードウェアの最新トレンドも含め、使われている技術と今後の方向性について学ぶ。						
7	2進数と10進数：コンピュータの根底にある2進数の働きについて知り、コンピュータがどのようにして計算を行っているかについて学ぶ。						
8	ビデオ視聴とディスカッション(1)：人工知能(AI)に関連するビデオを視聴し、ディスカッションを行う。ディスカッションを通じて新しい考え方に触れる。						
9	ソフトウェアに関わる技術：コンピュータソフトウェアにはどのようなものがあるか、また、それぞれの役割は何か、身近なものを例に挙げ、これからの社会で必要となるソフトウェア技術について学ぶ。						
10	ネットワークやインターネットに関わる技術：現在ではインターネット無しの生活は考えづらくなってきている。インターネットはどのように始まったのか。また、どうして「探したいモノがそこにある」ようになったのか。歴史とそこで用いられている技術について学ぶ。						
11	インターネットの活用・現代のIT業界：インターネットでのサービスには様々なものがある。代表的なものを紹介し、そこで気をつけるべき点について学ぶ。また、IT業界で代表的な企業について紹介する。						
12	ビデオ視聴とディスカッション(2)：インターネットサービスにまつわるビデオを視聴し、ディスカッションを行う。ディスカッションを通じて新しい考え方に触れる。						
13	ネットワークの脅威とセキュリティ：インターネットについて、便利な面だけでなく注意しなければならない点について掘り下げる。ネット上に情報を流すとどのような結果を招くことを意味するのか、また、対策方法は何かについて学ぶ。						
14	情報社会に欠かせない倫理とルール：情報を扱う際に気をつけなければならない「倫理」問題について学ぶ。様々な権利や法律を通してルールとマナーについて理解する。						
15	情報分類の技術：膨大な量になる情報をどのように扱うことが望ましいか。事例と共に分類の技術、判断基準について学ぶ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
期末試験	60	学期末に実施する定期試験の成績による。			授業振り返り	20	授業振り返りにミニツッパーパーやクリッカーを用いる。振り返りにおける積極性と正答割合を参考にする。
ビデオ視聴レポート	20	2回実施するビデオの内容に則したレポートを課す。別途示すルーブリックに基づき評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回回の予告をするので、事前に該当するテキスト箇所を読み、疑問点をまとめておくこと。[30分] 授業終了後はレジュメとメモの整理を行うこと。[60分]				振り返りで質問などを募り翌週回答を行なう。また、授業時間外の質問も随時受け付け回答する。			
受講生に望むこと	次会授業のテキストについて指示するので、事前に熟読し疑問点をまとめておく。 授業中は配布されたレジュメにメモを記入し、聞き漏らさないこと。 疑問点はそのままにしておかないこと。 ディスカッションでは積極的な発言を望む。			教科書・テキスト	『キーワードで学ぶ、最新情報トピックス2019』日経BP社 2019年 ISBN:978-4-8222-9234-8		
指定図書/参考書等	なし 『コンピュータは私たちがどう進化させるのか。ポプラ新書 2016年 ISBN:978-4-591-15285-0 『コンピュータ、どうやってつくったんですか?』東京書籍2018年 ISBN:978-4-487-81189-2 『実物でたどるコンピュータの歴史。東京書籍 2012年 ISBN:978-4-487-80692-8』			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB145C 企業と社会			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>私たちの生活は、企業およびその経営と密接な関係がある。身近な事例を通じて、企業に関するさまざまなテーマが、私たちの身の回りに存在していることを理解する。さらに企業行動の基本的な原理と、その社会生活とのかかわりについて学ぶ。授業を通じて、「経営についての視点」を修得することを目的としている。</p>				<p>授業で設定されたテーマを理解する。授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>			
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション - 生活の中で企業（経営）や社会との関わりを考えてみよう -						
2	会社の一生：会社の誕生から成長、衰退、倒産までを考える						
3	会社はだれのものか：「株式会社」の仕組みについて学ぶ						
4	会社の仕組み：会社はどのような組織があるのか、その構造がどうなっているかを学ぶ						
5	会社で働くこと：労働とそのマネジメント、また労働組合について理解する						
6	会社を動かす（経営戦略1）：会社のミッション（経営理念）や経営戦略の3つのレベルについて学ぶ						
7	会社を動かす（経営戦略2）：経営戦略のうち「競争戦略」について理解する						
8	【事例】（DVD）コンビニを作った素人たち						
9	【事例】（DVD）ヤマト宅急便の歴史						
10	ものが売れる仕組み：身近な事例をもとに、マーケティングの基本について学ぶ						
11	経済社会の動きと企業経営：日本経済の歴史をもとに、企業経営との関係について学ぶ						
12	企業の社会的責任（CSR）と企業倫理：企業不祥事の事例から、企業の社会的責任や企業倫理について考える						
13	新しい企業と経営のあり方：NPOや近年注目されている社会的企業について学ぶ						
14	グローバル化時代の企業と経営のあり方：企業のグローバル化とそれに伴う経営課題について学ぶ						
15	まとめ - 全体を振り返り、今後の学びや進路選択に向けて考えてみよう -						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。			小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。(2回実施)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと。[30分] 毎回授業後には、配布資料の内容をもう一度復習しておくこと。[60分]</p>				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営について興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	なし(毎回資料を配布する)		
指定図書/参考書等	なし/『はじめの一步 経営学(第2版)』守屋貴司・近藤宏一編著 ミネルヴァ書房 2012年 ISBN978-4-623-06331-4			その他・特記事項	・社会学科科目「経営学入門」と合同開講である。		

授業科目名	CB150C ファイナンスの基礎			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
財務諸表は会社の成績表である。本授業では財務諸表のうち、主に損益計算書、貸借対照表の意味と基本的な読み方を中心に学ぶ。また簡単な事例から、会社の経営状況について見るポイントを理解する。				損益計算書、貸借対照表の意味を知る。 損益計算書、貸借対照表の簡単な読み方を理解する。 簡略化された財務諸表の事例から、企業の経営状況が推測できる。 キャッシュフロー計算書の概要を理解する。			
教授方法	講義（毎回資料を配布し、「書き込み」をしながら理解を深める）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション（財務諸表とは何か？）						
2	財務諸表 基礎の基礎（1）身近な事例で具体的なイメージをつかむ						
3	財務諸表 基礎の基礎（2）より本格的に輪郭をつかむ						
4	損益計算書（1）売上高と「5つの利益」について大まかに把握する						
5	損益計算書（2）営業利益、経常利益、純利益について理解する						
6	貸借対照表（1）資金の運用方法を示す「資産の部」を理解する						
7	貸借対照表（2）資金の調達方法を示す「負債・純資産の部」を理解する						
8	貸借対照表（3）資金の調達方法を示す「負債・純資産の部」を理解する						
9	キャッシュフロー計算書 キャッシュフロー計算書の概要を把握する						
10	経営分析の基礎（1）企業の収益性を見るポイントを学ぶ						
11	経営分析の基礎（2）企業の成長性を見るポイントを学ぶ						
12	経営分析の基礎（3）企業の安全性を見るポイントを学ぶ						
13	実際の企業事例を見てみよう（1）簡略化した財務諸表から企業の状況を知る						
14	実際の企業事例を見てみよう（2）簡略化した財務諸表から企業の状況を知る						
15	まとめと振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	授業の理解度を評価する。			小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと[30分] 授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語と財務諸表のルールを理解し覚えること[60分]				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	苦手意識を持たず授業に参加してほしい。基本的なルールと読み方さえ頭にいれれば理解しやすい科目である。毎回の授業をしっかりと受講して、疑問はそのままにせず、その回のうちにしっかりと理解すること。			教科書・テキスト	なし（毎回資料を配布する）		
指定図書/参考書等	なし / 『新会計基準対応版] 決算書がおもしろいほどわかる本』石島洋一著 P H P文庫 2009年 ISBN978-4-569-67252-6			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CB225C CSとマーケティング			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>マーケティングとは簡単に言えば、「売れる仕組みづくり」である。そして、そのマーケティングの基本理念が「CS (Customer Satisfaction) = 顧客満足」である。現代の企業経営においては、CSの創造を通して新規顧客の獲得とその維持が図られる必要がある。本授業では、わかりやすい事例をもとに、マーケティングの概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。</p>				<p>授業で設定されたテーマを理解する。 授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。 授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。</p>			
教授方法	講義（毎回配布する資料に「書き込み」を行いながら、理解を深める形式をとる）						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション - CS (顧客満足とは何か) -						
2	マーケティングの基本概念 (1) : マーケティング志向 (マーケティングの考え方) について理解する						
3	マーケティングの基本概念 (2) : マーケティングと戦略との関係を知る						
4	製品のマネジメント : マーケティングの 4 P のうち、製品 (Product) に関するマネジメントについて学ぶ						
5	価格のマネジメント : マーケティングの 4 P のうち、価格 (Price) に関するマネジメントを学ぶ						
6	広告のマネジメント : マーケティングの 4 P のうち、広告 (Promotion) に関するマネジメントを学ぶ						
7	流通のマネジメント : マーケティングの 4 P のうち、流通 (Place) に関するマネジメントを学ぶ						
8	サプライチェーンマネジメント : サプライチェーンとは何か、そのマネジメントについて理解する						
9	営業のマネジメント : マーケティングにおける営業部門の活動について知る						
10	顧客関係のマネジメント : 顧客との「関係性マーケティング」の基礎について理解する						
11	顧客理解のマネジメント : 顧客を理解するためのマーケティング・リサーチについて知る						
12	ブランド構築のマネジメント : ブランドをどのように創り上げるか、ブランド構築のマネジメントを学ぶ						
13	ブランド組織のマネジメント : ブランド・マネジャーとブランド組織のマネジメント (役割や責任) について学ぶ						
14	企業の社会的責任 : マーケティングにおける企業の社会的責任について理解する						
15	まとめ - あらためてCS (顧客満足) について考える -						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	授業の配布資料から、穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。			小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと。 [30分] 授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語を理解し覚えること。 [60分]</p>				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、製品やサービスのマーケティングについて興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	なし (毎回資料を配布する)		
指定図書/参考書等	なし / 『1からのマーケティング (第3版)』石井淳蔵・廣田章光編著 碩学舎 中央経済社 2009年 ISBN : 978-4-502-66550-9			その他・特記事項	・社会学科科目「マーケティング論」と合同開講である。		

授業科目名	CB230C 経営戦略			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	野林 晴彦						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
企業は経営理念に基づき、経営戦略を策定し実践している。本講義では、わかりやすい事例をもとに、経営戦略の概念やさまざまな理論を学び、基本的な知識を習得することを目的とする。				授業で設定されたテーマを理解する。 授業で学んだキーワードを用いて、テーマの内容を説明できる。 授業で学んだ基本的な専門用語を使って、短い文章を作成できる。 授業で学んだ基本的な専門用語を使って、自分の身近な事例を紹介することができる。			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション - 戦略とは何か -						
2	業界の構造 : 業界全体をとらえる方法を考える【事例】シャープと液晶テレビ業						
3	取り巻く環境 : 自社の視点から経営環境をとらえる方法を学ぶ【事例】トヨタ自動車						
4	基本戦略 : 戦略の定石について学ぶ【事例】しまむら						
5	製品ライフサイクル戦略 : 製品ライフサイクルについて考え、それに応じた戦略を学ぶ【事例】富士ゼロックス						
6	市場地位別戦略 : 市場の順位に応じた戦略の定石を学ぶ【事例】アサヒビール						
7	リソース・ベースド・ビュー : 企業内に蓄積される知識やノウハウに着目する【事例】富士フィルム						
8	事業システム : 企業が持つビジネスの仕組みについて考える【事例】アスクル						
9	事業領域 : 自社の事業を行う領域の決定について考える【事例】ふくや						
10	成長戦略 : 自社の成長を計画的に実施する方針について学ぶ【事例】ニコン						
11	資源展開 : 自社の資源をどのように展開していくかを考える【事例】サントリー						
12	戦略の社会的側面 : 企業はどのように社会との関係を構築しながら戦略を策定するか【事例】パタゴニア						
13	組織構造 : 戦略と組織について考える【事例】パナソニック						
14	組織文化 : 組織文化の役割を考え、どのように戦略と関係づけられるかを知る【事例】資生堂						
15	企業変革 : 企業変革がどのように実施されるかを学ぶ【事例】コマツ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	穴埋めおよび論述問題を出題し、理解度を評価する。			小テスト	30	簡単なキーワード、専門用語のチェックテストを行い、その理解度により評価する。 (2回予定)
授業参加態度	10	授業態度を評価対象とする。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回の講義の最初に前回の復習を実施するので、講義前までに配布資料やノートを見直しておくこと[30分] 授業後に、配布資料の内容をもう一度確認し、専門用語と財務諸表のルールを理解し覚えること[60分]				小テストの結果は、次回の授業で返却するとともに、解説を行う。			
受講生に望むこと	教室の中だけが学ぶ場所ではない。普段の生活の中で接する会社やお店、あるいはテレビ・雑誌広告などを通じ、会社の経営やその戦略について興味・関心を持つことを期待する。			教科書・テキスト	『1からの戦略論(第2版)』嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著 碩学舎 中央経済社 2016年 ISBN978-4-502-16741-6		
指定図書/参考書等	なし/『経営戦略 論理性・創造性・社会性の追求(第3版)』、大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田 智、有斐閣、2016年、ISBN: 978-4641220652			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CM200C 医学一般		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	大和 太郎						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要			授業の到達目標				
すべての人は医療と関わります。医療に携わる職をめざす方に限らず、医学や医療に関する知識を身につけておくことは大切なことです。できるだけ平易に解説し、今後の医療や介護の問題点についても考えていきたいと思います。			1) 体の構造や機能について理解する 2) 人の成長・発達や老いていくことについても理解を深める 3) 病に苦しむ患者さんやご家族の気持ちを理解する				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション						
2	第1章 解剖（皮膚 からだの構造 骨格系 筋系）						
3	第1章 解剖（循環器系）						
4	第1章 解剖（呼吸器系）						
5	第1章 解剖（消化器系1）						
6	第1章 解剖（消化器系2）						
7	第1章 解剖（泌尿器系 生殖器系）						
8	第1章 解剖（内分泌系 神経系 感覚器系）						
9	緩和ケアと終末期医療について						
10	第2章 薬の基礎知識						
11	第3章 検査概論、第4章 医療用語						
12	リハビリテーションについて						
13	第5章 感染症						
14	第6章 栄養						
15	試験対策						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	70	答案の成績を客観的に評価する。原則として6割以上で単位を与える。		授業の参加態度	30	授業参加態度を評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
指定教科書を中心とした授業を行います。事前に読み進めておいてください。[30分] 指定教科書に記載のない講義も行いますので、事後の復習も必要です。[30分]				途中実施する小テストやレポートなどについては、後日評価しフィードバックします。			
受講生に望むこと	ほとんどすべての人は、人生のいずれかの段階で医療と関わります。また、すべての人に訪れる死についても考える機会をもち、病や老いに苦しむ患者さんやご家族の気持ちを理解し、慈しむ気持ちも育んでいただきたいと思います。			教科書・テキスト	『医学一般』 一般社団法人 医療教育協会 履修人数が確定次第第7注します。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	社会学科科目「人体の構造と機能及び疾病」と合同開講である。		

授業科目名	CM210C 医療管理学		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	石原 俊彦					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業の目的は、日本の医療・保健・福祉の現状を理解し、事務管理業務に従事する人材の育成に資する。高齢化社会における医療と介護の仕組みを考える。医療と社会の接点（医療関連法規、医療保険制度）を理解する。病院組織と経営（患者中心の医療）を理解する。IT時代の病院情報管理を理解する。という5点です。実際に医療機関で働いている医師・看護師・事務等スタッフの仕事の内容や思いを資料を使いながら紹介し、ワークも取り入れながら医療の現場で求められるホスピタリティを理解できるようになることを目指します。			医療・保健・福祉の現場で求められるホスピタリティを体感し、身につける。 医療・保健・福祉の仕事に従事するにあたって、必要となる基本的な知識を身につける。 「医療管理秘書士」能力試験に合格できる知識を得る。 就職活動や社会に出てから求められる基本的な力を身につける。			
教授方法	資料、パワーポイント、DVD等を使った講義とグループワーク等複合的に行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	医療と社会：患者の心理を理解し、どう対応すべきかを考える中で、医療や福祉の現場で求められるホスピタリティを理解する。医療を取りまく社会環境について理解する。					
2	病院組織と経営：医療・介護・福祉の現場で働く上で、求められる姿勢・資質・努力等を理解する。また薬剤や検査に関する基礎的な用語を理解する。					
3	医療・介護職の理解：医療と介護の連携が重要とされている。どのような職種があるのか理解する。					
4	病院組織と経営：ワークを通して、マネジメントについて考える。また医療・福祉分野で働く事務職員に求められる役割・職務、姿勢・資質・努力について理解を深め、就職活動における自身のアピールポイントも探る。					
5	車いす等福祉用具の理解：病院組織で働く以上最低限の車いすの使用方法及び福祉用具を理解する。					
6	医療法：医療の基本的な体制を定めた法規である「医療法」のポイントを押さえ、日本の医療の仕組みをイメージする。また将来、医療や介護、福祉を担う者としての基本姿勢を学ぶ。「医療法」において、病院とはどのように規定されているものかを理解する。					
7	医師法：「医師法」を解説し、医療の中心的な担い手である医師の権利や義務を学ぶ。また医療や介護の現場で理解しておくべき「応召義務」や「守秘義務」等を掘り下げて理解する。薬剤師法や保健師助産師看護師法をおおまかに理解する。					
8	医療保険制度：日本の医療保険制度の仕組みをおおまかに理解する。職域保険・地域保険の各種保険制度を個別に理解し、ポイントを押さえる。					
9	医療保険制度：「保険医療機関・保険医」の意味や「保険給付制限」等、医療保険制度に関わる制度を理解するとともに各種保険制度を理解する。					
10	感染症：患者さんを感染症から防ぐことはもちろんであるが、自分を守るためにも感染症を理解する。インフルエンザ及びノロ対策について学ぶ。					
11	介護保険法：「介護保険」の仕組みを大まかに理解するとともに、介護の現場で必要となるホスピタリティを考える。					
12	介護保険法：介護保険で利用できるサービスを理解する。					
13	医療情報・診療録管理：医療現場での情報処理、取り扱いや情報システムの活用についておおまかに理解する。個人情報の取り扱いについても理解する。					
14	患者中心の医療：患者・家族が医療従事者に望むことや必要なコミュニケーションについて理解する。特に認知症を持っている人の対応について理解する。					
15	まとめ：授業の中で学んだことをディスカッションして、医療・保険・福祉の現場で求められるホスピタリティを総合的に振り返る。自分はどのような考え方をするのか自己覚知について理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	50	医療・保険・福祉の仕事に従事するにあたって必要となる基本的な知識を身につけたか確認する。		学習態度	30	社会人となるための専門講義であるため、時間の厳守と講義・ワーク・ディスカッション時の態度を重視する。
レポート	20	認知症の患者さんに対応する時、どのような点に注意すべきかまとめる。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
医療・福祉で求められるホスピタリティとは、相手の持つ力に寄り添い最大に発揮できるように手助けすることであり、その為にはまず自分の力を見つけて出し最大に発揮できるようにする事。自分を認め、自分を褒め、自分の良い所を見つけることがホスピタリティの基礎となるので、講義の中で深めていく。日常生活の中でも意識し実践していくことが大切である。自分の長所を初回授業迄に考え書きだしておく[30分] 授業で配布された資料は、授業終了後に必ず一度読み返す[30分]				講義の前後に疑問点等の質問を受ける。講義開始時は前回の講義内容を復習して講義を始める。「医療管理秘書士」能力試験に合格できるよう過去の問題を講義の中で説明していく。		
受講生に望むこと	講義では馴染みのない用語や複雑な仕組みの説明が多くなると思うが、講義時間にはワークや体験も入れて、理解を深めていく。社会に出る前に知っておくべき知識や身につけておくべき資質の一部と一緒に共有していきたいと考える。			教科書・テキスト	「メディカル・システム論」一般社団法人 医療教育協会 履修人数が確定次第発注します。	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	CM220C 診療報酬実務		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	中村 洋子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	医療管理秘書士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>全国の医療機関には多様なスペシャリストが活躍しています。その中の一員、医療事務者は、患者様と医療従事者の橋渡しとして医療の事務業を担当し、医療従事者の診療行為を正しく患者様に報酬請求する知識・技術を提供するのが役割です。本講義では医療事務の入門から認定試験の受験資格取得までを講義と演習で繰り返し学んでいきます。受講後、医療事務や医療秘書への活躍のみならず、日常の医療機関受診時の医療費の理解力がつくようになります。</p>			<p>診療報酬を通して医療の現場を知ることができるようになる。 診療報酬に関する業務の仕組みを理解する。 診療録(カルテ)を読み取り診療報酬明細書(レセプト)作成を習得する。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	医療事務とは何か。どのような仕事内容があるかを学ぶ。						
2	診療報酬のしくみ、診療報酬点数について学ぶ。診療録(カルテ)診療報酬明細書(レセプト)について説明する。						
3	基本診療料 : 初診料、再診料、入院料を理解する。						
4	基本診療料 : 初診料、再診料の算定とレセプト記載を学ぶ。						
5	医学管理料 : 医学管理料の種類を理解し、特定疾患療養管理料等の主な項目の算定条件を学ぶ。						
6	在宅医療料 : 在宅医療料の種類を理解し、往診料等の主な項目の算定条件を学ぶ。						
7	投薬料 内服薬、屯服薬、外用薬区分、薬剤料算定の実際を学ぶ。						
8	投薬料 : レセプリー記載と投薬料演習問題に取り組む。						
9	注射料 : 注射の種類を理解する。						
10	注射料 : 注射料算定とレセプト記載を学ぶ。						
11	検査料 : 検体検査、生体検査区分、検査料算定とレセプト記載を学ぶ。病理診断料の算定方法を理解する。						
12	画像診断料 : 画像診断料の算定とレセプト記載を学ぶ。						
13	その他特掲診療料 : 処置料、手術料、麻酔料、リハビリテーション料、放射線治療料、精神科専門療料の概要を学ぶ。						
14	総合演習 : 診療録(カルテ1)を読み取り診療報酬明細書(レセプト)を作成する。						
15	総合演習 : 診療録(カルテ2)を読み取り診療報酬明細書(レセプト)を作成する。授業のまとめ。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	50	授業内容理解と診療報酬明細書作成を総合して評価		授業で出される課題	10	提出の状況と提出物の内容を評価	
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢を評価		小テスト	20	講義内容ごとに小テストを行い理解度を評価	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>初回授業においてテキストに対応した予定表を配布するので、予習をして授業に臨む。[20分] 授業で学んだ算定方法などの復習を行う。[30分]</p>				<p>提出課題および小テストは次回の授業時に添削して返却します。 疑問・質問は随時受付し、解答します。</p>			
受講生に望むこと	講義では馴染みのない医療用語や医療事務ならではの算定等も取り入れ、講義と演習を繰り返しながら実務を身につけます。質問にはその都度対応します。積極的に参加して下さい。			教科書・テキスト	『医療診療報酬点数表』、『診療報酬請求の実務』、『診療報酬請求演習』 一般社団法人 医療教育協会 履修人数が確定次第発注します。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	各回、電卓持参(携帯電話使用禁止)		

授業科目名	CM230C 医療事務英語			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	章名 理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
医療事務スタッフに必要な基礎英会話表現や使用頻度の高い医療用語と、それらを使用し外国人患者の不安を取り除けるコミュニケーションスキルを講義と演習で学ぶ。				<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場で必要となる専門用語などの幅広い語彙の習得を目指す。 ・医療用語を用いた基本的表現を理解し、使用できるようになる。 			
教授方法	講義、演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明、諸注意、Unit1 Asking Basic Questions						
2	Unit2 A Patient's First Visit						
3	Unit3 Where's Internal Medicine?						
4	Unit4 Admission to the Hospital						
5	Unit5 Giving Information						
6	Unit6 Symptoms						
7	Review 1-3,4-6 復習テスト						
8	Unit7 Injuries and Emergencies						
9	Unit8 How Are You Feeling?						
10	Unit9 A Patient's Medical History						
11	Review 7-9 復習テスト						
12	Unit10 Medicine						
13	Unit11 I'm Going to Give You an IV						
14	Unit12 Congratulations! You're Having a Baby Girl						
15	Review 10-12 復習テスト						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
復習テスト	40	各レビューを活用した復習テストを行い総合的な理解度を評価する。			小テスト	20	各ユニットごとの単語などの理解度を評価する
授業参加態度	40	予習の有無、遅刻等も点数に関わる。授業、演習への積極的参加態度を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> ・指定された予習、ホームワークを必ずしてこること。（30～50分） ・現場での会話力も重視した内容となるので演習内容の復習を行うこと。（15分） 				小テスト、復習テストともに次回の授業時に添削し、返却する。質問は授業中、前後、およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	医療用語が多く単語の予習は必須であることと現場でのコミュニケーション力を身につけることに注力した授業となるので、積極的な授業参加態度を望む。			教科書・テキスト	『Speaking of Nursing 看護系学生のための英語コミュニケーション』 南雲 一範 2018年 ISBN978-4-523-17850-7		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	英語辞書を毎回持参すること。（電子辞書可）		

授業科目名	CR200C Kanazawa Guide		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	章名 理恵					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
2017年の訪日外国人旅行者数は2869万人まで拡大し、インバウンドという言葉も普通に使われるようになった。そのような中、金沢を訪れる外国人観光客も増加している。本講義では観光英語を活用し、金沢市内でのガイド業務体験を通して、より実践的にその知識とスキルを身につけることを目的とする。			<ul style="list-style-type: none"> ・英語で金沢の主な観光地について説明できる。 ・ガイドング(案内)の基礎知識を理解する。 ・フィールドワークに参加し、ガイド業務を体験する。 ・観光プランの提案と作成が出来る 			
教授方法	演習、フィールドワーク					
履修条件	「金沢学」履修済みの者が望ましい(単位未取得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、フィールドワーク、評価の説明、					
2	ガイド基礎知識：ガイドとしてのマナー、道案内、金沢観光の基礎知識					
3	英語で伝える金沢 Ohmicho-Market 近江町市場・金沢の食文化 テキスト作成					
4	英語で伝える金沢 Ohmicho-Market 近江町市場・金沢の食文化 テキスト作成					
5	フィールドワーク 近江町市場ガイド見学(随時)とレポート提出					
6	フィールドワーク 近江町市場ガイド演習リハーサル(随時)とレポート提出					
7	フィールドワーク 近江町市場ガイド演習ガイド体験(随時)とレポート提出					
8	フィールドワーク ひがし茶屋街					
9	フィールドワーク 兼六園					
10	英語で伝える金沢 Kenrokuen Garden 兼六園 テキスト作成					
11	英語で伝える金沢 Kanazawa Sta., Higashi 金沢駅～ひがし茶屋街 テキスト作成					
12	英語で伝える金沢 Culture Experience 文化体験 テキスト作成					
13	観光プラン作成 外国人にお勧めする金沢観光 モデルコース作成					
14	フィールドワーク 作成した観光プランの発表(ガイド演習)と総評 現地にて					
15	フィールドワーク 作成した観光プランの発表(ガイド演習)と総評 現地にて					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
観光プラン作成	15	外国人観光客に勧めたい観光プランを作成する。観光ポイント、時間配分、金沢らしさを評価する。		ガイド演習	30	作成した観光プランを現地でガイドする。ガイド力を総合的に評価する。
フィールドワーク	40	通訳案内士からガイド業務を学び、近江町市場での学生ガイド体験を3回程度行い、レポートを提出する。		テキスト作成	15	各項目ごとにガイドテキストを作成する(提出物となる)。完成度を評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
金沢について英語で伝えることができるようになるためには金沢について基礎知識が必要となる。事前に金沢の観光関連知識を予習すること。(30分)授業後はそれらについて英語で伝えられるよう繰り返し練習すること。(30分)			各自作成テキストについては原則、提出翌週に添削し返却する。現地ガイドレポートについては同行添乗員よりコメントをもらい提出すること。レポートについてのフィードバックは授業内にて行う。テキスト以外は希望があれば返却する。			
受講生に望むこと	学外での活動(ガイド演習など)が5～6回と多くなるので、実践経験型授業に積極的に参加する姿勢を望む。		教科書・テキスト	適宜、プリントその他を使用する。		
指定図書/参考書等	なし		その他・特記事項	フィールドワークは土・日祝などになる可能性有り。兼六園にて入場料がかかる場合は各自負担となる。		

授業科目名	CR210C Hospitality English		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	章名 理恵					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
2017年の訪日外国人旅行者数は2869万人まで拡大しているが、訪日外国人の「日本で困ること」の上位には常に「日本人とコミュニケーションが取れない」が挙げられている。本講義ではガイド業務体験という実践を交え、訪日外国人とのコミュニケーションを円滑にとるための英語とホスピタリティマインドを学ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> ・観光業務に関わる重要な語彙を使って英語で表現できる。 ・指定されたトピックについて英語で説明できる。 ・外国人観光客が日本滞在中に必要な知識などについてホスピタリティマインドを持って英語で説明できる。 			
教授方法	講義、演習、フィールドワーク					
履修条件	「Kanazawa Guide」履修済みの者が望ましい(単位未取得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、フィールドワーク、評価の説明。					
2	L1 Welcome to Japan, L6 Tour Guide,					
3	L11 Kanazawa, L18 Saying good bye to Your Friend					
4	L13 World Heritage GOKAYAMA					
5	L15 Staying at Hotel					
6	L16 Money					
7	L17 When You Get Sick					
8	L9 Japanese Festivals, L10 Kabuki and Noh					
9	L8 Traditional Japanese Food					
10	L7 Let's Visit Kiyomizu Temple					
11	L12 A Message from Hiroshima					
12	L2 TDL, L3 Akihabara, L14 Mt. Fuji and National Park					
13	フィールドワーク 近江町市場ガイド見学(随時)とレポート提出					
14	フィールドワーク 近江町市場ガイド演習リハーサル(随時)とレポート提出					
15	フィールドワーク 近江町市場ガイド演習ガイド体験(随時)とレポート提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
フィールドワーク	30	近江町市場でのガイド研修3回の実施とレポート内容を評価する。		ロールプレイング	30	コミュニケーションを取るための創意工夫や努力を評価する。
課題提出	30	各章の「練習問題」の提出と得点を評価する。		授業参加態度	10	授業中のすべての会話の30%程度は英語で行い、それを評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
予習として各章におけるLet's listen to the dialogは、各自CDを3回はリスニングしていただくこと。(15分) 学んだ内容を説明できるよう、自分で話せる英語表現に置き換える復習が必要である。(30-60分)				練習問題に対するフィードバックは授業内にて行う。 フィールドワーク提出課題については授業最終回に返却する。		
受講生に望むこと	各章の最後にある「練習問題」を活用し、観光英語検定3級程の実力をつけることを目指してほしい。 実践的なフィールドワークを行うので積極的にコミュニケーションを取る姿勢で参加することを望む。			教科書・テキスト	TOURISM ENGLISH Guiding a Foreign Friends throughout Japan『観光英語で日本案内』 河原俊昭 他 2007年 英宝社 ISBN978-4-269-66003-8	
指定図書/参考書等	なし/適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	フィールドワークは随時ガイド体験となり、土・日祝などになる可能性もある。	

授業科目名	CR100C 金沢学			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>金沢は江戸時代百万石の城下町として発展し、今でもその街並みがあちこちに残っている。前田家歴代藩主の振興した伝統工芸や伝統芸能が現代にも受け継がれている。また、今日まで、さまざまな分野において多くの国内外に優れた業績を残した偉人を輩出している。この授業では、教室内でグループディスカッションや金沢市内の文化施設巡りを通して、金沢に関する歴史や文化、先人を理解する。さらに、観光調査データから金沢の観光の現状を把握し、地域資源を活用した観光振興について考える。</p>				<p>金沢の歴史を理解する。 金沢の伝統文化・芸能を知る。 金沢の偉人を知る。 金沢の観光の現状を把握し、地域資源を活用した観光振興について考察することができる。</p>			
教授方法	講義、グループディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方・成績評価の説明。地域を知ることの意義について考える。						
2	金沢の概要：金沢の人口・気候・景観などから地方都市金沢の特徴を学ぶ。						
3	金沢の概要：金沢の食文化・習わしなどから地方都市金沢の特徴を学ぶ。						
4	金沢の伝統文化・芸能：金沢の伝統文化・芸能の特色を把握する。						
5	金沢の偉人：主な金沢の偉人を把握する。 小テスト						
6	金沢の歴史：城下町金沢・加賀藩の特徴を学ぶ。						
7	金沢の歴史：金沢市内の文化施設において、解説講義を聞き施設見学を行う。						
8	金沢の歴史：金沢市内の文化施設において、解説講義を聞き施設見学を行う。事後レポートを作成する。						
9	金沢の歴史：各自作成したレポートをもとに、金沢の歴史および訪問した文化施設における気づきを話し合う。						
10	金沢の観光：観光調査結果（日本人）から現状を把握する。						
11	金沢の観光：各自の予想と現状の違いについて考察する。						
12	金沢の観光：金沢と国内の他地域を比較し考察する。						
13	金沢の観光：観光調査結果（外国人）から現状を把握し、日本人観光客との違いについて考察する。						
14	金沢の偉人：映画を通して金沢の偉人を理解する。						
15	まとめ：金沢の歴史、伝統文化・芸能、偉人と、これらを活かした観光振興について、振り返りとレポート作成を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	講義・ディスカッションへの取り組み姿勢。			提出物	30	所定の書式に従って作成している。自分の考察を加えて記入している。
小テスト	20	第5回までの授業で取り上げた内容について理解しているか。			期末レポート	30	所定の書式に従って作成している。自分の考察を加えて記入している。決められた字数を満たしている。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
文化施設訪問後、事後レポートを作成する。[50分]次の授業でのディスカッションに使用する。 授業の内容について、ノート・配布物を読み返し理解を深める。[20分]				ワークシートは、コメントを付けて次回の冒頭に返却する。 小テストは、採点したものを6回目の講義の冒頭に返却する。			
受講生に望むこと	金沢について幅広く学び、2年次配当科目「地域と観光」に役立つ知識を積極的に身につけて欲しい。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし / 『金沢を歩く』 山出保 著 岩波書店 2014年 ISBN 978-4004314936			その他・特記事項	金沢市内の文化施設訪問は、土日などを利用して2コマ連続で実施する。		

授業科目名	CR110C ホテル・ブライダル・ウェディング			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	章名 理恵						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>ホスピタリティ産業で大きな役割を果たすホテル・ブライダル業は観光立国日本にとって今や欠かせない産業の一つである。本講義ではそれらの基礎知識の学習とホテル、ウェディング会場見学を行い、ホスピタリティマインドを備えた人材の育成を目的とする。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ブライダルの歴史、用語など基礎知識について説明できる。 ・ホテル業務の基礎知識について説明できる。 ・ホテル・ブライダル業に携わる人材に求められるホスピタリティマインドを理解する。 ・それを現場で実践するためのスキルを身につける。 			
教授方法	講義、演習、プレゼンテーション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明、諸注意						
2	ブライダル基礎 拳式・披露宴・慣習						
3	特別講義「ブライダル産業の歴史と未来」リクルートゼクシィ						
4	拳式会場見学 辻家庭園						
5	拳式会場見学 辻家庭園						
6	ブライダル基礎 衣裳・その他						
7	特別講義「海外ウェディングのバイオニアカンパニーの軌跡」ワタベウェディング						
8	衣装サロン見学 花嫁衣裳試着体験						
9	衣装サロン見学 花嫁衣裳試着体験						
10	ホスピタリティマインドとは						
11	特別講義「コンシェルジュという仕事」						
12	ホテル見学 ホテルの仕事を知る						
13	ホテル見学 ホテルの仕事を知る						
14	ウェディングプラン作成・小テスト						
15	プラン発表と総評						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
レポート	50	各施設等の見学、特別講義ごとの課題レポートを作成する。期限を守っての提出とその内容を評価する。			プラン作成	40	期末課題としてウェディングプランを作成する。プラン内容、オリジナリティ、ターゲットの設定の精度を評価する。
小テスト	30	ブライダル基礎用語の習得度を評価する。			授業参加態度	10	授業への積極的な姿勢を評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>ホテル・ブライダルには専門用語が多くあるので、正しく理解するためにも、基礎知識については復習が必要。(30分) また特別講義の際には事前にその企業や施設についての予習が望ましい。(30分)</p>				<p>小テストは次回の授業時に返却する。 レポートは次回授業時にフィードバックを行い、希望者には返却する。</p>			
受講生に望むこと	<p>基礎知識では情報量が多いので、講義内容をしっかり復習するように望む。 特別講義、施設見学はとくに積極的な姿勢を望む。 マナーに厳しい業界について学ぶ授業でもあるので受講態度についても一定以上のマナーを求める。</p>			教科書・テキスト	『ブライダルビジネス入門』(株)ジェイティービー能力開発 編、(株)JTB総合研究所、2008年 履修人数が確定次第発注します。		
指定図書/参考書等	なし/適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CR220C 地域と観光(概論)			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。地域が主体となり、自然・文化・歴史・産業などの地域資源を活用した観光振興の取り組みが各地で行われている。この授業は、金沢市経済局営業戦略部観光政策課と連携して行う。観光政策から与えられた課題解決のため、金沢市内で受講者の案内によるフィールドワークを行い、観光振興に資する地域資源を発掘する(「地域と観光(フィールドワーク)」との連動)。そして、金沢観光プランをグループで作成し、プレゼンテーションを行う。</p>				<p>観光の概念、観光の歴史、観光資源、観光産業について理解する。金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。地域資源を活用した金沢観光プランの企画ができる。パワーポイントで発表資料を作成し、観光プランのプレゼンテーションができる。</p>			
教授方法	講義、ディスカッション、グループワーク						
履修条件	「地域と観光(フィールドワーク)」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方・成績評価の説明。観光と地域社会の関係について考える。						
2	観光とは：観光の概念、観光の歴史、観光資源、観光産業について理解する。						
3	金沢の観光：金沢の代表的な観光資源や既存のモデルルートについて理解する。						
4	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークAにおける気づきを話し合う。事後レポートに、新たな学びを追記する。						
5	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、フィールドワークBCDにおける気づきを話し合う。事後レポートに、新たな学びを追記する。						
6	観光プラン：既存の観光プラン例を理解する。						
7	観光プラン：グループで観光プランのテーマ・ターゲットを決定する。						
8	観光プラン：グループで観光プランを作成する。						
9	観光プラン：グループごとの観光プランのプレゼンテーションのリハーサルを行う。						
10	観光プラン：グループごとの観光プランの中間プレゼンテーションを行う。						
11	観光プラン：中間プレゼンテーションの振り返りを行う。						
12	観光プラン：グループで観光プランを修正する。						
13	観光プラン：グループで観光プランを修正する。						
14	観光プラン：グループごとの観光プランのプレゼンテーションのリハーサルを行う。						
15	観光プラン：グループごとの観光プランの最終プレゼンテーションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	講義・ディスカッション・グループワークへの取り組み姿勢。			グループごとの観光プランのプレゼン(中間)	20	観光プランが魅力的であるか、独自性があるか、実現が可能であるか、ターゲットが明確であるか。観光プランを分かりやすく、魅力的にプレゼンできたか。
グループごとの観光プランのプレゼン(最終)	20	中間発表で指摘された点を踏まえ、修正した観光プランが魅力的であるか、独自性があるか、実現が可能であるか、ターゲットが明確であるか。観光プランを分かりやすく、魅力的にプレゼンできたか。			期末レポート(観光ツアーチラシ)	30	観光ツアーの魅力や内容がわかりやすく、チラシに記載されているか。参加意欲を高めるデザインや内容になっているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>魅力的で独創的な観光プラン作成を目指して、以下について行う。 ・日頃から積極的に金沢の街歩きを行い、観光資源となりそうなものをリストアップしておく。[15分] ・友人や家族などに、金沢の魅力的な場所・物・人物など観光資源となりそうなものについて聞き取り調査する。[60分] ・地域資源を活用した観光プラン例について、インターネットなどで調べておく。[60分以上] 10回と15回で、各グループの観光プランのプレゼンテーションを行う。グループ内で発表の準備(発表者の決定、発表用パワーポイント作成)を行う。[90分以上]</p>				小レポートは、コメントを付けて次回の冒頭に返却する。			
受講生に望むこと	グループワークやディスカッションが中心のため、積極的に参加することが重要である。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『旅行企画のつくりかた』 小林天心 著 虹人社 2011年 ISBN978-4770900548			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CR230C 地域と観光（フィールドワーク）			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	沢田 史子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>観光振興は地域活性化の戦略的手段として期待されている。地域が主体となり、自然・文化・歴史・産業などの地域資源を活用した観光振興の取り組みが各地で行われている。この授業は、金沢市経済局営業戦略部観光政策課と連携して行う。観光政策課から与えられた課題解決のため、金沢市内で受講者の案内によるフィールドワークを行い、観光振興に資する地域資源を発掘する。そして、金沢観光プランをグループで作成し、プレゼンテーションを行う（「地域と観光（概論）」との連動）。</p>				<p>フィールドワークに参加し、金沢の地域資源を理解する。ディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自己の学びを深めることができる。インターネットなどを利用して対象となる資源を決定し、フィールドワークプランの作成ができる。現地で、対象資源について概要の説明ができる。</p>			
教授方法	フィールドワークとディスカッション						
履修条件	「地域と観光（概論）」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	金沢市経済局営業戦略部観光政策課から、金沢市の観光の現状と学生への課題の提示。						
2	フィールドワークA：金沢市内で地域資源調査を行う。						
3	フィールドワークA：金沢市内で地域資源調査を行う。						
4	フィールドワークBのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。						
5	フィールドワークCのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。						
6	フィールドワークDのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。						
7	フィールドワークB：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
8	フィールドワークB：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
9	フィールドワークC：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
10	フィールドワークC：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
11	フィールドワークD：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
12	フィールドワークD：グループで作成したフィールドワークのプランに基づき、金沢市内で地域資源調査を行う。						
13	フィールドワークEのプラン作成：グループごとにフィールドワークプランを作成し、発表する。						
14	フィールドワークE：グループから提案されたフィールドワークのプランを参考に、金沢市内で地域資源調査を行う。						
15	フィールドワークE：グループから提案されたフィールドワークのプランを参考に、金沢市内で地域資源調査を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	30	フィールドワークおよびディスカッションへの取り組み姿勢。			小レポート	20	所定の書式にしたがって作成している。自分の考察を加えて記入している。
フィールドワークの企画	25	対象となる地域資源について、決められた時間内で効率の良い調査が可能であったか。			フィールドワークの実施	25	対象となる地域資源について、現地で適切な説明ができたか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>フィールドワーク実施後に、現地でのメモを用いてレポート作成を行う[50分]。レポートは「地域と観光（概論）」でのディスカッションに使用する。各グループが企画したフィールドワークプランはそれぞれ1回実施する。グループで役割分担し、実施までに効率の良いルートを決め、概要の説明ができるように準備する[90分以上]。</p>				<p>フィールドワークのレポートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却する。フィールドワークの企画案は、実施前にチェックし修正点を口頭で伝える。</p>			
受講生に望むこと	15回中10回が現地調査である。体調を整え、歩きやすい靴で参加すること。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『金沢・町物語』 高室信一 著 屋敷道明 補筆 能登印刷出版部 2013年 ISBN978-4890106196 『金沢、まちの記憶 五感の記憶』 小林忠雄 著 能登印刷出版部 2009年 ISBN978-4890104970			その他・特記事項	入場料などが必要な場合は、各自負担となる。		

授業科目名	CE100C Grammar		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	高島 彬・木村 ゆかり (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>外国語あるいは第二言語として英語を運用するにあたって、文法を正しく理解することは重要である。それは、将来英語を使用する仕事に就きたいと希望する者にはもちろんのこと、気軽に海外旅行をしたいと思う者にもあてはまる。この授業では、コミュニケーションに必要な英語の運用能力を高めるために文法力の向上を目指す。そのために、高校レベルの文法を完成させるとともに、狙いとする文法項目をコンテキストの中でどのように活用すべきかを学んでいく。「英語・異文化理解」関連科目に位置づけられる。</p>			<p>CEFR A2 (英検準2級～2級、TOEIC400～520)程度の力をつける。すなわち、ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域についてよく使われる表現が理解できる。 日常生活での身近なことからについて、単純で直接的な情報交換に応じることが出来る。</p>			
教授方法	演習、解説 (講義)					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 1: 基本文型 ()					
2	Unit 2: 基本文型 ()、Unit 3: 主語の明示化 / 命令文					
3	Unit 4: 名詞 / 冠詞					
4	Unit 5: 助動詞					
5	Unit 6: 疑問文					
6	Unit 7: 比較					
7	Unit 8: 進行形 / 未来形、復習・質疑応答、中間テストへ向けての演習					
8	前半の振り返り、中間テスト					
9	Unit 9: 完了形					
10	Unit 10: 不定詞 / 動名詞					
11	Unit 11: 受動態 / "It"構文					
12	Unit 12: 接続詞 (1)					
13	Unit 13: 接続詞 (2)					
14	Unit 14: 関係代名詞 / 関係副詞					
15	Unit 15: 仮定法、後半の振り返り					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
試験 (中間・期末)	70	授業中に学習した語彙・文法・表現をさまざまなコンテキストで適切に使用できるか。		ホームワーク	10	予習を含め、課題をきちんとこなしているか。
授業参加状況	20	他の学生とのペアワークの状況やわからないところを質問をするなど積極的に授業に参加しているか。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
<p>指定されたホームワークをしっかりとやってくる。ノートまたはテキストの提出を要求される場合もあるので、練習問題をきちんとテキストに (あるいはノートに) 解答しておくこと。 [30～60分] 検定等を受験し、学力の確認と伸長を図ること。</p>				<p>提出物や課題は翌週の授業で返却をする。 期末試験の結果は希望者にもみ伝える。 質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。</p>		
受講生に望むこと	<p>意思の疎通を図る上でルールとしての文法が必要であることを理解すること。 後期の「Writing」も併せて履修することを強く要望する。 英語学習は毎日少しずつおこなうことが望ましい。 検定等に積極的に挑戦すること。</p>			教科書・テキスト	『Fundamentals of English Composition through Living Grammar』船田秀佳・Juliet D. Erickson 著、英宝社、2012年 (ISBN:978-4-269-33041-2)	
指定図書 / 参考書等	なし / 【参考書】 『FACTBOOK English Grammar: Core』大西泰斗・Paul Chris McVay、桐原書店、2017年、(ISBN:978-4-342-20522-4) 英和・和英辞書を持参すること (電子辞書も可)。			その他・特記事項	授業の進み具合によって予定を変更する場合がありますので、予習・復習の範囲は各授業で確認すること。	

授業科目名	CE110C Writing		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	高島 彬・木村 ゆかり (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は「語学・異文化理解」関連科目のひとつである。前期に学習した文法を土台として、英語の作文能力の向上を目指す。本科目では特に、英語式の論理の運び方を理解し、アカデミックなエッセイを書くために必要な諸スキルを身につけることを目標とする。また、英検を念頭にしたライティング対策もおこなう。</p>			<p>英文エッセイの構造を理解する。さまざまなエッセイパターンを理解し、状況に応じて使い分けができる。エッセイで用いられる文体を正しく理解し、論理展開を支えるつなぎの言葉を適切に使用できる。上記の諸スキルを身につけて、プレゼンの原稿などが書けるようになる。</p>			
教授方法	講義と演習を組み合わせで行う。					
履修条件	「Grammar」の履修済が望ましい(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業の進め方、予習・復習の仕方、課題、英検対策について)					
2	Lesson 1: Self description					
3	Lesson 2: Description of campus life					
4	Lesson 3: Describing a problem and possible solutions (A)					
5	Lesson 4: Inquiring about an internship					
6	Lesson 5: Writing an entry for a class blog					
7	Review、これまでの復習					
8	中間試験					
9	Lesson 6: Describing a problem and possible solutions (B)					
10	Lesson 7: Writing about our special skills and giving advice					
11	Lesson 8: Describing your best experience					
12	Lesson 9: Describing trends over time					
13	Lesson 10: Describing your school					
14	Review					
15	期末テスト、課題作成に向けての準備をおこなう。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
試験(中間・期末)	60	講義の内容をきちんと理解しているかどうかを評価する。		授業参加状況	20	授業中の討論やペアワークに積極的に参加し、発言しているか。予習・復習の有無も大きく関わる。
エッセイ	20	課題(エッセイ)を提出してもらい、英語力、文章構成力、論理性を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の予習が必須である。指定された範囲を辞書を用いて事前に解答(英訳)して、授業に出席すること。[40分] 予習が出来ていない場合、授業に参加できないこともある。				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。期末試験の結果は希望者にのみ伝える。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。		
受講生に望むこと	指定された予復習をしっかりとやってくる。検定等を受験し、学力の確認と伸長を図ること。			教科書・テキスト	『Get It Down You can write in English』 Neil Cowie, Keiko Sakuia (著) センゲージラーニング、2009年、(ISBN: 978-4-86312-104-1)	
指定図書/参考書等	なし/【参考書】 『FACTBOOK English Grammar: Core』大西泰斗・Paul Chris McVay、桐原書店、2017年、(ISBN:978-4-342-20522-4)			その他・特記事項	英和辞書を毎回持参すること(初回から必要)。電子辞書も可。 基礎学力テストの結果に基づきクラス分けをする。	

授業科目名	CE120C Reading			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	細川 真衣						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
教科書を用いて、バラエティに富んだトピックの初級～中級の難易度の英文を読み、リーディングスキルと読解力を身につけることを目指す。パラグラフごとの内容を理解しながら、内容理解に関する問題に取り組み、学習を進める。また、自分が興味を持っているトピックを知り、自律した学習者として意欲的に楽しみながら英文を読むことを知る。教科書とは別に、各自が読みたいものを探し、自分のペースで読み進め、記録をつけていく。				比較的に長い文章を、パラグラフごとに要点を把握し、情報を整理しながら読むためのリーディングスキルと読解力を身につける。これまでに習得した語彙や文法などの基礎的能力を活用して、比較的に長い英文を読めるようになる。様々なトピックに関連する語彙を習得する。関心があるトピックの英文を探し、楽しみながら読むことができるようになる。			
教授方法	演習、講義、多読						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、予習の進め方、「英語で読むこと」について。Chapter 1導入：タイトルから中身を推測する。						
2	「Ch.1 A Family Sees America Together 家族でアメリカ再発見！」トピックセンテンスを見つけて要旨をつかむ。						
3	自分で読むものを探す準備。Chapter 2導入：タイトルから中身を推測する。知らない語を推測しながら読めるようにする。						
4	「Ch.2 Volunteer Vacations 休暇旅行にボランティア活動」トピックセンテンスで要旨をつかむ。						
5	「Ch. 3 How Alike Are Identical Twins? 双子は似た者同士？」フレーズ・リーディング。						
6	「Ch.4 The Search for Happiness through Adoption 養子縁組で幸せをつかむ」フレーズ・リーディング。						
7	「Ch.5 Robots: The Face of the Future 我が家にロボットがやってくる!？」速読力を高める。						
8	発表、問題共有。「Ch.6 A New Way to Go 暮らしに役立つ発明品」音読のメリットと練習。						
9	中間テスト、ここまでのreading記録と感想の発表。リーディングスキルの振り返り。						
10	「Ch.7 Improving Lives with Pet Therapy ペットセラピーで生活が好転」語彙力の強化をめざす。						
11	「Ch.8 A Healthy Diet for Everyone 食事で人生が変わる」文と文をつなぐ語句の種類と役割。						
12	「Ch.9 Alfred Nobel: A Man of Peace アルフレッド・ノーベル：平和の人」既習の重要な文法事項の活用。						
13	「Ch.10 Marie Curie: Nobel Prize Winner マリー・キュリー：研究に捧げた生涯」既習の重要な文法事項の活用。						
14	「Ch.11 Oil as an Important World Resource これからも石油は重要な資源か？」ニュース、新聞の英語。						
15	「Ch.12 Earthquakes: Hard to Predict 地震予知は可能なのか？」リーディングスキルの振り返り。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加状況	20	予習をして積極的に授業に参加しているか。			発表	5	自己学習での取り組みで読んだもの、学んだことを、簡潔に発表できたか。
自己学習	15	記録をつけてリーディングに取り組んでいるか			試験(中間・期末)	60	教科書で取り上げられた英文の内容が理解できているか。授業中に学習した語彙・文法・表現を適切に使用できるか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回、予習として、教科書内の指示された問題を解いてくること。[40分] 各自選んだ英文を読み進め、記録をつけること。[1日20分以上読むことが望ましい] 復習として、教科書内の指示された問題を解く。[20分]				リーディング記録は、次回の冒頭でコメントをつけて返却する。 提出課題は、次回の冒頭で返却する。			
受講生に望むこと	必ず指示された予習をしてください。予習をしてあることを前提に授業を進めます。 自分で選んだ英文を自分のペースで読み進めること。1日20分以上読むことが望ましいですが、短い時間でもなるべく毎日取り組むことを勧めます。			教科書・テキスト	『Reading Access - Skills for Academic Success』 Miwako Yamashinaほか(Cengage Learning) 2014 (ISBN:978-1-305-07707-2)		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE130C 異文化コミュニケーション論		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	高島 彬						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
異文化コミュニケーションには、他者理解が必要である。ことばのさまざまな側面を理解し、ものの見方と捉え方の多様性を知る。それにより、他者の考え方を理解するための基礎を作る。これまで「あたりまえ」だと思っていたことについて、異文化を持つ他者の視点により再考する。			異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解する。ことばさまざまな側面を深く理解することにより、異文化と自文化の共通性と差異を再考する。文化背景の異なる人々との共生を身近なものとして考えることができる。				
教授方法	講義、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション（異文化コミュニケーションをいかに学ぶか）						
2	ことばによるコミュニケーション 言語と文化						
3	ことばによるコミュニケーション ポライテネス						
4	ことばによるコミュニケーション ケーススタディ・グループディスカッション						
5	ことばのないメッセージ パラ言語：音声と間						
6	ことばのないメッセージ 身体動作：ジェスチャーとアイコンタクト						
7	ことばのないメッセージ ケーススタディ・グループディスカッション						
8	映画から異文化を学ぶ 映画視聴						
9	見えない文化 自己とアイデンティティー						
10	見えない文化 異文化コミュニケーションの障壁						
11	異文化コミュニケーションエクササイズ 背中合わせのコミュニケーション						
12	異文化コミュニケーションエクササイズ D.I.E.メソッドを用いたケーススタディ						
13	映画から異文化を学ぶ 映画視聴						
14	発表（プレゼンテーション）と総評						
15	発表（プレゼンテーション）と総評						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、ノット等は授業で指示する。		参加態度	10	ディスカッションへ積極的に参加し、テーマについて理解を深めようとしているかどうかを評価する。	
発表（プレゼン）	30	異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて、発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業でお知らせする。		コメントシート	10	事前事後の学習および授業のコメントを提出してもらう。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前に英文テキスト等、事後に体験レポートなどを課す。【30～60分】				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	さまざまなアクティビティやグループディスカッションの機会を設けるため、受講者には意見交換への積極的な参加を期待する。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	参考書『異文化コミュニケーションワークブック』八代京子・荒木晶子・樋口容視子・山本志都・コミサロフ喜美著 三修社 2001年 ISBN:978-4-384-01851-6 『異文化トレーニング』八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子著 三修社 2009年 ISBN:978-4-384-01243-9			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE140C 海外地域研究			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	高島 彬						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この講義では、日本人がよく訪れる海外の国々について学習し、観光ポイントから文化や歴史的背景についての理解を深める。アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、中東・アフリカに大きく分けて世界の国や観光ポイントを学習する。関心のある国について、旅行計画を立て、発表する。				海外の国々の観光ポイントについて理解している。旅行計画を立て、自分の言葉で当該地域の魅力を伝えることができる。外国語学習への関心・意欲を高め、異文化理解につなげる。			
教授方法	講義、ディスカッション、プレゼンテーション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション（授業内容の説明、発表者割り振り、レジュメの作り方や発表の仕方の説明）						
2	アジア（韓国、台湾、中国、香港・マカオ）						
3	アジア（フィリピン、ベトナム・カンボジア、インドネシア）						
4	アジア（マレーシア・シンガポール、タイ、インド・ネパール）						
5	ヨーロッパ（イギリス、オランダ・ベルギー、北欧4国）						
6	ヨーロッパ（ドイツ、スイス・オーストリア、フランス、イタリア）						
7	ヨーロッパ（スペイン・ポルトガル、ギリシャ、チェコ・ハンガリー・ポーランド、ロシア）						
8	復習テスト 課題レポートの詳細についての説明						
9	南北アメリカ（アメリカ、ハワイ）						
10	南北アメリカ（カナダ、メキシコ・キューバ・パハマ、ペルー・ブラジル・アルゼンチン）						
11	オセアニア（オーストラリア、ニュージーランド）						
12	オセアニア（グアム・サイパン、南太平洋の島々）						
13	中東・アフリカ（トルコ、イスラエル）						
14	中東・アフリカ（エジプト、ケニア・タンザニア）						
15	復習テスト 課題レポートの詳細についての説明						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
発表（プレゼン）	50	関心のある国への旅行計画を立てて、発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業でお知らせする。			課題レポート	20	課題に対して、講義内容をふまえ、自分の言葉に活用できているかどうかを評価。
復習テスト	30	講義と教科書の内容について、理解度を問う小テストを行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
・この授業は「予習」は必要ないので、必ず「復習」をすること。復習テストを毎回授業の冒頭で行う。〔60分〕 ・授業外でも積極的に様々な国の文化（映画、ドラマ、小説、ニュース）に触れようとする。〔30～120分〕				提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。期末試験は希望者にのみ返却する。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	海外の国々に関する書籍を購入もしくは図書館で借りるなどして、知識の取得に努めること。ディスカッションやプレゼンテーションなど積極的な授業参加が求められる。			教科書・テキスト	『すぐに役立つ海外旅行地理ベーシック400』JTB総合研究所、2017年		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE200C ワールド・ビックス			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	葦名 理恵						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
世界各地の観光地と日本を比較し、また各国・地域からの訪日外国人の動向、特徴から、海外からみた日本を学ぶ。同時に日本国内の観光地についても理解を深める。また観光によって引き起こされる問題や解決方法について各国の対応などを比較する。観光を通して多様な価値観、視点を学ぶことを目的とする。				<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人気観光国と地域について説明できる。 ・各地域の観光特性について説明できる。 ・海外と日本を比較し、各地域の観光の特徴を説明できる。 ・日本の主な観光地について説明できる。 ・各地と日本の文化慣習の違いなどを理解する。 			
教授方法	講義、プレゼンテーション、グループワーク						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 授業の進め方、成績評価の説明、諸注意						葦名
2	世界の観光地・基礎						葦名
3	世界から見る日本 日本には何がある？ ゴールデンルートについて						葦名
4	世界から見る日本 日本には何がある？ 昇龍道について						葦名
5	世界から見る日本の魅力 日本には何がある？ 金沢について						葦名
6	南北アメリカ 基礎データ・観光地について						葦名
7	南北アメリカ 各国の観光の特徴・文化・人						葦名
8	南北アメリカ 日本との違い						葦名
9	ヨーロッパ 基礎データ・観光地について						葦名
10	ヨーロッパ 各国の観光の特徴・文化・人						葦名
11	ヨーロッパ 日本との違い						葦名
12	アジア・オセアニア 基礎データ・観光地について						葦名
13	アジア・オセアニア 各国の観光の特徴・文化・人						葦名
14	アジア・オセアニア 日本との違い						葦名
15	世界から見る日本 日本の魅力とは？ これからの観光スタイルについて						葦名
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
発表(プレゼン)	40	各地域ごとに調べた内容をパワーポイントを使用して発表する。配布用レジュメの準備も重要である。それらの内容を評価する。			コメントシート	30	学生がお互いの発表(プレゼン)についてコメントを書く。他者のプランのポイントをつかめているか、その内容を評価する。
復習テスト	20	講義とテキスト(プリント含む)の内容について各地域ごとに理解度を問う小テストを行う。			授業参加態度	10	グループごとに行う作業への積極的参加姿勢
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
観光関係のニュースなどを日ごろからチェックし、常に新しい情報を仕入れるようにすること。				各グループ発表については次回の授業でフィードバックを行う。提出物については希望者にはコメントと共に返却する。			
受講生に望むこと	各地域ごとにグループ単位での作業となるため、お互いに協力して作業を進めること。			教科書・テキスト	適宜、プリントなどを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/適宜、授業内で案内する。			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE150C English Communication Skills		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	木村 ゆかり						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>学生の身近なトピックや日本の伝統文化・習慣を、映像を用いて視覚的に楽しく学ぶ。さまざまな場面や状況でのダイアログを通して、「聞く・読む」のinputから「話す・書く」のoutputへと、英語でのコミュニケーション能力の向上を目指す。アメリカ人交換留学生のLauraが、留学先の友人Toruの助けを借りながら、日本の文化や習慣を体験する設定で、学生は日本文化・習慣について考え、自分の言葉で発信するための英語運用能力を身に付ける。</p>			<p>・身近なトピックに関する実際の場面・状況において、英語でコミュニケーションができるようになる。 ・日本の伝統文化や習慣について、自分の言葉で表現できるようになる。</p>				
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Unit 1 Giving Directions and Helping (道案内で使える英語表現)						
2	Unit 2 Talking about Yourself (自己紹介で使える英語表現)						
3	Unit 3 Host Family (留学生などを迎える時に使える英語表現)						
4	Unit 4 Commuting by Train (電車の乗換説明に使える英語表現)						
5	Unit 5 Taking Classes (物事の描写に使える英語表現 1)						
6	Unit 6 Talking with a Teacher (褒めるときに使える英語表現)						
7	中間テスト：前半期の振り返りを行う						
8	Unit 7 Finding Friends (自分の趣味や好みを伝える英語表現)						
9	Unit 8 Potluck (パーティーなどの集まりで使える英語表現)						
10	Unit 9 Sumo (物事の描写に使える英語表現 2)						
11	Unit 10 Four Seasons (好きな季節の説明に使える英語表現)						
12	Unit 11 Green Tea (物事の描写に使える英語表現 3)						
13	Unit 12 Japanese Food (料理の説明に使える英語表現)						
14	Unit 13 Part-time Jobs (アルバイト先で使える英語表現)						
15	Review						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況など	20	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。		小テスト (中間テスト含む)	20	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。	
課題	30	英作文の作成など、授業内で指定する。		期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック			
<p>予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。 [20分] 復習では、ウェブサイトでも無料配信されている音声を用いて、音読の練習をすること。 [20分]</p>				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。課題の提出期限を守ること。			教科書・テキスト	『Welcome to NIPPON! -Building International Friendships-』 田地野彰 監修/石井洋佑 /加藤由崇 /中川浩著 朝日出版社 2018年 ISBN:978-4-255-15613-2		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE210C Advanced English		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択					
担当教員名	カーラ カリー										
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態					
他学科の履修	不可	関連資格	なし								
授業の概要			授業の到達目標								
英語のテレビコマーシャルを題材として扱う。英語運用能力を高めるとともに社会文化的差異について考える。授業は、リスニング、暗唱、ディスカッションを中心とする。最終プレゼンテーションでは、各自でテレビコマーシャルを選んで分析し、発表する。			テレビコマーシャルを聞いてその内容について理解できる。テレビコマーシャルで用いられる英会話の暗唱ができる。テレビコマーシャルを分析し、その内容について伝えることができる。								
教授方法	演習、講義、listening, discussion, presentations										
履修条件	学科指定の者										
授 業 計 画											
実施回	授業内容・目標					担当教員					
1	Class introduction and expectations. Unit 1 introduction - Reading										
2	Unit 1 Meijer - Higher Standards, Lower Prices										
3	Unit 2 This Calls for a Bud Light										
4	Unit 3 Anti-Discrimination Campaign										
5	Unit 4 McDonald's - King of Fast-Food Restaurants										
6	Unit 5 Relax, it's FedEx Recitation										
7	Unit 8 Learning Languages										
8	Unit 9 Pepsi - Asking For More										
9	Unit 10 United Nations Development Program										
10	Unit 11 Disney - Magic Happens Racitation										
11	Unit 13 Anti-Smoking Campaign										
12	Unit 14 Counterfeit Mini Coopers										
13	Unit 15 Hallmark of a Teacher										
14	Final Preparation										
15	Final Presentation										
成績評価方法と基準											
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準				
暗唱	20	内容・構成	語彙・文法	発音・抑揚	印象	期末プロジェクト	35	内容・構成	語彙・文法	発音・抑揚	印象
語彙小テスト、課題	30	語彙・文法	内容確認			参加態度	15	積極的に学習し参加しようとしているか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）					課題（試験やレポート等）に対するフィードバック						
予習は、各UnitのPreliminary ReadingおよびVocabularyとする。指定の語句を調べ、DVDを活用して内容を事前に把握する。[40分]事後学習は、語彙と文法とする。[20分]指定した内容について小テストを実施する。					提出された小テスト、レポートは、授業中に返却とフィードバックをする。授業で提出された課題は、希望者に返却する。						
受講生に望むこと	暗唱やディスカッションなどペアやグループ活動が中心となる。積極的な授業参加が求められる。				教科書・テキスト	『English in 30 Seconds』 Aoki, Masayuki. 南雲堂 2009年 ISBN:9784523176183					
指定図書/参考書等	なし/なし				その他・特記事項	なし					

授業科目名	CE220C Advanced English		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択	
担当教員名	木村 ゆかり						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>オフィスでのさまざまな出会い、取引、交渉などの中で、より上手に英語でコミュニケーションができるようになることを目指す。かきこまったビジネス英語だけではなく、より社交的な英会話も含まれている。各ユニットにダイアログがあるので、どういう流れで会話すればいいかのモデルとして使い、自分の言葉で話せるようになることを、各ユニットの最終目標にしている。</p>			<p>・ビジネスのシチュエーションで使われる英語を聞いて、あるいは、読んで理解することができる。 ・ビジネス英語の語彙力をつけ、さまざまな表現を用いて、自分の意見を述べることができる</p>				
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	Unit 1 Welcome to the Office						
2	Unit 2 What Time Do You Close?						
3	Unit 3 I'd Like to Change an Order						
4	Unit 4 May I Take a Message?						
5	TOEIC演習(1): Unit 1-4の復習						
6	Unit 5 Shall I Ring That Up for You?						
7	Unit 6 This Way, Please						
8	中間テスト: 前半期の振り返りを行う						
9	Unit 7 I'd Like to Make a Complaint						
10	Unit 8 Could You Fill Out This Form?						
11	TOEIC演習(2): Unit 5-8の復習						
12	Unit 9 Welcome to Japan!						
13	Unit 10 What's Your Background?						
14	Unit 11 Here's Your Schedule						
15	Unit 12 I'll See You Tomorrow						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
授業参加状況など	20	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。		小テスト(中間テスト含む)	20	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。	
課題	30	英作文の作成など、授業内で指定する。		期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] 復習では、付属のCDで音声を用いて、音読の練習をすること。[20分]</p>				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。課題の提出期限を守ること。			教科書・テキスト	『Business Encounters』Michael P. Critchley著 2013年 南雲堂 ISBN:9784523177159		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE230C Advanced English			開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	高島 彬						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>日本で働く様々な国籍・業種の方々へのインタビューを題材に扱う。英語運用能力を高めるとともに、コミュニケーションスキルを養う。授業は、DVD視聴、ペアでのスピーキング練習、ライティングを中心とする。最終スピーチでは、将来のキャリアについて英語で発表する。</p>				<p>インタビューを聞いてその内容を理解することができる。学習した表現を用いて、英語でインタビューができる。将来のキャリアについてのエッセイを200語程度の英語で書き、発表することができる。</p>			
教授方法	演習、講義、listening, essay writing, presentations, communication practice						
履修条件	学科指定の者または Advanced English の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	Introduction to class. Unit 1 Sales Can Be like Acting						
2	Unit 2 Travel Opens Up the World						
3	Unit 3 Loves Sells Cars						
4	Unit 4 Translating Is More than Words						
5	Unit 5 Serve Up the Best Possible Service						
6	Unit 6 Toast Your Success!						
7	Units 1-6 Vocab Test. Work day						
8	Unit 7 Teaching Is Helping Others Perform Their Best						
9	Unit 9 Life is like Riding a Bicycle						
10	Unit 10 Trade Ideas for Positive Change						
11	Unit 11 Connect Workers with Companies						
12	Unit 12 Necessity Is the Mother of Invention						
13	Unit 13 What's the Recipe for Success?						
14	Unit 14 Help Animals for a Better Society						
15	Unit 9-14 Vocab Test. Final Report and Speech						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
宿題と語彙小テスト	40	語彙、文法 内容確認			最終レポート	30	内容、構成 発音、抑揚 印象
中間レポート	15	内容、構成 発音、抑揚 印象			参加態度	15	積極的に学習し参加しようとしているか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>予習は、各UnitのKey VocabularyおよびReading Passageとする。指定の語句を調べ、DVDを活用して内容を事前に把握する。[40分] 事後学習は、語彙と文法とする。[20分] 指定した内容について小テストを実施する。</p>				<p>提出された小テスト、レポートは、授業中に返却とフィードバックをする。 15回目の授業で提出された課題は、希望者に返却する。</p>			
受講生に望むこと	会話やディスカッションなどペアやグループ活動が中心となる。積極的な授業参加が求められる。			教科書・テキスト	『Working in Japan』 Alice Gordenker, John Rucynski著 センゲージラーニング 2015年 ISBN:978-4-86312-248-2		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	CE240C Business English Skills		開講学科	コミュニティ文化	必修・選択	選択
担当教員名	本間 千重子					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
英語による情報の発信・受信がますます増える今、ビジネスの場においても英語で対応する力が生きてくる時代になっている。本講座では、電話応対、Eメール、ビジネスレター、受付の英語など、さまざまなシチュエーションに応じて、ビジネスの場で用いられる表現や語彙を学ぶ。また、プレゼンテーション（発話力を高める）を実施し、実際に自分が情報の発信の主体者となるべく英語で伝える体感練習もおこなう。あわせてTOEIC対策も実施する。			ビジネスの場において必要とされる基礎的なコミュニケーション能力を習得する。 実際に自分がビジネスの場にあることを想定したロールプレイを通して、基礎的な対応力を習得する。 英語によるプレゼンテーションに慣れていき、発話力を習得する。			
教授方法	講義（テキスト学習）の上、ペアワーク・ロールプレイ・プレゼンテーションを取り入れる。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to business English--orientation 授業の内容、進め方、成績評価について説明し、特にビジネスに関する英語には多岐にわたる分野があることを知る。					
2	Chapter 1 Telephone 1--intonation 電話の応対（受け方、取り次ぎ、不在処理など）について学ぶ。					
3	Chapter 2 Business Email--email format 時間が勝負のビジネスの現場に必要な要件について、定型表現、定型フォーマットを知る。					
4	Chapter 3 Telephone 2--pause 電話での応対の際、正確さを期するが、聞き間違い・誤解のないように確認する表現を学ぶ。					
5	Chapter 4 Business Letter--reading business letters 基本的な情報発信の手段であるビジネスレター（文書）の形式と内容を学ぶ。					
6	Chapter 5 At the Reception Desk--contraction 会社内の受付担当者になったつもりで適切に案内する表現を学ぶ。					
7	Chapter 6 Corporate Websites--information on website 企業の顔であるウェブサイトのスタイルについて知る。					
8	Review and Short test --covering chapter 1-6 既習テキスト範囲の知識のまとめ。					
9	Chapter 7 Company Profile--accent 自分の職場を外部に紹介する機会（会社概要）に用いる英語表現を学ぶ。					
10	Chapter 8 Product Advertisements--reading advertisement 広告コピー例（家電メーカーのウェブサイト）より広告文を学ぶ。					
11	Chapter 9 Your Job--reduction 名刺（ビジネスカード）を用いて、自分の仕事を説明する表現を学ぶ。					
12	Chapter 10 Product Specifications--checking specifications 製品の詳細な仕様（specifications）を確認するための英単語を学ぶ。					
13	Chapter 11 Business Plans--rhythm 企業の事業計画や企業戦略に関して必要な語彙や表現を学ぶ。					
14	Presentation--making a presentation of a product お気に入りの商品を例にとり、発表を実施する。					
15	Review--feedback on presentation, Chapter 12~Chapter 24のHop!（学習のポイント）より選択し知っておくべきポイントを解説しまとめとする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
授業参加状況など	30	予習・復習含め、授業への積極的な取り組み姿勢。		定期試験（小テストも含む）	50	授業の内容の理解度を確認する。試験範囲、形式は授業内で提示する。
発表	20	英語の運用力がついているか評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
単語の予習が必須である。授業の内容を理解するために、単語を辞書で調べ、頭に入れておく必要がある。[20分] 事後学習として、付属のCDを各自用いて、内容を復習することが求められる。[20分] プレゼンテーション等、授業で指示された課題を必ず行うことが求められる。				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	ビジネスに関する知識や情報を得られる機会にあふれている、好奇心をもって積極的な授業参加が求められる。 英語で自分の考えを述べる事が求められる。 検定等に挑戦する。			教科書・テキスト	『Getting Global! - 将来のキャリアに活かす大学生のためにコミュニケーション英語』 第4版 辻本智子 代表者1名他 金星堂 2017年 ISBN:978-4-7647-4007-5	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	TOEIC、英語検定試験、ビジネス英語検定などへの手がかりとする。	

**司書特別開講科目
(社会学科科目)**

授業科目名	SL100U 図書館概論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、現代における図書館の意義と役割について、その法的基盤や国民の知る権利を保障する理念を理解することをねらいとする。図書館種別にそれぞれの制度と機能について、その歴史的展開を含めて理解することを目指す。また、一般的な教養として図書館を理解してもらうことも目指すため、司書資格取得を希望しない学生の履修を歓迎する。				図書館の意義・役割について理解する これまでの図書館の歴史を振り返り、今日における図書館の理念の成立について理解する 公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、国立国会図書館の制度と機能を理解する 図書館類縁機関、図書館関係団体について理解する 今日の図書館の課題と今後の展望について主体的に考えることができる			
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	現代社会と図書館(1) 図書館とは何か						
2	現代社会と図書館(2) 図書館の種類と図書館の役割						
3	現代社会と図書館(3) 司書の役割とは何か						
4	図書館の理念(1) 図書館の自由						
5	図書館の理念(2) 図書館員の倫理綱領						
6	図書館関係法規について						
7	公共図書館の制度と機能(1) 図書館法						
8	公共図書館の制度と機能(2) 公共図書館の機能						
9	公共図書館の制度と機能(3) 管理運営						
10	学校図書館の制度と機能						
11	大学図書館の制度と機能						
12	専門図書館の制度と機能						
13	国立国会図書館の制度と機能						
14	外国の図書館について						
15	図書館関係団体について						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。なお小テストで扱った範囲は試験対象外とする。			小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を授業ごとに最低30分程度は行うこと。図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格取得のための科目です。ただし、図書館に興味がある学生の履修も歓迎します。資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館概論5訂版』塩見昇編著・日本図書館協会、2019。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3; 1) ISBN: 9784820418139		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SL220U 情報技術論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の歴史、種類、特性、機能、利用法、等について概説し、様々な情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。			図書館などの情報サービスにおける情報技術の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。コンピュータやネットワーク、インターネットなどの基礎知識の習得する。さらに携帯情報端末や電子資料、電子書籍など多様に進歩する情報技術についての知識を深めていく。				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	情報と情報技術 授業の進め方、情報とは何かを考える						
2	情報の表現方法と蓄積媒体						
3	情報技術と情報メディア その種類と歴史						
4	図書館と記録技術 視聴覚メディアと電子メディア						
5	情報処理技術とコンピュータ						
6	コンピュータの歴史						
7	現代のコンピュータ						
8	コンピュータとソフトウェア						
9	携帯情報端末						
10	図書館サービスと電子資料・電子書籍						
11	データベースとは						
12	コンピュータネットワークとは						
13	インターネットの仕組み						
14	インターネットと検索エンジン						
15	図書館と情報技術 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）を行う。		小テスト・授業内課題	20	授業内で筆記の小テスト、小レポートを出題する。	
授業参加度	20	授業への参加度、発言などの積極性を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に情報技術に興味を持ち、ニュースなどで伝えられる情報技術関連の話題に関心を持ってください。基本的なPCについての知識があることが望ましいため、PCなどを活用することを心がけてください。配布資料を用いて復習を30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	この科目は司書資格のための科目ですが、情報技術一般について興味がある学生の履修を歓迎します。司書資格取得を目指す場合は、図書館における情報技術の意味について考えながら受講をしてください。			教科書・テキスト	なし（授業内で資料配布）		
指定図書/参考書等	なし / 『図書館情報技術論』杉本重雄 [ほか] 編 樹村房 2014 ISBN : 978-4883672035			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SP315U 認知心理学		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	認定心理士・司書			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義は、心理学の中でも認知心理学という分野に焦点を当てて、基本的な内容について学ぶことをねらいとしている。認知心理学は、わたしたちが自分や環境に関する情報をどのように処理しているのかを探る心理学の一分野である。心理学概論Aや心理学概論Bにくらべると発展的な内容も含めて授業を進める予定である。認知心理学が日常生活でのさまざまな問題と関わりを持っていることを学んでほしい。</p>			<p>認知心理学がどのような学問領域であるのかを理解している。感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解している。記憶、思考、問題解決、意思決定といった認知心理学における重要な概念やその障害について理解している。日常生活で直面する問題に対して、認知心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>			
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	認知心理学とは：認知心理学という領域がどのように成立し、どのようなことを目指した学問分野であるかを学ぶ					
2	知覚のはたらき：感覚と知覚の特徴とはたらきについて基本的な事項を学ぶ					
3	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ					
4	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完、周波数分析などについて学ぶ					
5	知覚における障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ					
6	顔の知覚：私たちがどのように人の顔を知覚し、識別し、記憶しているのかを学ぶ					
7	記憶：人の記憶の特徴と種類について、短期記憶と長期記憶の働きなどを学ぶ					
8	小テスト1					
9	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ					
10	概念：概念とは何か、概念が形成されるまでのプロセスを学ぶ					
11	言語：会話のなりたちや、会話の理解、文章の読み書きに関わるプロセスなどを学ぶ					
12	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ					
13	日常認知：目撃証言や偽りの記憶など日常生活における認知の問題を学ぶ					
14	小テスト2					
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
小テスト	50	講義内容の理解度		講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度
発表	30	発表内容の完成度				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>				<p>講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>		
受講生に望むこと	認知心理学は私たちの心の仕組みのコアな部分を対象とする研究領域である。普段の生活ではあまり意識しない部分のトピックが多いといえる。認知心理学で扱っているトピックが普段の生活での体験とどのように繋がりを持っているのかを考えながら授業に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	『認知心理学 心のメカニズムを解き明かす (いちばんはじめに読む心理学の本)』仲真紀子(編著) ミネルヴァ書房 2010年 ISBN:978-4623056835	
指定図書/参考書等	なし / 『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SB100U 生涯学習概論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	高橋 律子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>「生涯学習」とは「生涯にわたって学ぶこと」である。今日では当たり前のように受け止められている「生涯学習」であるが、自主的な「学び」は、「学ぶことのできる社会」の支援により豊かさを増す。「学ぶ」ことは、「よりよく生きる」ことでもある。それぞれが、これまでの人生を振り返り、将来の生き方も見据えながら、「生涯学習」の意義とあり方について考えることを授業の目的とする。講義中心だが、施設見学等も含め具体的な学習支援の方法と内容の理解を深め、実質のある「生涯学習論」の習得を期待する。</p>				<p>それぞれの人生を振り返りながら、生涯学習のあり方を考えることができる。生涯学習に関わる政策の知識を持つ。レポート作成を通して、自分の考えをまとめることができる。</p>			
教授方法	講義と見学						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	イントロダクション：授業の進め方と成績評価についての説明 生涯学習とは何か：自分や家族の「学び」について振り返り、生涯にわたる学習の多様性について理解します。						
2	生涯学習の役割：生涯学習が個々の人生においてどのような役割を果たしているか、また社会における役割についても考えます。						
3	生涯学習に関わる政策の展開：生涯学習が政策においてどのように進められてきたか学びます。						
4	芸術文化活動と生涯学習：美術館での生涯学習を例に、芸術文化と生涯学習がどのように関わりをもっているか考えます。						
5	生涯学習施設について：生涯学習施設とはどのような施設をさすか、またどのような活動がされているかについて学習します。						
6	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
7	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
8	生涯学習施設見学：複数の生涯学習を見学し、比較することで、どのような活動が行われ、どのような工夫がなされているか、発見することを目的とします。						
9	学習支援の方法：生涯学習を支援する方法としてどのような方法があるのか具体的に説明します。						
10	学習者のニーズ：学習支援をしていく上で、学習者のニーズをつかむ必要があります。年齢層等に配慮しながら、求められる学習内容について考えていきます。						
11	学習プログラムの作成について：生涯学習の学習プログラムがどのように作られているか、具体的に説明します。						
12	学習プログラムの作成演習：実際に学習プログラム案を作成し、必要な知識、態度などを理解します。						
13	現代社会における学習課題：生涯学習の場において、現代社会ではどのような課題に取り組んでいくべきか考えます。						
14	これからの生涯学習のあり方：新しいメディアを活用し、どのように生涯学習は進められていくか理解し、考えます。						
15	全体のまとめ、レポート作成。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	50	<p>積極的な授業参加態度を重視する。 ・生涯学習に対する理解を深めようとする意識。 ・他の意見に耳を傾け、積極的に発言する。</p>			課題レポート	50	<p>各レポートの詳細は授業で説明を行うが、下記評価基準による。 ・課題に沿っている。 ・授業での学びをもとに作成している。 ・自分の考察を加えて記入している。</p>
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業に参加する前に自分がこれまでどのように「学習」（学校内、学校外とも）してきたか、振り返っておいてください。[30分] 家族のなかから一人選び、その人の「学習」経験についてインタビューしておくこと。[60分]</p>				<p>・授業内で提出するレポートはコメントを付けて返却します。</p>			
受講生に望むこと	意見発表の場を多くもうけます。積極的な態度で授業に臨みましょう。提出物の期限は必ず守ること。			教科書・テキスト	なし（レジュメ等を配付する）		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB200U 図書館サービス概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目であり、図書館の中心的機能である情報提供について、その意義・種類・方法について理解を深めるとともに、多様な図書館サービスの形態を学ぶ。またそれぞれの図書館サービスの本質を理解することを旨とする。			図書館サービスの意義・構造について理解する 資料提供サービスの基本について理解する 様々な情報提供サービスの形態と機能について理解する 図書館ネットワークについて理解する 障害者サービス、高齢者サービス、など利用対象に応じたサービスについて理解する 図書館と著作権について問題意識を持って理解する				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者または履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館サービスの意義(1) 図書館の構成要素とサービスの役割						
2	図書館サービスの意義(2) 図書館サービスの類型化						
3	図書館サービスとマネージメント(1) 計画の立案と評価						
4	図書館サービスとマネージメント(2) 図書館の「新・望ましい基準」						
5	来館者へのサービス						
6	利用空間の整備						
7	貸出サービスの構造						
8	資料提供の展開(1) リクエストサービス						
9	資料提供の展開(2) 資料収集の方針						
10	情報提供サービス						
11	利用対象に応じたサービス(1) 障害者サービス、高齢者サービス						
12	利用対象に応じたサービス(2) 児童サービス						
13	利用対象に応じたサービス(3) 多文化サービス						
14	情報提供と著作権						
15	これからの図書館サービスのあり方について(まとめ)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	40	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。受験に当たり、指定するレポートが受理されていることが必要である。		授業内課題	20	授業内での作業・ディスカッションなどの成果を評価する。	
レポート	20	授業で指定した内容をまとめ、同一内容を扱う別の文献を採り、内容をまとめる。双方の見解に基づいて意見をまとめ、期限までに指定書式にて提出する。		授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
教科書を指定しているため、教科書を活用した予習復習を推奨する。図書館を日常的(できれば毎週1回以上)に活用することを心がける。また、図書館員には幅広い背景知識が求められるため、日頃から様々な領域に関心を持つことを求める。図書館利用の際は図書館がどのようなサービスを実施しているのか注目し、機会があれば積極的にサービスを利用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館サービス論』小田光宏編著。日本図書館協会、2010。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2 ;3) ISBN:978-4-8204-0917-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	レポートは未提出の場合は単位認定を行わない。		

授業科目名	SB205U 情報サービス論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	司書			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。図書館における情報サービスの歴史や理念をふまえ、図書館情報サービスを形成する情報検索や各種のサービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、SDIなど）について解説する。また各種情報源の種類や利用・検索方法について、文字情報、数値情報、映像・音声情報などの種類別やメディア別に解説する。			図書館の理念を理解し、利用者サービスの重要性を理解する 資料提供サービスと情報提供サービスの違いを理解する 図書館サービスの中における情報サービスの位置づけを理解する 各種情報源の特性を知り、情報源の利用について知識を身に付ける			
教授方法	講義，スライドを使用した形式で実施					
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	情報サービスの概要：情報サービスの意義を理解する					
2	情報サービスの基礎：レファレンスサービスとはなにか					
3	情報サービスの展開：利用指導、レフェラルサービスとはなにか					
4	多様な情報サービス：読書相談、地域情報の発信、専門的な情報提供のあり方					
5	デジタルレファレンスサービス：デジタル環境でのサービスとは					
6	情報源整備の実際：印刷メディアと電子メディアの特徴、レファレンス情報源の構築と評価					
7	利用者の情報利用に対する理解：情報ニーズと情報探索行動					
8	レファレンス質問への対応：レファレンスプロセスの理解					
9	情報の検索と回答：検索戦略構築と情報検索を行うには					
10	情報検索のしくみ：レファレンスブックの構造、データベースの検索機能					
11	情報サービスの管理：情報サービスの組織化、人的な資質と能力					
12	情報源の特質：事実検索と文献検索、データベースの種類内容					
13	事実情報の検索の実際：言葉、統計、地理、人名などの調べ方					
14	文献情報の検索の実際：図書雑誌、雑誌記事などの調べ方					
15	情報サービスを行う意義：まとめ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館における情報サービスの基本的な位置づけを理解できている必要がある。		授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
授業内で紹介した各種情報源について、図書館やWebで実際に確認すること。図書館のOPACなどデータベースを日常的に活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。		
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	『情報サービス論』小田光宏編著・日本図書館協会，2012。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；5）ISBN：978-4-8204-1211-3	
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし	

授業科目名	SB300U 児童サービス論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	坪内 啓子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
乳幼児期から読書に親しむことの大切さが広く知られるようになったが、公立図書館でどのような児童サービスが行われているかを通して、子どもを知り、本を知り、子どもと本を結びつける技術を知るという児童図書館員の仕事の魅力を伝える。また児童サービスの必要さと重要性について考える。				児童サービスの意義と目的をよく理解し、そのために必要な知識と技術を習得する。 児童サービスの目的達成のために土台となる本についての知識を習得する 児童サービスについて関係機関との協力・連携について理解する。			
教授方法	基本的に講義による授業、レポート作成、実践など						
履修条件	「図書館概論」、「図書館サービス論」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	児童図書館の目的を理解する。						
2	児童図書館の歴史について知る。						
3	児童室をつくる : 資料の収集と蔵書構成						
4	児童室をつくる : 資料の組織化(分類と目録)						
5	児童室をつくる : 施設と設備・備品						
6	児童室をつくる : 配架と展示(YAサービスを含む)						
7	児童室をつくる : 児童図書館の運営、学校等との連携、乳幼児サービス						
8	本を選ぶ : 絵本について学ぶ						
9	本を選ぶ : 物語、選ぶ目を養う						
10	子どもを知る						
11	子どもと本を結ぶ : 子どもへのレファレンス・サービス						
12	子どもと本を結ぶ : 読み聞かせ						
13	子どもと本を結ぶ : ストーリーテリング						
14	子どもと本を結ぶ : ブック・トーク						
15	まとめ・児童図書館員の役割						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢等			実践・レポート作成ほか提出物	40	課題内容についてポイントを押さえるの確に考えがまとめられているか。
単位認定試験	40	筆記試験					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 身近な図書館を見学、児童室を見る。月1回くらいは利用する機会をつくる。[30分] 指定図書、参考書、また講義中に紹介する本は、できるだけ読む。[40分] まえてテキストに目をとおしておく。[30分] 				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	子どものころに読んだ本、読んでもらった本等、子どものころの記憶をできるだけ思い出してみる。身近な子どもを観察する。			教科書・テキスト	『子どもと本の世界に生きてー児童図書館員のあゆんだ道』E.コルウェル著 石井桃子訳 こくま社 2018年 ISBN: 4-7721-9017-6		
指定図書/参考書等	『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 2015年(岩波新書) ISBN: 978-4004315339/『幼い子の文学』瀬田貞二著 中央公論新社 1980年(中公新書) ISBN: 978-4121005632、『児童文学論』リリアン・H・スミス著 岩波書店 2016年(岩波現代文庫) ISBN: 978-4-00-602282-2, 『児童図書館サービス1・2』日本図書館協会 2011年 ISBN: 978-4-8204-1106-2, JLA図書館実践シリーズ18・19 『新編子どもの図書館』石井桃子著 岩波現代文庫 ISBN: 978-4006022549			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB210U 情報資源組織論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源の組織化と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用などについて理解することを目的とする。				資料組織化の意義、書誌コントロールについて理解する 記述目録法について学び、書誌記述法を理解する 主題分析・分類法・索引法について理解する 日本目録規則にもとづく目録法を理解する。			
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	資料組織化の意義について						
2	書誌コントロール(1) 書誌とは何か						
3	書誌コントロール(2) 全国書誌・OPACとは						
4	書誌情報の作成・流通・管理						
5	記述目録法の基礎 概要と記述の範囲						
6	記述の単位と順序、記述ユニット方式と区切り記号						
7	記述目録法作成の実際(1) タイトルと責任表示、版表示に関する事項						
8	記述目録法作成の実際(2) 出版頒布・形態に関する事項						
9	記述目録法作成の実際(3) シリーズ・注記・標準番号・入手条件に関する事項						
10	記述目録法作成の実際(4) 標目と排列						
11	主題分析と分類法・索引法						
12	分類法の実際(1) 分類総論						
13	分類法の実際(2) 日本十進分類法						
14	分類法の実際(3) その他の分類法						
15	ネットワーク情報源の組織化とメタデータ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
定期試験	60	筆記試験(持ち込み不可)において60%以上の得点を獲得する必要がある。			小テスト	20	目録の知識を確認するため筆記の小テストを授業内で行う。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。特に目録を活用し、OPACは日常的に利用すること。 履修までに大学図書館だけでなく、公共図書館のOPAC利用を経験しておくこと。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『情報資源組織論新訂版』柴田正美著、日本図書館協会、2012。(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3 ; 9) ISBN: 9784820415121		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB305U 図書館制度・経営論			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	坪内 啓子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
図書館経営に関連する法律や制度、図書館政策などについて学修し、理解を深める。今後の図書館運営に携わるときに必要な専門知識を学び、図書館の意義や社会的役割の重要性について理解する。				図書館経営の使命と目的を理解し、図書館運営に必要な知識を習得する。図書館の制度や経営に不可欠な基本的な要件について理解する。急速な社会変化の中で、新しい図書館経営の在り方を考えることができる。			
教授方法	講義、DVD視聴、レポートなど						
履修条件	「図書館概論」、「図書館サービス概論」の履修済が望ましい。(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館をめぐる法体系について						
2	図書館法について考える(1): 図書館法の目的、定義等						
3	図書館法について考える(2): 公立図書館の規定、および私立図書館の規定について						
4	地方自治体の図書館関連条例について						
5	各種図書館と公共図書館の連携、各種図書館の法律について						
6	図書館サービスに関わる法律について						
7	国や地方自治体の図書館政策について						
8	公共機関・施設の経営方法と図書館経営						
9	図書館の組織・職員(1): 図書館内の組織						
10	図書館の組織・職員(2): 図書館外の組織						
11	図書館の施設・設備: 建築の在り方等						
12	図書館のサービス計画と予算の確保						
13	図書館業務/サービスの調査と評価						
14	図書館の管理形態の多様化						
15	公立図書館の課題と展望						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢、発言等			レポートほか提出物	30	課題内容についてポイントを押さえる確に考えがまとめられているか。
単位認定試験	50	筆記試験					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 国内外の図書館を見学、利用する機会をつくる。地元の図書館等についての利用・見学を2~3回(後期授業期間中)は行う。[90分] 前もってテキストの章に目を通しておく。[40分] 				課題レポートは、3週間以内に評価やコメントをつけて返却する。なお、評価やコメントに対しての疑問・質問に対しての申し出にはいつでも対応する			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く図書館関係の雑誌や新聞等の記事に関心を持つ。また図書館情報学関係のウェブサイトアクセスして、情報の閲覧、理解に努める。 			教科書・テキスト	『図書館制度・経営論 第2版』手島孝典/編著 学文社 2017年(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5) ISBN978-4-7620-2701-7		
指定図書/参考書等	なし/『未来をつくる図書館: ニューヨークからの報告』菅谷明子著 岩波新書 2003年 ISBN: 978-4004308379 『図書館制度・経営論』糸賀雅児・葉袋秀樹編 樹村房 2015年 ISBN: 978-4863672028, 『図書館情報学基礎資料』今まど子・小山達司/編著 樹村房 2016年 ISBN: 978-4863672660 『新図書館法と現代の図書館』塩見昇・山口源治郎/編著 日本図書館協会 2009年 ISBN: 978-4820409151			その他・特記事項			

授業科目名	SB310U 情報サービス演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目である。図書館での情報サービスにおいては、利用者が求める情報を適切に把握し、適切なツールを用いて情報を探し提供する能力と技能が必要となる。情報サービス演習Iでは、基礎科目で学んだ内容を元に、主にコンピュータを操作しデジタル情報源を用いる情報検索の演習を行う。演習内容を通じて、情報検索技術や情報源の評価技能を身につけ、多様な情報要求に対応できる能力と技能を習得することを目的とする。				情報専門家として幅広い主題に対応できる情報検索技術の習得 一般的な情報リテラシー能力の習得と向上 情報の評価能力（情報内容の判断）の習得と向上 情報発信能力（回答の作成・提供）の習得と向上			
教授方法	演習中心に行う。コンピュータ室で情報検索演習を実施する。						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	図書館の情報サービスと、情報検索の意義と内容						
2	ネットワーク、デジタル情報源の特性、情報検索技術の基礎知識						
3	情報検索システムの基礎知識（データベース構成/論理演算等）						
4	ウェブ情報源の検索（1）サーチエンジンの使い方とブル演算						
5	ウェブ情報源の検索（2）サーチエンジンによるウェブ情報の検索						
6	ウェブ情報源の検索（3）検索結果と情報源の評価						
7	図書情報の検索（1）目録と書誌						
8	図書情報の検索（2）主題とアクセスポイント						
9	図書情報の検索（3）各図書館OPAC、総合目録等						
10	時事情報の検索 新聞記事データベース、ニュースサイト等						
11	雑誌記事の検索（1）雑誌記事データベース、索引類						
12	雑誌記事の検索（2）引用の活用						
13	雑誌記事の検索（3）主題検索						
14	総合演習（1）レファレンス質問を想定した実践演習 質問の分析と戦略立案						
15	総合演習（2）レファレンス質問を想定した実践演習 検索と回答作成						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
演習課題	70	出題された演習課題は必ず全て提出すること。未提出がある場合は単位認定を行わない。また課題は出題に対して適切な内容であること。			小テスト	10	授業内で実施、理解度を確認する。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
日常的に実際にインターネット上で利用できる情報源を使用してみる。さらに授業で紹介されたインターネット情報源は必ず自分自身で使用してみる。また、情報検索には幅広い知識がもたれるため、日頃からニュースなど世界の動向に気を配っておくこと。課題とは別に、各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。				必要に応じてレポートの添削結果を個別に伝達する。また適宜クリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。			教科書・テキスト	なし、授業内でプリントを配布		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB315U 情報サービス演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、情報サービス演習のうち特にレファレンスブックを用いた情報探索について学ぶ。そのために情報源としてのレファレンスブック評価を行い、その特性について理解を深める。また実際にレファレンス質問に取り組むことにより情報探索を行い、レファレンスサービス全体のプロセスの理解とその技術を取得することを目的とする。授業は課題作成と発表を交互に行い進めていく。				レファレンスサービスのプロセスを理解する レファレンスブックの評価を通じてその特性を理解する レファレンスブックに関するパスファインダーの作成を行う レファレンス質問に取り組むことにより、レファレンスサービス全体のプロセス理解に努める 基礎的なレファレンス質問に回答する能力を習得する			
教授方法	演習、図書館でレファレンス資料を用い課題作成及び発表を行う。						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報サービス論」「情報サービス演習」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	レファレンスサービスの基礎・復習						
2	レファレンスブック評価の仕方						
3	情報源の評価(1) 目録・書誌・索引						
4	情報源の評価(2) 辞書・事典						
5	情報源の評価(3) 便覧・年鑑類						
6	情報源の評価(4) 地名・人名						
7	情報源の評価(5) 各種の専門領域						
8	情報の探索(1) ことばの情報						
9	情報の探索(2) 事柄・事物・現象の情報						
10	情報の探索(3) 人物・団体の情報						
11	情報の探索(4) 地名・地理の情報						
12	情報の探索(5) 歴史・時事の情報						
13	情報の探索(6) 統計の情報						
14	情報の探索(7) 書誌情報						
15	情報の探索 まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
演習課題の作成	60	適切な課題作成を行い、期日までに必要な完成度で提出ができていないこと。			演習課題の発表	20	作成した課題を元に、発表が行えること。必要な質疑に答えられることができること。
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
課題以外でも図書館を日常的に活用することを心がける。日常的に疑問に思ったことがあれば、すぐに調べる癖をつけることが望ましい。その際、ウェブ情報源以外も活用すること。図書館などのレファレンスツールに慣れておくこと。各回の復習を配布資料を用いて最低30分程度は行うこと。				課題発表時にコメントを行う形でフィードバックをする。			
受講生に望むこと	課題が多く与えられますので、図書館情報資源を用いて課題作成に取り組んでください。場合によっては大学図書館だけではなく、公共図書館の蔵書や各種データベースを用いてください。授業では作成した課題を発表する機会がありますので、他の学習者や教員に分かりやすく説明する練習をすることが望ましいです。			教科書・テキスト	なし、授業中に随時プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB320U 情報資源組織演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書をはじめとする多様な情報資源の書誌データの作成を演習する。時代に即した目録作成のためコンピュータを使用した演習を行う。				多様な情報資源に関する書誌データの作成方法について、演習を通じて理解・取得する。 具体的な目録作成により、目録構築の意義や典拠コントロールの重要性を理解する。			
教授方法	演習、主にコンピュータを使用する						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における記述目録法について復習する。						
2	図書資料の標題紙・奥付などを基に、手書きによる目録記述の演習を行う。						
3	コンピュータによる目録記述方法を学ぶ。						
4	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(基礎的な資料)						
5	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(応用的な資料)						
6	図書資料の標題紙・奥付などを基に、目録記述の演習を行う。(応用的な資料)						
7	図書資料の現物を基に、目録記述の演習を行う。						
8	録音資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
9	映像資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
10	電子資料の情報源を基に、目録記述の演習を行う。						
11	これまで作成したデータの排列変更・検索の演習を行う。						
12	メタデータ記述方法を解説する						
13	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。(Webサイトなど)						
14	インターネット情報源のメタデータ記述演習を行う。(データベースなど)						
15	これまで作成した書誌データをもとにした、まとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業課題に対し真摯に取り組んでいる。 教員の発問に対し意欲的に回答をしている。			授業前準備・復習	10	授業実践のための事前学習を行っている。 授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が日本目録規則をはじめとする記述方法に沿って作成されているか、評価する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分以上は予習・復習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時添削したものを返却する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修生には参考図書「日本目録規則」を貸与する。返却にあたり紛失・汚破損等があった場合には履修学生の責任において返却すること。		

授業科目名	SB325U 情報資源組織演習			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は司書資格の必修科目であり、「情報資源組織論」で学んだ資料組織化の理論に基づき、図書資料の主題目録法（分類法）について演習を行う。				主題分析について、演習を通じて理解する 分類作業について、演習を通じて基本的な技能を習得する 分類の規則に於いて、演習を通じて理解を深める			
教授方法	演習						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「情報資源組織論」「情報資源組織演習」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	「情報資源組織論」で学んだ日本目録規則における主題目録法について復習する。						
2	演習問題を基に主題分析・分類作業を行うとともに、「日本十進分類法」の構造を理解する。						
3	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（基礎問題）						
4	演習問題を基に一般的な主題分析・分類作業を行う。（応用問題）						
5	演習問題（形式区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
6	演習問題（地理区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
7	演習問題（地理区分・海洋区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
8	演習問題（言語区分）を基に主題分析・分類作業を行う。						
9	演習問題（補助表を使用した総合課題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
10	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
11	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
12	演習問題（総合問題）を基に主題分析・分類作業を行う。						
13	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
14	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
15	演習問題を基に主題分析・件名付与を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業課題に対し真摯に取り組んでいる。 教員の発問に対し意欲的に回答をしている。			授業前準備・復習	10	授業実践のための事前学習を行っている。 授業後に作成した演習課題について再度振り返り、事後学習している。
演習課題内容	70	提出された演習課題が適切に主題分析され、分類・件名付与されていること。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。図書館のOPACを利用し、その記述内容についても関心を持つこと。日常的繰り返しに目録を利用し、目録と検索の関係性を経験から学ぶこと。各回の課題を元に最低30分程度は予習を行うこと。				コンピュータ室でクリッカーを使用し、その場でコメントを行う。提出物についても、必要に応じて随時返却する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『日本十進分類法新訂10版 簡易版』もりきよし原編、日本図書館協会分類委員会改訂 日本図書館協会 2018年 ISBN:9784820418078		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB330U 図書館情報資源概論		開講学科	社会学科	必修・選択	選択	
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は司書資格の必修科目である。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報源からなる図書館情報資源についてその類型と特質（生産・流通・選択・収集・保存に至るまでのプロセスなど、これら図書館業務に必要な情報資源に関する知識を解説する。			印刷資料・非印刷資料について、政府刊行物等や電子資料、ネットワーク情報源を含めて学び、その理解を深める。 出版流通の在り方について学び、その理解を深める。 蔵書の形成、資料の収集の選択について学び、その理解を深める。 人文科学、社会科学、科学技術、日常生活などの情報資源について、その特性を理解する。 資料の受入・除籍・保存・管理について学び、その理解を深める。				
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	図書館情報資源とは						
2	印刷資料について（1）印刷術の誕生と印刷の歴史						
3	印刷資料について（2）様々な印刷資料						
4	非印刷資料について						
5	灰色文献について						
6	政府刊行物・地域資料について						
7	映像資料・音声資料について						
8	電子資料・ネットワーク情報源について						
9	電子コンテンツと電子出版について						
10	出版と流通について（1）出版とはなにか・出版の意義						
11	出版と流通について（2）出版流通の経路・出版制度						
12	資料の収集と選択について						
13	人文科学分野の情報資源とその特性						
14	社会科学分野の情報資源とその特性						
15	自然科学分野の情報資源とその特性						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準		評価項目	割合	評価基準	
定期試験	60	筆記試験（持ち込み不可）において60%以上の得点を獲得する必要がある。		小テスト	20	筆記試験を授業内で行う。	
授業への参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。資料を扱う上で求められる基礎的・教養的な知識を幅広く身につけること。 そのために、なるべく多種の情報メディアを扱うこと、図書館だけでなくインターネットも日常的に活用し情報源として評価すること。 各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	司書資格取得を目指す学生は履修にあたり、なぜ自分が図書館司書資格の取得を目指すのか良く考えて授業に臨んでください。また事前に教科書を読むなど予習をすること、授業後にノートや教科書等を振り返り、分からない点は教員に積極的に質問するようにしてください。			教科書・テキスト	『図書館情報資源概論新訂版』馬場俊明著・日本図書館協会、2012。（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；8）ISBN:9784820418085		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		

授業科目名	SB335U 図書・図書館史			開講学科	社会学科	必修・選択	選択
担当教員名	若杉 亮平						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	司書				
授業の概要				授業の到達目標			
人類の歴史の中で文字が生み出され、各種メディアに記録された情報資源が図書館に蓄積・保存されてきた。数千年の歴史を記録・継承する図書館のあり方や使命を学び、現代から未来の図書館に求められる役割と機能を学ぶ。				各種記録媒体の歴史を学び、図書館の収集・保存すべき情報資源を理解する。 世界の図書館の歩みを考察し、図書館の存在意義を認識する。 図書館と図書館情報学の歴史を学ぶことにより、自らの将来を考える。			
教授方法	講義						
履修条件	「司書資格」取得希望者に限る。「図書館概論」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	メディアと図書館の歴史とは						
2	記録メディアの歴史1：紙以前の記録メディア・紙メディア						
3	記録メディアの歴史2：図書の形態史，印刷の発明						
4	記録メディアの歴史3：印刷の種類，大量印刷の時代						
5	記録メディアの歴史4：新聞雑誌の歴史，近代のマスメディア						
6	記録メディアの歴史5：メディアの多様化，新しいメディアの出現						
7	図書館史（世界）1：図書館の源流と図書館の使命						
8	図書館史（世界）2：中世の図書館，近世の図書館の歩み						
9	図書館史（世界）3：公共図書館の成立						
10	図書館史（世界）4：近代の図書館						
11	図書館史（日本）1：前近代日本の図書館，近代図書館の誕生						
12	図書館史（日本）2：民主主義と図書館，戦争と図書館						
13	図書館史（日本）3：第2次世界大戦後の図書館改革と戦後民主主義						
14	図書館史（日本）4：市町村立図書館と図書館政策，住民と図書館の関係						
15	図書館史まとめ：図書館と社会の関わりを歴史から考える						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合	評価基準			評価項目	割合	評価基準
授業参加態度	20	授業に積極的に参加しているか、教員の発問に対し意欲的に回答をしているかなどを評価する。			授業内課題	20	授業中に小課題を行う。理解度の確認や各自の意見を記述してもらう。
定期試験	60	記述式の筆記試験を行う。図書館の歴史及び情報メディアの歴史について基本的な理解ができている必要がある。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
図書館を日常的に活用することを心がける。世界史及び日本史の基本的な知識を確認しておくこと。必要に応じて高校までの歴史教科書なども活用すること。各回の復習及び次回の予習を教科書を用いて最低30分程度は行うこと。				試験終了後に問題の解説を行う。必要に応じてクリッカーなども利用する。			
受講生に望むこと	図書館司書資格の科目であることを理解し、その意義をよく考えて履修をしてください。分からない点、疑問に思ったことがあれば積極的に教員に質問をしてください。歴史を学ぶことは現在の我々の立ち位置を考える上で、極めて重要なアプローチです。歴史的な事柄にも注意を払うようにしてください。			教科書・テキスト	『図書・図書館史』小黒浩司編著。日本図書館協会，2013。（JLA図書館情報学テキストシリーズ3；11）ISBN：978-4-8204-1218-2		
指定図書／参考書等	なし／なし			その他・特記事項	なし		

教職員録

職名	氏名
学長	楠本 史郎
学長補佐	中島 賢介
宗教主事	矢澤 励太
図書館長	富岡 和久
地域教育開発センター長	田中 純一
教務部長	田中 弘美
学生部長	坂井 良輔

短期大学部

部長	池村 努
食物栄養学科長	新澤 祥恵
コミュニティ文化学科長(兼)	池村 努
コミュニティ文化学科長補佐	野林 晴彦

食物栄養学科

教授	坂井 良輔
〃	茶谷 信一
〃	新澤 祥恵
〃	南 雅則
准教授	田中 弘美
講師	俵 万里子
〃	西 正人
〃	三田 陽子

コミュニティ文化学科

教授	池村 努
〃	沢田 史子
〃	富岡 和久
准教授	野林 晴彦
講師	高島 彬
助教	葦名 理恵
〃	木村ゆかり

職名	氏名
兼任教員(短期大学部専任教員)	
兼任教員	加藤 仁
〃	楠本 史郎
〃	虹釜 和昭
〃	小林 正史
〃	竹中 祐二
〃	田中 純一
〃	谷 昌代
〃	田引 俊和
〃	俵 希實
〃	福江 厚啓
〃	宮浦 国江
〃	幸 聖二郎
〃	矢澤 励太
〃	若杉 亮平

非常勤講師

非常勤講師	アンソニー タガン
〃	石原 俊彦
〃	井関 尚一
〃	今井 竜也
〃	藺守 貴弘
〃	上田 広美
〃	梶 真知子
〃	亀田孝太郎
〃	木村 敏行
〃	清水 實
〃	白井 雅代
〃	瀬戸 裕子
〃	竹下 正弘
〃	田中 康司
〃	坪内 啓子

職名	氏名
非常勤講師	中川真由美
〃	中村喜代美
〃	中村 洋子
〃	濱西 和子
〃	細川 真衣
〃	堀 栄子
〃	前川 直樹
〃	松岡 香
〃	松原 敏治
〃	三井 悦子
〃	宮丸 慶子
〃	宮本 勝裕
〃	大和 太郎
〃	渡邊 彩奈

助手(実験実習補助)

助手	加藤 真衣(食物栄養学科)
〃	久保 夕貴(〃)
〃	澤田 里香(〃)

教職相談支援室

金丸 洋子
戸田 教一

英語教育研究支援センター

センター長	宮浦 国江
教員	キャサリン シュリーヴズ
〃	マシュー ボッシュ

【大学キリスト教センター】

センター長(兼)	矢澤 励太
----------	-------

【教学・学生支援センター】

センター長(兼)	池村 努
----------	------

【学術情報研究・社会連携センター】

センター長	真砂 良則
-------	-------

【アドミッションセンター】

センター長(兼)	岩田 喜弘
----------	-------

職 名 氏 名

事 務 局

事 務 局 長 岩 田 喜 弘
(法人・大学事務局事務長兼任)

社 会 連 携 推 進 コーディネーター
課 長 瀧 浩 輔

【教学・学生支援センター】

課 長 宮 本 真 紀 子
副 参 事 北 川 裕 樹

〈教務係〉

主 任 山 口 絵 美 子
係 員 酒 井 大 輔
〃 瀨 戸 康 代
〃 平 岡 明
〃 小 島 妙 子

〈教務助手係〉

係 員 多 田 昌 生
〃 近 岡 尚 美

〈学生支援係〉

係 長 源 野 雄 介
〃 西 野 拓 哉

係 員 森 田 康 子
係 員 (兼) 小 島 妙 子

【学術情報研究・社会連携センター】

係 長 本 丹 直 哉

職 名 氏 名

〈学術情報・研究支援係〉

係 員 飯 野 昌 子
〃 大 桑 睦 美
〃 大 音 師 華 子
〃 黒 杉 茂 子
〃 山 口 聡 美

〈社会連携係〉

係 員 (兼) 大 桑 睦 美

【アドミッションセンター】

主 任 中 島 貴 史
係 員 瀨 戸 佳 子
〃 三 木 香 奈

【総合政策課】

課 長 (兼) 岩 田 喜 弘

〈広報企画係〉

主 任 (兼) 中 島 貴 史
係 員 (兼) 瀨 戸 佳 子
〃 三 木 香 奈

〈経営企画係〉

係 長 ト ビ ア ス 史
主 任 安 部 玲 子

〈補助金係〉

係 員 藤 原 学

〈I R 推 進 係〉

係 員 小 島 美 紀

職 名 氏 名

【総務財政課】

課 長 代 理 今 井 誠 一

〈総務係〉

係 員 川 村 快
〃 宮 崎 朝 子
〃 石 井 純 子

〈財政係〉

主 任 宮 下 光 謹
係 員 東 田 彩 見
〃 大 桑 千 佳

〈営繕係〉

係 員 荒 木 高 志
〃 山 田 元 気

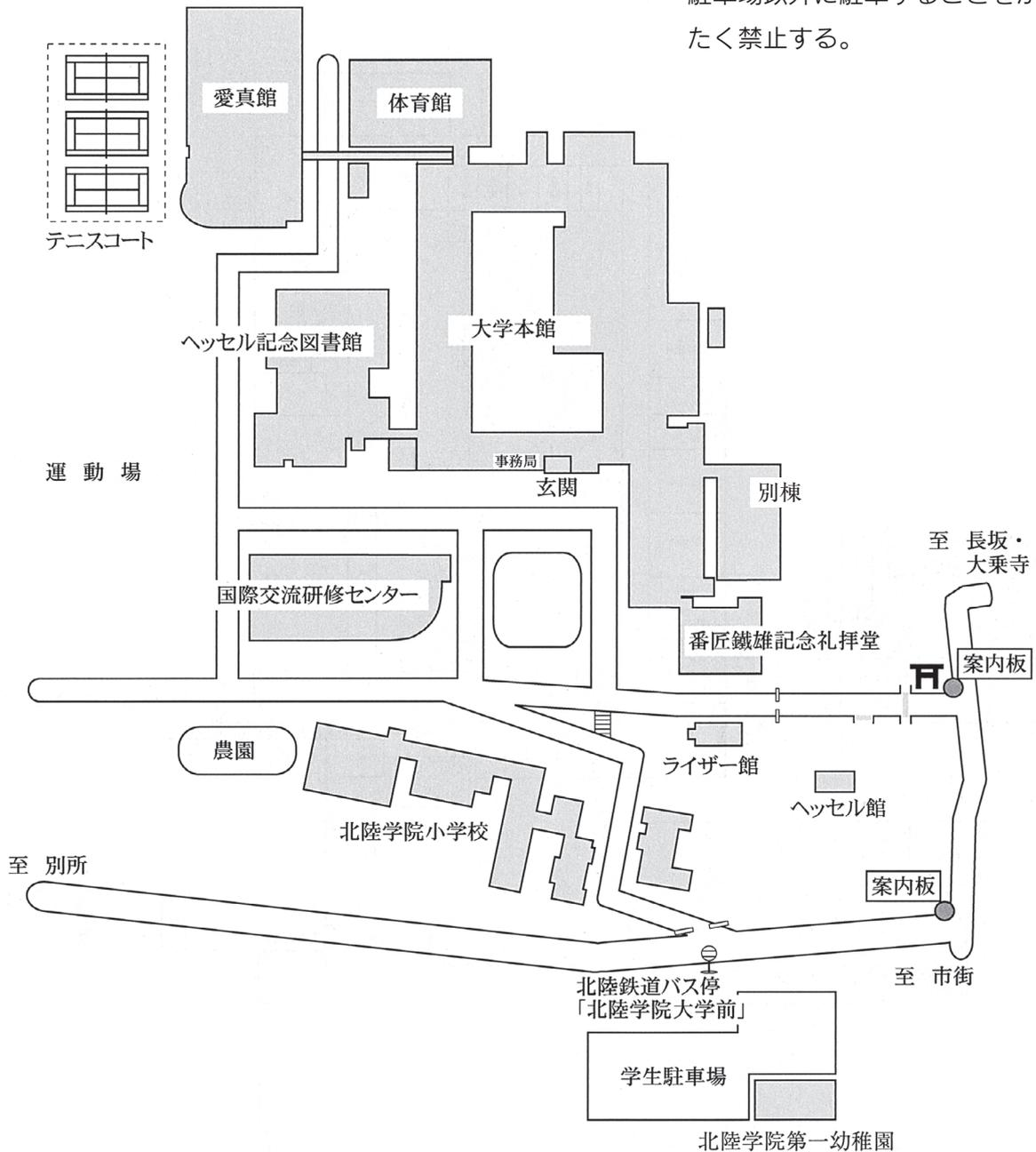
保 健 室

看 護 師 桑 田 千 代
校 医 野 口 隆 俊
カウ ン セ リ ン グ 森 彩 香

キャンパス案内図

北陸学院三小牛キャンパス案内図

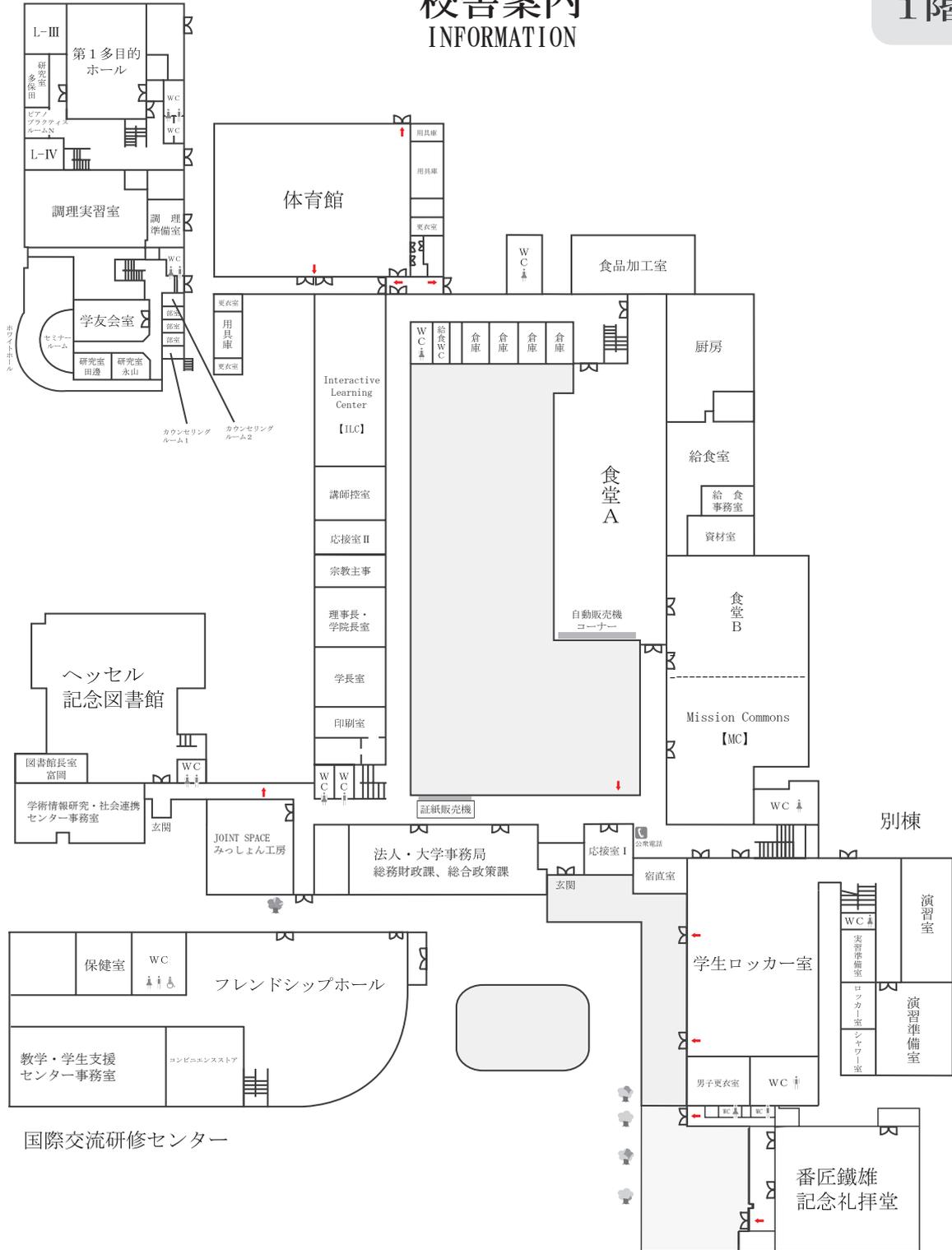
学生に関しては決められた学生
駐車場以外に駐車することをか
たく禁止する。



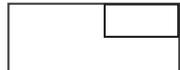
愛真館

校舎案内 INFORMATION

1階



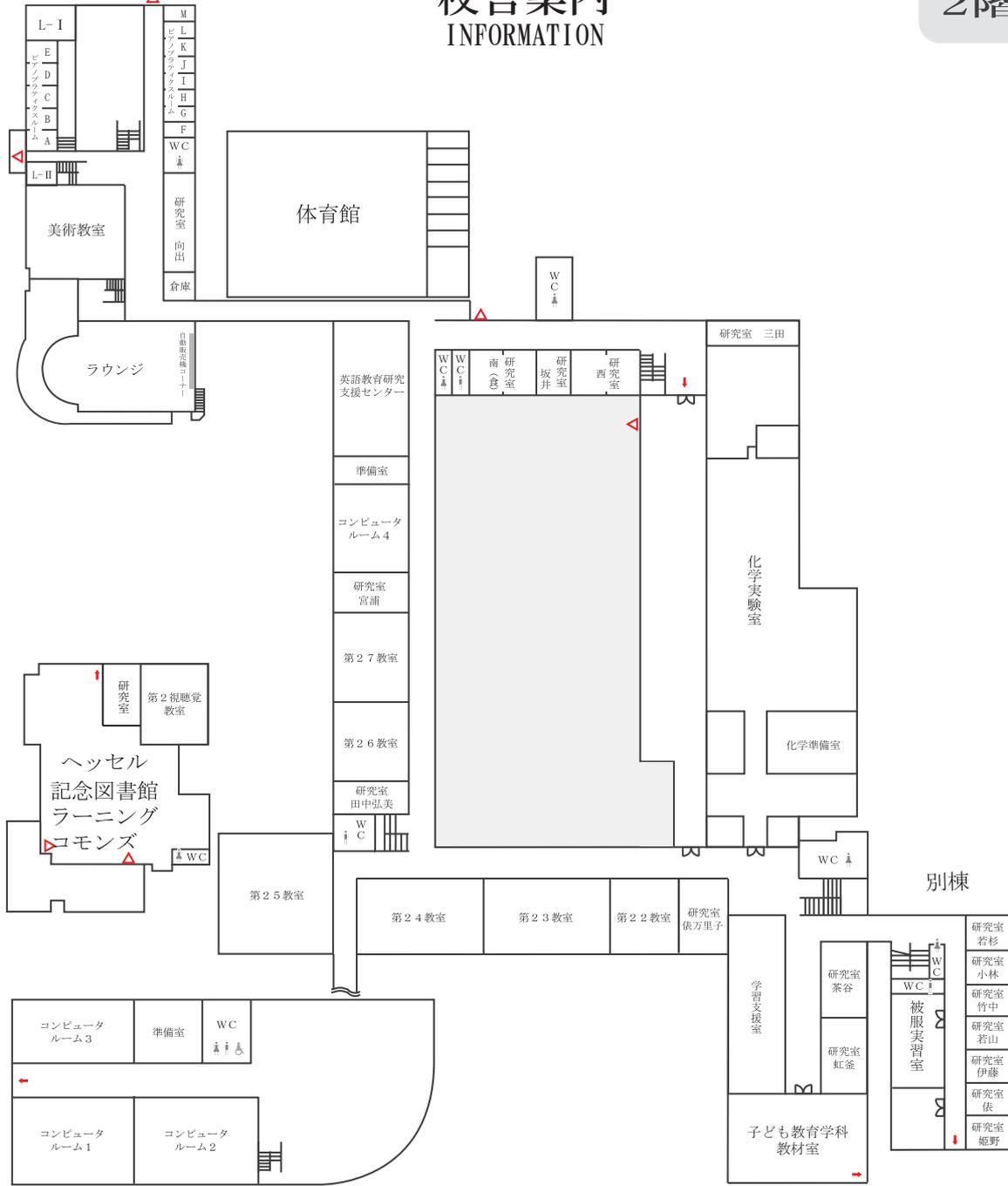
ライザー記念館



愛真館

校舎案内 INFORMATION

2階



国際交流研修センター



愛真館



校舎案内
INFORMATION

3階



国際交流研修センター



